

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	基礎科目
授業科目名	イノベーションの志					授業形態	講義
授業コード	AIV1110001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	江端 浩人						
授業概要	<p>本学は「変化を楽しみ、自ら学び、革新を創造する」ことを教育理念とし、経営と情報通信技術に関する理論と実践力、国際的なコミュニケーション能力、これらを組み合わせた応用力を主体的に身に付け、国際社会と地域社会の産業発展に貢献する人材を育成する大学である。本授業ではこの「イノベーション」について理解を深めるとともに、イノベーションを生み出し、イノベーターとなるために必要な資質や素養を身に付けるための土台を、様々な事例を学ぶことにより構築する。</p> <p>「イノベーションの志」は大学1年生の前期に実施される授業であり、知識習得型の学習から脱却し、思考力や表現力を養うことを目的としている。本授業ではクリティカルシンキング、アクティブリスニング、演繹思考、バックキャストिंग、ロジカルシンキング、仮説構築などの思考法を学び、議論や対話を通して社会で通用する思考プロセスを習得する。</p> <p>現代社会では技術革新のスピードが速く、人工知能やデジタル技術の発展が社会構造を大きく変化させている。また持続可能な社会の実現に向け、多様な価値観を理解し多角的に物事を捉える力が求められている。本授業ではこうした社会的背景を踏まえ、学生が主体的に思考し、他者と議論しながら新たな価値創造について考える基礎的能力を養う。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>■授業の目的 本授業は、情報社会におけるイノベーションの基本的な考え方を理解するとともに、大学での学修および将来の社会活動において必要となる思考力、表現力、対話力の基礎を養うことを目的とする。</p> <p>■到達目標 本授業を通じて、学生は以下のことができるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none">・情報社会におけるイノベーションの概念を説明できる。・物事を多角的に捉え、自身の考えを論理的に整理し言語化できる。・他者の意見を尊重しながら議論を進め、自分の考えを深めることができる。・仮説を立て、根拠をもとに自分なりの考察を行うことができる。						
授業計画							
第1回	<p>第1回</p> <p>オリエンテーション／情報社会におけるイノベーションとは何か</p> <p>事前学習（90分） シラバスを事前に読み、本授業で身に付けたい力や関心のあるテーマを文章で整理する。</p> <p>授業内容 授業の目的・進め方の説明、自己紹介、心理的安全性の確保。情報社会におけるイノベーションの基本的な考え方を講義形式で学ぶ。</p> <p>事後学習（90分） 授業で扱った「イノベーション」の定義について、自分なりの言葉でまとめる。</p>						
第2回	<p>ディスカッション実践①</p> <p>（※以下は構造のみ提示、内容は元案を維持し時間のみ修正）</p> <p>事前学習（90分） 指定テーマについて自分の意見を整理する。</p> <p>授業内容 ディスカッションの改善プロセスについて理解し、実践する。</p> <p>授業内作業（90分） グループディスカッション、振り返り。</p> <p>事後学習（90分） ディスカッションを通して得た気づきを整理する。</p>						
第3回	<p>ディスカッション実践②</p> <p>事前学習（90分） 前回の議論を振り返り改善点を整理する。</p> <p>授業内容 ディスカッションスキルの改善を理解し実践する。</p> <p>授業内作業（90分） グループディスカッションと振り返り。</p>						

	<p>事後学習（90分） 議論を通して得た学びを整理する。</p>
第4回	<p>自分の意見の構築①（ロジカルシンキング）</p> <p>事前学習（90分） テーマについて自分の考えを整理する。</p> <p>授業内容 論理的思考の基本を理解する。</p> <p>授業内作業（90分） 意見整理演習。</p> <p>事後学習（90分） 思考ツールを用いて関心テーマを整理する。</p>
第5回	<p>アクティブリスニングとフィードバック</p> <p>事前学習（90分） プレゼン内容を整理する。</p> <p>授業内容 アクティブリスニングの考え方を学ぶ。</p> <p>授業内作業（90分） プレゼンテーションと相互フィードバック。</p> <p>事後学習（90分） フィードバックを踏まえて考えを整理する。</p>
第6回	<p>ゲスト講義（イノベーションの実践）</p> <p>事前学習（90分） ゲスト講師の活動について調査する。</p> <p>授業内容 イノベーション実践事例を学ぶ。</p> <p>授業内作業（90分） 講義聴講および質疑応答。</p> <p>事後学習（90分） 講義内容を振り返りまとめる。</p>
第7回	<p>効果的なディスカッション方法①</p> <p>事前学習（90分） これまでの議論を振り返る。</p> <p>授業内容 効果的な議論方法を理解する。</p> <p>授業内作業（90分） テーマ別ディスカッション。</p> <p>事後学習（90分） 自己評価と改善点整理。</p>
第8回	<p>第8回 効果的なディスカッション方法②</p> <p>事前学習（90分） 前回のディスカッションを振り返り、グループとして改善できる点や、自分自身の発言の仕方・議論への関わり方について整理する。</p> <p>授業内容 前回の学修内容を踏まえ、ディスカッションの進め方をさらに発展させる方法について理解する。議論の役割分担、論点整理、発言の促進などの観点から、より効果的なディスカッションの進め方を学ぶ。</p> <p>授業内作業（90分） 同一テーマについて条件を変えたディスカッションを実施し、比較と改善を行う。</p>

	<p>① テーマ1についてのディスカッション（30分） ② テーマ2についてのディスカッション（30分） ③ チェックリストを用いた自己評価およびグループ振り返り（30分）</p> <p>事後学習（90分） 2つのディスカッションの違いを振り返り、自分の役割や発言の質がどのように変化したかを整理する。</p>
第9回	<p>第9回 Yes, And方式でのディスカッション</p> <p>事前学習（90分） 「Yes, And」という考え方について簡単に調べ、これまでの議論方法との違いについて自分なりに整理する。</p> <p>授業内容 「Yes, And」の精神を理解し、他者の意見を否定せず発展させる議論方法を学ぶ。創造的な議論を生み出すコミュニケーションの考え方について理解する。</p> <p>授業内作業（90分）</p> <p>① Yes, Andの考え方の説明（15分） ② テーマに基づくアイデア出し（30分） ③ 出されたアイデアを発展させるグループワーク（30分） ④ 新しいサービス案の簡単な発表（15分）</p> <p>事後学習（90分） Yes, Andを用いることで議論やアイデア創出がどのように変化したかを振り返り、気づきを文章で整理する。</p>
第10回	<p>第10回 多くのアイデア・仮説を生み出す方法</p> <p>事前学習（90分） 身近な課題を1つ選び、「できるだけ多くの解決アイデアを出す」とした場合にどのような案が考えられるかを書き出して整理する。</p> <p>授業内容 質より量を重視する発想法を理解し、多くのアイデアや仮説を生み出すための思考方法について学ぶ。</p> <p>授業内作業（90分）</p> <p>① 個人によるアイデア出し（20分） ② グループによるアイデア共有および拡張（40分） ③ クラス全体でのアイデア整理および共有（30分）</p> <p>事後学習（90分） 授業で出されたアイデアの中から実現可能性が高いと考えられるものを選び、その理由を整理する。</p>
第11回	<p>第11回 正解のない問いに対する思考法①（仮説構築）</p> <p>事前学習（90分） 指定されたテーマについて、事前知識がない状態で自分なりの考えや疑問点を箇条書きで整理する。</p> <p>授業内容 正解のない問いに対して仮説を立てることで思考を深めていく方法を理解する。仮説思考の基本的な考え方と活用方法について学ぶ。</p> <p>授業内作業（90分）</p> <p>① 前提知識なしでのグループディスカッション（20分） ② 仮説構築の考え方の解説（15分） ③ 個人による仮説設定および簡単な調査（35分） ④ グループでの共有と再議論（20分）</p> <p>事後学習（90分） 授業内で立てた仮説について追加調査を行い、仮説を修正または深化させて文章でまとめる。</p>
第12回	<p>第12回 正解のない問いに対する思考法②（仮説の深化）</p> <p>事前学習（90分） 前回立てた仮説とその根拠を見直し、追加で調べたい点や疑問点を整理する。</p> <p>授業内容 仮説を検証・修正しながら思考を深めていくプロセスを体験する。仮説思考を継続的に発展させる方法について理解する。</p> <p>授業内作業（90分）</p> <p>① 仮説および調査内容の整理（30分） ② グループ内共有および相互フィードバック（40分）</p>

	<p>③ 全体共有およびまとめ（20分）</p> <p>事後学習（90分） 仮説思考のプロセスを振り返り、正解のない問いに向き合う際に重要だと感じた点を文章で整理する。</p>
第13回	<p>第13回 正解のない問いに対する思考法②（仮説構築とリサーチ）</p> <p>事前学習（90分） 提示されたテーマについて、自分なりの疑問点や考えを整理し、仮説としてどのような可能性が考えられるかを簡単に書き出してくる。</p> <p>授業内容 仮説を立ててリサーチを行うことで思考を深めていくプロセスを体験する。提示されたテーマについて、まず前提知識がない状態で議論を行い、その後仮説を立てて調査を行うことで、自分の考えを発展させる思考方法を理解する。</p> <p>授業内作業（90分）</p> <p>① 前提知識なしの状態でのグループディスカッション（20分） ② 仮説を立てる方法についてのレクチャー（15分） ③ 個人ワーク（仮説設定およびリサーチを含む）（35分） ④ 再度グループディスカッション（10分） ⑤ 全体共有およびまとめ・振り返り（10分）</p> <p>事後学習（90分） 授業で立てた仮説とリサーチ結果を振り返り、どのように考えが深まったかを整理して文章にまとめる。</p>
第14回	<p>第14回 ゲスト講義（イノベーションの実践）</p> <p>事前学習（90分） ゲスト講師の経歴や取り組んでいる事業・活動内容について調べ、講義中に質問したい内容を2点以上整理する。</p> <p>授業内容 イノベーションを実践しているゲスト講師の講義を通して、実社会におけるイノベーションの考え方や意思決定のプロセスについて理解する。</p> <p>授業内作業（90分）</p> <p>① ゲスト講義の聴講（60分） ② 質疑応答およびディスカッション（30分）</p> <p>事後学習（90分） 講義内容を踏まえ、「これまでの授業内容との関連」や「印象に残った点」について整理し、学びを文章でまとめる。</p>
第15回	<p>最終発表・総括（イノベーションの志）</p> <p>事前学習（90分） 最終発表準備。</p> <p>授業内容 学修成果の最終発表。</p> <p>授業内作業（90分） 発表と全体振り返り。</p> <p>事後学習（90分） 授業全体の学びを整理する。</p>
成績評価の方法	<p>授業内での発言およびディスカッションへの貢献：50％ グループワークおよび発表の内容：25％ 相互評価：25％</p>
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>各回の授業に向けて、授業計画に示したテーマに関連する資料や情報を事前に調べ、自分の考えを整理した上で授業に臨むこと（事前学習：各回90分）。</p> <p>授業後はディスカッションや演習を通して得た気づきや学びを振り返り、自身の考えを文章でまとめるなどの復習を行うこと（事後学習：各回90分）。</p>

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『スタンフォード式 世界一やさしい パラレルキャリアの育て方』	江端 浩人	かんき出版	978-4-7612-7559-4	

参考書	■参考文献 「超ヒマ社会をつくる」(ヨシモトブックス) 「新版 超ヒマ社会をつくるーアフターコロナはネコの時代ー」(ヨシモトブックス) 『演繹革命』－校條浩 『考える技術・書く技術』－バーバラ・ミント 『ロジカル・シンキング』－照屋華子・岡田恵子 『クリティカル・シンキング入門』－スティーブン・D・シャッキン 『仮説思考』－内田和成 『Yes, And』－ケリー・レナード、トム・ヨート
備考	* 本科目は、起業家・経営者としての実務経験のある教員による授業科目です。
昨年度からの 振り返り	

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	基礎科目
授業科目名	ビジネス入門					授業形態	講義
授業コード	IBZ1110001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	志村 一隆、阿部川 久広、斎藤 祐士、仁木 隆大、松村 太郎						
授業概要	<ul style="list-style-type: none">・社会の多様化が進んだ現代のビジネス界において、取引を成立させるためには、お互いの意思疎通を円滑に進めることが必要不可欠である。・その第一歩として、本科目では、ビジネスマナーを紹介し、学生同士のドリルなどで、起業、インターンシップ、就職などに必要となるビジネスリーダーとのコミュニケーションスキルとマインドを身につける。・授業内では、教員からの質問に積極的に答えることが求められる。また、学生同士のコミュニケーション、発表、読み書きをする機会を多く設ける。・授業には、パソコン、この科目専用のノート、筆記用具を持参すること。・事前課題、復習課題が与えられるため、授業の予習・復習を行う。・面談での受け答え、メールの書き方、履歴書などを完成させる。						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none">・人間は怠惰で言い訳の多い生き物である。他責、言い訳、ネガティブな言動・思考法は、行動をしない強力な理由づけとなる。・本科目では、今後増えるであろうビジネスリーダーとのコミュニケーションを円滑に行うことを目的に、受け身な行動やマインドを変容し、礼節を理解し、挨拶やポジティブな考え方や、時間を守る、メールなど書き言葉でのマナーを身につけることを目的とする。・人生において、常に自らをアップデート、新たなスキルや知識を取り入れるマインド（向上心）を持つことが重要である。そうした向上心を学び、理解する。・消費者目線から経営者、投資家目線にマインドチェンジする。そのために、ビジネスの基本的な知識（財務三表の読み方、税法など）を習得する。・AIなどテクノロジーを使い、「効率性」を意識、QOLを上げる生き方を学ぶ。・授業の開始時間や、提出物の期限を守る、挨拶をするといった基本行動の重要性を理解する。・「臨地実務実習（インターンシップ）」での配属、受講などの心構えを学ぶ。						
授業計画							
第1回	自己と他人。 自らが実現したい「夢」をビジネス展開する際のハードルはなにかを学ぶ。 ビジネスには、自らのモノ・サービスに価値を感じ、購入する顧客が必要であり、その顧客とのコミュニケーションが重要なことを理解する。						
第2回	礼儀と挨拶。 他者とのコミュニケーションにおいて、挨拶を自ら行うことの重要性を理解する。						
第3回	他責とネガティブ。 他責思考が、いかに自らのビジネスに損なことであるかを理解する。						
第4回	受身と能動。 受身な行動やマインドをリセットし、能動的に他者と関わる技術を学び、理解する。						
第5回	社長と義務。 リーダーシップを学ぶ。 地位や権力を持つことは、他者を支配することではないことを理解する。						
第6回	約束と信用。 約束の時間を守るなど、ビジネスの基本マナーを学ぶ。 また、ビジネスで重要な信用について理解する。						
第7回	本音と建前。 ビジネスの交渉時に、多用される単語や言い回しを学び、複雑なビジネス交渉術を学ぶ。						
第8回	メールとLINE。 ビジネス上でのコミュニケーションツールとして重要なメールマナーを学ぶ。 また、書き言葉と話し言葉の違いを理解する。						
第9回	金利と信用 1年後の100円と目の前にある100円。どちらが価値があるのか？ 金利と割引価値について理解する なぜ時間を守らなければならないのか？ 遅刻は他責か？自責か？ 期日までに支払う重要性を理解する。						
第10回	売上と利益。 企業の基本的な収益とお金の流れを理解する。 キャッシュと売掛について学ぶ。						

第11回	資産と資本 BSについて学ぶ。			
第12回	履歴書と志望理由書 書き言葉と話し言葉の違いを理解し、実際に履歴書と志望理由書を完成させる。			
第13回	面談の心構え ビジネスの交渉、インターンシップ、事業ピッチなど、対人の面談でのマナーを学び、理解する。			
第14回	人生のQOLについて 人的資本、社会資本、金融資本について学ぶ。			
第15回	自立について 自立した人生を送るには？どんな行動が必要か理解する。			
成績評価の方法	・ 定期試験：100%			
準備学修（予習・復習、課題等）	予習：事前配布される資料を理解する。また、事前課題が出された場合は、期限までに提出する。（各回90分） 復習：授業内容の復習を行い、小テスト、面談、定期試験に備える。（各回90分）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	デジタルサービスNotionで作成した資料を配布。			
備考	パソコン以外に、この授業専用のノートと筆記用具を持参のこと。			
昨年度からの振り返り	昨年度はビジネスマナーを学ぶことに時間を割いた。今年度は、ビジネスの初歩的知識の理解・把握も行う。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	基礎科目
授業科目名	キャリアデザインⅠ					授業形態	講義
授業コード	CD11110001	単位数	1単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	石村 源生、吉田 明子						
授業概要	1年間の大学生活を経て得た気づき、課題を整理するとともに、入学時に立てた目標や行動計画の振り返りを行い、就職活動および自らの起業活動につながるキャリアプラン、行動計画を考える。合わせて、改めて仕事や職業への理解を深め、働くことやキャリアデザインの概念を学ぶことで、キャリアについてのより具体的なアクションにつなげられるように展開する。これらを通じ大学生活やその後の人生をどのように作っていくかを考え、自分自身のキャリアを主体的に想像していく土台を作る。 また、就職活動に向けてそれに必要な様々な知識やスキルを習得し、今後努力すべきところを可視化する。						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none">・キャリア形成について理解し、自己の目指す方向性を見極め、目標が設定できる。・自分自身を振り返り、客観視する視点や考え方を得ることで、自己理解を深め、就職活動での実践を行うことができる。・また仕事や働くことに対する理解を深め、イノベーション人材となるためのキャリアデザインを行い、職業人の基礎となる力を醸成する。						
授業計画							
第1回	イントロダクション ・授業の進め方 ・「キャリア」とは何かを理解する。 ・iU生としてのキャリアのあり方を理解する。 ・「キャリア理論」を理解する。						
第2回	働くことを知る。 ・「働く」とは何か、働くことの意義を理解する。 ・「働く・就職する」を考える意味を理解する。						
第3回	就活対策① ・業種・業界・職種のそれぞれについて理解する。						
第4回	就活対策② ・性格検査、適性検査の意義と内容について理解し、それらを受けるに当たっての対策を習得する。 －性格検査を受検する。						
第5回	就活対策③ 適性検査対策WEBテスト ・就職活動を進めていくうえで、自己理解を深めることはとても重要である。この回の講義では、適性診断ツールを受検して、客観的な視点から自分自身の特性を知ることを目指す。						
第6回	就活対策④ エントリーシートの書き方（採用担当者はどこを見るか） ・ESの文章の書き方や採用担当者が評価するエントリーシートの内容について理解する。 エントリーシート作成 ・エントリーシートを実際に作成し、その理解を深める。						
第7回	就活対策⑤ ビジネスマナー（言葉使い、身だしなみ他） ・社会人と関わっていくために重要となるのが「ビジネスマナー」 ・講義では、基本的なマナーを押さえて、第一印象アップを目指す。 ・自信を持って実習や就職活動に臨むために必要な知識、態度、スキルを身につける。						
第8回	まとめ ・自分のキャリア、卒業までにやることの計画を立案する。 ・2年生のうちに高めておきたいビジネススキル、卒業までの目標を考える。 ・臨地実務実習に向けて必要な準備を行う。						
成績評価の方法	授業への参加態度（発言回数など）：24％（加点要素） 授業課題：96％						
準備学修（予習・復習、課題等）	事前課題（随時） その他、各回の授業内容について、予習（90分程度）、復習（90分程度）に各自取り組むこと。						
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	備考
指定なし							
参考書	授業内で適宜指示する。						

備考	本授業はマイナビ社が担当する回がある。
昨年度からの 振り返り	より実践的な授業内容に改善する。

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	基礎科目
授業科目名	英語コア・スキルズⅠ					授業形態	演習
授業コード	EC11120001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	奥村 耕一、Joe Hug、遠山 三津子、小林 素羅						
授業概要	現代社会においてグローバルに活躍するためのツールとして、英語の習得方法を身に付けることは必要不可欠である。本科目では、入学前までの学習を基礎に、基本的な知識・技能を駆使して、アウトプットの強化を図っていく。各授業では、個人やグループで、Input-Intake-Outputのプロセスで使える英語表現の獲得を狙い、音声による集中トレーニングを行い、最終的に1分程度のプレゼンテーションの基礎を養う。また、特定のトピックに関するスモール・トークを行い、やり取りの基礎も養う。特に集中トレーニングでは、シャドーイング、英語表現獲得のための音読等で、音声によるインプットを取り込みながら、アウトプットにつなげる活動を行うことを通じて、近い将来において自律して学ぶ方法を習得する。 本科目では、さまざまな学習場面で目的に応じて適切な生成AIの活用を推奨する。 また、展開科目のビジネス英語実習Ⅰ～Ⅳにおいて、本科目で培った力を生かすことも狙いとしている。						
授業の目的・到達目標	・英語を取り込み、それを駆使する能力を高め、実際の英語使用のための学び方を習得することができる。 ・実際のやり取りや発表の場面を想定した言語活動を行うことを通じて、基礎的なコミュニケーションをとることができる。						
授業計画							
第1回	オリエンテーション ・英語が使えるようになる基礎を身に付けるための学習方法 ・目標、概要、予定、評価方法、オンライン教材、Google Classroomの使用方法 ・英語学習に関するアンケート調査						
第2回	・Input → Intake (Practice) → Output プロセスでの学び方（英語の内容理解、文構造の確認、発音・語彙の習得から英語の再生・産出を行う言語学習の基本） ・英語学習のための生成AIの活用方法（以降各回必要に応じて英語学習における生成AIの活用方法を学ぶ）						
第3回	・Daily Talk（日常の話題でやり取りし、即興で表現する技能の向上を図る）の導入 ・アンケート結果、レベルチェックテストの結果、英語教育の現状から、学習のあり方の再考 ・英語獲得のしかた Input活動：リスニング＋リーディング（以下、Input活動）＋Intake活動：音読、穴埋め音読、再生（以下、Intake活動）						
第4回	・Daily Talk 2 ・英語獲得のしかた Input活動：リスニング＋リーディング（以下、Input活動）＋Intake活動：音読、穴埋め音読、再生（以下、Intake活動） ・発音プログラム（すべての音声による活動のための基礎学習）の導入						
第5回	・発音プログラム 1 ・Daily Talk 3 ・英語獲得のしかた Output活動：スピーキング（プレゼンテーションに向かう活動）（以下、Output活動）						
第6回	・発音プログラム 2 ・Daily Talk 4 ・Input活動＋Intake活動 2（英語獲得のための個別最適教材の作り方）						
第7回	・発音プログラム 3 ・Daily Talk 5 ・Output活動 2						
第8回	・発音プログラム 4 ・Daily Talk 6 ・Input活動＋Intake活動 3（個別最適教材作成）						
第9回	・発音プログラム 5 ・Daily Talk 7 ・Output活動 3						
第10回	・スキルテスト1（個別小テスト） ・発音プログラム 6 ・Input活動＋Intake活動 4（スキルテストと同時）（個別最適教材作成）						
第11回	・発音プログラム 7 ・Daily Talk 8 ・Output活動 4						
第12回	・発音プログラム 8 ・Daily Talk 9						

	・ Input活動 + Intake活動 5（個別最適教材作成）				
第13回	・ 発音プログラム 9 ・ Daily Talk 10 ・ Output活動 5				
第14回	・ 発音プログラム 10（まとめ） ・ Daily Talk 11 ・ スキルテスト 2 に向けて				
第15回	・ スキルテスト 2（個別小テスト） ・ 練習と言語活動の振り返りと今後の学習課題 ・ 授業改善アンケート				
成績評価の方法	発表・やり取りなどの実技面【20％】 各回の授業への参加度（授業内での課題取り組み状況）・貢献度（ペア・グループ活動等で積極的なやり取りの状況）【40％】 各回の課題提出状況と英語の獲得度【40％】				
準備学修（予習・復習、課題等）	復習：授業で触れた表現の練習（発音確認・音読・リテリング等）とそれを用いた自己表現（プレゼンテーション等の準備）（合計90分） 課題：授業内で課す動画またはテキスト（文字）による自己表現の提出、授業内での学びに関するレポート、オンライン教材によるインプットの増加とスキルアップ（合計90分）				
教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
指定なし					
参考書	適宜紹介する。				
備考	授業における学習の状況に応じて、練習や言語活動の内容や進め方が変わる場合がある。 授業では、各自のパソコンを使用するので、毎回の用意が必要である（ノートまたはタブレットが別に必要な場合は使用可）。 本科目は、対面による学習活動を通じて知識と技能を高め、それに関連した授業外での学習活動も必要であるので、極力の出席が必要である。				
昨年度からの振り返り	昨年度の授業改善アンケート結果から、今年度も引き続き、ペア・グループ活動を積極的に取り入れ、互いに学び合うことを重視するとともに、さらに個別最適化学習の機会も設定する。 授業は少人数クラスで、多様なレベルの仲間が互いの状況を理解し、効果的に取り組むことが重要である。 授業では、個人個人が目標を設定して、各個人の英語レベルに応じて取り組む場面がある。 オンライン教材は、授業外に英語に触れる機会を保障するための課題として与えられる。次の授業時間に取り組みの度合いとして、教材内で触れた英語表現の獲得度を確認する。				

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	基礎科目
授業科目名	英語コア・スキルズⅡ					授業形態	演習
授業コード	EC21120001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	奥村 耕一、Joe Hug、遠山 三津子、小林 素羅						
授業概要	<p>本科目では、前期で培った知識・技能を駆使し、英語使用の学び方を生かして、アウトプットの強化をさらに図る。特に、自律した英語使用者となるために、一人ひとりの課題に合った個別最適な学習方法で授業を行う。また、授業では、各自が英語を使うためのゴールを設定し、そのゴールに到達するために必要な表現を調べ、練習して、習得することを基本とする。ゴール到達で得られた成果物を実際にグローバルに発信することも狙いとする。</p> <p>本科目では、さまざまな学習場面で目的に応じて適切な生成AIの活用を推奨する。</p> <p>また、本科目で培った力を展開科目のビジネス英語実習Ⅱ～Ⅳで、さらに生かすことも狙いとしている。</p>						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の英語使用のための学び方を生かして、目的に応じてグローバルに発信するための表現とは何かを体得することができる。 ・実際のやり取りや発信の場面を想定した活動を行うことを通じて、基礎的なコミュニケーションをとることができる。 						
授業計画							
第1回	<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期の振り返りと後期の学習プラン作成 ・目標、概要、後期の予定、評価方法の確認 ・Short Presentation 1 準備 						
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・Daily Talk（日常の話題でやり取りし、即興で表現する技能の向上を図る）1 ・Short Presentation 1 発表 						
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・Daily Talk 2 ・Weekly Task（週ごとに自分の課題を設定し、ペア・グループで援助し合いながら英語表現の獲得を図るInput-Intake-Output活動）1 						
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・Daily Talk 3 ・Weekly Task 2 						
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・Daily Talk 4 ・Weekly Task 3 						
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域紹介動画作成 1-1（フィールドリサーチ） 						
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域紹介動画作成 1-2（動画撮影・編集） 						
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域紹介動画発表 1 						
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・Daily Talk 5 ・Weekly Task 4 						
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・Daily Talk 6 ・Weekly Task 5 						
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・Short Presentation 2 準備 ・Weekly Task 6 						
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・Short Presentation 2 ・Weekly Task 7 						
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域紹介動画作成 2-1（フィールドリサーチ） 						
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域紹介動画作成 2-2（撮影、編集） 						
第15回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域紹介動画発表 2 ・後期学習プランの振り返り ・授業改善アンケート 						
成績評価の方法	<p>動画作成の達成度【20%】</p> <p>各回の授業への参加度（授業内での課題取り組み状況）・貢献度（ペア・グループ活動等で積極的なやり取りの状況）【40%】</p> <p>各回の課題提出状況と英語の獲得度【40%】</p>						
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>復習：授業で触れた表現の練習とそれを生かした自己表現（合計90分）</p> <p>課題：授業内で課す動画またはテキスト（文字）による自己表現の提出、授業内での学びに関するレポート、オンライン教材によるインプットの増加とスキルアップ（合計90分）</p>						

教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
指定なし					
参考書	適宜紹介する。				
備考	授業における学習の状況に応じて、トレーニングや言語活動の内容や進め方が変わる場合がある。 授業では、各自のパソコンを使用する（ノート・タブレット等が別に必要な場合は使用可）。 本科目は、対面による学習活動を通じて知識と技能を高め、それに関連した授業外での学習活動も必要であるので、極力の出席が必要である。				
昨年度からの振り返り	昨年度の授業改善アンケートと科目独自の振り返りアンケート結果から、今年度も引き続き、ペア・グループ活動を積極的に取り入れ、互いに学び合うことを重視するとともに、さらに個別最適化学習の機会も設定する。 授業は少人数クラスで、多様なレベルの仲間が互いの事情を理解し、効果的に取り組むことが重要である。 授業では、個人個人が目標を設定して、各個人の英語レベルに応じて取り組む場面がある。 オンライン教材は、授業外に英語に触れる機会を保障するための課題として与えられる。次の授業時間に取り組みの度合いとして、教材内で触れた英語の獲得度を確認する。				

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	基礎科目
授業科目名	eスポーツ					授業形態	講義
授業コード	ESP1120001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	江端 浩人、本橋 壮太、中村 鮎葉						
授業概要	<p>本授業は、eスポーツを単なるゲーム競技として捉えるのではなく、成長著しい産業および文化現象として、そのエコシステム全体を総合的に理解することを目的とする。</p> <p>授業ではeスポーツのプレイ技術のみならず、コーチング、チーム運営、ゲーム実況、配信技術、スポンサー獲得、コミュニティ育成、ファンマネジメント、グッズ開発、イベント運営など、多岐にわたる関連分野を実践的に学ぶ。さらに世界的なeスポーツ市場の動向、オリンピック採用の可能性、サウジアラビア等による巨額な投資や国際的な大会の盛り上がり、日本国内での成功事例など最新のトピックスも取り上げ、多彩なゲスト講師による講義やワークショップを通じてeスポーツ産業のリアルな姿を理解する。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】</p> <p>本授業では、eスポーツを単なるゲーム競技としてではなく、成長著しい産業および文化現象として捉え、そのエコシステム全体を総合的に学修する。プレイ技術に加え、コーチング、チーム運営、実況・配信、スポンサーシップ、コミュニティ形成、ファンマネジメント、グッズ開発、イベント運営など、eスポーツ産業を構成する多様な関連分野について理解を深める。</p> <p>さらに、世界的な市場動向や国際大会の展開、日本国内における事例を取り上げ、多彩なゲスト講師による講義やワークショップを通じて、eスポーツ産業の構造とビジネスモデルの特徴を具体的に把握する。</p> <p>これらの学修を通じて、eスポーツ産業の仕組みを多角的に分析し、関連ビジネスの可能性や課題について考察する力を養う。本科目は、職業専門科目として、eスポーツを通じた産業理解およびキャリア形成の基礎を築くことを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>本授業の履修を通じて、学生は次のことができるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. eスポーツ産業のエコシステムの構造を説明できる。 2. eスポーツ関連ビジネス（実況、配信、スポンサーシップ、イベント運営等）の仕組みを整理し説明できる。 3. 世界的な市場動向を踏まえ、eスポーツ産業の課題と可能性を論理的に考察できる。 4. グループワークを通じて企画案を立案し、プレゼンテーションとして発表できる。 						
授業計画							
第1回	<p>授業内容</p> <p>本授業の目的、全体構成、成績評価方法および学修方法を説明する。あわせて、eスポーツを取り巻くエコシステムの構造を整理し、eスポーツ産業を構成する主要な関係者（プレイヤー、チーム、配信者、スポンサー、イベント運営者等）の役割とビジネス構造について概観する。</p> <p>事前学習（90分）</p> <p>eスポーツ産業に関する基礎情報を調査する。具体的には、①国内外の市場規模、②主要な大会・リーグ、③代表的なeスポーツタイトル、④関連ビジネスの種類の4点を整理し、A4用紙1枚程度にまとめる。</p> <p>事後学習（90分）</p> <p>授業内容を踏まえ、eスポーツ産業のエコシステムを図示し、各関係者の役割および収益構造の関係性を整理する。その上で、eスポーツ産業の特徴を300字以上でまとめる。</p>						
第2回	<p>授業内容</p> <p>eスポーツにおけるプレーヤーおよびストリーマーの役割について、実務経験を有するゲスト講師の講話を通じて理解する。競技活動、配信活動、収益構造、スポンサー契約、ファンとの関係構築などの実態を整理し、プロフェッショナルとして活動するために必要な能力および課題について考察する。</p> <p>事前学習（90分）</p> <p>eスポーツのプロプレーヤーまたはストリーマーを1名選び、①活動内容、②主な収益源、③所属チームや契約形態、④ファンとの関係構築方法の4点を調査する。調査結果をA4用紙1枚程度にまとめる。</p> <p>事後学習（90分）</p> <p>授業内容を踏まえ、プレーヤーおよびストリーマーのビジネスモデルを整理する。具体的には、①収益構造、②必要なスキル、③キャリア形成の課題、④今後の可能性の4点を整理し、400字以上でまとめる。</p>						
第3回	<p>授業内容</p> <p>eスポーツにおけるゲーム実況の役割と機能について、実務経験を有するゲスト講師の講話を通じて理解する。実況者の業務内容、配信技術、視聴者とのコミュニケーション手法、スポンサーとの関係、収益構造などを整理し、実況がeスポーツ産業に果たす役割について考察する。</p> <p>事前学習（90分）</p> <p>eスポーツの大会実況動画または配信アーカイブを1つ視聴し、①実況の構成、②解説との役割分担、③視聴者への訴求方法、④広告・スポンサー表示の方法の4点を整理する。分析結果をA4用紙1枚程度にまとめる。</p> <p>事後学習（90分）</p> <p>授業内容を踏まえ、ゲーム実況のビジネスモデルを整理する。具体的には、①収益源（広告、スポンサー契約等）、②必要な技能、③視聴者獲得戦略、④将来的な発展可能性の4点を整理し、400字以上でまとめる。</p>						

第4回	<p>授業内容 eスポーツにおける配信技術の基礎および実務について理解する。配信機材の構成、映像・音声の処理方法、配信プラットフォームの仕組み、視聴者との双方向コミュニケーションの設計などを整理し、配信技術がeスポーツ産業に与える影響について考察する。</p> <p>事前学習（90分） eスポーツの配信動画または大会中継を1つ視聴し、①使用されている配信プラットフォーム、②画面構成、③実況・解説との連携、④広告表示やスポンサー露出の方法の4点を整理する。分析内容をA4用紙1枚程度にまとめる。</p> <p>事後学習（90分） 授業内容を踏まえ、eスポーツ配信のビジネスモデルを整理する。具体的には、①収益源、②技術的要件、③視聴者獲得戦略、④今後の技術革新の可能性の4点を整理し、400字以上でまとめる。</p>
第5回	<p>授業内容 eスポーツチームの運営体制およびマネジメントの実践について理解する。チーム編成、選手育成、スポンサー契約、広報戦略、収益構造、スタッフの役割分担などを整理し、チーム運営に必要な経営的視点および課題について考察する。</p> <p>事前学習（90分） 国内または海外のeスポーツチームを1つ選定し、①所属選手、②参加大会、③スポンサー企業、④収益源の4点を調査する。調査内容をA4用紙1枚程度にまとめる。</p> <p>事後学習（90分） 授業内容を踏まえ、eスポーツチームのビジネスモデルを整理する。具体的には、①収益構造、②人材マネジメントの特徴、③スポンサーとの関係、④今後の成長課題の4点を整理し、400字以上でまとめる。</p>
第6回	<p>授業内容 eスポーツが若者に支持される背景について、社会的・文化的観点から分析する。あわせて、教育現場や家庭における受容の課題、いわゆる保護者層からの懸念、社会的評価の形成過程について整理し、eスポーツを社会的に受容可能な活動として位置付けるための方策を検討する。</p> <p>授業内作業（30分） 提示された論点に基づきグループ討議を行い、社会的受容を高めるための具体的提案を整理し発表する。</p> <p>事前学習（90分） eスポーツに対する社会的評価に関する記事または調査資料を1件以上調査し、①肯定的評価、②否定的評価、③主な論点、④背景要因の4点を整理する。A4用紙1枚程度にまとめる。</p> <p>事後学習（90分） 授業内討議の内容を踏まえ、eスポーツの社会的受容を高めるための具体的施策を提案する。①教育的活用、②地域連携、③産業振興、④倫理的配慮の4点を整理し、400字以上でまとめる。</p>
第7回	<p>授業内容 eスポーツイベントの企画および制作の実務について理解する。大会企画立案、会場設計、配信連携、スポンサー調整、広報活動、収益構造などの要素を整理し、イベント制作がeスポーツ産業において果たす役割を考察する。</p> <p>授業内作業（30分） 提示された事例を基に、eスポーツイベントの企画案（目的、対象、収益モデル）をグループで整理し、発表する。</p> <p>事前学習（90分） 国内または海外のeスポーツ大会を1つ選定し、①開催目的、②主催者、③収益源、④スポンサー構成の4点を調査する。調査内容をA4用紙1枚程度にまとめる。</p> <p>事後学習（90分） 授業内容を踏まえ、eスポーツイベントのビジネスモデルを整理する。具体的には、①収益構造、②リスク要因、③集客戦略、④今後の発展可能性の4点を整理し、400字以上でまとめる。</p>
第8回	<p>授業内容 eスポーツに関わる法務および権利関係の基礎について理解する。著作権、配信権、肖像権、スポンサー契約、景品表示法等の関連法制度を整理し、コンプライアンスの観点からeスポーツビジネスにおける法的課題を考察する。</p> <p>授業内作業（30分） 提示された事例を基に、法的リスクの所在を整理し、適切な対応策についてグループで検討し発表する。</p> <p>事前学習（90分） eスポーツに関連する法的論点を1つ選び、①関連する法律名、②想定される問題点、③実際の事例、④事業者が留意すべき点の4点を調査する。内容をA4用紙1枚程度にまとめる。</p> <p>事後学習（90分） 授業内容を踏まえ、eスポーツ産業における法務上の主要課題を整理する。具体的には、①知的財産権の課題、②契約上の課題、③未成年者保護の観点、④今後の制度整備の方向性の4点を整理し、400字以上でまとめる。</p>
第9回	<p>授業内容 eスポーツにおけるマーケティング戦略の実務について理解する。スポンサーシップ戦略、ブランド構築、ファンエンゲージメント、デジタル広告活用、ソーシャルメディア運用などの手法を整理し、eスポーツ産業における価値創造の仕組みを考察する。</p> <p>授業内作業（30分） 提示された事例を基に、eスポーツチームまたは大会のマーケティング施策を分析し、改善提案をグループで整理し発表する。</p>

	<p>事前学習（90分） eスポーツ関連企業またはチームのマーケティング施策を1つ選定し、①ターゲット層、②活用媒体、③スポンサー戦略、④ブランド構築手法の4点を調査する。内容をA4用紙1枚程度にまとめる。</p> <p>事後学習（90分） 授業内容を踏まえ、eスポーツにおけるマーケティングの特徴を整理する。具体的には、①ファンとの関係構築方法、②収益への影響、③他産業との相違点、④今後の発展可能性の4点を整理し、400字以上でまとめる。</p>
第10回	<p>授業内容 eスポーツの国際化の現状について理解する。国際大会の運営体制、海外チームとの連携、言語対応、通訳の役割、文化的差異への対応などを整理し、グローバル市場におけるeスポーツ産業の展開と課題について考察する。 授業内作業（30分） 国際大会の事例を基に、言語・文化の違いが運営やマーケティングに与える影響をグループで整理し、発表する。</p> <p>事前学習（90分） 海外で開催されたeスポーツ大会を1つ選定し、①開催国、②参加国・地域、③運営体制、④スポンサー構成の4点を調査する。調査内容をA4用紙1枚程度にまとめる。</p> <p>事後学習（90分） 授業内容を踏まえ、eスポーツの国際展開における課題と可能性を整理する。具体的には、①市場拡大の要因、②文化的課題、③法制度の違い、④今後の成長戦略の4点を整理し、400字以上でまとめる。</p>
第11回	<p>授業内容 eスポーツの教育的側面について理解する。学校教育や課外活動における活用事例を取り上げ、学習効果、チームワーク形成、コミュニケーション能力育成などの観点から教育的意義を整理する。あわせて、教育現場に導入する際の課題および社会的評価について考察する。 授業内作業（30分） 教育現場でのeスポーツ活用事例を基に、教育的効果と懸念点を整理し、導入に向けた具体的提案をグループでまとめ発表する。</p> <p>事前学習（90分） 教育分野におけるeスポーツ活用事例を1件調査し、①実施主体、②対象者、③教育的目的、④得られた成果の4点を整理する。内容をA4用紙1枚程度にまとめる。</p> <p>事後学習（90分） 授業内容を踏まえ、eスポーツの教育的活用の可能性と課題を整理する。具体的には、①期待される教育効果、②保護者・学校側の懸念、③制度上の課題、④今後の展望の4点を整理し、400字以上でまとめる。</p>
第12回	<p>授業内容 eスポーツにおけるコミュニティ形成の仕組みについて理解する。オンラインおよびオフラインにおけるファンコミュニティの構造、参加動機、運営方法を整理し、コミュニティがeスポーツ産業の持続的発展に果たす役割を考察する。 授業内作業（30分） eスポーツコミュニティの事例を基に、参加者の動機およびコミュニティ運営の工夫を整理し、発表する。</p> <p>事前学習（90分） eスポーツ関連のコミュニティ（オンラインフォーラム、ファンイベント等）を1つ選定し、①参加者層、②活動内容、③運営主体、④収益との関係の4点を調査する。A4用紙1枚程度にまとめる。</p> <p>事後学習（90分） 授業内容を踏まえ、eスポーツコミュニティの価値創造構造を整理する。①参加動機、②ブランド形成への影響、③収益への波及効果、④今後の課題の4点を整理し、400字以上でまとめる。</p>
第13回	<p>授業内容 eスポーツと地域活性化の関係について理解する。自治体、企業、教育機関が連携する公民学連携の事例を取り上げ、地域振興策としてのeスポーツ活用の可能性と課題を考察する。 授業内作業（30分） 地域活性化を目的としたeスポーツ活用企画をグループで立案し、目的・対象・期待効果を整理して発表する。</p> <p>事前学習（90分） eスポーツを活用した地域振興事例を1件調査し、①実施主体、②目的、③実施内容、④成果の4点を整理する。A4用紙1枚程度にまとめる。</p> <p>事後学習（90分） 授業内容を踏まえ、eスポーツを活用した地域活性化の可能性と課題を整理する。①経済的效果、②社会的効果、③持続可能性、④今後の展望の4点を整理し、400字以上でまとめる。</p>
第14回	<p>授業内容 これまでの授業で扱った内容を踏まえ、eスポーツ産業が抱える課題を整理し、解決策を検討する。市場拡大、社会的受容、法務・権利関係、教育活用、地域連携などの観点から課題を抽出し、実現可能な解決策を構想する。 授業内作業（60分） グループごとに課題を1つ選定し、原因分析、解決策の提案、期待される効果を整理し、発表資料の構成を作成する。</p> <p>事前学習（90分） eスポーツ産業における課題を1つ選定し、①課題の背景、②関係する主体、③現状の問題点、④既存の対応策の4点を調査する。内容をA4用紙1枚程度にまとめる。</p> <p>事後学習（90分）</p>

	授業内で検討した内容を踏まえ、提案した解決策について、①実現可能性、②必要な資源、③想定されるリスク、④期待される社会的効果の4点を整理し、400字以上でまとめる。				
第15回	<p>授業内容</p> <p>本授業で扱ったeスポーツ産業の各領域（プレイヤー、配信、チーム運営、イベント制作、法務、マーケティング、教育、地域連携等）を総括し、エコシステム全体の構造を再整理する。各分野の相互関係を確認し、eスポーツ産業の今後の発展可能性および課題について総合的に考察する。</p> <p>授業内作業（60分）</p> <p>グループごとにeスポーツ産業の将来像をテーマに整理し、主要課題とその解決策を発表する。</p> <p>事前学習（90分）</p> <p>これまでの各回の学修内容を振り返り、eスポーツ産業を構成する主要要素（競技、配信、運営、法務、マーケティング、教育、地域連携）を整理する。エコシステム全体を図示し、A4用紙1枚程度にまとめる。</p> <p>事後学習（90分）</p> <p>授業全体を踏まえ、eスポーツ産業の将来展望について整理する。具体的には、①産業構造の変化、②市場拡大の可能性、③社会的課題、④自身のキャリアとの関連の4点を整理し、800字以上でまとめる。</p>				
成績評価の方法	<p>最終レポート：40％</p> <p>授業内プレゼンテーション：40％</p> <p>授業内討議への貢献度：20％</p> <p>最終レポートは、eスポーツ産業の構造理解、分析の論理性、具体性、将来展望の妥当性を基準として評価する。</p> <p>授業内プレゼンテーションおよび討議への貢献度は、事前準備の充実度、発言内容の論理性および具体性、グループ活動への貢献度を基準として評価する。</p>				
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>予習（90分）では、次回のテーマに関連するeスポーツ産業の動向、関連用語、代表的事例について文献や公的資料、報道資料等を用いて調査し、基礎情報を整理する。必要に応じて事例の構造や関係者を図示する。</p> <p>復習（90分）では、授業で扱った内容を踏まえ、eスポーツ産業の構造、ビジネスモデル、法務・マーケティング・教育・地域連携などの各領域の特徴を整理する。その上で、課題や将来展望について考察し、レポートまたは提案書としてまとめる。</p>				
教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
eスポーツ学習／ビジネス基礎		株式会社NTTeSports	株式会社NTTeSports	不明	現在準備中
eスポーツ学習／コミュニケーション基礎		株式会社NTTeSports	株式会社NTTeSports	不明	現在準備中
参考書	参考図書 ・「eスポーツが地域と若者を動かす」テレコミュニケーション編集部				
備考	＊本科目は、起業家・経営者（江端）、eスポーツプレイヤー（中村、本橋）としての実務経験のある教員による授業科目です。				
昨年度からの振り返り					

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	基礎科目
授業科目名	[旧]職業倫理／[新]経営倫理					授業形態	講義
授業コード	BET1120001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	堀野 裕子						
授業概要	「職業倫理」とはなにか、「倫理」とはなにか、クラス全体でのディスカッションを通じ学んでいく。最終的に一人一人にとっての答えを導き、クラスで共有する。						
授業の目的・到達目標	自らのこれからの時間に思いを馳せ、各自の「職業倫理」の軸を考える。ディスカッションを通じ、答えのない問の答えを考えてみる。						
授業計画							
第1回	信じる勇気・信じない勇気　その1						
第2回	信じる勇気・信じない勇気　その2						
第3回	企業にとっての倫理　その1						
第4回	企業にとっての倫理　その2						
第5回	信頼を守るとは　その1						
第6回	信頼を守るとは　その2						
第7回	孤独な決断とは　その1						
第8回	孤独な決断とは　その2						
第9回	Yesという勇気・Noという勇気　その1						
第10回	Yesという勇気・Noという勇気　その2						
第11回	託すという勇気　その1						
第12回	託すという勇気　その2						
第13回	向き合うという勇気						
第14回	続ける勇気・止める勇気						
第15回	まとめ						
成績評価の方法	授業参画度：50％ 期末試験　：50％						
準備学修（予習・復習、課題等）	あらかじめ各回の授業内容を提示しているため、その内容に沿った予習（90分）及び復習（90分）を行うこと。						
教科書							
書名	著者		出版社		ISBN		備考
指定なし							
参考書	講義内において、適宜紹介する。						
備考	グループワークを実施します。単位取得を希望する方は、初回の講義に必ず出席すること。						
昨年度からの振り返り	昨年度は未開講のため該当なし。						

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	基礎科目
授業科目名	サステナビリティ経営					授業形態	講義
授業コード	LGS1120001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	小林 久美子						
授業概要	過去から現在のグローバルで起きている変化、今後の未来予測を踏まえた将来のグローバル社会の潮流を理解し、これらをICTが支える可能性について探求する。 具体的には持続可能な開発目標（SDGs）をもとに、その概要と今日的な社会課題とそれに向けた取り組みや企業の現状について概説する。また、グローバルな課題設定と自らの生活や学びがどのようにつながっているのかを考える。これらの学習を通じ、自分なりにグローバル社会に対し、ICTやビジネスなど本学での学びがどのように寄与していくのかを考える。 最終的にはテーマを絞り、個人での実行計画を策定する。						
授業の目的・到達目標	目的：持続可能な開発目標（SDGs）を実例で学ぶ。 目標：持続可能な社会の仕組みを理解し、自らが持つ課題へ関係づけることができる。						
授業計画							
第1回	ガイダンス・地球と人間活動の関係性を解説する。						
第2回	持続可能な開発目標（SDGs）とサステナビリティ経営						
第3回	アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み・偏見）						
第4回	経済成長と企業の責任・役割						
第5回	ソーシャルビジネス						
第6回	気候変動・環境破壊						
第7回	災害とパンデミック						
第8回	エネルギー・水資源						
第9回	貧困と飢餓						
第10回	廃棄物						
第11回	食品廃棄・フードロス						
第12回	多様性・ジェンダー・少子高齢化						
第13回	DX（デジタルトランスフォーメーション）						
第14回	社会課題とステークホルダーの関係性						
第15回	1回から14回のまとめ、持続可能な社会・サステナビリティ経営とは						
成績評価の方法	・授業内課題：50％ ・最終課題：50％						
準備学修（予習・復習、課題等）	予習：テーマに関する文献リサーチ（90分） 復習：授業課題への取り組み（90分）						
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	備考
指定なし							
参考書	参考書・資料等は授業の中で適宜紹介する。						
備考							
昨年度からの振り返り	グループワークとディスカッションの時間を多く配分する。						

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	基礎科目	
授業科目名	最新技術動向論					授業形態	講義	
授業コード	IIT1120001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない	
担当教員	山内 正人							
授業概要	本講義は、急速に進化する現代テクノロジーの最前線を、第一線で活躍する専門家からオムニバス形式で学ぶ講義です。「研究室で何が生まれているのか（研究・技術寄り）」から「社会でどう実装されているのか（ビジネス・実装寄り）」まで、多様な先端技術が社会に与えるインパクトを概論的に学びます。現代社会を構成する広範な技術領域を俯瞰します。2回目～14回目は順不同で実施。							
授業の目的・到達目標	視野の拡大：自身の専門領域外を含む、多様な先端技術の存在と、その社会的な役割について説明できる。 技術理解の深化：最新技術がビジネスや研究の現場でどのように活用されているかを理解する。 情報感度の向上：日々更新される技術ニュースを自ら収集し、その背景を考察する習慣を身につける。 アウトプット能力：講義内容を自分なりに要約し、社会への影響や自身のキャリアとの関連性を論理的に記述できる。							
授業計画								
第1回	オリエンテーション							
第2回	フロンティア技術（1）							
第3回	フロンティア技術（2）							
第4回	フロンティア技術（3）							
第5回	フロンティア技術（4）							
第6回	フロンティア技術（5）							
第7回	ビジネスイノベーション（1）							
第8回	ビジネスイノベーション（2）							
第9回	ビジネスイノベーション（3）							
第10回	ビジネスイノベーション（4）							
第11回	人間・社会・持続可能性（1）							
第12回	人間・社会・持続可能性（2）							
第13回	人間・社会・持続可能性（3）							
第14回	人間・社会・持続可能性（4）							
第15回	まとめ、振り返り							
成績評価の方法	各回ごとのフィードバックレポート・課題（70％） 積極的な質問や発言など授業への取り組み態度（30％）							
準備学修（予習・復習、課題等）	予習（標準学習時間：2時間） ・参考文献やWebサイト等を閲覧し、各回に関係する基本的な用語・概念について理解をしたうえで授業に臨むこと。 復習（標準学習時間：2時間） ・課題に取り組む。							
教科書								
書名		著者		出版社		ISBN		備考
指定なし								
参考書								
備考								
昨年度からの振り返り	昨年度は未開講のため該当なし。							

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	基礎科目
授業科目名	[旧]英米文学演習／[新]英米文化演習					授業形態	演習
授業コード	ELR1120001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	阿部川 久広						
授業概要	<p>本科目は英米文学を題材とし、英文解釈（単語、構文理解、文法など）を行うだけでなく、その作品が作られた時代背景、文学上の位置付け、著者の作り出した世界観などを学ぶものである。英米文学の代表的な作品のいくつかをピックアップし、その中の主題となる記述をもとに実習形式で授業を行う。具体的には、音読や精読を中心として内容を解釈し、その時代背景、文学上の位置付け、著者の作り出した世界観などを学ぶ。その上で文学や文化上の重要な概念（孤独、人生、死、差別など）をクラスで議論する。本科目の履修を通じ、英語表現を身につけるだけでなく、真の意味での人間に対する深い洞察力を養い、グローバルな環境での議論に耐えうる世界観、人生観を構築するための武器としての教養をあわせて身につける。</p> <p>This class focuses on British and American literature and not only teaches English interpretation (vocabulary, syntax, grammar, etc.), but also explores the historical background of the work, its place in literature, and the author's worldview. Selecting several representative works of British and American literature, the class will be conducted in a hands-on format based on the main texts within them. Specifically, students will interpret the content through aloud and close reading, learning about the historical background, literary position, and author's worldview. They will then discuss important literary and cultural concepts (e.g., solitude, life, death, and discrimination) in class. Through this class, students will not only acquire English expression, but also develop a deep insight into true humanity and acquire the necessary cultural knowledge to forge a worldview and outlook on life that can withstand discussion in a global environment.</p>						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を見つけ出し、自らを深ぼり、知識だけではなく知恵を得るためのいくつかの例を提示する。 ・英語圏の歴史や文化的な背景、世界観の理解を通じた教養を身につける。 ・英米文学の英文解釈を通じて英語力の向上を図る。 <ul style="list-style-type: none"> - This course will present several examples that will help students identify challenges, dig deeper, and gain not only knowledge but also wisdom. - This course will cultivate culture through an understanding of the history, cultural background, and worldview of English-speaking countries. - This course will improve English skills through the interpretation of English in British and American literature. 						
授業計画							
第1回	<p>導入編～文学とは君たちにとって何だったか（議論+課題）</p> <p>アメリカ文学のテーマと全体像</p> <p>Herman Melville "Moby Dick" 精読、音読</p>						
第2回	<p>Herman Melville "Moby Dick" -2 精読、音読</p> <p>バケモノの子</p>						
第3回	<p>Mark Twain 人と時代</p> <p>Mark Twain ""Adventures of Huckleberry Finn"-1 精読、音読</p>						
第4回	<p>Mark Twain ""Adventures of Huckleberry Finn"-2 精読、音読</p>						
第5回	<p>フィッツジェラルドの歴史的位置づけ、その影響</p> <p>F. Scott Fitzgerald "The Great Gatsby"-1 精読、音読</p>						
第6回	<p>F. Scott Fitzgerald "The Great Gatsby"-2 精読、音読</p> <p>華麗なるギャツビー</p>						
第7回	<p>青春文学の代表</p> <p>The Catcher in the Rye " 他-1 精読、音読</p>						
第8回	<p>The Catcher in the Rye" 他-2 精読、音読</p>						
第9回	<p>ロストジェネレーション、テーマと文体、短編</p> <p>Ernest Hemingway "A Farewell to Arms" "The Old Man and the Sea" "A Day's Wait" 他-1 精読、音読</p>						
第10回	<p>Ernest Hemingway "A Farewell to Arms" "The Old Man and the Sea" "A Day's Wait" 他-2 精読、音読</p>						
第11回	<p>カズオイシグロは、日本人作家か</p> <p>Kazuo Ishiguro "Kulala and the Sun" 他-1 精読、音読</p>						
第12回	<p>カズオイシグロは、日本人作家か</p> <p>Kazuo Ishiguro "Kulala and the Sun" 他-2 精読、音読</p>						

第13回	日米をつなぐ作家 村上春樹 ノルウェイの森 Norwegian Wood （日本語英語） 精読、音読				
第14回	音楽と文学 Beatles "Norwedgian Wood" "No Reply" "Nowhere Man" "In My Life" "Hey Jude" "Let it Be" 他				
第15回	君たちにとって、これから文学は何なのか～議論～レポート 予備：Hemingway, Shakespeare, The Police, Paul Austerや、Queen, Eagles などから。（14回の講義からの補遺）				
成績評価の方法	(1) 出席した上での、クラスでの意見発表や討議の回数と内容：60％ (2) 授業ごとのレポート内容：20％ (3) レポート（最終提出）：20％ (1) Number and content of class presentations and discussions after attendance: 60％ (2) Content of reports for each lecture: 20％ (3) Report (final submission): 20％				
準備学修（予習・復習、課題等）	授業で扱う作家のうち、少なくとも一人の作品を1作品以上、日本語で良いので読んでおくこと。Beatlesなど楽曲のあるものは少なくとも2曲以上、聴いてくること。（各回180分） Read at least one work by at least one of the authors covered in the lecture, even if it is in Japanese. Listen to at least two songs by artists such as the Beatles. 授業においても、予習復習においても、AIを積極的に活用すること。 Actively utilize AI in classes and for preparation and review.				
教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
講義アメリカ文学史入門編		渡辺利雄	研究社	978-4-327-47222-1	
参考書					
備考	1. 講義に積極的に参加ください（議論、音読）そして読むことを楽しんでください。 2. 講義で扱う書籍には限りがあります。自分の好きな英米小説、できれば一生読み続けられるものを、大学在学中に1つでもいいので見つけてください。 1. Actively participate in lectures (discussions, reading aloud) and enjoy reading. 2. There is a limit to the number of books covered in lectures. Find at least one British or American novel that you like, preferably one that you can continue to read for the rest of your life, while you are still a student.				
昨年度からの振り返り	1. Paul Austerを取り上げるかどうか検討する。 2. Queenの楽曲も取り上げる。				

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	基礎科目
授業科目名	スタディスキル					授業形態	演習
授業コード	SSK1110001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	桐谷 恵介、国分 峰樹、桑川 美紀						
授業概要	大学生活は社会で貢献するための準備期間であり、自分が興味関心を持つ分野について主体的に学ぶとともに、社会に出ていくにあたって企業におけるプレゼンテーションに代表されるように今度は自らが情報発信をしなければならないという立場にもなる。本講義では有意義な大学生活を送るために、基本となるアカデミックスキルや社会人基礎力など、入学時に立てた目標を実現する力を身に付ける。具体的には、課題に取り組みながら大学生活を送るために必要なコミュニケーション、情報収集と活用、レポートやプレゼンテーションなどを身に付けるとともに、取り上げる課題やテーマから大学での学びや将来の目標を考える。						
授業の目的・到達目標	有意義な4年間の大学生活を送るための基本となる、大学において学ぶ（授業、課外活動）ことのスキルを身につけることを目的とする。そして、本専門職大学の学生として、自覚を持って行動できるようになることを目標とする。						
授業計画							
第1回	ガイダンスと基礎知識の確認 大学の環境を把握した上で、学内の情報環境を利用できる。 コンピュータをネットワークに接続して利用する場合に注意すべき、情報セキュリティに関する規程や身に付けておくべき知識について学ぶ。						
第2回	情報とコミュニケーション 情報とは何かについて、身近な情報システムの例を取り上げ、その役割について説明できる。 またSociety5.0社会や、DX（デジタルトランスフォーメーション）とは何かを理解し、なぜ「iU生はプラスICT人材」なのかを理解する。						
第3回	タイピング、文書の書き方基礎 Word初歩（文書作成ソフト使用時の注意点）を学ぶ。						
第4回	レポートの書き方 アカデミック・ライティング入門 レポート作成演習を行う。						
第5回	Excel①基礎 簡単な表計算などができるようになる。						
第6回	Excel②応用 簡単な関数の使い方を学び、グラフの出力などができるようになる。						
第7回	プレゼンテーション① PowerPoint初歩を学び、簡単なプレゼンテーション資料を作成できる。						
第8回	プレゼンテーション② 効果的なプレゼン資料の作り方（PPT、Excel、Word総復習）、および発表演習						
第9回	コミュニケーション① 発想力・論理力を学び、「自己紹介、自分の強み」を作成する。						
第10回	ビジネスリテラシー基礎 履歴書の書き方を学ぶ。						
第11回	コミュニケーション② ビジネスコミュニケーションの基礎を学ぶ。						
第12回	SNSを取り巻くセキュリティの脅威 インターネットの利用の仕方、SNSの利用の仕方、利用上の注意を学ぶ。						
第13回	生成AIははじめの一步と、情報に関する法規・情報モラル 生成AIの基礎知識や利用時の注意点を、個人情報保護法、著作権などの視点も含めて学ぶ。						
第14回	イノベーション技法 アカデミック・ライティング応用 専門書・文献の収集や検索方法、および論文の読み方を学ぶ。						
第15回	まとめ 課題や本科目を通じて得た気づき、目標の再設定を行う。						

成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none">・毎回の授業時に提出する小レポート（30％）・講義内タスク：講義で学んだ知識、理解度を確認するために毎回行い提出する演習（課題）資料（30％）・授業時の課題：授業時の課題として提出するプレゼンテーション資料、自己アピール（履歴書、強み資料）、最終まとめ資料（40％）			
準備学修（予習・復習、課題等）	<ul style="list-style-type: none">・講義中だけではなく、大学生活や家庭生活においても常にスタディスキルを意識すること。・各回の授業テーマについて、各自で予習（2時間程度）すること。・講義資料を公開する予定なので、復習では講義資料中のキーワードを自分の講義ノートであらためて整理し（2時間程度）、実践すること。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	必要な資料は随時配布する。 参考文献： <ul style="list-style-type: none">・情報リテラシー教科書 Windows 11/Office + Access 2021対応版、矢野文彦（著）、オーム社・基礎からわかる情報リテラシー、森本尚之（著）、技術評論社・DX時代のICTリテラシー（よくわかる）大型本、富士通ラーニングメディア（著）、富士通ラーニングメディア			
備考				
昨年度からの振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	基礎科目
授業科目名	[旧]数学基礎C／[新]数学基礎					授業形態	講義
授業コード	FMC1130001	単位数	2単位	必修・選択の別	2025年度以降 入学者：必修 2024年度以前 入学者：選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	片桐 雅二						
授業概要	本科目では、社会に出てからも大いに役にたつ数学として「確率統計」の基礎を学ぶ。世の中には不確かなことや一部しか観測できないことは沢山ある。これらについて正しく理解・解釈し適切に応用できることは、あらゆる分野において重要である。またICT技術の進歩は多様な膨大なデータの蓄積を可能とし、様々な分野で応用されてきているため、その重要性は高まる一方である。このため、「確率統計」における重要な基本概念について実際の応用例と合わせて学ぶとともに、演習により基本的な計算手順等を修得する。						
授業の目的・到達目標	・確率統計の分野における基本的な用語について、その意味や考え方を説明できる。 ・確率統計における基本的なプロセスである、特性値等の計算、母数の推定、検定について、基礎的な手順を実践することができる。						
授業計画							
第1回	導入：「確率・統計」とは コース概要、授業の進め方、イントロダクション						
第2回	データの記述（1） 度数分布、ヒストグラム、平均、中央値、最頻値						
第3回	データの記述（2） ばらつき（標本分散、標本標準偏差）、線形変換、範囲と割合						
第4回	相関（1） 散布図、共分散						
第5回	相関（2） 相関係数、相関と因果関係、非線形関係						
第6回	確率（1） 確率の基本概念、ベン図、先験的確率、経験的確率、主観的確率						
第7回	確率（2） 和事象の確率、積事象の確率、条件付き確率、ベイズの定理						
第8回	確率変数と確率分布（1） 確率変数と確率分布、期待値、分散と標準偏差						
第9回	確率変数と確率分布（2） 複数の確率変数（同時確率、複数の確率変数の関数の期待値、共分散と相関係数）、連続確率変数						
第10回	主要な確率分布（1） ベルヌーイ分布、二項分布、正規分布、正規分布の標準化、正規分布の性質						
第11回	主要な確率分布（2） 確率変数の和と平均の分布（期待値と分散）、中心極限定理						
第12回	母数の推定（1） 無作為抽出、推定量と推定値、推定量の優劣の判断基準、点推定（割合の推定、平均の推定）						
第13回	母数の推定（2） 区間推定（割合の推定、平均の推定）						
第14回	仮設検定（1） 検定の手順、平均と割合の検定						
第15回	仮設検定（2） 差の検定 全体のまとめ						
成績評価の方法	単元ごとの演習課題の内容（50％：6.25％×8単元）、定期試験の結果（40％）、受講態度等（10％）により評価する。						

準備学修（予習・復習、課題等）	授業範囲について教科書および講義前日より閲覧可能となる授業資料（PDFファイル）により（必要に応じて参考書等も活用して）予習を行うことが望ましい。（90分／回） 授業内で出された事例・例題や説明事項およびワークシート内容について、復習により（単に暗記するのではなく）自分なりに内容を消化し、その「意味」を理解することが特に大切である。（60-90分／回） 単元ごとにe-Learningを利用した演習課題に取り組む。（30-60分×8単元）			
	教科書			
書名	著者	出版社	ISBN	備考
入門 実践する統計学	薮 友良	東洋経済新報社	978-4-492-47085-5	※電子書籍可
参考書	◎参考文献（一般教養向け） 『文系のための統計学入門 データサイエンスの基礎 第2版』 川口洋行（著）、日本評論社、2024年			
	◎参考文献（理系一般教養向け） 『統計学入門（基礎統計学Ⅰ）』 東京大学教養学部統計学教室（編集）、東京大学出版会、1991年			
備考	＊本科目は、ICT関連の研究職としての実務経験のある教員による授業科目です。			
昨年度からの振り返り	昨年度からの改善点：授業内において取り組む「ワークシート」の内容を精査・更新し、その実践が意味を理解することにさらに効果的に結び着くよう改良する。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	基礎科目
授業科目名	[旧]リサーチ入門／[新]社会調査法					授業形態	演習
授業コード	SRB1120001	単位数	2単位	必修・選択の別	2025年度以降 入学者：選択 2024年度以前 入学者：必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	石村 源生						
授業概要	社会科学の調査・分析の手法をもとに社会調査の基本を学ぶ。 社会調査の基本的な考え方と方法、資料やデータの収集と分析の具体的な方法とその特徴について習得する。 それを通じて、今後の様々な科目の学習やビジネス実践の基礎となる考え方、知識、スキル、経験を身につける。						
授業の目的・到達目標	・社会調査における真の 이슈ー（達成すべき課題／解決すべき問題）を明らかにすることの重要性とそのための方法論を理解できるようにする。 ・社会調査は、イシューに取り組むための「手段」であることを理解できるようになる。 ・さまざまな社会調査手法の概要と目的、それらの特徴や実施方法、活用例を説明できるようになる。 ・資料やデータの収集と分析に必要なとなる知識やスキルを身につける。						
授業計画							
第1回	イントロダクション ・本授業科目の概要と目的を理解する。 ・本授業科目の進め方を理解する。 ・「社会調査とは何か？」について考えるきっかけをつかむ。						
第2回	社会調査の基本 ・社会調査とは何であるかについて、その基本的な考え方を学ぶ。 ・社会調査の定義、対象、目的、社会調査への関わり方、社会調査を問題解決・課題達成に結びつけるプロセスなどについての基本的な知識を習得する。						
第3回	ケースメソッド「受験生獲得」 ・ケースメソッド「受験生獲得」を通じて社会調査の基本的な考え方を学ぶ。 ・社会調査の上位目的と手順について学ぶ。						
第4回	問題構造分析 ・問題解決の手法を通じて、問題構造分析の思考法を学ぶ。 ・それによって、社会調査の上流工程を適切に行えるようになることを目指す。						
第5回	アンケート調査1 ・アンケート調査に関する一般的、基本的手順と考え方を学ぶ。 ・定量データを有効に活用して社会調査を効果的に実施できるようになる。						
第6回	アンケート調査2 ・アンケート調査に関する一般的、基本的手順と考え方を学ぶ。 ・定量データを有効に活用して社会調査を効果的に実施できるようになる。						
第7回	仮説形成から施策立案までのプロセス ・価値のある結果に結びつく仮説を立てられるようになる。 ・仮説形成から施策提案までの一連のプロセスを理解する。 ・二重クロス集計の限界を理解する。						
第8回	データ分析手法 ・アンケート調査のデータを調査目的に即して集計・分析できるようになる。						
第9回	調査テーマの分解とイシュー ・特定の調査テーマを与えられたとき、調査テーマを適切に分解して理解するための方法を学ぶ。 ・社会調査において重要な、「イシュー」の考え方を理解する。						
第10回	問題構造分析（演習）1 ・問題構造分析の手法を実際に活用できるようになる。 ・生成AIを分析の支援ツールとして活用できるようになる。						
第11回	問題構造分析（演習）2 ・問題構造分析の手法を実際に活用できるようになる。 ・生成AIを分析の支援ツールとして活用できるようになる。 ・分解チャートに従って適切な社会調査を構想できるようになる。						
第12回	リサーチの種類と既存情報の調査 ・代表的な社会調査手法を概観することによって、社会調査の全体像をつかむ。 ・個々の社会調査手法の特徴を理解し、目的に応じて適切な手法を選択できるようにする。						

	<div>・さらに、文献などの既存情報の調査に関する一般的、基本的手順と考え方を学ぶことによって、既存情報を有効に活用して社会調査を効果的に実施できるようになる。</div> <div>・加えて、科学情報の信頼性を適切に評価できるようになる。</div>			
第13回	<div>インタビュー調査</div> <div>・インタビュー調査に関する一般的、基本的手順と考え方を学ぶことによって、定性データを有効に活用して社会調査を効果的に実施できるようになる。</div>			
第14回	<div>社会調査倫理／生成AIと社会調査</div> <div>・社会調査において遵守しなければならない倫理を学び、社会に対する責任を果たすことのできる職業人になる。</div> <div>・社会調査における生成AI利用の可能性を提案できるようになる。</div>			
第15回	<div>社会調査能力の向上</div> <div>・これまで学んできたことを順に振り返りながら、自らの社会調査力をさらに高めていくための方法と考え方を学ぶ。</div>			
成績評価の方法	<div>・授業貢献度（発言等）：45％（加点要素）</div> <div>・授業課題：75％</div> <div>・期末課題：25％</div>			
準備学修（予習・復習、課題等）	<div>・講義資料を再読して講義の内容の理解を深め、知識を定着させる。</div> <div>・講義で紹介された参考文献や教材などを活用して発展的な学習を行う。</div> <div>（各回180分）</div>			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	<div>『大学生のためのリサーチリテラシー入門：研究のための8つの力』</div> <div>山田剛史、 林創（著）、ミネルヴァ書房、2011年</div> <div>『イシューからはじめよ——知的生産の「シンプルな本質」』</div> <div>安宅和人（著）、英治出版、2010年</div> <div>『基本がわかる 実践できる マーケティングリサーチの手順と使い方 [定量調査編]』</div> <div>蛭川速、吉原慶（著）、日本能率協会マネジメントセンター、2020年</div> <div>『基本がわかる 実践できる マーケティングリサーチの手順と使い方 [定性調査編]』</div> <div>石井栄造（著）、日本能率協会マネジメントセンター、2019年</div> <div>『EXCELマーケティングリサーチ＆データ分析 [ビジテク] 2013/2010/2007対応』</div> <div>千野直志他（著）、翔泳社、2014年</div> <div>『EXCELビジネス統計分析 [ビジテク] 第3版 2016/2013/2010対応』</div> <div>末吉正成、末吉美喜（著）、翔泳社、2017年</div> <div>『電通現役戦略プランナーのヒットをつくる「調べ方」の教科書』</div> <div>阿佐見綾香（著）、PHP研究所、2021年</div> <div>『独学大全』</div> <div>読書猿（著）、ダイヤモンド社、2020年</div> <div>『問題解決大全』</div> <div>読書猿（著）、フォレスト出版、2017年</div> <div>『最新版 論文の教室』</div> <div>戸田山和久（著）、NHK教室、2022年</div>			
備考				
昨年度からの振り返り	<div>積極的に授業に貢献する学生を増やすために、授業デザインを改善する。</div>			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	マネジメント（経営学基礎）					授業形態	講義
授業コード	IMG1210001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	井上 直幸						
授業概要	本科目では、企業が利益を獲得するために行うビジネス活動に必要な経営資源が、効率的かつ有効に活用されている実態について学修する。特に、マネジメントに関する様々な事例を取り上げることで、実践的な事象に対する理解力を身に付ける。						
授業の目的・到達目標	・現代企業の仕組み、制度と運営メカニズムについて説明することができる。 ・諸学説を現実のマネジメントの問題に関連付けながら説明することができる。						
授業計画							
第1回	ガイダンス、「経営学」とは何か						
第2回	ドメインの定義、戦略の策定、競争のための差別化						
第3回	多角化と事業ポートフォリオ、多角化の論理、事業の選択と集中						
第4回	グローバル化の背景と課題、インフレの背景と課題						
第5回	会社の形態、所有と経営の違い、資金調達						
第6回	第1回～第5回のまとめ（理解度確認テストを含む）						
第7回	全社的組織構造の試み、機械的組織と有機的組織、リーダーシップ						
第8回	人事労務管理、労働時間の管理、労使関係の管理						
第9回	経営理念と組織文化、モチベーションとストレス						
第10回	ドラッカーのマネジメント、AIと経営						
第11回	第7回～第10回のまとめ（理解度確認テストを含む）						
第12回	課題演習（調査）企業研究①						
第13回	課題演習（発表）企業研究①						
第14回	課題演習（調査）企業研究②						
第15回	課題演習（発表）企業研究②						
成績評価の方法	各回授業への参加度・貢献度：20％ 理解度確認テスト：80％						
準備学修（予習・復習、課題等）	予習）各回の授業に関連する時事問題に関する資料等を読んでおく（90分） 復習）各回の授業で分からなかった箇所を中心に振り返り、理解を深めておく（90分）						
教科書							
書名	著者		出版社		ISBN		備考
指定なし							
参考書	『企業の成長戦略が10時間でわかる本』木嶋豊、あさ出版、ISBN：978-4-86063-962-4						
備考	毎回授業前にグーグルクラスルームを通じて資料を配布します。						
昨年度からの振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。						

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	オペレーションズマネジメント					授業形態	講義
授業コード	OPM1210001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	倉浪 孝明						
授業概要	本科目では、企業のオペレーション活動において重要であるコスト削減、時間短縮や顧客満足度の向上などを実現するための方法論について、業種を問わず適用できるオペレーションズマネジメントの基本的な考え方を学修する。インプット－変換－アウトプットモデルや5つのパフォーマンス目標（品質・スピード・信頼性・柔軟性・コスト）といった理論的枠組みは、小売店舗、製造工場、医療機関など業種を問わず共通して成り立つ。特に、ビジネスを取り巻く環境は、顧客ニーズの多様化と細分化、ICT化の著しい進展により大きく変化しており、個々の業務手法を学ぶだけでなく、それらが経営戦略上どのような競争優位につながるのかという視点もあわせて養う。						
授業の目的・到達目標	・ビジネス活動に即した知識・能力を身につけることができる ・流通業を中心とするオペレーションズマネジメントの仕組みを理解し、実践的な知識を身につけることができる ・経営戦略とオペレーション戦略の関係を理解し、個々の業務判断が競争優位にどうつながるかを説明できる						
授業計画							
第1回	オペレーション活動、流通における小売業の基本、組織小売業とは						
第2回	経営戦略の基礎とオペレーション戦略の位置づけ						
第3回	経営戦略とオペレーション戦略－競争優位とQCDの関係－						
第4回	オンラインとオフライン、オムニチャネル、店舗形態別小売業の基本的役割						
第5回	マーチャンダイジング、商品計画の基本、販売計画及び仕入計画等の基本						
第6回	利益の構造、在庫管理の基本・方法、データによる在庫管理						
第7回	ストアオペレーションの基本、日常の運営業務、メンテナンス業務						
第8回	ディスプレイの基本パターンと関連用語・什器備品						
第9回	商圏の設定と出店の基本、商圏の特性、立地条件の基本知識						
第10回	研究開発の戦後の歩み、開発のプロセス、製造のオペレーション						
第11回	DX戦略とオペレーション－ICT化がもたらす競争優位の変化－						
第12回	企業研究の進め方						
第13回	課題演習（調査）企業研究①						
第14回	課題演習（発表）企業研究②						
第15回	総括・全体のまとめ						
成績評価の方法	・授業への取り組み態度（質問・発言・積極性など）：20％ ・課題発表（グループ）：40％ ・最終レポート（個人）：40％						
準備学修（予習・復習、課題等）	（予習）授業に関連する時事問題に関する資料等を読んでおく（90分） （復習）授業で分からなかった箇所を中心に振り返り、理解を深めておく（90分） （課題発表）発表に向けた資料作成のため、授業外でのグループワークも想定される						
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	備考
指定なし							
参考書	山口雄大・竹田賢（編著）『企業の戦略実現力 オペレーションズマネジメント入門』日本評論社、ISBN：978-4-535-54052-1						
備考	毎回、筆記用具・ノート、PCを持参して下さい。						
昨年度からの振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。						

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	問題形成と問題解決					授業形態	演習
授業コード	SPS1210001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	辻 貴史						
授業概要	<p>本科目では、現代社会で求められる「問題を発見し、解決していく力」を、演習を通して身に付ける。答えが一つに定まらない社会課題を複数回にわたって扱い、問題の発見から解決策の立案までの流れを経験することで、実践的な問題解決プロセスの理解を深める。</p> <p>ここで身に付ける考え方は、他の科目での課題分析や、将来新しいサービス・ビジネスを構想する場面でも土台となるものである。</p>						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の発見と解決に役立つ物事の進め方を説明することができる。 ・主体的に新しい問題に取り組み、解決する方法を説明することができる。 						
授業計画							
第1回	社会で求められる力、問題とは、分析的に考える						
第2回	課題演習①：ヤングケアラー（1） 問題をとらえ、明確にする						
第3回	課題演習②：ヤングケアラー（2） 取り組む目標を定め、原因を洗い出す						
第4回	課題演習③：ヤングケアラー（3） 原因を構造化し、掘り下げる						
第5回	課題演習④：カスタマーハラスメント（1） 問題をとらえ、明確にする						
第6回	課題演習⑤：カスタマーハラスメント（2） 目標を定め、原因を掘り下げる						
第7回	課題演習⑥：カスタマーハラスメント（3） 解決策を考える						
第8回	課題演習⑦：カスタマーハラスメント（4） 実行計画を立て、振り返る						
第9回	課題演習⑧：子どものソーシャルメディア利用と年齢制限（1） 問題をとらえ、明確にする						
第10回	課題演習⑨：子どものソーシャルメディア利用と年齢制限（2） 目標を定め、原因を掘り下げる						
第11回	課題演習⑩：子どものソーシャルメディア利用と年齢制限（3） 解決策を考え、実行計画を立てる						
第12回	課題演習⑪：観光地の混雑・オーバーツーリズム（1） 問題をとらえて明確にし、目標を定める						
第13回	課題演習⑫：観光地の混雑・オーバーツーリズム（2） 原因を掘り下げ、解決策を考える						
第14回	課題演習⑬：任意のテーマ 自ら選んだ社会課題に問題形成から解決策の立案までを適用し、グループで発表する						
第15回	まとめ（理解度確認テストを含む）						
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の課題（提出・評価）：50％ ・グループ発表：30％ ・理解度確認テスト（持ち込み不可）：20％ 						
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>予習）次回のテーマについて、事前に配布するケース資料と、公的機関が公開している統計・報道記事等を読み、事実関係と論点を整理しておく（90分）</p> <p>復習）その回に用いた考え方を自分の言葉で説明できるように振り返り、毎回の課題（学んだことと、まだ分からないこと）をまとめ、期限までに提出する（90分）</p>						
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	備考
指定なし							
参考書	『改訂新版 問題解決の進め方』秋光淳生・門奈哲也（著）、放送大学教育振興会、ISBN：978-4-595-32524-3						
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・14回目のグループ発表を評価の対象とする。グループは学期中盤に編成し、それ以降の回を通じて準備を進める。グループ発表の評価観点は授業内で説明する。 ・一つのテーマを複数回にわたって扱い、前の回の成果を引き継いで進める。そのため、欠席した場合は、配布資料等でその回の内容を確認したうえで次の回に参加すること。 ・取り上げる社会課題について、履修者自身や家族の個人的な状況を話す必要は一切なく、公開されている事実やデータ、架空の事例をもとに検討する。 						

昨年度からの
振り返り

昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	組織行動論					授業形態	講義
授業コード	OBH1210001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	チンテザ アンドレア						
授業概要	本科目では、組織のなかの個人および集団に着目し、組織行動論の基礎知識を学ぶ。組織にとって、経営目的を達成するために、組織のなかの個人の行動を理解することは非常に重要である。そのため、モチベーション、リーダーシップ、コミュニケーション、コンフリクト、集団等の組織行動論の主なテーマについて解説する。また、様々な概念や理論が実際にどのように応用できるかを把握するために、事例を挙げながら、解説する。						
授業の目的・到達目標	<p>（１）知識・理解面での到達目標</p> <ul style="list-style-type: none">・身に着けた知識を使い、組織のなかの個人と集団の行動を多様な側面から説明し、考察できる。・実際の企業等のケーススタディを分析し、学んだ概念や理論との関連性（応用性）を述べられる。・学んだ概念が、どのように相互に関連しているかを理解し、説明できる。 <p>（２）興味・関心面での到達目標</p> <ul style="list-style-type: none">・授業で学んだ概念や理論以外に、関連する他のテーマについて自分でもっと調べ、好奇心を育てる力を身に付けている。 <p>（３）技能面での到達目標</p> <ul style="list-style-type: none">・組織のなかのメンバーの行動や役割を理解することで、将来の職場等で、メンバーの一人として行動できる。・特定の課題に対し、自分で適切な情報を集め、まとめたあと、他人に分かりやすく説明できる能力を身に付けている。						
授業計画							
第1回	オリエンテーション、組織行動論とは、経営学における位置づけ						
第2回	組織とは						
第3回	モチベーション理論① 内容理論						
第4回	モチベーション理論② 過程理論						
第5回	リーダーシップ① 資性論、行動論						
第6回	リーダーシップ② 条件理論、現代理論						
第7回	個人のパーソナリティ要素、組織における個人意思決定および集団意思決定						
第8回	組織コミットメント、職務満足、知覚された組織的支援						
第9回	組織におけるグループ、チーム						
第10回	組織におけるコミュニケーション						
第11回	組織におけるコンフリクト						
第12回	組織における力および政治						
第13回	組織文化、学生によるプレゼンテーション①						
第14回	ストレス・マネジメント、学生によるプレゼンテーション②						
第15回	全体のまとめ						
成績評価の方法	・参加態度（授業内の課題に対する発言・発表とその内容、質）（50％） ・プレゼンテーション（50％）						
準備学修（予習・復習、課題等）	予習：各回の授業で扱うテーマについて、参考書やインターネットを用いて調べること。（各回90分） 復習：各回の授業で配付する資料や参考書を基に、授業内容を振り返る。（各回90分）						
教科書							
書名	著者		出版社		ISBN		備考
指定なし							
参考書	Robbins, S.P. (2018). 新版 『組織行動のマネジメントー入門から実践へ』. 高木晴夫訳. ダイヤモンド社. （※特に上記参考書の購入の必要はない。）						
備考							

昨年度からの
振り返り

昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	カリキュラムにより 異なります。		学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	人的資源管理論						授業形態	講義
授業コード	HRM1210001	単位数	2単位	必修・選択の 別	選択	アクティブ・ラーニング		実施する
担当教員	角谷 浩							
授業概要	社会の急激な変化に伴い、日本企業の人的資源戦略は大きな変革を迫られている。加えて、世界的に見ても稀な日本の少子高齢化の進行は、企業の人事戦略を大きく変えつつある。本科目では、基礎的な理論を踏まえながらも、「人材から人財へ」と変わる企業の「ヒト」管理の今日的な視点を、アクティブラーニングも取り入れながら実践的に学ぶ。							
授業の目的・ 到達目標	<div>(1) 知識面での到達目標</div> <div>・ 人的資源管理の基礎的な理論を体系的に理解し、他者へ説明できるようになる。</div> <div>・ 戦略的人事の考え方と企業経営における人的資源管理の重要性を理解し、他者へ説明できるようになる。</div> <div>・ 従来の人的資源管理と現在の人的資源管理の相違を理解し、他者へ説明できるようになる。</div> <div>(2) 興味・関心面での到達目標</div> <div>・ 就職活動に向けて、企業の採用戦略や入社後の人事制度に関心を持ち、積極的に情報収集をすることができるようになる。同時に、変化の激しい時代をどう生き抜くか、自身のキャリアについて具体的に考え始めるようになる。</div> <div>(3) 技能面での到達目標</div> <div>・ 人事管理の問題解決能力を養い、就職後に活用できる基礎的な組織対応力を備える。</div> <div>・ ビジネスに必要な基礎的コミュニケーション力を備える。</div> <div>・ 人事系の職種やコンサルなどのビジネススキルが求められる職種への適性を備える。</div> <div>・ 起業した際に直面するであろう人事に関する課題をあらかじめ予測することができる。</div>							
授業計画								
第1回	オリエンテーション：「人的資源管理論」の講義で学ぶこと							
第2回	人的資源管理論総論①：世界と日本の潮流「人材から人財へ」							
第3回	「ヒト」の管理の歴史①：（理論）メンバーシップ型雇用とジョブ型雇用							
第4回	「ヒト」の管理の歴史②：（アクティブラーニング）ジョブ型雇用と人的資源戦略							
第5回	「ヒト」の管理の変化①：（理論）AIの進化とサイバー社会							
第6回	「ヒト」の管理の変化②：（アクティブラーニング）サイバー社会の人的資源戦略							
第7回	日本的雇用①：日本の人材戦略の歴史と特徴							
第8回	日本的雇用②：これからの日本の人材戦略（DE&I、働き方改革）							
第9回	戦略的人財管理①：（理論）人事の仕事の昔と今							
第10回	戦略的人財管理②：（アクティブラーニング）人事の仕事（採用・労務管理）							
第11回	人的資源管理論総論②：第10回までの振り返り学習							
第12回	確認テスト＋トピックス①（コンプライアンスと人事資源管理）							
第13回	確認テストの解説＋トピックス②（ガバナンスと人事資源管理）							
第14回	戦略的人財管理③：（アクティブラーニング）人事の仕事（戦略的計画立案）							
第15回	人的資源管理論総論③：全回のまとめとレポート提出							
成績評価の方法	・参加態度（授業内での積極的な発言・発表とその内容、授業内課題の質、グループワークにおける分担した役割の遂行）：40％ ・提出レポート：60％							
準備学修（予習・復習、課題等）	予習：各回の授業で扱うテーマについて、参考書やインターネットを用いて自分なりに調べ、不明点・疑問点を整理しておくこと。（各回90分） 復習：各回の授業で配付する資料を基に、授業内容を振り返り、知識の定着を図るとともに、興味・関心のある点について、各自でさらに調べ、理解を深めること。（各回90分）							
教科書								
書名		著者		出版社		ISBN		備考

指定なし				
参考書	奥林康司 他（編著）『入門 人的資源管理』中央経済社 上林憲雄（編著）『人的資源管理』中央経済社 （※特に上記参考書の購入の必要はない。）			
備考				
昨年度からの 振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	カリキュラムにより異なります。		学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	デザインと経営						授業形態	講義
授業コード	DIB1210001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング		実施する
担当教員	松村 太郎							
授業概要	本授業「デザインと経営」では、デザインが企業の経営戦略に与える影響を学び、実践的なデザイン思考を身につけることを目的とします。Appleのプロダクトデザイン、Nikeのブランディング、Teslaのバリューチェーンデザインなど、世界的企業の成功事例を分析し、デザインの持つ経営上の価値を理解します。また、Adobe ExpressやCanvaを用いたワークショップを通じ、デザインプロトタイピングを実践。最終課題では、選定企業へのデザイン提案をプレゼンし、デザインを経営の視点から活用する力を養います。							
授業の目的・到達目標	1. デザインと経営の関連性を理解する。 2. 実践的なデザイン思考を身につける。 3. デザインツールを活用し、アイデアを具体化する。 4. 企業へのデザイン提案ができる。 この授業を通じ、学生はデザインを単なるビジュアル要素ではなく、経営を変革する戦略ツールとして理解し、実践する力を養います。							
授業計画								
第1回	オリエンテーションと基礎概念							
第2回	デザインと経営の理論フレームワーク							
第3回	デザイン戦略の分析手法							
第4回	ケーススタディ①－Apple（アップル）							
第5回	ケーススタディ②－Nike（ナイキ）							
第6回	ケーススタディ③－Meta（Instagram）							
第7回	ケーススタディ④－無印良品							
第8回	ケーススタディ⑤－IKEA（イケア）							
第9回	ケーススタディ⑥－Disney（ディズニー）							
第10回	ケーススタディ⑦－Nintendo（任天堂）							
第11回	ケーススタディ⑧－Starbucks（スターバックス）							
第12回	ケーススタディ⑨－Tesla（テスラ）							
第13回	ケーススタディ⑩－Airbnb（エアビーアンドビー）							
第14回	ファイナルプロジェクト準備－課題設定とデザイン提案							
第15回	ファイナルプロジェクト発表＆講評							
成績評価の方法	・クラス内での議論への発言：40％ ・毎回のフィードバックコメント：30％ ・ファイナルプロジェクト：30％							
準備学修（予習・復習、課題等）	・次回テーマとなる企業に関してのリサーチ（120分程度） ・フィードバックコメント（60分程度）							
教科書								
書名		著者		出版社		ISBN		備考
指定なし								
参考書	都度、必要な資料を配布							
備考	＊本科目は、ITジャーナリストとしての実務経験のある教員による授業科目です。							
昨年度からの振り返り	ファイナルプロジェクトのテーマ選択について、14回、15回の授業のみでは時間が足りないとのフィードバックもありました。そのため、10～13回の期間で、テーマ選択の参考になる情報や資料を提供したり、テーマ選択に関する質問を受け付ける時間を取るなどの改善を行います。							

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	マーケティング基礎					授業形態	講義
授業コード	MK11220001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	佐々木 竜介						
授業概要	ビジネスを展開するうえで不可欠となるマーケティングについて、基本となるマネジリアル・マーケティングに加え、ブランドやリレーションシップ・マーケティング、またBtoBマーケティングやデジタル・マーケティングなど幅広い分野も触れる。マーケティングの基礎的な知識や理論を幅広く学ぶとともに、各種ケースの分析を行うことでその発想法を修得し、将来のビジネスの実務で、マーケティング戦略の立案、戦術の策定ができるようになることを目指す。						
授業の目的・到達目標	マーケティングの基礎理論を理解し、マーケティングプランの作成をできるようになる。						
授業計画							
第1回	イントロダクション -マーケティングとは -ビジネスとマーケティング -マーケティングの発展史						
第2回	マーケティング・マネジメント -マーケティング・マネジメントとは -B-STP -マーケティング・ミックス						
第3回	戦略的マーケティング -戦略的マーケティングとは -環境分析 -成長戦略／競争戦略						
第4回	顧客分析 -顧客とは -消費者行動論 -マーケティング・リサーチ						
第5回	Product戦略 -製品開発とは -製品開発の進め方 -製品戦略のケーススタディ						
第6回	Price戦略 -価格とは -価格決定の方法と価格戦略の考え方 -価格戦略のケーススタディ						
第7回	Place戦略 -流通とは -流通の種類 -流通戦略のケーススタディ						
第8回	Promotion戦略 -4つのプロモーション -広告戦略 -プロモーション・ミックス						
第9回	ブランド -ブランドとは -ブランドの要素 -ブランディングの実際						
第10回	リレーションシップ・マーケティング -リレーションシップ・マーケティングとは -顧客との関係性／取引先との関係性 -リレーションシップ・マーケティングのケーススタディ						

第11回	サービス・マーケティング -サービス・マーケティングとは -サービス・マーケティングの枠組み -サービス・マーケティングの課題			
第12回	BtoBマーケティング -BtoBビジネスとマーケティング -BtoBマーケティングの枠組み -DX時代のBtoBマーケティング			
第13回	デジタル・マーケティング -デジタル・マーケティングとは -デジタル・マーケティング戦略 -デジタル・マーケティングのマネジメント			
第14回	マーケティングの新潮流 -リキッド消費と応援消費 -ブルーオーシャン戦略 -エフェクチュアル・マーケティング			
第15回	まとめ			
成績評価の方法	各回授業への参加度、貢献度：20％ 各回授業における課題：60％ 期末レポート：20％			
準備学修（予習・復習、課題等）	【予習】（90分程度） 各回授業で出題された課題について、レポートを作成、提出する。 【復習】（90分程度） 事前学習での自分の分析について、授業を受けた上での答え合わせを行う。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	教科書： 毎回授業前にグーグルクラスルームを通じて資料を配布します。 参考書： ・「ベーシック・マーケティング 第2版」 恩蔵直人、三浦俊彦、芳賀康浩 編、同文館出版、2019年（ISBN：978-4-495-64372-0） ・「マーケティング入門」 小川孔輔、日本経済新聞出版社、2009年（ISBN：978-4-532-13369-6） ・「コトラー、アームストロング、バラスブラマニアン、恩蔵のマーケティング原理」 フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、スリーダー・バラスブラマニアン、恩蔵直人（共著）、丸善出版、2025年（ISBN：978-4-621-31156-1） 他、各回のテーマごとに適宜提示します。			
備考	授業クラスごとにグーグルクラスルームを設定し、最初の授業時にURLないしは授業コードをお知らせしますので、速やかに登録してください。そちらを通じて資料を配布、また課題を提出してもらいます。 課題について、提出された中からいくつかを選び次回授業で紹介しますので、それを前提に取り組んでください。 なお記載された内容は、変更となる場合があります。			
昨年度からの振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	カリキュラムにより 異なります。	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	[旧]マーケティング応用／[新]マーケット・イノベーション					授業形態	講義
授業コード	MK21220001	単位数	2単位	必修・選択の 別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	佐々木 竜介						
授業概要	市場にイノベーションを起こした製品やサービス等のケーススタディを行う。ケースがどのように成功に至ったかを講師が分析・解説する「基礎」、提示されたケースについて成功の要因をグループでディスカッションする「実践」、受講者が成功したと考えるケースを一つ選び、その要因を分析、プレゼンテーションを行う「応用」（グループワーク）、の3段階で行う。						
授業の目的・ 到達目標	「基礎」では、マーケティングの理論や手法を現実にあった意思決定との関係の中で学ぶとともに、成功を導いた要因の分析力を養う。 「実践」では、グループワークにより分析の実践を行うとともに、協力のもと結論を導き出す力を習得する。 「応用」では分析に加え、その前段でのイノベーションの発見、ケース選択の意思決定、データ収集までも行う。 以上により、市場の情報収集力、経営課題やサービス・ビジネス創出の機会の発見力を身に付ける。						
授業計画							
第1回	イントロダクション -講義の進め方 -マーケット・イノベーションとは						
第2回	マーケティングの基礎理論 -STP、4P等						
第3回	ケーススタディ 基礎① -カルビー「フルグラ」						
第4回	ケーススタディ 基礎② -アキレス「瞬足」						
第5回	ケーススタディ 基礎③ -アイリスオーヤマ						
第6回	ケーススタディ 基礎④ -スノーピーク						
第7回	ケーススタディ 基礎⑤ -相模屋食料						
第8回	ケーススタディ 実践①（グループディスカッション） -関あじ、関さば						
第9回	ケーススタディ 実践②（グループディスカッション） -ヤッホーブルーイング						
第10回	ケーススタディ 応用①（グループワーク） -「市場にイノベーションを起こした」と感じた事例を選び、どこがイノベティブだったかを分析、発表する。 1回目-ケースの選定						
第11回	ケーススタディ 応用②（グループワーク） -「市場にイノベーションを起こした」と感じた事例を選び、どこがイノベティブだったかを分析、発表する。 2回目-ケースの分析、発表資料の作成						
第12回	ケーススタディ 応用③（グループワーク） -「市場にイノベーションを起こした」と感じた事例を選び、どこがイノベティブだったかを分析、発表する。 3回目-発表資料のまとめ、発表						
第13回	ケーススタディ 応用-講評 -マーケティング応用の発表内容に関し、受講者および講師が講評を行う。						
第14回	もう一つのケーススタディ -ソニー「ベータ・マックス」、コカ・コーラ「ニューコーク」						
第15回	まとめ -授業全体の振り返り						
成績評価の方法	各回授業への参加度、貢献度：20％ 各回で出題する課題：50％						

	11、12回授業における参加態度：10％ ケーススタディ応用の参加態度、発表内容：20％			
準備学修（予習・復習、課題等）	【予習】（90分程度） 基礎：各回授業で次回取り上げる内容について資料を配布、課題を出題するので、レポートを提出。 実践：各回授業で次回取り上げる内容について資料を配布するので、自分なりに整理、分析を行っておく。 応用：プレゼンテーションの準備を行う。 【復習】（90分程度） 事前学習での自分の分析について、授業を受けた上での答え合わせを行う。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	配布資料を基に授業を進めます。資料は毎回授業前にグーグルクラスルームを通じて配布します。 参考書が必要な場合は、適宜指定します。			
備考	授業クラスごとにグーグルクラスルームを設定し、最初の授業時にURLないしは授業コードをお知らせしますので、速やかに登録してください。そちらを通じて資料を配布、また課題を提出してもらいます。 課題について、提出された中からいくつかを選び次回授業で紹介いたしますので、それを前提に取り組んでください。 なお記載されたケース、内容、授業の順番は変更となる場合があります。			
昨年度からの振り返り				

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	アカウンティング入門					授業形態	講義
授業コード	AC11230001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	中嶋 隆一						
授業概要	ICTの進歩により飛躍的な発展を遂げるビジネス社会で有為な人材として活躍するためには、ビジネス社会の共通言語である会計を学ぶことが重要である。この科目では、会計を初めて学ぶ人達を対象に、会計の全般的で基礎的な内容を平易に解説する。会計といえば、一般的に企業会計を意味することが多い。会計情報は企業を取り巻く各種ステークホルダー（利害関係者）の意思決定に利用されるからである。そこで、企業において会計が果たす役割を外部報告会計（財務会計）と内部報告会計（管理会計）という2つの相互関連する視点で取り扱い、会計の基本的な考え方とその守備範囲についてわかりやすく説明する。						
授業の目的・到達目標	ICTを利用してビジネス社会で活躍する人材の育成をめざし、必要とされる会計の基礎知識を広く習得することを目的としている。これにより、会計の基本的考え方・必要性が理解できるようになる。とりわけ、会計情報の重要性をより深く学び、会計をビジネスのツールとして利用することができるよう、実際の企業の財務諸表を当初から使用し、会社の財務状況等が理解できるようになることが目標である。						
授業計画							
第1回	ガイダンス・・会計とは何だろう。会計は何に役立つのだろう。 －会計の意義・目的・仕組みについて理解できる－						
第2回	会計について深掘りする。 －会計の対象、会計の分類、会社の健康チェックを理解できる－						
第3回	会計情報の重要性を考えよう。 －財務3表（B/S、P/L、C/F）の関わりについて理解できる－						
第4回	会社の財政状態表示とは －貸借対照表（B/S）のひな形と表示内容について理解できる－						
第5回	会社の経営成績表示とは －損益計算書（P/L）のひな形と表示内容を理解できる－						
第6回	キャッシュの流れを考えよう。 －キャッシュ・フロー計算書（C/F）のひな形と表示内容を理解できる－						
第7回	財務諸表作成のプロセス① －簿記のルール：仕訳と転記の基礎を理解できる－						
第8回	財務諸表作成のプロセス② －簿記のルール：仕訳と転記の確認を理解できる－						
第9回	財務諸表作成のプロセス③ －簿記のルール：試算表（T/B）の作成を理解できる－						
第10回	財務諸表作成のプロセス④ －簿記のルール：精算表（W/S）、決算書（F/S）の作成を理解できる－						
第11回	財務諸表作成のプロセス⑤ －簿記一巡の手続きの流れを理解できる－						
第12回	会社に影響を及ぼす会計制度 －日本における企業会計法の概要を理解できる－						
第13回	会計の基本的前提条件 －会計の理論構造を理解できる－						
第14回	外部報告会計と内部報告会計について －財務会計と管理会計の範囲を理解できる－						
第15回	管理会計の考え方 －コーヒー缶の値段のつけ方を理解できる－						
成績評価の方法	授業内小テスト・レポート・課題プレゼンテーション等を含む平常点：30％ 最終試験：70％（授業範囲すべてを含む） （授業内小テスト解説・課題等の回答は授業内または後日グーグルクラスルームへフィードバックする。）						
準備学修（予習・復習、課	予習（2時間）：毎回完結型のテーマによる授業のため、事前に関連する事例等をインターネット等で調べておく。 復習（2時間）：授業時に適宜配布するレジュメ（グーグルクラスルームより配信）と講義内容の復習						

題等)	授業時に適宜課す課題ないしは演習問題（グーグルクラスルームより送受信）については平常点に係るので、提出・解答の準備をしておく。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	すべてオリジナルのレジュメ形式で毎回（グーグルクラスルームから）配信する。必ず、ファイル保存しておく。 参考文献： ◎『会計学入門（第5版）』櫻井久勝、日経文庫、2021年10月 ◎『日商簿記3級合格テキスト・日商簿記3級合格トレーニング』（最新バージョン）TAC株式会社 ◎『会計学基礎論第六版』神戸大学、2019年10月 ◎『管理会計入門〈第2版〉』加登豊、梶原武久（共著）、日経文庫、2017年6月 ◎『管理会計・入門（第4版）』浅田孝、頼誠、鈴木研一、中川優、佐々木郁子（共著）、有斐閣アルマ、2022年8月 その他テーマごとに適宜提示する。			
備考	授業クラスごとに設定したグーグルクラスルームで授業用資料を配信・連絡します。最初の授業時にURLないしは授業コードをお知らせします。 履修者は所属するクラスルームへ速やかに登録し、資料を授業前に用意して授業に臨んで下さい。			
昨年度からの振り返り	会計（アカウンティング）は、簿記と共にビジネスの世界の共通言語とされ、大変重要です。そのため、昨年度から、身近な企業の実際の財務諸表を利用し、会社の財務状況等に慣れ親しんでもらうことを狙いとして授業展開しています。幸い、この授業方法は好評です。 同時に、財務諸表作成の基礎となる簿記システムの初歩を学ぶことにより、会計の内容をより理解しやすくなるように工夫しています。全15回という短期間で会計のすべてを網羅・解説することは難しいですが、この授業では簿記一巡の手続きについて3分の1の時間を割いています。簿記は会計を学ぶ上での基礎知識であり、これを学ぶことにより、少しでも難しいあるいは苦手とされやすい会計に興味を持ち、その重要性が理解されることを目標としています。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	アカウンティング応用					授業形態	講義
授業コード	AC21230003	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	中嶋 隆一						
授業概要	<p>「アカウンティング入門」で学んだ会計の基本知識をもとに、この授業では財務会計と管理会計の応用領域についてエッセンスを学ぶ。前者の分野では、企業の健康状態をチェックするために必要な会計情報は、カルテともいえるべき財務諸表から得られる。そのため、財務諸表の体系および内容をさらに理解し、分析できなければビジネスに役立たない。とりわけ財務3表とも呼ばれる貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の関連性とそれらの計算構造の仕組みを理解していくことが重要となってくる。</p> <p>後者の分野では、企業等の経営管理者が組織運営にあたって不可欠なシステムの構造と機能についてより理解を深め、同時に、管理会計上で直面する課題解決のために、それらの手法を実際に活用できるような知識を習得することが重要である。ここでは、主に利益管理、原価管理、意思決定、および管理会計の新たな展開にかかわるテーマを中心に取り上げ、実際の事例を交えながら学んでいく。</p> <p>どちらの分野も相互関連的であり、また、単なる実践的な会計処理方法を学ぶだけではなく、その理論的根拠や応用事例も同時に理解することで、企業価値を高める創造力をも身につけることを目指している。</p> <p>昨年同様に、実際の企業の決算書（有価証券報告書）を調べ、利用しながら体験的に学んでもらう。</p>						
授業の目的・到達目標	この科目の履修を通じて、会計情報の重要性、実際の財務諸表の読み方、分析ができるようになり、ICTを利用した企業の発展およびグローバル社会への対応が可能となる。同時に、企業の付加価値を高める創造力を養うことが目標である。						
授業計画							
第1回	<p>ガイダンス</p> <p>－企業の変化と会計情報について理解できる－</p> <p>最近のトピック問題について</p>						
第2回	<p>①貸借対照表（資産会計）</p> <p>－資産の区分表示とその内容について理解できる－</p>						
第3回	<p>②貸借対照表（資産会計）</p> <p>－資産の評価基準と流動・固定の分類基準について理解できる－</p>						
第4回	<p>③貸借対照表（負債会計）</p> <p>－負債の分類とその構成内容について理解できる－</p>						
第5回	<p>④貸借対照表（資本会計） 純資産の部について</p> <p>－資本の分類と構成内容について理解できる－</p>						
第6回	<p>①損益計算書（損益会計） 区分表示とその内容</p> <p>－損益項目の分類と構成内容について理解できる－</p>						
第7回	<p>②損益計算書（損益会計）</p> <p>－営業外損益の例：外貨建て取引の検討について理解できる－</p>						
第8回	<p>③損益計算書（損益会計）</p> <p>－収益認識基準について理解できる－（予定）</p>						
第9回	<p>キャッシュ・フロー計算書の作成</p> <p>－直接法と間接法の表示について理解できる－</p>						
第10回	<p>キャッシュ・フローの重要性を知る</p> <p>－キャッシュ・フロー分析の視点について理解できる－</p>						
第11回	<p>連結会計について考える</p> <p>－連結財務諸表の仕組みと作成方法について理解できる－</p>						
第12回	<p>経営分析の基本・・・静態分析と動態分析</p> <p>－収益性・安全性・成長性の分析の基本－</p>						
第13回	<p>財管一致に関する問題（応用）</p> <p>－管理会計の視点から考察する－</p>						
第14回	<p>原価計算の種類と考え方を理解する</p>						
第15回	<p>会計の応用分野について</p> <p>－会計の新たな展開（IFRSと研究開発費、ESG、SDGs、DX化の方向性と組織の問題等）について理解する－</p>						

成績評価の方法	・授業内小テスト・レポート・課題プレゼンテーション等を含む平常点：30％ ・最終試験：70％（授業範囲すべてを含む） ・授業内小テスト・課題等の解説・解答は授業内または授業後グーグルクラスルームへフィードバックする。			
準備学修（予習・復習、課題等）	予習（2時間）：毎回完結型のテーマによる授業のため、関連する事例等をインターネット等で調べておく。 復習（2時間）：授業前に適宜配信するレジュメと講義内容の復習および課題の回答 授業時に適宜課す課題ないしは演習問題については平常点に係るので、提出・解答の準備をしておく。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	すべてオリジナルのレジュメ形式で毎回授業前にグーグルクラスルームから配信する。 参考文献： 桜井久勝（著）『財務会計講義 第23版』中央経済社、2022年 伊藤邦雄（著）『新・現代会計入門 第6版』日本経済新聞社、2024年 岡本清・廣本敏郎・尾畑裕・挽文子（著）『管理会計 第2版』中央経済社、2008年 櫻井通晴（著）『管理会計 第七版』同文館出版、2019年 その他必要に応じ適宜参考文献を紹介する。			
備考	毎回、各所属クラスごとに設定したグーグルクラスルームで、授業に使用するレジュメ・資料等を配信します。授業前に準備しておくこと。 課題についてもすべてグーグルクラスルームで配信します。			
昨年度からの振り返り	会計（アカウンティング）応用の授業は、1年次の会計（アカウンティング）入門を履修済みの学生を履修条件としています。会計の重要性はいうまでもありませんが、苦手としている人が多いのも事実です。いわゆるHOW-TO形式の本で「初心者にもわかる本」を読めば簡単に理解されるものではありません。ビジネス系の他の科目と異なり、この科目を理解するには、まず基礎知識の修得が必要です。それはこの科目のオリジナルな用語法、システム（理論構造）を理解する必要があるからで、本来は簿記システムの総合的理解と地道な努力あってこそ、道が開ける科目です。その上で、この科目の実践的な役立ちが見えてきます。決して派手さはないが、着実に会計思考力を身に付けることで、財務戦略としてのファイナンスとの関連性を理解し、確実にビジネスにとって強力な武器として役立ちます。受講する学生諸君の地道な努力に期待します。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	ファイナンス入門					授業形態	講義
授業コード	FIB1230001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	中嶋 隆一						
授業概要	<p>一般に、企業は資金を調達し、それらを運用して、収益を生むという活動を行う。そのため、ビジネスリーダーは、資金調達活動、投資活動、財務活動を常に考えて行動する必要がある。その際、会計情報を利用してファイナンス（財務：企業財務あるいは経営財務ともいう）を行うことは重要である。</p> <p>最近、ICTを利用したビジネスの現場で、コーポレートガバナンスの強化とともに、このファイナンスの重要性が増している。そこで、この授業では、将来ビジネスリーダーを目指す学生を対象に、経営プロセスにそって、会計の知識をもとにファイナンスの基礎とその考え方を修得してもらう。それにより、経営の効率性や収益性を高め、企業価値の最大化を目指すファイナンス本来の基本的スタンスが理解できるようになる。</p>						
授業の目的・到達目標	ICTを利用してビジネスの世界で活躍する人材の育成をめざし、必要とされるファイナンスの基礎知識を修得することを目的としている。単なる技術的手法を学ぶだけでなく、理論的考察を行うことで、実践力と創造力を養い、会計とともにビジネスの世界で必要なツールとして利用できるようになることが目標である。						
授業計画							
第1回	<p>ファイナンスとは何かを考える。</p> <p>－ファイナンスの意義と必要性について理解できる－</p>						
第2回	<p>投資とは何か、現在と将来の価値を考える。</p> <p>－事業投資への意思決定について理解できる－</p>						
第3回	<p>株式会社とは①</p> <p>－会社の種類について理解できる－</p>						
第4回	<p>株式会社とは②</p> <p>－会社の設立、会社の機関設定について理解できる－</p>						
第5回	<p>会計とファイナンス</p> <p>－営業循環と資金の流れ、会計とファイナンスの役割について理解できる－</p>						
第6回	<p>比例縮尺図を作成する。</p> <p>－財務3表(B/S、P/L、C/F) の関係について理解できる－</p>						
第7回	<p>会社の利益構造を考える。</p> <p>－利益とキャッシュ・フローとの係わりについて理解できる－</p>						
第8回	<p>黒字倒産の事例を考える。</p> <p>－キャッシュ・フロー計算書の枠組みと間接法表示について理解できる－</p>						
第9回	<p>キャッシュ・フローの管理（資金繰り）</p> <p>－キャッシュ・フローを増やすためのポイントについて理解できる－</p>						
第10回	<p>I. 資本コストとは</p> <p>－企業価値向上のために重要であることを理解できる－</p>						
第11回	<p>II. 資本コストとは</p> <p>－有利子負債コストの計算について理解できる－</p>						
第12回	<p>III. 資本コストについて</p> <p>－有利子負債コストの節税効果について理解できる－</p>						
第13回	<p>IV. 資本コストについて</p> <p>株主資本コスト率の計算</p> <p>－CAPM（資本資産評価モデル）について理解できる－</p>						
第14回	<p>V. 資本コストについて</p> <p>会社全体の資本コストを考える。</p> <p>－WACC（加重平均資本コスト率）について理解できる－</p>						

第15回	企業価値について考える（応用）。 ー資本効率と企業価値を高める方法とはー ・ KPIの利用とDCF法等の概要 ・ ROE分析 ・ ROICの定義 等			
成績評価の方法	・ 授業内小テスト・レポート・課題プレゼンテーション等を含む平常点：30％ ・ 最終試験：70％（授業範囲すべてを含む） （授業内小テスト・課題等の解説や解答は授業内またはグーグルクラスルームへフィードバックする。）			
準備学修（予習・復習、課題等）	予習（2時間）：毎回完結型のテーマによる授業のため、関連する事例等をインターネット等で調べておく。 復習（2時間）：授業前にグーグルクラスルームで適宜配信するレジュメと講義内容の復習 授業時に適宜課す課題については平常点に係るので、提出準備をしておく。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	毎回、レジュメ形式で配布した資料により授業を行う。			
	参考文献： 『あわせて学ぶ 会計&ファイナンス入門講座』保田隆明（著）、田中慎一（著）、ダイヤモンド社、2013年 『ビジネスリーダーが学んでいる 会計&ファイナンス』日沖健（著）、中央経済社、2015年 『武器としての会計ファイナンス』矢部謙介（著）、日本実業出版社、2018年 『コーポレートファイナンス入門〈第2版〉』砂川伸幸（著）、日本経済新聞出版社、2017年 『新・企業価値評価』伊藤邦雄（著）、日本経済新聞出版社、2014年 『コーポレート・ファイナンス 第10版 上・下』リチャード・ブリーリー（著）、スチャワート・マイヤーズ（著）、フランクリン・アレソン（著）、藤井真理子（翻訳）、國枝繁樹（翻訳）、日経BP社、2014年			
備考	本科目は、「アカンティング応用」履修者のみを前提として講義する。また、理解度の程度により、講義テーマで取り扱う内容も多少変える予定である。 なお、授業クラスごとに作られたグーグルクラスルームで授業用資料を配信・連絡する。 履修者は最初の授業でお知らせするクラスルームコードから速やかに入室登録し、資料を授業前に用意して授業に臨んでいただきたい。			
昨年度からの振り返り	最初にお話したように、「アカンティング応用」履修者のみを受講対象とした授業でした（今年も同様）。内容はなるべく平易に、会社の起業を起点として、「会計とファイナンス」との関わりから、その後の会社の成長にともなって必要となる資金繰り、利益構造、資本コストと行った項目を順に取り上げ、ファイナンスの必要性・重要性を説明しました。今年も同様の手法で授業を進めていく予定です。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	起業資本政策入門					授業形態	講義
授業コード	FIS1230001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	佐藤 健一						
授業概要	企業経営において「おカネをどう扱うか」は、事業の未来を決める最重要テーマです。本科目では、起業家が自ら意思決定できるようになるための会計・税務・金融の基礎から、資金調達・M&A・IPOといった成長戦略までを体系的・時系列的に学びます。前半では、事業の存在意義の定義、会社設立の実務、税務署への申告実務、人を雇う際の基礎知識など、創業期に欠かせない“守り”のスキルを習得します。後半では、企業価値（バリュエーション）、資金調達、M&A・IPO、事業を継続・発展させるための“攻め”の知識を身につけます。また、本科目の履修を通じて専門家ネットワークの構築の重要性を意識します。将来起業を志す学生だけでなく、企業の財務・経営企画・コンサルティング職を目指す学生にも有益な内容です。						
授業の目的・到達目標	1. 自社の存在意義を明確にし、それを具体的な行動計画に反映した事業計画を策定できる。 2. 会社形態の違いや設立手続き、税務署対応の流れを理解し、起業時の実務を説明できる。 3. 金利、有価証券、企業価値の算定方法といった金融の基本概念を理解し、自社の財務管理及び外部関係者との協議に活用できる。 4. 数ある資金調達方法から資産（アセット）、負債（デット）、資本（エクイティ）の特性を理解し、自社に適した資金調達計画を立案できる。 5. 事業の成長段階に応じて、どの専門家に何を相談すべきか判断し、外部協力者との連携プランを構築できる。						
授業計画							
第1回	起業・理念：わが社の存在意義を定義する。 ドラッカーの「5つの質問」を用いて、事業の根幹となるミッションを言語化する方法を学ぶ。						
第2回	事業計画：目的によって使い分ける4つのパーツ 事業計画を「意義」「ビジネスモデル」「損益シミュレーション」「アクションプラン」に分解し、目的に応じて使い分けるスキルを習得する。						
第3回	税務：起業時の法定届出と申告義務・納税義務の基礎知識 青色申告承認申請書等の届出実務に加え、申告義務や納税義務の基本的な仕組みを学ぶ。						
第4回	会計：起業前に知っておきたい利益と資金の関係 貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の相互関係、管理会計と税務会計の目的の違いを学ぶ。						
第5回	個人事業か法人か：起業スタイルの選択 所得税と法人税の相違点から起業時の形態や、法人化するタイミングを検討する。						
第6回	会社設立の登記実務とインフラ整備：株式会社の設立までの流れ 法人の種類及び選択から設立のための定款作成、登記申請に至る手続きを学ぶ。						
第7回	株式：会社の持ち分と意思決定のルール 株式発行の基本から株式の活用、持株比率、資本政策などの基礎知識を学ぶ。						
第8回	雇用：初めての採用と労働条件の決め方 従業員の採用、雇用契約書の作成、社会保険への加入義務等人を雇うリスクと責任を学ぶ。						
第9回	金融の基本：おカネの「今」と「未来」の価値と投資家の視点 「今ある100万円」と「1年後の100万円」から時間価値、投資家が期待するものを学ぶ。						
第10回	資金調達計画：おカネを集める手段と優先順位 「利益」を第一の源泉とし、資産（アセット）、借入（デット）、出資（エクイティ）の順で検討する調達戦略を学ぶ。						
第11回	借入と補助金：金融機関の融資と公的支援の活用 政府系融資制度、信用保証協会の役割、および創業補助金の各種資金調達方法を学ぶ。						
第12回	外部からの出資の仕組み及び制度：投資家からおカネを募る仕組み 新株発行や第三者割当増資による資金調達の仕組み、協力者への報酬設計を学ぶ。						
第13回	外部からの出資者との関係構築：応援してくれる個人投資家との付き合い方 エンジェル投資家、ベンチャーキャピタルなど立ち位置を理解し、付き合い方を学ぶ。						
第14回	出口戦略：合併・買収（M&A）と新規公開株式（IPO） 事業継続の選択肢としてのM&AとIPOの概要を学習する。						
第15回	ネットワークの構築：専門家（士業）連携と経営者仲間の形成 弁護士、税理士等の役割を整理し、外部と連携する項目やタイミングを学ぶ。また、経営者同士の交流の重要性を学ぶ。						

成績評価の方法	講義内課題（ワークシートの提出）：20％ 最終レポート（事業計画書＋外部専門家・金融機関との連携プラン）：80％			
準備学修（予習・復習、課題等）	【予習（90分）】 次回扱うテーマに関し、自身の事業アイデアにおいて解決すべき課題や法的・財務的な懸念点を整理します。特に、税理士、司法書士等の専門家や、銀行などの金融機関に対して「具体的に何を相談すべきか」の質問リスト（ワークシート）を事前に作成して授業に臨んでください。 【復習（90分）】 最終レポートである「事業計画書」の質を高めるため、講義での学びを反映した「土業等専門家および金融機関等の外部協力者との具体的な連携プラン」を順次策定・更新してください。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	「スタートアップファイナンス」加藤洋著、秀和システム 「起業をするならこの1冊」馬渡晃・吉田杉明共著、自由国民社 「ドラッガー5つの質問」山下淳一郎著、あさ出版			
備考	一部オンライン講義又は外部講師による講義となる場合があります。			
昨年度からの振り返り	昨年度は未開講のため該当なし。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	[旧]法務リテラシーⅠ／[新]企業法務基礎					授業形態	講義
授業コード	LL11230001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	堀野 裕子						
授業概要	<p>「株式投資に興味があるけど、仕組みがよくわからないんです。」この科目では、その「仕組み」の正体を明らかにします。企業は営利活動を目的として存在しています。</p> <p>会社法は、会社の設立や運営に関するルールを定めています。事業活動を継続して営んでいくためには、顧客・取引先・従業員など事業活動に関わる人々との良好な関係や環境への配慮も求められます。</p> <p>企業活動をする会社に着目し、その法的性質への理解を深めましょう。学修の過程で、併せて企業は誰のもののかについて考え、我が国における、会社に関する法制度を学びます。</p> <p>会社法を理解するために必要な民法の知識、登記関係の知識を初めとしたビジネスに係る法律等にも随時触れます。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>企業法務に関して理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法とは何かについて考える。 ・取引に関する民法の基礎知識を学修する。 ・ビジネスに係る法律について学修する（商法・会社法等）。 						
授業計画							
第1回	<p>ガイダンス～授業の進め方、予習復習について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法とは何か。 ・会社の意義と会社法の目的について学修する。 ・企業の倫理と社会的責任～コンプライアンス 						
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・会社の種類について学修する。 ・株式会社と持分会社の比較をする。 						
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・株主と株式 その1 						
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・株主と株式 その2 						
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・民法の考え方 ・契約を締結するための能力 ・物権と債権 その1 						
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・物権と債権 その2 						
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・資金調達について ・会社の設立と解散 ・登記について その1 						
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・登記について その2 ・株式会社の機関について その1 						
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社の機関について その2 						
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社の機関について その3 						
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・機関設計の種類 						
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・企業再編 						
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・商法総則・商行為 その1 						
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ・商法総則・商行為 その2 						
第15回	総まとめ						
成績評価の方法	<p>授業参画度：50％</p> <p>期末筆記試験：50％</p>						
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>主に復習を中心として授業内容を身に付ける。具体的には、授業時にその日の重要事項を明示する。各自、重要事項について授業内容・教科書・六法等を通じて理解を深める。</p> <p>毎回、前回の授業の復習を行ってから新しいテーマに入る。</p> <p>課題に関しては、必ず準備をすること。</p> <p>授業外学修（予習・復習）として180分が必要とされる。予習・復習に関するポイントは授業内で触れる。</p>						

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
商事法講義1	松嶋隆弘・大久保拓也	中央経済社	978-4-502-45691-6	
参考書	『株式会社法読本』 秋坂朝則、中央経済社 『アプローチ商法』 根田正樹、弘文堂			
備考	<p>・講義室には、脱帽して、スマートフォン等の電源を切って入室してください。</p> <p>・筆記用具（鉛筆またはシャープペンシル、消しゴム、黒のボールペン等）を必ず持参してください。</p> <p>※黒のボールペンは、消せないタイプのボールペンをご持参ください。</p> <p>*本科目は、税理士としての実務経験のある教員による授業科目です。</p>			
昨年度からの振り返り	<p>昨年度、授業内で行った授業内容に関する復習課題が好評であったため、今年も実施します。</p> <p>各自、筆記用具を必ずご持参ください。</p>			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	[旧]法務リテラシーⅡ／[新]企業法務応用					授業形態	講義
授業コード	LL21230001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	堀野 裕子						
授業概要	「株式投資に興味があるけど、仕組みがよくわからないんです。」この講義では、その「仕組み」の正体を明らかにします。企業は営利活動を目的として存在しています。会社法は、会社の設立や運営に関するルールを定めています。事業活動を継続して営んでいくためには、顧客・取引先・従業員など事業活動に関わる人々との良好な関係や環境への配慮が求められます。企業活動をする会社に着目し、その法的性質への理解を深めましょう。学修の過程で、併せて企業は誰のものかについて考え、我が国における、会社に関する法制度を学びます。会社法を理解するために必要な民法の知識、登記関係の知識を初めとしたビジネスに係る応用的な知識にも随時触れます。						
授業の目的・到達目標	企業法務に関して理解を深める。 ・法とは何かについて考える。 ・民法の基礎・応用知識を学修する。 ・知的財産権について知識を深める。 ・ビジネスに係る法律について学修する（商法・会社法等）。						
授業計画							
第1回	ガイダンス～講義の進め方、予習復習について ・法とは何かについて考える。 ・会社の意義と会社法の目的について学修する。 ・企業の倫理と社会的責任～コンプライアンス						
第2回	・会社法基礎 その1 会社の種類						
第3回	・会社法基礎 その2 株式と株主						
第4回	・会社法基礎 その3 機関設計について						
第5回	・民法 その1 民法総則						
第6回	・民法 その2 物権法						
第7回	・民法 その3 債権法 親族相続法						
第8回	・資金調達について ・会社の設立と解散 ・登記について その1						
第9回	・登記について その2						
第10回	・商法総則、商行為						
第11回	・知的財産権について						
第12回	・企業再編						
第13回	・金融商品取引法について						
第14回	総まとめ その1						
第15回	総まとめ その2						
成績評価の方法	・授業参画度：50％ ・期末筆記試験：50％						
準備学修（予習・復習、課題等）	主に復習を中心として講義内容を身に付ける。具体的には、講義時にその日の重要事項を明示する。各自、重要事項について講義内容・教科書・六法等を通じて理解を深める。 毎回、前回の講義の復習を行ってから新しいテーマに入る。						

		課題に関しては、必ず準備をすること。 授業外学修（予習・復習等）として180分が必要とされる。予習・復習に関するポイントは講義内で触れる。			
教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
商事法講義1		松嶋隆弘・大久保拓也	中央経済社	978-4-502-45691-6	
参考書	『株式会社法読本』秋坂朝則、中央経済社 『アプローチ商法』根田正樹、弘文堂				
備考	・講義室には、脱帽して、スマートフォン等の電源を切って入室してください。 ・筆記用具（鉛筆またはシャープペンシル、消しゴム、黒のボールペン等）を必ず持参してください。 ※黒のボールペンは、消せないタイプのボールペンを持参してください。 *本科目は、税理士としての実務経験のある教員による授業科目です。				
昨年度からの振り返り	昨年、授業内で行った課題が好評であったため、今年も行います。筆記用具を必ずご持参ください。				

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	[旧]コンピュータとソフトウェア基礎／[新]ICT入門					授業形態	講義
授業コード	CSW1310001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	山内 正人、Kim Jieun、中田 豊久、Kamya Yekeh Yazdandoost、櫛田 尚亨、韓 旭、片桐 雅二						
授業概要	<p>本授業ではICTに関わる様々な分野について幅広く知ること、自身の興味分野の開発や各分野が社会にどのように繋がっているかについて理解を深める。</p> <p>またICTについて学ぶ上で最低限必要となる基礎知識や基礎スキルを習得することで、この後の本学での学びの素地とする。本科目はオムニバス形式で実施し、8回まではクラスごとに順不同の集中講義、それ以降は授業計画の順番で実施する。開講日などが変則的になるためよく確認すること。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>本授業はICTについて学ぶ意義を理解し、自身の興味やキャリアに合わせたICT分野を学べるようになることを目的とする。ICTに関わる各分野が、どのような内容を扱い何を学ぶ学問なのか説明できる。</p> <p>ICTに関わる各分野が、社会とどのように繋がっているか説明できる。</p> <p>ICTに関わる自身の興味分野や足りていない知識、スキルなどを理解し、ICT科目について自身に合わせた履修設計ができる。</p> <p>ICTについて学ぶ上で最低限必要となる基礎知識や基礎スキルを習得する。</p>						
授業計画							
第1回	オリエンテーション&ネットワーク (本授業の目標など&ネットワークとは? : 山内)						
第2回	コンピュータアーキテクチャ (コンピュータアーキテクチャとは? : 韓)						
第3回	オペレーティングシステム (OSとは? : 韓)						
第4回	データ構造と処理法 (アルゴリズムとは? : 片桐)						
第5回	情報数学① (N進数、ブール代数、補数 : 櫛田)						
第6回	情報数学②&データサイエンス、AI (データサイエンスやAIとは? : 櫛田)						
第7回	Introduction to Design (What is Design? : Kim)						
第8回	クラウド (クラウドを見てみよう : 山内)						
第9回	電子回路 (電子回路とは? : Yazdandoost)						
第10回	IoT (IoTとは? : Yazdandoost)						
第11回	データベース (データベースとは? : 片桐)						
第12回	プログラミング① (Webプログラミング : 中田)						
第13回	プログラミング② (プログラミングと設計 : 中田)						
第14回	セキュリティ (セキュリティとは? : 山内)						
第15回	まとめ (まとめと履修設計 : 山内)						
成績評価の方法	<p>各回ごとのフィードバックレポート・課題 (70%)</p> <p>グループワークでの積極的な活動、積極的な質問や発言など授業への取り組む態度 (30%)</p>						

準備学修（予習・復習、課題等）	予習（標準学習時間：2時間） ・参考文献やWebサイト等を閲覧し、各回に関係する基本的な用語・概念について理解をしたうえで授業に臨むこと。 復習（標準学習時間：2時間） ・各テーマごとに設定される課題に取り組む。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	適宜資料などを配布する。 参考文献： 各ICT科目のシラバスを参照			
備考				
昨年度からの振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	[旧]プログラミングⅠ／[新]プログラミング基礎実習					授業形態	実習
授業コード	PG11310005	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Kamya Yekeh Yazdandoost、中田 豊久						
授業概要	本科目は、プログラミング経験がほとんどないかまったくなく、Pythonを使用してソフトウェア開発の道を歩み始めたい学生を対象としています。このコースの目的は、問題解決において計算が果たす役割を学生に理解させ、専攻に関係なく、学生が有用な目標を達成できる小さなプログラムを作成するための基本的なスキルを身につけ、自分の能力に十分な自信を持てるようにすることです。このクラスでは、Pythonプログラミング言語を使用します。また本科目は、クラスによって内容が変わることがあります。この科目にはサポートと標準の2つのレベルがあり、学生はレベルに応じて2つの異なるクラスに分けられます。						
授業の目的・到達目標	フローチャート、アルゴリズム、プログラミングロジックを使用して、問題解決へのステップバイステップのアプローチを説明できる。 Visual Studio CodeやGoogle Colaboratoryなどのプログラミング環境を使ってコーディングができる。 一般的な関数、条件文、ループを使用して、Pythonスクリプトでプログラムを作成できる。 テストとデバッグの手法を使用して、コード"の信頼性を確保できる。 データセットに論理演算と数学演算を適用できる。						
授業計画							
第1回	コンピュータプログラミングとは何か？ コンピュータサイエンスとは何か？ フローチャートと疑似コード、Python入門（1）						
第2回	コンピュータプログラミングとは何か？ コンピュータサイエンスとは何か？ フローチャートと疑似コード、Python入門（2）						
第3回	Pythonの基礎、変数、ステートメントおよび式（1）						
第4回	Pythonの基礎、変数、ステートメントおよび式（2）						
第5回	条件ステートメント：if、elif、else（1）						
第6回	条件ステートメント：if、elif、else（2）						
第7回	関数：組み込みおよびユーザー定義（1）						
第8回	関数：組み込みおよびユーザー定義（2）						
第9回	ループ：for、while（1）						
第10回	ループ：for、while（2）						
第11回	文字列操作（1）						
第12回	文字列操作（2）						
第13回	中間試験（1）						
第14回	中間試験（2）						
第15回	ファイル：開く、読む、検索する（1）						
第16回	ファイル：開く、読む、検索する（2）						
第17回	リスト：リストの使用、リスト内の確認、リストとループ（1）						
第18回	リスト：リストの使用、リスト内の確認、リストとループ（2）						
第19回	辞書、コレクション（1）						
第20回	辞書、コレクション（2）						
第21回	タプルとリスト（1）						
第22回	タプルとリスト（2）						

第23回	Pythonオブジェクト（オブジェクト指向プログラミング）（1）			
第24回	Pythonオブジェクト（オブジェクト指向プログラミング）（2）			
第25回	データベースの概要（1）			
第26回	データベースの概要（2）			
第27回	データベースの詳細（1）			
第28回	データベースの詳細（2）			
第29回	期末試験前のまとめと復習（1）			
第30回	期末試験前のまとめと復習（2）			
成績評価の方法	・課題と毎週のテスト：15% ・中間試験：35% ・期末試験：50%			
準備学修（予習・復習、課題等）	以前の講義はそれぞれ次の講義と関連しているため、学生は次の講義をよりよく理解するために講義と課題を復習することが期待されます。（各回45分）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書				
備考	サンプルプログラムが提供されます。ただし、毎回の授業で自身でプログラムを作成していきます。			
昨年度からの振り返り				

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	プロトタイピング実習					授業形態	実習
授業コード	PRT1310001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	韓 旭、須田 拓也						
授業概要	本科目では、クリエイティブなプログラミング環境である「Processing」を用い、プログラミングの基本構造からインタラクション表現、アニメーション、サウンドなど、メディアアート制作・プロトタイピングに必要な技術を幅広く学びます。講義と実習を組み合わせながら、個々のテーマ（変数・配列、条件分岐と繰り返し、図形描画、色表現、アニメーション、サウンドなど）を段階的に習得し、最終的には自ら発想したアイデアをかたちにするための作品制作を行います。授業を通して、プログラミングの基礎力だけでなく、プロトタイピング、インタラクションデザインなどの視点から「表現」と「技術」をバランス良く身に付けることを目指します。						
授業の目的・到達目標	本科目は、Processingの基本文法や構文の学習に留まらず、「動くもの」「インタラクティブなもの」を作りながらプログラムによる表現の魅力を体感することを重視します。視覚効果、動き、音などのメディア要素を総合的に扱い、プロトタイピングデザインやメディアアートとしての表現手法を学びます。最終課題では、受講者それぞれのアイデアを活かし、高齢者のQOL向上を目的としたプロトタイプの制作に取り組みます。制作と実践を通して作品をブラッシュアップし、創造性豊かな作品を発表することで、実践力を身に付けることを目指します。						
授業計画							
第1回	第1週： ・オリエンテーションと導入 ・Processingの準備 1. インストールとプログラムの作成手順 2. Processing関連のファイルの管理 3. AIを利用したプログラミング方法の紹介						
第2回	第1週： ・オリエンテーションと導入 ・Processingの準備 1. インストールとプログラムの作成手順 2. Processing関連のファイルの管理 3. AIを利用したプログラミング方法の紹介						
第3回	第2週： ・処理の流れと関数 1. プログラミン作業の手順 2. Procssingスケッチ内部での基本的な実行順序 ・図形描画 1. 2次元座標系 2. 点 3. 線 4. プリミティブ図形による画						
第4回	第2週： ・処理の流れと関数 1. プログラミン作業の手順 2. Procssingスケッチ内部での基本的な実行順序 ・図形描画 1. 2次元座標系 2. 点 3. 線 4. プリミティブ図形による画						
第5回	第3週 ・変数と条件分岐 1. 変数の宣言・初期化・代入 2. グローバル変数とローカル変数 3. 基本データ型 4. 条件分岐 5. 複数の条件分岐の組合せ 6. 複数の条件判定式の組合せ						
第6回	第3週 ・変数と条件分岐 1. 変数の宣言・初期化・代入 2. グローバル変数とローカル変数 3. 基本データ型 4. 条件分岐 5. 複数の条件分岐の組合せ 6. 複数の条件判定式の組合せ						

第7回	第4週 <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しと配列 <ol style="list-style-type: none"> 1. 繰り返し 2. 繰り返しの途中終了 3. 二重ループ 4. 配列の宣言 5. データ格納方法
第8回	第4週 <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しと配列 <ol style="list-style-type: none"> 1. 繰り返し 2. 繰り返しの途中終了 3. 二重ループ 4. 配列の宣言 5. データ格納方法
第9回	第5週 <ul style="list-style-type: none"> ・図形描画 <ol style="list-style-type: none"> 1. 自由曲線による図形 2. 画像による表現 3. 手続き型造形による図形 4. 幾何学的変換
第10回	第5週 <ul style="list-style-type: none"> ・図形描画 <ol style="list-style-type: none"> 1. 自由曲線による図形 2. 画像による表現 3. 手続き型造形による図形 4. 幾何学的変換
第11回	第6週 <ul style="list-style-type: none"> ・色 <ol style="list-style-type: none"> 1. 加法混色と減法混色 2. RGBとHSB 3. 図形の塗りと線 4. グラデーションを描く 5. 透明度を持つ重ね塗りの表現 6. 配色
第12回	第6週 <ul style="list-style-type: none"> ・色 <ol style="list-style-type: none"> 1. 加法混色と減法混色 2. RGBとHSB 3. 図形の塗りと線 4. グラデーションを描く 5. 透明度を持つ重ね塗りの表現 6. 配色
第13回	第7週 <ul style="list-style-type: none"> ・アニメーション <ol style="list-style-type: none"> 1. 動画とfps 2. 関数こうぞによる画面の描画 3. 円を動かす
第14回	第7週 <ul style="list-style-type: none"> ・アニメーション <ol style="list-style-type: none"> 1. 動画とfps 2. 関数こうぞによる画面の描画 3. 円を動かす
第15回	第8週 <ul style="list-style-type: none"> ・アニメーション <ol style="list-style-type: none"> 1. 水滴の表現 2. 数式を用いたアニメーション 3. 物理法則と入力に応じたインタラクティブアニメーション

第16回	第8週 <ul style="list-style-type: none"> ・アニメーション <ol style="list-style-type: none"> 1. 水滴の表現 2. 数式を用いたアニメーション 3. 物理法則と入力に応じたインタラクティブアニメーション
第17回	第9週 <ul style="list-style-type: none"> ・サウンド <ol style="list-style-type: none"> 1. サウンドファイルの追加とライブラリの準備 2. サウンドファイルの再生 3. 再生スピードの操作 4. 音量を視覚化
第18回	第9週 <ul style="list-style-type: none"> ・サウンド <ol style="list-style-type: none"> 1. サウンドファイルの追加とライブラリの準備 2. サウンドファイルの再生 3. 再生スピードの操作 4. 音量を視覚化
第19回	第10週 <ul style="list-style-type: none"> ・インタラクション1（マウスとキーボード） <ol style="list-style-type: none"> 1. 関数定義方法の詳細 2. 組み込み関数とプログラマ定義関数 3. 関数のパラメータ 4. Processingで使用可能なインタラクション 5. システム変数によるインタラクション 6. イベントによるインタラクション 7. マウスを追いかける物体 8. 生成的なドローイング
第20回	第10週 <ul style="list-style-type: none"> ・インタラクション1（マウスとキーボード） <ol style="list-style-type: none"> 1. 関数定義方法の詳細 2. 組み込み関数とプログラマ定義関数 3. 関数のパラメータ 4. Processingで使用可能なインタラクション 5. システム変数によるインタラクション 6. イベントによるインタラクション 7. マウスを追いかける物体 8. 生成的なドローイング
第21回	第11週 <ul style="list-style-type: none"> ・インタラクション2の紹介（ボタン、センサなど） <ol style="list-style-type: none"> 1. ボタン、センサ値の取得 2. 閾値の設定 3. Processingとの連携 ・iCoRP（長寿科学財団プロジェクト）の紹介 ・最終課題の設定
第22回	第11週 <ul style="list-style-type: none"> ・インタラクション2の紹介（ボタン、センサなど） <ol style="list-style-type: none"> 1. ボタン、センサ値の取得 2. 閾値の設定 3. Processingとの連携 ・iCoRP（長寿科学財団プロジェクト）の紹介 ・最終課題の設定
第23回	第12週 <ul style="list-style-type: none"> ・3Dプリンタを用いたプロトタイピング ※ 外部講師による講義となる可能性があります。
第24回	第12週 <ul style="list-style-type: none"> ・3Dプリンタを用いたプロトタイピング ※ 外部講師による講義となる可能性があります。
第25回	第13週 <ul style="list-style-type: none"> ・p5.jsの紹介と体験

第26回	第13週 ・ p5.jsの紹介と体験			
第27回	第14週 ・ 実習と質問対応			
第28回	第14週 ・ 実習と質問対応			
第29回	第15週 ・ 発表会			
第30回	第15週 ・ 発表会			
成績評価の方法	小課題（第2週～第11週）：70％ …各小課題ごとに、提出点（1点）、評価点（0、1、2）がつけられます。評価点は通常の出来であれば0、良くできていれば1、極めて素晴らしい場合に2となります。つまり各小課題を提出することで1-3点の得点となります。 最終課題：30％ ただし、最終課題未提出の場合は、不合格となるので十分注意すること。最終課題の得点は5段階評価（1-5）となります。			
準備学修（予習・復習、課題等）	予習（標準学習時間：45分） ・ 教科書、Webサイト等を閲覧し、基本的な用語・概念について理解をしたうえで授業に臨むこと ・ 事前準備（授業用ソフトウェアのインストール） 復習（標準学習時間：45分） ・ 毎週の授業の課題制作を復習とみなす			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ProcessingによるCGとメディアアート	近藤 邦雄・田所 淳（編）	講談社	978-4065129746	
参考書	適宜参考となるWebサイト等を共有します。			
備考				
昨年度からの振り返り				

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	コンピュータアーキテクチャ					授業形態	講義
授業コード	CAT1310001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	韓 旭						
授業概要	本授業では、コンピュータが内部でどのように動作しているのかを体系的に学ぶ。 データのデジタル表現から始まり、演算回路（ALU）やレジスタ、主記憶装置、命令の仕組み、アドレッシング方式、パイプライン処理、記憶階層（キャッシュ・仮想記憶）、入出力制御、例外処理までを扱う。						
授業の目的・到達目標	コンピュータがどのように機能しているのか、各機能の動作原理について理解する。 ・コンピュータがデータをどのように表現・計算しているかを説明できる。 ・命令がどのように実行されるか、その流れを理解できる。 ・メモリやキャッシュ、仮想記憶などの役割を理解できる。 ・並列処理やパイプラインの基本原理を説明できる。 ・コンピュータ全体の構造を体系的に把握できる。						
授業計画							
第1回	デジタル表現と計算回路						
第2回	ALUとレジスタ						
第3回	主記憶装置						
第4回	コンピュータ命令の動作						
第5回	命令の表現形式と命令セット						
第6回	アドレッシング、サブルーチンの実現						
第7回	命令パイプライン（1）						
第8回	命令パイプライン（2）						
第9回	命令パイプライン（3）						
第10回	記憶階層（1）：主記憶装置とキャッシュ						
第11回	記憶階層（2）：仮想記憶						
第12回	命令レベル並列処理（1）						
第13回	命令レベル並列処理（2）						
第14回	入出力と周辺装置						
第15回	・例外処理 ・授業内テスト（最終試験）						
成績評価の方法	・授業内での発言・発表：20％ ・課題の提出状況と、その内容を評価する：40％ ・授業内テスト（最終試験、15回目）：40％						
準備学修（予習・復習、課題等）	予習（標準学習時間：90分） ・教科書、Webサイト等を閲覧し、基本的な用語・概念について理解をしたうえで授業に臨むこと。 復習（標準学習時間：90分） ・各授業で示したWebサイト、演習課題等について振り返り、着実に理解した上で次回の授業につなげる。						
教科書							
書名	著者		出版社		ISBN		備考
コンピュータアーキテクチャ（電子情報通信レクチャーシリーズ）	坂井修一		コロナ社		978-4339018431		
参考書	参考書： 1. 『コンピュータの構成と設計 第5版』 ジョン・L. ヘネシー（著）、デイビッド・A. パターソン（著）、成田光彰（翻訳）、日経BP社、2014年						

	2. 『コンピュータアーキテクチャ技術入門 高速化の追求×消費電力の壁』 Hisa Ando（著）、技術評論社、2014年 その他： 必要な資料を適宜配布する。
備考	教科書に挙げた 『コンピュータアーキテクチャ（電子情報通信レクチャーシリーズ）』坂井修一（著）、電子情報通信学会（編集）、コロナ社、2004年 に沿って講義を進める。
昨年度からの 振り返り	

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	オペレーティングシステム入門					授業形態	演習
授業コード	OPS1320001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	韓 旭						
授業概要	情報システムの形成に必要なオペレーティングシステムの役割、基本的概念および実現方式を理解する。 実際にPC、Linuxを利用し、CUIでの操作を修得する。基本的な概念を説明した後、実機演習を通じて操作を学ぶ。具体的にはコマンドを用いた操作、OS操作や管理、簡単なプログラムを用いたプロセスの自動化などを演習形式で行う。オペレーティングシステムの技術や知識の習得を通じて、コンピュータシステムの動作原理に対する理解を深める。						
授業の目的・到達目標	OSの構成要素とそれぞれの役割について説明できるようになる。 テキストエディタによるテキスト編集、コマンドラインによるOS操作、スクリプトによるプロセスの自動化を行えるようになる。 リモートサーバ上で簡単なWebページやWebアプリを作成できるようになる。 仮想環境（コンテナ型）を用いて、簡単なサーバの構築やIoTデバイスの作成ができるようになる。						
授業計画							
第1回	・オリエンテーション ・ソフトウェアの概要と種類 オペレーティングシステムの役割、構成、基本機能						
第2回	・OSのインタフェース ・PCの準備と基本操作 WindowsあるいはmacOSでコマンドラインインタフェースに触れる。						
第3回	・ファイルシステム 目的、種類と名前、構造と型、制御ブロック、ディレクトリ						
第4回	・コマンドによるファイル、ディレクトリの操作（1） ディレクトリ、ファイルの作成 Windows、あるいはmacOSでのファイル操作を理解する。						
第5回	・SSH（Secure Shell） SSH接続、秘密鍵の生成、演習用Linuxをリモートからログイン ・Linuxの紹介						
第6回	・コマンドによるファイル、ディレクトリの操作（2） ディレクトリ、ファイルの操作 1. Linuxのコマンドラインでのファイル操作を理解する。 2. パーミッションの概念を理解し、実際にファイル、ディレクトリを操作する。						
第7回	・テキストエディタの基礎：nano, viテキストエディタ						
第8回	・シェルとシェルスクリプト						
第9回	・テキストエディタ（2） 条件分岐、繰り返し、関数						
第10回	・ファイル管理用アプリの作成 ・プロセス管理とスケジューリング ・プロセスの確認、一時停止、再開、終了						
第11回	・演習用LinuxでWebページを作成する 1. SCPを用いたファイルのアップロードとダウンロード 2. 自己紹介用ページを作成する						
第12回	・CGI（Common Gateway Interface）とは ・Bash CGI 1. 動作確認 2. 簡単なCGIアプリを作成する 3. ログ管理およびソフトウェアのログの参照方法						
第13回	・Ruby CGI 1. 動作確認 2. 簡単なCGIアプリを作成する						
第14回	・仮想環境の構成 ・SSHサーバを立てる						

第15回	・ 組み込み機器用ソフトウェアとIoT			
成績評価の方法	・ 授業内演習（Linux）の各回テーマの完成状況：30％ ・ 課題の提出状況と、その内容の評価：70％			
準備学修（予習・復習、課題等）	予習（標準学習時間：90分） ・ Webサイト等を閲覧し、基本的な用語・概念について理解をしたうえで授業に臨むこと 復習（標準学習時間：90分） ・ 各授業で示したWebサイト、演習課題等について振り返り、着実に理解した上で次回の授業につなげる			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	参考文献： 『IT Text オペレーティングシステム 改訂2版』野口健一郎、オーム社、2018/01/24 『オペレーティングシステムの仕組み』河野健二（著）、朝倉書店、2019/12/25 『組込みエンジニアの教科書』渡辺登（著）、牧野進二（著）、C&R研究所、2020/2/25 『IoTの基本・仕組み・重要事項が全部わかる教科書』八子知礼（著）、杉山恒司（著）、竹之下航洋（著）、松浦真弓（著）、土本寛子（著）、SBクリエイティブ、2017/10/19			
備考	この講義ではOSとしてLinuxを例に、使い方を中心に学びます。 まずは知るところ、経験するところから始めましょう！			
昨年度からの振り返り				

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	データ構造と処理法					授業形態	演習
授業コード	ADS1340001	単位数	2単位	必修・選択の別	2025年度以降 入学者：選択 2024年度以前 入学者：必修	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	片桐 雅二						
授業概要	<p>プログラミング的思考力の向上を目的として、コンピュータ・プログラム（ソフトウェア）を作成する上で基本となるデータ構造と基本的なアルゴリズム（処理法／処理手順）について学習する。内容を解説するとともに、学修する項目毎に課題を設定し、演習形式で各自が取り組む。選択するデータ構造と処理手順によって、同じ結果を得るための手間の量（所要時間等）が異なったり、処理対象のデータ量が増えた場合に必要な手間の量（所要時間等）の増え方が異なったりすることになるが、そのメカニズムについて考えることで、プログラミング的思考力を養成する。</p> <p>はじめに、文字列照合アルゴリズムおよび整列アルゴリズムを具体例として取り上げ、同一のタスクであってもアルゴリズムによって性能等に違いが生じる事を確認し、アルゴリズムの重要性を学ぶ。その後、基本的なデータ構造（キュー、スタック、木構造など）およびその操作方法（挿入、削除など）について説明し、その特性を実習により確認する。さらにはネットワーク制御など実際の課題でも用いられる最短経路問題および最小全域木問題をとり上げ、それらに対するアルゴリズムについて学ぶ。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>基本的なデータ構造に対して、その基礎的な操作方法（挿入、削除、探索、整列など）とともにその特性を理解し、説明できるようになる。所望の課題に応じた適切なデータ構造および処理方法を検討する際に、必要に応じて自らより深く調べる手がかりとして、得た知識を課題解決に活用できるようになる。</p> <p>より一般的な課題（タスク）に取り組む手順を考える際にも、学んだ考え方を応用できるようになる。</p>						
授業計画							
第1回	アルゴリズムとは コース概要、授業の進め方、イントロダクション						
第2回	文字列照合アルゴリズム（１） 文字列の走査とは、素朴な方法、KMP法						
第3回	文字列照合アルゴリズム（２） BM法、演習（文字列照合アルゴリズムの手法による性能差を考え、理解を深めるとともに応用する力を身につける）						
第4回	整列アルゴリズム（１） 整列問題（ソート）とは、バブルソート、選択ソート、挿入ソート						
第5回	整列アルゴリズム（２） クイックソート、マージソート、基数ソート						
第6回	整列アルゴリズム（３） 整列アルゴリズムに関する演習を行い理解を深めるとともに応用する力を身につける						
第7回	基本データ構造とその操作（１） データ構造の重要性、配列、線形リスト、ハッシュテーブル、キュー、スタック						
第8回	基本データ構造とその操作（２） 二分探索木、平衡木、ヒープ、素集合データ構造						
第9回	基本データ構造とその操作（３） 演習を行い基本データ構造に関する理解を深めるとともに応用する力を身につける						
第10回	最短経路アルゴリズム（１） 最短経路問題とは、グラフ構造とその表現方法、ダイクストラ法						
第11回	最短経路アルゴリズム（２） ベルマン－フォード法						
第12回	最短経路アルゴリズム（３） 演習を行い最短経路アルゴリズムに関する理解を深めるとともに応用する力を身につける						
第13回	最小全域木アルゴリズム（１） 最小全域木問題とは、最良優先探索法、クラスカル法						
第14回	最小全域木アルゴリズム（２） プリム法、最小全域木アルゴリズムの応用事例						
第15回	最小全域木アルゴリズム（３） 演習を行い最小全域木アルゴリズムに関する理解を深めるとともに応用する力を身につける						

成績評価の方法	単元ごとの課題レポートの内容（15% × 5単元 = 75%）、定期試験の結果（15%）、受講態度等（10%）により評価する。			
準備学修（予習・復習、課題等）	授業範囲について教科書および講義前日より閲覧可能となる授業資料（PDFファイル）により（必要に応じて参考書等も活用して）、予習することが望ましい（60分／回） 復習によって自分なりに頭を整理して理解を深め内容を消化することが特に大切なので、授業資料に加えて教科書を活用すること（60-90分／回） 単元ごとにレポート課題を設定する（90-120分×5回）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
アルゴリズムとデータ構造	藤田 聡	数理工学社	978-4-901683-99-9	グラフィック情報工学ライブラリ ※ 電子書籍可
参考書	「図解でかんたんアルゴリズム 情報処理のかなめとなる考え方が手に取るようにわかる!」, 杉浦著, サイエンス・アイ新書, SBクリエイティブ, 2012			
備考	* 本科目は、ICT関連の研究職としての実務経験のある教員による授業科目です。			
昨年度からの振り返り	昨年度からの改善点：授業内においてはできるだけ対話的な進行を行い、説明内容／方法／レベル等を適応的に調整することで、履修者のエンゲージメントがさらに高まるように工夫する。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	カリキュラムにより異なります。		学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	情報系数学応用A						授業形態	講義
授業コード	MIA1320001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング		実施しない
担当教員	梶田 尚亨							
授業概要	工学分野等の技術分野のみならず、マーケティング、ビジネス、経営等における現実世界の課題は、数式により定義でき、これを数値解法を用いて解くことができるものが多く存在する。本科目では、情報通信技術科目を学んでゆく上で必要な基礎的な知識であるとともに、ビジネスの意思決定や業務効率等における課題を大幅に解消し、事業成果の最大化に貢献するデータ活用技術である数理最適化を学習する。具体的には数理最適化の基礎知識である「微分」「積分」「ベクトル」「行列」を学んだ上、「最適化法」の基礎を習得することを目的とする。それぞれの単元の授業では、理解をより深められるように数式の説明だけでなく、応用例等を講義する。特に最適化法は、製品設計、流通計画から高度な画像・音声認識処理に至るまで多くの分野で活用されることから、より具体的なビジネス上の課題を解決できることを講義する。本科目を通じ、これらの手法の原理や特徴を理解すると共に、現実世界の課題を解く力を養う。							
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・数理最適化の基礎知識を習得し、説明できる。 ・数理最適化の基礎となる「微分」「積分」「ベクトル」「行列」「最適化法」に出てくる数式をはじめとする知識を習得し、その意味や考え方を説明できる。 ・上記知識を用い、課題の捉え方や定式化、その課題に適した解法の選択方法や適用方法など、得た知識をもとに課題解決に活用できる。 							
授業計画								
第1回	イントロダクション ・現実世界の課題解決手段としての数理最適化の概要を学ぶ							
第2回	微分（1） ・微分と積分の概要と現実世界での事例を習得した上で、微分の基本計算を学ぶ							
第3回	微分（2） ・微分に関する基本的な定理と応用（テイラー展開等）を学ぶ							
第4回	積分（1） ・積分の基本計算を学ぶ							
第5回	積分（2） ・置換積分と部分積分を学ぶ							
第6回	微分と積分のまとめ ・ここまでの微分と積分の内容についてまとめる							
第7回	ベクトル（1） ・ベクトルと行列の考え方、ベクトルの基本演算を学ぶ							
第8回	ベクトル（2） ベクトル空間（ベクトル空間の基底と次元等）について学ぶ							
第9回	行列（1） ・行列式の定義と基本演算を学ぶ							
第10回	行列（2） ・行列式の余因子展開と連立一次方程式の解法について学ぶ							
第11回	ベクトルと行列のまとめ ・ここまでのベクトルと行列の内容についてまとめる							
第12回	最適化法(1) ・最適化法の基本的な考え方と線形計画法の代表的な主法について学ぶ							
第13回	最適化法（2） ・非線形計画法の基本的な考え方と代表的な主法について学ぶ							
第14回	最適化法のまとめ ・ここまでの線形計画法と非線形計画法の内容についてまとめる							
第15回	まとめ ・これまで学んだ数理最適化のための基礎知識をまとめ、数理最適化の活用事例を学ぶ							
成績評価の方法	■各授業内容の理解と応用する力を下記の観点から評価する。							

	<ul style="list-style-type: none">・各授業で「課題」を出します。これをノートに書き、写真を撮影して、課題レポートとして提出して下さい（70%）。課題を解くために、授業資料、本、インターネット等で調べ学習をして解いて頂いて結構です。Word、PowerPoint等により,電子文字を用いて作成したレポートは、電子的コピーが作れる為、不可とします。・手書きにより作成したレポートの写真(jpegフォーマット)を原則とします。この写真をPowerPointに貼り付けて提出することはO Kです。・課題の中に、少し難しい「発展課題」も出題し、加点します（10%）。・授業中での取り組み状況、発表や質疑応答などを評価します（20%）。 <p>■注意点</p> <p>★問題を第3者に公開することは禁止します。（著作権など、いろいろな問題が発生します）</p> <p>★各種サービスで、問題の解答を他の人から教えてもらうY a h o o知恵袋などの利用は禁止です。</p> <p>★他人が作成した回答／プログラムファイルをそのままコピーしたレポート／プログラムファイル、及び、他人が作成した写真そのものの提出は不正行為とみなします。（バイナリレベルで比較し、同一かどうかを確認できます）</p>			
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>■本科目では、数理解最適化の原理、特徴を学ぶだけでなく、Excelのソルバー、マクロを用いて、各種課題を数値的に解く方法についても講義、演習を行い、習得できるようにします。そのため事前に案内しますので、使用するExcelのソルバー、マクロについての知識を予習しておいてください。</p> <p>■予習と復習について</p> <p>予習：各授業ごとに事前に配布される資料について、概要、特徴などを調べてノートに書く（90分）</p> <p>授業：授業で新しく気づいた事、理解した事、理解度確認課題をノートに書く（90分授業）</p> <p>復習：課題に対する調べ学習、考察結果をノートに書いて、レポート提出（90分）</p>			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし（資料を配布）				
参考書	<p>『最短コースでわかるディープラーニングの数学』 赤石雅典(著)、日経BP社、2019年</p> <p>『データサイエンスのための数学』 椎名洋 他（著）、講談社、2019年</p> <p>『これなら分かる最適化数学―基礎原理から計算手法まで』 金谷健一(著)、共立出版、2005</p>			
備考	<p>・高校数学で数学II、B、IIIまでの履修をしていない場合は、本科目で学習する数理解最適化、「微分」「積分」「ベクトル」「行列」「最適化法」の知識をインターネットあるいは参考書等で自主的に習得して授業参加することが望ましい。</p> <p>・進捗状況により授業内で扱う題材の難易度を変更する場合がある。</p> <p>＊本科目は、ICT関連の開発職としての実務経験のある教員による授業科目です。</p>			
昨年度からの振り返り	毎回出す課題/発展課題によっては正解率が低いことがあったので、正解率が低い課題/発展課題に関しては翌週に時間をかけて解説するようにします。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	カリキュラムにより異なります。		学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	情報系数学応用B						授業形態	講義
授業コード	MIB1320001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング		実施する
担当教員	韓 旭							
授業概要	本科目では、数理論理学や計算理論を中心に、関連する議論も含め、ICT技術を支える中核的な数学的理論の基礎を広く学修する。各理論／概念については具体的な応用先の例もあわせて学ぶことで、理解をより深いものとする。ソフトウェアを形式的に特徴づけたり解析するためには、計算や論理に関する知識が不可欠である。 具体的には、集合・論理・関係・写像・代数系・数え上げ・グラフ理論についてその入門的な内容（用語・定義・記法、基本的概念・原理、応用先の例など）を順次学ぶことで、論理的、数理的に課題解決へのアプローチができるようになることを目指す。							
授業の目的・到達目標	・数理論理学や計算理論等の基礎知識を修得し、説明できるようになる。 ・上記知識を用い、実際の課題についてソフトウェアを用いて解決する際に、必要に応じて自らより深く調べる手がかりとして、得た知識を課題解決に活用できるようになる。							
授業計画								
第1回	コース導入 コース全体の概要、授業の進め方を理解する。 集合（1） 集合の基礎知識として、集合の定義、集合の数学的表現方法、いろいろな集合とその性質、集合に対する基本的演算などを学ぶ。							
第2回	集合（2） 引き続き集合の基礎知識として、ベン図による複数の集合の間の関係の表現方法、包除原理などを学ぶ。また実課題で用いられている集合の応用事例をいくつか紹介する。							
第3回	論理（1） 論理学の基礎知識として、命題の定義、命題に対する演算としての論理演算、条件付き命題、命題関数／述語などを学ぶ。							
第4回	論理（2） 推論の定義、推論の枠組みにおける必要条件と十分条件、全称記号と存在記号などを学ぶ。また実課題で用いられている論理の応用事例をいくつか紹介する。							
第5回	関係（1） 関係の定義を直積集合から理解する。関係を表現する方法として関係グラフ・隣接行列・有向グラフを学び、関係の合成についても学ぶ。							
第6回	関係（2） 関係の上で定義できる基本的な性質（反射的・対称的・反対称的・推移的）を学び、集合の分割、同値関係、剰余類などを学ぶ。また実課題で用いられている関係の応用事例をいくつか紹介する。							
第7回	写像（1） 写像の定義、単射・全射・全単射・逆写像、写像の合成について学び、鳩の巣原理を理解する。							
第8回	写像（2） 写像の特別な形としての置換、集合の濃度、写像による集合の表現方法などについて学ぶ。また実課題で用いられている写像の応用事例をいくつか紹介する。							
第9回	代数系（1） 代数系の基礎知識として、二項演算および代数系の定義、結合律と交換律、剰余和と剰余積、単位元と逆元などについて学ぶ。							
第10回	代数系（2） 代数系の構造として、半群・モノイド・群について学ぶ。また、群の構造を比較する方法として、準同型写像と同型写像について学ぶ。							
第11回	計算の複雑さ・数え上げ 巡回セールスマン問題や分割問題を紹介し、数え上げの原理を学ぶ。また順列および二項係数について理解する。							
第12回	順序集合から束へ（1） 半順序関係の定義、半順序集合・比較可能・比較不能・全順序集合などについて学び、半順序集合の要素の関係を図式化するハッセ図の描画方法を理解する。							
第13回	順序集合から束へ（2） 最大元・最小元、極大元・極小元、上界と上限・下界と下限、束、分配束と可補束などについて学ぶ。							
第14回	グラフ理論（1） グラフ理論の基礎的知識として、グラフの数学的定義、グラフの表現方法として隣接行列・接続行列、特別なグラフとして完全グラフ・							

	正則グラフ・2部グラフ、グラフにおける経路・連結・非連結・閉路などについて学ぶ。				
第15回	・ グラフ理論（2） グラフの応用事例として、オイラーグラフ、ハミルトン閉路、平面グラフなどを紹介する。 ・ 授業内テスト（最終試験）				
成績評価の方法	・ 授業内での発言・発表：20％ ・ 課題の提出状況とその内容の評価：40％ ・ 授業内テスト（最終試験、15回目）：40％				
準備学修（予習・復習、課題等）	予習（標準学習時間：90分） ・ 教科書、Webサイト等を閲覧し、基本的な用語・概念について理解をしたうえで授業に臨むこと 復習（標準学習時間：90分） ・ 教科書、Webサイトなどを閲覧しながら、自分なりに内容を消化する ・ 小課題に取り組む				
教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
応用事例とイラストでわかる 離散数学：カンタンな数学で AIも理解できる!?（第2版）		延原肇	共立出版	978-4320114685	
参考書	『イラストで学ぶ 離散数学』伊藤（著）、KS情報科学専門書、講談社、2019				
備考					
昨年度からの振り返り					

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	カリキュラムにより 異なります。	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	情報系数学応用C					授業形態	講義
授業コード	MIC1320001	単位数	2単位	必修・選択の 別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	片桐 雅二						
授業概要	<p>本科目では、離散数学や情報理論を中心に、関連する議論も含め、ICT技術を支える中核的な数学的理論の基礎を広く学修する。前半では、離散数学の中の一分野である代数学およびグラフ理論について取り上げ、公開鍵暗号やネットワーク解析などの実課題に適用されている手法の原理を学ぶ。後半は情報理論の基礎として、情報量・符号理論などの基礎的内容を理解するとともに、その理論が実際に適用されている事例について学ぶ。授業全体として、例題とその解説によって理解を深めるとともに、各種の課題をICT／情報システムにより解決する場合に求められる数理的考え方や応用力を修練する。</p> <p>なお本科目は、「数学基礎」および「情報系数学応用B」の内容を理解していることを前提とした発展的な内容となっているため、履修に当たってはこれらの科目を双方とも履修していることが強く望まれる。</p>						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・離散数学および情報理論の基本知識を修得し、説明できるようになる。 ・離散数学や情報理論を中心に数学的発想と論理的思考について学び、実際の課題解決を検討するための能力を獲得する。 						
授業計画							
第1回	<p>コース導入 コース全体の概要、授業の進め方を理解する。</p> <p>代数学の基礎（１） 合同式の基本的な考え方、数学的な定義、数学的な証明の例（ユークリッドの互除法）</p>						
第2回	<p>代数学の基礎（２） 有限体の基本的な考え方、数学的定義、フェルマーの小定理</p>						
第3回	<p>代数学の基礎（３） RSA公開鍵暗号の仕組みを代数学の考え方から理解する</p>						
第4回	<p>グラフ（１） グラフ構造の基本的性質、パス、連結性の基本的な定理、手法の基礎</p>						
第5回	<p>グラフ（２） グラフ理論の問題とその解を求める難しさ（計算複雑性）の尺度について</p>						
第6回	<p>グラフ（３） グラフ彩色問題を事例に、代表的な問題設定とそれに対する代表的な手法の概要</p>						
第7回	<p>グラフ（４） 複雑ネットワークに関する構造の解析と有用性（中心性、スケールフリー性、スモールワールド性、PageRank）</p>						
第8回	<p>情報理論の基礎（１） 情報理論の概要、確率の基礎的な知識の復習</p>						
第9回	<p>情報理論の基礎（２） エントロピーの意味、計算方法</p>						
第10回	<p>情報理論の基礎（３） ダイバージェンスの意味、２つの確率分布間のダイバージェンスの計算方法</p>						
第11回	<p>符号（１） 様々な符号の定義や違い、計算の方法</p>						
第12回	<p>符号（２） 木構造や数直線を用いた語頭符号、クラフトの不等式</p>						
第13回	<p>符号（３） 符号化アルゴリズムの基本的な考え方</p>						
第14回	<p>通信理論 通信路符号化（通信路モデル）、通信路容量、誤り訂正符号など</p>						
第15回	<p>情報理論の応用 情報理論の応用として音声・画像・動画などで用いられている符号化方式、スペクトル拡散通信方式、情報ハイディングなどのセキュリティ技術</p>						

成績評価の方法	単元ごとの演習課題の内容（75％：15％×5単元）、定期試験の結果（15％）、受講態度等（10％）により評価する。			
準備学修（予習・復習、課題等）	授業範囲について講義前日に配布されるプリントにより（必要に応じて参考書等も活用して）予習を行うことが望ましい。（60分／回） 授業内で出された事例・例題を用いて、復習によって自分なりに内容を消化することが特に大切である。（90分／回） また、単元ごとに演習課題に取り組む。（90分×5単元）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	◎『情報工学のための離散数学入門』（該当授業：第1～5回） 西野哲朗(著)、若月光夫(著)、グラフィック情報工学ライブラリ、数理工学社、2015年、ISBN：978-4-86481-032-6 ○『初等離散数学』（該当授業：第6回） 秋山仁・占部正承(共著)、新数学入門シリーズ、森北出版、1998年、ISBN：978-4-627-03551-5 ○『ソーシャルメディア論－行動データが解き明かす人間社会と心理－』（該当授業：第7回） 土方嘉徳(著)、サイエンス社、2020年、ISBN：978-4-7819-1486-2 ◎『はじめての情報理論』（該当授業：第8～15回） 小嶋徹也(著)、近代科学社、2011年、ISBN：978-4-7649-0413-2 ○『情報量－情報理論への招待－』（該当授業：第8～13回） 山本宙(著)、コロナ社、2019年、ISBN：978-4-339-02890-4			
備考	＊本科目は、ICT関連の研究職としての実務経験のある教員による授業科目です。			
昨年度からの振り返り	昨年度からの改善点：授業における説明方法を工夫し学生が主体的に考える機会を増やすことで、より理解が深まるように努める。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	データベース					授業形態	演習
授業コード	DBM1340001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	片桐 雅二						
授業概要	<p>ソフトウェアシステムを構築する上で欠かせないデータベースについて講義と実習を組み合わせる形で学修する。データベースに関する一通りの知識を講義により学ぶとともに、実習により基本的な操作および設計を体験し知識を活用する実践力を体得する。</p> <p>データベースの基本について、仕組み・構成要素・基本的機能から、トランザクション処理・同時実行制御、障害復旧、設計の仕方などを知識として講義形式にて学ぶとともに、知識を実践し理解を深めるために、SQL問い合わせ、トランザクション処理・同時実行制御、設計・正規化などについての実習を行う。</p> <p>また、NoSQLなどの最近のデータベースおよび将来に向けたデータベースの重要性について学ぶ。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>データベースの原理・考え方や基本構造について理解し、説明できるようになる。</p> <p>SQLを用いたデータベースの基本的な操作方法を習得し、使うことができるようになる。</p> <p>小規模な関係データベースを設計構築する基礎的な能力を体験的に獲得する。</p>						
授業計画							
第1回	<p>データベースとは（1）</p> <p>コースのイントロダクション。データベースシステムとはどのようなものか、日頃利用している実例などにより理解する。また歴史的な発展を知り、その位置付けについて学ぶ。</p>						
第2回	<p>データベースとは（2）</p> <p>データベースとは何かを理解するために、DBMS、データモデル、SQLなどの概要を学ぶ。</p>						
第3回	<p>SQL問い合わせ（1）</p> <p>SQL言語を用いてデータベースを操作する方法の基本（SELECT、FROM、*、AS、DISTINCT、WHERE）について学び、簡単なSQL問い合わせの実行を体験する。</p>						
第4回	<p>SQL問い合わせ（2）</p> <p>SQL言語を用いてデータベースを操作する方法の基本（算術式、集約関数、GROUP BY、HAVING、ORDER BY）について学び、簡単なSQL問い合わせの実行を体験する。</p> <p>リレーショナルデータモデルにおいてデータ操作を行うための基本となる関係代数（射影・選択・和・差・共通）について、その概要とSQLにおける利用法を理解する。</p>						
第5回	<p>SQL問い合わせ（3）</p> <p>リレーショナルデータモデルにおいてデータ操作を行うための基本となる関係代数（結合・直積・商）について、その概要とSQLにおける利用法を理解する。</p>						
第6回	<p>SQL問い合わせ（4）</p> <p>SQL言語を用いてデータベースを操作する実習を行う。</p>						
第7回	<p>データベースの基本要素</p> <p>データベースの構成要素と基本的機能を学ぶ。データベースにおける三層スキーマとは何かを理解する。データの一貫性の維持や安全性（セキュリティ）の確保の必要性を理解し、それらを実現する仕組みの概要を学ぶ。</p>						
第8回	<p>データの一貫性（1）</p> <p>トランザクション処理とは何か、同時実行制御とは何かを理解する。それぞれを実現するために用いられる基本的な仕組みについて概要を理解する。</p>						
第9回	<p>データの一貫性（2）</p> <p>トランザクション処理および同時実行制御について、その動作を確認する実習を行う。</p>						
第10回	<p>障害対策</p> <p>実際のデータベースの運用において重要となる、障害対策の基本について学ぶ。想定される障害の種類や、対策として用いられている代表的な方策について、その概要を理解する。</p>						
第11回	<p>設計・正規化（1）</p> <p>データベースの設計とは、どのようなものかを学ぶ。概念スキーマの設計、および論理スキーマの設計について概要および基本的な手順を理解する。</p>						
第12回	<p>設計・正規化（2）</p> <p>概念スキーマ設計としてE-R図を用いた設計、論理スキーマ設計としてリレーションへの変換の実習を行う。（机上演習）</p>						

第13回	設計・正規化（3） 論理スキーマ設計として正規化の実習を行う。（机上演習）			
第14回	データベース応用（1） NoSQLと呼ばれ近年注目を集めている新しいタイプのデータベースについて、その概要と特徴を理解する。			
第15回	データベース応用（2） 様々な分野で用いられているデータベースについて特徴的なものを理解し、今後どのような応用の発展が考えられるかをその重要性とともに学ぶ。			
成績評価の方法	実習レポートの内容（15％×3）、問題演習の内容（15％×3）、受講態度等（10％）により評価する。			
準備学修（予習・復習、課題等）	授業範囲について教科書および講義前日より閲覧可能となる授業資料（PDFファイル）により（必要に応じて参考書等も活用して）予習することが望ましい（60分／回） 講義の内容について、復習によって自分なりに消化することが大切である。特にSQLによる操作を伴うものについては、指定された内容を盲目的に実行するだけでなく、自ら意図を持ってSQL文を作成し実行しその結果が意図通りとなっていたかを確認することで、その理解が深まるとともにスキルを修得することができる（90分／回） 項目毎に、演習問題または実習結果に基づいたレポート課題を設定する（60－120分×7回）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
データベース―基礎からネット社会での応用まで―	三木光範・田中美里	共立出版	978-4-320-12406-6	情報工学テキストシリーズ ※ 電子書籍可
参考書	「SQL第2版ゼロからはじめるデータベース操作」、ミック（著）、翔泳社、2016 「基本がわかるSQL入門」、西村（著）、技術評論社、2020 「おうちで学べるデータベースのきほん」、ミック・木村（著）、翔泳社、2015 「SQLデータ分析・活用入門」、西（著）、ソシム、2019			
備考	＊本科目は、ICT関連の研究職としての実務経験のある教員による授業科目です。			
昨年度からの振り返り	昨年度からの改善点：講義形式の説明パートをより探求的な内容とすることで、より主体的な授業参加を促す。実習取組み中の指導や支援の方法を工夫することで、履修者のエンゲージメントを高める。レポートについてはタイムリーに返却するよう努める。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	情報システムのプロジェクト管理					授業形態	講義
授業コード	PMS1310001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	平山 敏弘、一柳 晶子						
授業概要	前半は、プロジェクトマネジメントの国際標準およびデファクトスタンダードの知識体系である「PMBOK（Project Management Body of Knowledge）」を構成する10スキルの概要を学び、プロジェクト管理の基礎を理解する。後半では、実務につながるように、実質的なプロジェクト計画やマネジメントの方法を理解するため、ソフトウェアの開発～テスト～リリースまでの一連の流れにおける、開発工程とテスト工程の対応関係を表したモデルである「V字モデル」や、対応するプロジェクトフェーズ双方向の関連性を確保するために考えだされた「トレーサビリティ・マトリクス」を学び理解を深める。また理論に止まらず、個人特性に基づいたチームビルディング手法やチーム力アップに不可欠なモチベーションアップ手法／ビジネスコミュニケーション等、実際の現場で必ず必要となる実践力を学ぶ。加えて履修生自身の身近なスケジュール例をWBS（Work Breakdown Structure）化するなどを通して、どのような場面でもプロジェクト管理が有用であることを理解する。						
授業の目的・到達目標	PMBOKを通じてプロジェクトマネジメントの基本的知識を得て、情報システムのプロジェクト管理の基礎を理解することを目的としている。そのために以下の項目ができることを目標とする。 （1）PMBOKを通じて、プロジェクトのライフサイクルと運営のしくみを理解する。 （2）WBSをベースとしたプロジェクト計画書を作成することができる。 （3）V字モデルやトレーサビリティ・マトリクスを学び、プロジェクトの品質管理をシンプルに確実にこなせるようになる。 また当講義は、プロジェクト管理の理論に止まらず、実際にプロジェクトを推進する際に必須となるチームビルディングが実践できるように、「自分の強み診断」「モチベーションアップ手法」「ビジネスコミュニケーション」などのチーム力を高めるための実践力についても、演習を通じて理解することを目標とする。						
授業計画							
第1回	（1）プロジェクト管理とは プロジェクト管理とは何か、どのようなことを考えなければいけないのか、プロジェクトを成功に導くためには何が必要なのかのポイントを理解することにより、次回以降に学ぶ学習内容の前提知識を身に付けます。						
第2回	（2）PMBOKとは（1） PMBOK（Project Management Body of Knowledge：ピンボック）を構成する10の知識エリア、「品質管理」、「原価管理」、「スケジュール管理」、「スコープ管理」、「要員管理」、「コミュニケーション管理」、「リスク管理」、「調達管理」、「ステークホルダー管理」、「統合管理」とは何かについて学びます。						
第3回	（3）PMBOKとは（2） 「立ち上げ」、「計画」、「実行」、「監視・管理」、「終結」という5つに分割されたプロセスについて学び、知識エリアとのマトリクスによって、どのプロセスで何を作成・管理すべきについて学びます。						
第4回	（4）PMBOKとは（3） PMBOKで定義されている、「入力」、「ツールと実践技法」、「出力」という3つのパートを学び、知識エリアとプロセスとの関連性についての理解を深めます。						
第5回	（5）プロジェクト・フェーズ プロジェクトでは、「要件定義」から「システムテスト」まで複数のフェーズがあります。各フェーズでどのようなことを実施するのかについて学びます。						
第6回	（6）プロジェクトスケジュール PMBOKの知識エリアである「プロジェクト・スケジュール・マネジメント」の計画プロセス群に含まれる「アクティビティの順序設定」「アクティビティ所要時間の見積」「スケジュールの作成」の3つのプロセスを中心に説明を行い、プロジェクトスケジュールが作成できるようになることを目標とします。						
第7回	（7）スケジュールの作成 プロジェクトスケジュールの様々な技法を学び、その技法を利用して身近な例でスケジュールを作成する演習を行います。						
第8回	（8）プロジェクトスコープからのWBS（ワーク・ブレイクダウン・ストラクチャー） スコープとして定義された成果物を、その構成要素単位で詳細化、細分化した結果を木（ツリー）構造で表した、WBS（Work Breakdown Structure）について学びます。						
第9回	（9）WBS演習 履修生の身近にある計画（プロジェクト）について、WBS化する演習を実施することでWBSの理解を深めます。						
第10回	（10）マスタースケジュール マスタースケジュールとは、プロジェクト全体の流れが最初から最後まで分かる主要な工程表のことです。プロジェクト規模が大きくなればなるほど、各パートの進捗は細分化されるため、全体感を常に把握しておくことが重要になります。マスタースケジュールを理解することで、プロジェクト全体が進む中で、今どこに立ち位置があるのかを確認することが出来るようになります。						
第11回	（11）マスタースケジュール作成演習 マスタースケジュール作成の順序を学び、自身の例をもとにしたマスタースケジュール作成の演習を実施して理解を深めます。						

第12回	(12) 要員計画とコスト管理 プロジェクトで重要となるコスト見積もりの手法を学びます。また要員計画におけるリソースヒストグラムと山崩しとは何かを学び、プロジェクトにおけるコスト管理を理解します。			
第13回	(13) 要員管理とモチベーション プロジェクトメンバーのモチベーションをアップさせることは、プロジェクトのチーム力アップに繋がり、要員管理に直結します。動機付け理論を学ぶことにより、メンバーが一丸となって共通のゴールに向かってチャレンジするチームビルディングを論理的に実現できるようになります。			
第14回	(14) プロジェクトにおける追跡可能性 上位要件と下位要件との追跡可能性や、要件と下流の作業成果物との追跡可能性を格子表（マトリクス）に整理した「トレーサビリティ・マトリクス」について学びます。			
第15回	(15) 成功裏に導くプロジェクト管理 プロジェクト管理においては、理論を学ぶことはもちろんであるが、それだけではプロジェクトを成功裏には導けません。多くのプロジェクト開発関連の裁判において問題とされる「プロジェクトマネジメント義務違反」について、判例に基づく検証から、プロジェクト管理の重要性を理解し、当講義で学んだことを実践で活かす必要性を理解します。			
成績評価の方法	(1) 試験・テストについて 定期試験に準じた最終レポートを提出して頂きます。 (2) 試験以外の評価方法 毎回の講義時に提出する提出物（授業内容確認小レポート）、および演習内容・発表により評価をします。 (3) 成績の配分・評価基準等 最終レポートの評価に加え、毎回の授業時に提出する小レポートや授業への貢献度、および演習発表などを下記の割合で判断して評価します。 (最終レポート70%、授業への貢献度30%（毎回の授業時に課す小レポートなど）)			
準備学修（予習・復習、課題等）	(予習) 次回講義内容について、インターネットや参考資料などを利用して、調査しておくこと。また自身の特性診断などを予め実施しておく場合あり。（標準学習時間：1.5時間） (復習) 講義内容を復習して、確認しておくこと。また演習や分析作業の講義後には、次回講義時に発表できるための資料準備。（標準学習時間：1.5時間）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	必要な資料については、講義時に配布する資料を使用する。 参考文献： ・「ITエンジニアのためのプロジェクトマネジメント入門」、飯尾淳 他、ISBN-9784274225925 ・「モチベーション3.0」、ダニエル・ピンク(著)、大前研一(翻訳)、ISBN-4062144492 ・「さあ、才能（じぶん）に目覚めよう〈ストレングス・ファインダー2.0〉」、トム・ラス(著)、古屋博子(翻訳)、ISBN - 9784532321437 ・「図解入門よくわかる 最新PMBOK第6版の基本」、鈴木安而、ISBN-9784798053561 ・「実務で役立つWBS入門」、Gregory T. Haugan (著)、伊藤衡(翻訳)、ISBN-4798108499			
備考	当講義では、UNIPAでの出席コード入力以外に、その場での出欠確認（点呼）と出席カードの提出により、出欠を確認します。 ＊本科目は、ICT関連の開発職としての実務経験のある教員による授業科目です。			
昨年度からの振り返り	・講義内容は難しかったが、有意義な授業であったとの声が多かったので、授業レベルは維持していきます。 ・演習が多かったので理解が深まったとのコメントも多くあるので、座学で学んだ内容を演習で確認し、理解を深めるといった講義形態は継続していきたいと思います。 ・また、演習の理解を深めるために、授業の最初の段階より、履修生自身のケースを意識して実施してもらえるように進めていきます。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	[旧]Webシステム演習／[新]プログラミング応用実習（Webプログラミング）					授業形態	実習
授業コード	PWS1350001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	中田 豊久						
授業概要	本授業では、Web上で動作する統合的なシステムを構築するための知識とスキルの習得を目的とする。プログラミングやネットワークに関する基礎知識を基盤として、WebアプリケーションやWeb上で利用される業務システムの開発について学ぶ。授業では、大規模なWeb統合システムの構築プロセスを題材とし、Webシステムの設計および開発を演習形式で行う。演習を通して、自分が実現したいサービスをWebシステムとして形にする力を養う。						
授業の目的・到達目標	本授業では、大規模分散型のWeb統合システムの開発に用いられる技術、および高可用性や事業継続性を考慮したシステム設計の考え方を理解する。さらに、簡易的な実装演習を通して、これらの技術を用いたWebシステムを設計・実装する基礎的な能力を身につける。						
授業計画							
第1回	ガイダンスとWebシステム開発の基礎（1） 授業の目的と進め方、授業内のルールについて説明する。Webシステムの基本構成や開発環境の扱い方を確認する。また、簡単なHTMLページの作成を通して、Webページの基本構造を理解する。						
第2回	ガイダンスとWebシステム開発の基礎（2） （1）と同じ。						
第3回	HTMLによるWebページ構造の作成（1） HTMLを用いた基本的なWebページの作成方法を学ぶ。リンク、画像、表などの要素を用いて情報を整理する方法を理解する。演習を通して、Webページの構造を記述する基本技術を習得する。						
第4回	HTMLによるWebページ構造の作成（2） （1）と同じ。						
第5回	HTMLフォームとページ構造の設計（1） HTMLを用いたページ構造の整理方法を学ぶ。フォーム要素などを用いて利用者からの入力を扱う方法を理解する。Webページの構造設計の基本を演習を通して習得する。						
第6回	HTMLフォームとページ構造の設計（2） （1）と同じ。						
第7回	CSSによるWebページデザイン（基礎）（1） CSSを用いたWebページのデザイン方法を学ぶ。HTMLとCSSの役割の違いを理解し、スタイル指定の基本を習得する。演習を通してWebページの見た目を整える方法を学ぶ。						
第8回	CSSによるWebページデザイン（基礎）（2） （1）と同じ。						
第9回	CSSによるレイアウト設計（1） CSSを用いたWebページのレイアウト設計を学ぶ。ページ内の要素配置や表示方法の調整について理解する。演習を通してWebページの構成を整理する方法を習得する。						
第10回	CSSによるレイアウト設計（2） （1）と同じ。						
第11回	JavaScriptによる動的処理（基礎）（1） JavaScriptを用いた基本的なプログラミング方法を学ぶ。Webページ内の要素を操作する方法やイベント処理の基本を理解する。簡単なプログラム作成を通して動的なページの仕組みを学ぶ。						
第12回	JavaScriptによる動的処理（基礎）（2） （1）と同じ。						
第13回	JavaScriptによるユーザインタラクション（1） JavaScriptを用いたユーザ操作への応答処理を学ぶ。入力データの処理や簡単な計算処理などのプログラムを作成する。演習を通してWebページの機能拡張方法を理解する。						
第14回	JavaScriptによるユーザインタラクション（2） （1）と同じ。						
第15回	JavaScriptプログラムの拡張演習（1） 既存のJavaScriptプログラムを改良する演習を行う。プログラムの構造を理解し、機能の追加や変更を行う。プログラムを改善するための基本的な考え方を学ぶ。						

第16回	JavaScriptプログラムの拡張演習（2） （1）と同じ。			
第17回	JavaScriptプログラムの発展的改良（1） JavaScriptの条件分岐や繰り返し処理を活用したプログラムの改良を行う。既存のプログラムに新しい機能を追加する演習を行う。プログラムの構造を理解しながら機能を拡張する方法を学ぶ。			
第18回	JavaScriptプログラムの発展的改良（2） （1）と同じ。			
第19回	Webアプリケーションの簡易実装（1） JavaScriptを用いた簡易的なWebアプリケーションの開発演習を行う。処理の流れや画面動作を考えながらプログラムを作成する。Webシステムの基本的な動作構造を理解する。			
第20回	Webアプリケーションの簡易実装（2） （1）と同じ。			
第21回	インタラクティブなWebアプリケーション開発（1） より複雑な動作を持つWebアプリケーションの作成に取り組む。ユーザインタラク션을考慮したプログラム設計を行う。演習を通して実践的なプログラム構築力を高める。			
第22回	インタラクティブなWebアプリケーション開発（2） （1）と同じ。			
第23回	アルゴリズムと問題解決演習（1） プログラミングによる問題解決の演習を行う。アルゴリズムを考えながらプログラムを設計する方法を学ぶ。やや難易度の高い課題を通してプログラム構築力を高める。			
第24回	アルゴリズムと問題解決演習（2） （1）と同じ。			
第25回	Webシステムの総合演習（設計と実装）（1） これまでに学んだHTML、CSS、JavaScriptを組み合わせた総合演習を行う。簡単なWebアプリケーションを設計し、実装する。Webシステム開発の流れを実践的に理解する。			
第26回	Webシステムの総合演習（設計と実装）（2） （1）と同じ。			
第27回	Webシステムの総合演習（機能拡張）（1） 作成したWebアプリケーションの改良や機能追加を行う。システムの完成度を高めるための改善作業に取り組む。最終成果物の整理と発表準備を行う。			
第28回	Webシステムの総合演習（機能拡張）（2） （1）と同じ。			
第29回	成果発表と講評（1） 作成したWebアプリケーションの成果発表を行う。開発した内容や工夫した点について共有する。他の発表を通して多様な設計や実装方法について理解を深める。			
第30回	成果発表と講評（2） （1）と同じ。			
成績評価の方法	各授業において出題する理解度確認課題（80％）と総合演習課題（20％）により評価する。			
準備学修（予習・復習、課題等）	・ Webシステムを構築するための基本技術（HTML、CSS、JavaScriptなど）について演習形式で学ぶ。 ・ 授業は講義と演習で構成され、演習ではWebサイトの構築演習をするため、パソコン／ノートパソコン等が必要となります。 ・ 課題では、各自のノートパソコンを使って演習を行います。 ・ 継続した演習を実施できるように復習および次回に備えて予習をしておくこと（各回45分）。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書				
備考				

昨年度からの
振り返り

昨年度は未開講のため該当なし。

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	[旧]システム設計演習／[新]インフラストラクチャ構築演習					授業形態	演習
授業コード	PSD1310001	単位数	2単位	必修・選択の別	2025年度以降 入学者：選択 2024年度以前 入学者：必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	中田 豊久						
授業概要	企業活動における販売管理、生産管理、会計システムや、社会生活に広く利用されているSNSなど、多くの情報システムはネットワークやサーバなどのインフラストラクチャの上で動作している。これらの情報システムを安定して運用するためには、システムを支える基盤構造を理解することが重要である。本科目では、情報システムを支えるインフラストラクチャの基本的な考え方を学び、講義および演習を通じて、システム基盤の設計や構築の基礎的な知識と技能を身につける。						
授業の目的・到達目標	情報システムを支えるインフラストラクチャの役割と構成を理解する。 情報システムの基盤となるデータ構造や処理の仕組みを理解する。 演習を通じて、簡易的なシステム基盤の構築および設計を行う能力を身につける。						
授業計画							
第1回	情報システムとインフラストラクチャの基礎 情報システムとそれを支えるインフラストラクチャの役割について学ぶ。システム基盤の基本構成やサービス提供の仕組みを理解する。また、プログラム処理とシステム動作の関係について整理する。						
第2回	システム基盤の理解（グループワーク） 情報システムの構造や動作についてグループで議論を行う。システムを支える基盤の役割を整理し、利用者とシステムの関係について理解を深める。						
第3回	生成AIを用いたシステムプロトタイプ構築（1） 生成AIを活用して簡易的なシステムのプロトタイプを作成する。AIツールを利用したシステム開発の基礎を学び、サービスの基本構造を理解する。						
第4回	生成AIを用いたシステムプロトタイプ構築（2） 前回に続き、生成AIを用いたプロトタイプ開発を行う。システムの機能構成や処理の流れを整理しながら開発を進める。						
第5回	プロトタイプの発表と評価 作成したプロトタイプを発表し、システム構成や設計の考え方について共有する。発表を通じてシステム基盤設計の視点を理解する。						
第6回	プロトタイプ開発の振り返り（グループワーク） プロトタイプ開発の過程を振り返り、システム構築の課題や改善点を整理する。グループで議論しながら理解を深める。						
第7回	オブジェクト指向によるシステム設計 オブジェクト指向の基本概念を学び、システム設計における構造化の方法を理解する。システム基盤の設計におけるモジュール化の考え方を学ぶ。						
第8回	システム設計の検討（グループワーク） システム設計の考え方をグループで検討する。システム構造や役割分担を整理しながら設計の視点を身につける。						
第9回	データ構造とJSON形式 情報システムにおけるデータ表現方法としてJSONを学ぶ。システム間でデータをやり取りする仕組みを理解する。						
第10回	データ連携の理解（グループワーク） データ構造やデータ連携についてグループで議論を行う。システム間のデータ交換の仕組みについて理解を深める。						
第11回	AI処理の基礎とシステム基盤 AIの基本的な計算方法や処理の仕組みについて学ぶ。AIが情報システムの基盤としてどのように利用されるかを理解する。						
第12回	AIシステムの活用検討（グループワーク） AIを活用したシステム構成についてグループで検討する。AI機能を情報システムに組み込む方法について考察する。						
第13回	簡易生成AIシステムの構築 簡易的な生成AIシステムの構築を行う。AIを利用したサービスの基盤構造を理解する。						
第14回	システム構築の振り返り（グループワーク） これまでの演習内容を振り返り、システム構築のプロセスや課題を整理する。グループでの議論を通じて理解を深める。						
第15回	最終課題の作成 授業で学んだ内容をもとに最終課題に取り組む。情報システムの基盤構造や設計の考え方を整理し、成果としてまとめる。						

成績評価の方法	・授業中の理解度確認課題およびグループワーク課題：14回×6%=84％ ・最終課題：16％			
準備学修（予習・復習、課題等）	継続したグループ演習を行うことから復習および次回に備えて予習をしておくこと（各回予習90分、復習90分）。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	システム設計のセオリー、赤俊哉（著）、リックテレコム、ISBN：978-4865940053			
備考				
昨年度からの振り返り				

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	デザイン入門					授業形態	講義
授業コード	IDE1320001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Kim Jieun						
授業概要	<p>この授業は、デザインの基礎概念を理解し、実習を通じてデザインの能力を向上させることを目的としています。 **本授業は英語で行われます。英語で行われることを必ず認識し、受講申し込みをしてください。 **</p> <p>This course aims to help students understand the fundamental concepts of design and improve their design abilities through practical exercises.</p> <p>This course will be conducted in English. Please make sure you are aware that the class will be conducted in English before registering for the course.</p>						
授業の目的・到達目標	<p>- デザインの基本概念の理解と基礎造形・実技能力の向上を強化し、創造的思考を通じてデザイナーとしての思考力とマインドを育てることを目的とします。</p> <p>- 基礎造形、スケッチ、書体、色彩、レイアウトなどの実習を通じてデザイン感覚を養います。</p> <p>- The course aims to strengthen students' understanding of basic design concepts and improve their fundamental form-making and practical skills, while fostering designers' ways of thinking and mindset through creative thinking.</p> <p>- Through exercises such as basic form studies, sketching, typography, color, and layout, students will develop their design sensibility.</p>						
授業計画							
第1回	Orientation						
第2回	Ice Breaking : Wall to Wall (Team)						
第3回	発表 Presentation						
第4回	レイアウトの理解 Understanding Layout 色の理解 Understanding Color						
第5回	発表 Presentation						
第6回	発表 Presentation						
第7回	タイポグラフィ基礎 Typography Basics 実習 持ち物：円定規、マーカー、はさみ、のり Practice Materials: Circle template (circle ruler), markers, scissors, glue						
第8回	実習 持ち物：円定規、マーカー、はさみ、のり Practice Materials: Circle template (circle ruler), markers, scissors, glue						
第9回	実習 持ち物：円定規、マーカー、はさみ、のり Practice Materials: Circle template (circle ruler), markers, scissors, glue						
第10回	実習 持ち物：円定規、マーカー、はさみ、のり Practice Materials: Circle template (circle ruler), markers, scissors, glue						

第11回	実習 持ち物：円定規、マーカー、はさみ、のり Practice Materials: Circle template (circle ruler), markers, scissors, glue				
第12回	実習 持ち物：円定規、マーカー、はさみ、のり Practice Materials: Circle template (circle ruler), markers, scissors, glue				
第13回	コンセプトとカラー Concept and Color				
第14回	発表 Presentation				
第15回	発表 Presentation				
成績評価の方法	出席：20% ※ 授業及び実習参加度及び課題：30% 発表：50% Attendance: 20% Class and Workshop Participation & Assignments: 30% Presentation: 50% ※単に出席することをもって加点するものではなく、知識・スキルの修得に向け、適切な態度・姿勢で受講しているかを評価します。				
準備学修（予習・復習、課題等）	各回の授業で学んだ内容について、各自で要点を整理するなど、復習を行い知識等の定着を図るとともに、次回の授業に向け、必要な準備や予習を行うこと。（各回予習90分、復習90分）				
教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
指定なし					
参考書					
備考					
昨年度からの振り返り					

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	カリキュラムにより 異なります。	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	[旧]インタラクティブ・システムデザイン／[新]インタラクティブデザイン入門					授業形態	演習
授業コード	ISD1350001	単位数	2単位	必修・選択の 別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Kim Jieun						
授業概要	本科目では理論と実習を通じてインタラクティブデザインに対する本質を学ぶ。 デザインの歴史に対する学びを通じてデザインの流れと現在のインタラクティブデザインがなぜ重要なのかを理解し、そのためのデザイン方法論とリサーチ、ワークショップを通じてデザイナーの力量を育てる。						
授業の目的・到達目標	ワークショップとチームプロジェクトを通じてデザインプロセスを学び、なぜインタラクティブデザインが重要なのか、どのようにインタラクティブなデザインを創造できるのかについて理解し説明できる。						
授業計画							
第1回	Orientation						
第2回	History of Design 1						
第3回	History of Design 2						
第4回	What is Interaction Design? Design Methodology						
第5回	Workshop: brainstorming: Choosing a topic						
第6回	Workshop: brainstorming: Choosing a topic						
第7回	Workshop: brainstorming: Choosing a topic						
第8回	Mid-term Review						
第9回	Workshop: Ideation						
第10回	Workshop: Ideation						
第11回	Workshop: Define concept						
第12回	Workshop: Concept development						
第13回	Workshop: Concept development						
第14回	Workshop: Concept development						
第15回	Final presentation						
成績評価の方法	受講態度：20％ 中間試験：30％ 期末試験：30％ ワークショップへの参加度と課題：20％						
準備学修（予習・復習、課題等）	デザイン感覚を高めるために展示や書籍をたくさん見て、アドビプログラムを先行学習すると役に立つ。（各回の授業に対し180分程度）						
教科書							
書名	著者		出版社		ISBN		備考
指定なし							
参考書	Design for a Better World: Meaningful, Sustainable, Humanity Centered Author: Donald A. Norman						
備考							
昨年度からの振り返り							

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	プログラミング応用実習（デザイン・プロトタイピング）					授業形態	実習
授業コード	PG21310001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Kim Jieun						
授業概要	本科目は、短いワークショップと発表を繰り返しながらプロトタイプを実際に制作し、共有する実践中心の授業である。学生は、素早く作り試すプロセスとフィードバックを通して、アイデアを具体化する方法を学ぶ。 本授業は英語で行われるため、学生は自分のアイデアを英語で説明し、発表する必要がある。						
	This course is a hands-on class in which students repeatedly engage in short workshops and presentations while creating and sharing prototypes. Through rapid making and iterative feedback, students will learn how to develop and refine their ideas. The course will be conducted in English, and students are expected to explain and present their ideas in English.						
授業の目的・到達目標	プロトタイプとは何かを理解し、プロトタイプが自分のアイデアを説明し他者に理解してもらうためのツールとして活用されることを学ぶ。 デザインの授業はプロセスを伴う授業であるため、欠席すると授業の進行についていくことが難しくなることを理解しておく必要がある。						
	Students will gain an understanding of what a prototype is and how prototypes can function as tools for explaining and communicating ideas to others. Because design education is process-oriented, regular attendance is essential; missing classes may make it difficult for students to follow the progress of the course.						
授業計画							
第1回	オリエンテーション Orientation						
第2回	プロトタイプとは何か What is a Prototype?						
第3回	テーマ1 Theme 1						
第4回	実習：アイデエーション Workshop – Ideation						
第5回	実習：制作 Workshop – Making						
第6回	実習：制作 Workshop – Making						
第7回	発表 Presentation						
第8回	発表 Presentation						
第9回	テーマ2（チーム） Theme 2 (Team Project)						
第10回	チームディスカッション／インタビュー質問作成 Team discussion / Creating interview questions						
第11回	実習（インタビュー） Workshop (Interviews)						
第12回	実習（インタビュー） Workshop (Interviews)						
第13回	実習（分析） Workshop (Analysis)						
第14回	実習（分析） Workshop (Analysis)						

第15回	発表 Presentation			
第16回	発表（中間試験） Presentation (Midterm)			
第17回	アイデア展開 Idea Development			
第18回	アイデア展開 Idea Development			
第19回	プロトタイプ制作 Prototype Making			
第20回	プロトタイプ制作 Prototype Making			
第21回	一次テスト First Test			
第22回	一次テスト First Test			
第23回	テスト分析・改善点の発見 Test Analysis – Identifying Improvements			
第24回	ショートプレゼンテーション Short Presentation			
第25回	プロトタイプ改善 Prototype Improvement			
第26回	プロトタイプ改善 Prototype Improvement			
第27回	二次テスト Second Test			
第28回	二次テスト Second Test			
第29回	改善したプロトタイプのデモ 最終プレゼンテーション Demonstration of Improved Prototype and final presentation			
第30回	改善したプロトタイプのデモ 最終プレゼンテーション Demonstration of Improved Prototype and final presentation			
成績評価の方法	出席：20% ※ テーマ1：10% テーマ2：中間発表 30%、最終（期末）発表 40% Attendance: 20% Theme 1: 10% Theme 2: Midterm Presentation 30%, Final Presentation 40% ※単に出席することをもって加点するものではなく、知識・スキルの修得に向け、適切な態度・姿勢で受講しているかを評価します。			
準備学修（予習・復習、課題等）	各回の授業で学んだ内容について、各自で要点を整理するなど、復習を行い知識等の定着を図るとともに、次回の授業に向け、必要な準備や予習を行うこと。（各回45分）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書				
備考	1年次に「デザイン入門」「インタラクションデザイン入門」の単位を修得した学生を履修対象とします。			

昨年度からの 振り返り	
----------------	--

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	UXデザイン					授業形態	演習
授業コード	SDD1310002	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Kim Jieun						
授業概要	現代の職務名を見ると、UI（User Interface）とUX（User Experience）はセットになってUI/UXデザインポジションを多く見ることができ、BX（Brand Experience）デザインの職務も多く見ることができる。また、必ずしも経験という単語を含めなくても、今日のデザイナーたちはどんな経験を設計して定義するのか悩んでいる。これに対し、本科目ではすべてのデザインの土台となる経験をデザイナーの観点からどのように眺めて連結させるかを悩んで習得し、未来デザイナーの力量強化に努める。						
授業の目的・到達目標	デザインの基礎となるロゴデザインとそれに関連するアプリケーション展開を通して、ブランド体験デザインを学ぶ。本テーマは「iUtopia」とし、これをブランド化して多様な体験を提供することを目標とする。優れたデザインは採用し、実際のiUtopia展示にも適用する。						
授業計画							
第1回	오리엔테이션 오리엔テーション／Fun Project: Wall to Wall, Team Ideation, チームアイデーション						
第2回	発表						
第3回	경험을 위한 디자인 体験のためのデザイン（BX、CX、UX）						
第4回	発表						
第5回	プロジェクト開始						
第6回	リサーチ						
第7回	コンセプトの導出とサムネイルのスケッチ						
第8回	デザインの進化1						
第9回	デザインの進化2						
第10回	3案の中から1案を決める						
第11回	最終案の発展						
第12回	アプリケーションデザイン（グッズ、展示企画、パネルデザイン、ウェブサイトなど）						
第13回	アプリケーションデザイン（グッズ、展示企画、パネルデザイン、ウェブサイトなど）						
第14回	アプリケーションデザイン（グッズ、展示企画、パネルデザイン、ウェブサイトなど）						
第15回	期末試験の発表						
成績評価の方法	受講態度：20％ 毎週のコース学習：20％ 中間試験：30％ 期末試験：30％						
準備学修（予習・復習、課題等）	展示を多く見たり、デザイン書を読んだりして、デザインの感覚を養うことはとても役に立つ。デザイナーの視点から、どんな小さなことでも「どうすればより良く改善できるか」と常に考える習慣を持つことが大切である。（各回の授業に対し180分程度）						
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	備考
指定なし							
参考書							
備考							
昨年度からの振り返り							

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	電子回路					授業形態	講義
授業コード	ELC1320001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Kamya Yekeh Yazdandoost						
授業概要	電子回路コースは、電子回路の経験がほとんどない、あるいは全くない学生が、このコースで回路設計開発の道を歩み始めるために設計されています。このコースの目標は、学生が基本的な回路設計を理解し、専攻に関わらず、実用的な目標を達成できる小規模プロジェクトを作成するための基本的なスキルと自信を身に付けることです。 たとえ設計者が熟練した電気技師になることを意図していなくても、電子回路の基礎的な理解は重要です。多くの実際のICTプロジェクトでは、専門分野の異なるエンジニアリングチーム間で仕様の伝達や交渉が必要になることがよくあります。そのため、電子回路の基礎的な理解は、ICT学生にとって非常に役立ちます。						
授業の目的・到達目標	オームの法則、キルヒホッフの法則、Y-Δ変換を使用して、問題解決へのステップバイステップのアプローチを説明できる。 電子回路部品のカラーコードと数を読み取り、理解できる。簡単なフィルタ、電圧整流器、増幅器を設計できる。 テストと測定の手法を使用して、デザインの信頼性を確保出来る。デザインに論理演算と数学演算を適用できる。						
授業計画							
第1回	. 授業の概要と目的、課題と毎週のテストの進め方 . 基本原理, オームの法則（電圧、電流、電力） . 回路要素（パッシブおよびアクティブ）						
第2回	基本部品：抵抗器（オームの法則、キルヒホッフの法則、Y-Δ変換）						
第3回	基本部品：コンデンサ						
第4回	基本部品：インダクタ						
第5回	R、C、Lの組み合わせとそれぞれの特性（1）						
第6回	R、C、Lの組み合わせとそれぞれの特性（2）						
第7回	中間試験						
第8回	ソースと負荷、テブナンとノートンの等価回路						
第9回	ダイオード：基礎と機能						
第10回	回路内のダイオード（電圧整流器）						
第11回	トランジスタ：基礎と機能						
第12回	バイポーラ接合トランジスタ（BJT）						
第13回	電界効果トランジスタ（FET）						
第14回	回路内のトランジスタ（増幅器）						
第15回	まとめ、振り返りとフィードバック						
成績評価の方法	・課題と毎週のテスト 15% ・中間試験 35% ・期末試験 50%						
準備学修（予習・復習、課題等）	以前の講義はそれぞれ次の講義と関連しているため、学生は次の講義をよりよく理解するために講義と課題を復習することが期待されます。（各回180分）						
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	
指定なし							
参考書	適宜、参考となる文献やWebサイト等を指示する。						
備考							

昨年度からの
振り返り

昨年度は未開講のため該当なし。

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	ネットワーク技術					授業形態	講義
授業コード	NWT1330001	単位数	2単位	必修・選択の別	2025年度以降 入学者：選択 2024年度以前 入学者：必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	山内 正人						
授業概要	現在多くのシステムがインターネットに繋がり、コンピュータネットワークは社会システムの基盤として動作している。本科目では、その根幹となる情報通信技術の基礎についてコンピュータネットワークの歴史や成り立ち、発展の経緯から通信をする上で重要となる標準化とその方法、階層化と各階層におけるプロトコル、LANの基礎、ネットワークサービス、ネットワークセキュリティの基礎、最新技術動向など幅広く解説し、インターネットがどのように構成され、動作するかを理解する。また、現在インターネットで広く使用されているIPv4のみならず、今後広く使われていくと考えられるIPv6についても解説し、社会に出ても役立つネットワーク技術について体系的に学ぶ。						
授業の目的・到達目標	通信における階層化及び各層で構成される各種プロトコル等について理解し、説明できることを目的とする。 通信における階層化の概念を理解し説明できる、各層で構成される各種プロトコル等について理解し説明できる、ネットワークに関する最新動向を把握し説明できることを目標とする。						
授業計画							
第1回	ネットワークの基礎（1）（コンピュータネットワークの成り立ちや目的、構成について学ぶ）						
第2回	ネットワークの基礎（2）（通信メディアを作成し、その規格や仕組みを理解する）						
第3回	TCP／IPの基礎（各階層におけるプロトコルが果たす役割について理解することでTCP／IPでどのように通信が行われているかについて学ぶ）						
第4回	データリンク（1）（データリンクの役割及び技術、イーサネット等について学ぶ）						
第5回	データリンク（2）（MACアドレスやその役割等について学ぶ）						
第6回	IPプロトコル（1）（IPの基礎及びIPアドレスの基礎について学ぶ）						
第7回	IPプロトコル（2）（IPアドレス及びサブネットマスクについて学ぶ）						
第8回	IPプロトコル（3）（経路制御について学ぶ）						
第9回	IPプロトコル（4）（IPヘッダのヘッダチェックサムについて学ぶ）						
第10回	IPプロトコル（5）（IPv6について学ぶ）						
第11回	IPプロトコル（6）（DNSやDHCPなどIPに関連する技術について学ぶ）						
第12回	TCPとUDP（1）（トランスポート層の役割及びポート番号、TCPなどについて学ぶ）						
第13回	TCPとUDP（2）（UDP、NAT／NAPTなどについて学ぶ）						
第14回	アプリケーションプロトコル（E-mailやWWWなどで使用されるアプリケーションプロトコルについて学ぶ）						
第15回	まとめ（総まとめ及び最新のネットワーク技術の動向について学ぶ）						
成績評価の方法	最終レポート（30％）と、課題への取り組み（70％）で評価する。						
準備学修（予習・復習、課題等）	授業における資料や教材を用いて予習・復習を行う。 また、演習課題については授業外の時間も活用し課題を完了させること。 （あわせて各回180分）						
教科書							
書名	著者	出版社		ISBN		備考	
指定なし							
参考書	適宜プリントを配布する。						
	参考文献： 『マスタリングTCP／IP 入門編 第5版』竹下 隆史、村松 公保、荒井 透、荻田 幸雄（著）、オーム社、2012年 『コンピュータネットワーク 第5版』アンドリュー・S・タネンバウム、デイビッド・J・ウエザロ（著）、日経BP社、2013年 『プロフェッショナルIPv6』小川 晃通（著）、ラムダノート、2018年						

備考	
昨年度からの 振り返り	

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	ネットワーク構築Ⅰ					授業形態	演習
授業コード	DN11330001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	山内 正人						
授業概要	小規模なネットワークにおけるネットワーク機器の構成や技術、動作などの概要について演習形式で実践的に学ぶ。OSI参照モデルにおける物理層、データリンク層、ネットワーク層、トランスポート層、アプリケーション層の役割やプロトコルについて理解し、IPネットワークの基礎的な構築を行う。ネットワーク層ではIPv4におけるアドレス計画について学び、小規模なネットワークにおいてアドレス計画を実践する。IPネットワークのサブネット化を学ぶことでIPネットワーク分割の概念を理解するとともに、サブネットマスクを用いたアドレス計画への対応についても学ぶ。また実際に構築したネットワークはネットワーク管理ツールなどを用いてテストし接続性に問題ないことを確認する。						
授業の目的・到達目標	小規模なネットワークを構築する技術や概念について理解し、ネットワーク機器の基本設定ができることを目的とする。 小規模なネットワークで用いられるネットワーク機器について理解し説明できる、各ネットワーク機器の動きや動作について理解し説明できる、小規模なネットワークにおいて正しく疎通していることを確認できることを目標とする。						
授業計画							
第1回	ネットワーク構築の基礎（ネットワーク構築する上での環境整備及び基本用語について学ぶ）						
第2回	ローカルネットワーク（ネットワーク管理ツールなどを用いてローカルネットワークを知る）						
第3回	ローカルネットワークへの接続（ネットワークの種類やネットワークコンポーネントなどについて学ぶ）						
第4回	通信媒体と設計（ネットワークに使われる通信媒体とその特性について説明し、適切な媒体の選択方法について学ぶ）						
第5回	中間復習（これまでの内容に関する復習を行う）						
第6回	通信の原理（ネットワークを機能させるための通信規格や通信の仕組みについて学ぶ）						
第7回	イーサネットネットワークの仕組み（通信における階層型モデルや階層型設計について学ぶ）						
第8回	ネットワークの構築方法（ネットワークの適切な設計やアクセスレイヤの構築などについて学ぶ）						
第9回	ネットワーク間のルーティング（経路制御表やLANの作成について実践的に学ぶ）						
第10回	IPv4アドレス（IPv4アドレスの目的や構造について学ぶ）						
第11回	サブネットマスク（IPv4アドレスの要素とサブネットマスクとの関係について学ぶ）						
第12回	IPv4アドレスの取得方法（アドレスの割り当てとDHCPについて学ぶ）						
第13回	IPv4アドレス管理（ネットワークの境界とアドレス空間などについて学ぶ）						
第14回	IPv6でのアドレス指定（IPv4アドレスとIPv6アドレスの違いなどについて学ぶ）						
第15回	まとめ						
成績評価の方法	課題やクイズ100%						
準備学修（予習・復習、課題等）	授業における資料や教材を用いて予習・復習を行う。 また演習課題については授業外の時間も活用し課題を完了させること。 （あわせて各回180分程度）						
教科書							
書名	著者		出版社		ISBN		備考
指定なし							
参考書	Cisco Networking Academy						
備考	「ネットワーク技術」の単位を修得済みまたは同等の知識、スキルを要していること						
昨年度からの振り返り							

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	プログラミング応用実習（ネットワークプログラミング）					授業形態	実習
授業コード	APN1320001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	加藤 大弥、石原 匠						
授業概要	本講義では、1年次までに習得したプログラミングの基礎とネットワークの理論を土台とし、Pythonを用いた実践的なネットワークアプリケーションの開発手法を学びます。 単にコードを書くだけでなく、通信の仕組みがいかにプログラムに反映されるかを理解し、TCP/IPプロトコルスタックを意識したソケットプログラミングの基礎を習得します。 さらに、通信相手の不在やネットワーク遅延といった、外部要因によるエラー（例外処理）への対応を実践的に学ぶことで、より堅牢で実用的なソフトウェア開発スキルを身に付けることを目的とします。						
授業の目的・到達目標	【授業目的】 通信相手の不在や遅延といったネットワーク固有の課題をプログラムで解決する実践を通じ、スタンドアロンな開発の枠を超えた、より高度で実用的なシステム構築スキルの獲得を目指します。 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・Pythonを用いTCP/UDPによる基本的なクライアント・サーバ型のプログラムを記述できる。・通信エラーや接続断、タイムアウトといったネットワーク特有の例外を適切にハンドリングできる。・マルチスレッドや多重化の概念を理解し、複数の接続を並行して処理するプログラムを作成できる。・ネットワークに関するコマンド等を駆使し、デバッグすることができる。						
授業計画							
第1回	オリエンテーションと導入1						
第2回	オリエンテーションと導入2						
第3回	Pythonの基礎の確認と実行1						
第4回	Pythonの基礎の確認と実行2						
第5回	ネットワークと通信1						
第6回	ネットワークと通信2						
第7回	socket-入門1						
第8回	socket-入門2						
第9回	小テスト（socket-入門）／通信と名前解決-入門1						
第10回	通信と名前解決-入門2						
第11回	小テスト（通信と名前解決-入門）／client/server-入門1						
第12回	client/server-入門2						
第13回	小テスト（client/server-入門）／client/server-双方向通信1						
第14回	client/server-双方向通信2						
第15回	小テスト（client/server-双方向通信）／client/server-並列通信処理1						
第16回	client/server-並列通信処理2						
第17回	小テスト（client/server-並列通信処理）／ネットワークプログラミング-データロガー1						
第18回	ネットワークプログラミング-データロガー2						
第19回	ネットワークプログラミング-データロガー3						
第20回	ネットワークプログラミング-データロガー4						
第21回	ネットワークプログラミング-チャットシステム1						

第22回	ネットワークプログラミング-チャットシステム2			
第23回	ネットワークプログラミング-チャットシステム3			
第24回	ネットワークプログラミング-チャットシステム4			
第25回	Webシステムへの活用1			
第26回	Webシステムへの活用2			
第27回	Webシステムへの活用3			
第28回	まとめ			
第29回	まとめと期末テスト			
第30回	解説			
成績評価の方法	小テスト5回（各10点）、期末テスト（50点）で評価			
準備学修（予習・復習、課題等）	予習：教科書や配布資料を用いて事前に内容を確認し、基礎概念を理解したうえで授業に臨むこと（45分） 復習：講義で扱った内容やプログラム例を復習し、演習課題や実装内容を再確認することで理解を深めること（45分）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
PythonによるTCP/IPソケットプログラミング	小高 知宏	オーム社	978-4274223242	
参考書				
備考	「プログラミング基礎実習」「ネットワーク技術」の履修または同等の知識を有していることが望ましい。			
昨年度からの振り返り	昨年度は未開講のため該当なし。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	ネットワーク構築Ⅱ					授業形態	演習
授業コード	DN21330001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	山内 正人						
授業概要	小規模なネットワークにおけるルーティングプロトコルやネットワークサービス、トラブルシューティングについて演習形式で実践的に学ぶ。ルーティングプロトコルの動作について理解し、IPv4及びIPv6での設定を行うことでIPv4とIPv6の共通点及び相違点について学ぶ。また、ルーティングプロトコル以外にもIPv4アドレスの自動設定方法としてDHCPの設定を行い、IPv6アドレスの自動設定方法のStateless Address Auto Configuration（SLAAC）やDHCPv6との仕組みの違いなどについて考察する。また、トラブルシューティングの方法について学ぶことで問題の切り分けを行い、ネットワーク管理者へ問題や挙動について正しく説明することが出来るようになる。						
授業の目的・到達目標	ネットワーク機器を設定し、小規模なネットワーク構築が出来るスキル習得を目的とする。 小規模なネットワークで用いられるネットワーク機器について理解し説明できる、ネットワーク機器の働きや動作について理解し説明できる、小規模なネットワークにおいて正しく疎通していることを確認できる事を目標とする。						
授業計画							
第1回	クライアントとサーバ（ネットワークを構築するための環境構築及びクライアントとサーバの関係について学ぶ）						
第2回	TCP／IP（TCP／IPプロトコルスイートについて学ぶ）						
第3回	アプリケーションプロトコルとサービス（Web、FTP、Telnet、電子メールなどのアプリケーションプロトコルについて学ぶ）						
第4回	ホームネットワークの基礎（ホームネットワークで使われるネットワーク技術について学ぶ）						
第5回	復習						
第6回	ホームネットワークの適切な設定（SSIDなどの適切な設定について学ぶ）						
第7回	ホームネットワークにおけるセキュリティ（ホームネットワークにおける脅威と対策について学ぶ）						
第8回	周辺機器との接続（周辺機器と接続するための近距離無線通信について学ぶ）						
第9回	ネットワークセキュリティ1（攻撃者とマルウェアについて学ぶ）						
第10回	ネットワークセキュリティ2（攻撃の方法とそれに対するセキュリティツール等を使用してネットワークを保護する方法について学ぶ）						
第11回	ネットワークセキュリティ3（ファイアウォールなどを使用してネットワークを保護する方法について学ぶ）						
第12回	セキュリティの基本的な考え方について学ぶ						
第13回	セキュリティインシデントを擬似体験し、インシデントレスポンスについて学ぶ						
第14回	ルータOSについて学ぶ						
第15回	まとめ						
成績評価の方法	課題やクイズ：100％						
準備学修（予習・復習、課題等）	授業における資料や教材を用いて予習・復習を行う。 また、演習課題については授業外の時間も活用し課題を完了させること。 （あわせて各回180分）						
教科書							
書名	著者		出版社		ISBN		備考
指定なし							
参考書	Cisco Networking Academy						
備考	「ネットワーク技術」「ネットワーク構築Ⅰ」の単位を修得済みまたは同等の知識、スキルを有していること						
昨年度からの振り返り							

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	情報セキュリティ I					授業形態	講義
授業コード	PS11330001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	平山 敏弘、林 憲明						
授業概要	<p>国によるデジタル田園都市国家構想の推進など、ICT利用なしの世界が考えられない現在、万一企業において情報流失などの事件が発生した場合には、金銭的な損失や企業イメージの低下など、計り知れない損害を被ることになる。また近年セキュリティ人材が、日本国内において約20万人不足と叫ばれているが、セキュリティ人材といってもその役割は様々であり、その多くはセキュリティの専門家ではなく、ITを活用して通常の業務を行う中で、セキュリティ知識も身につけておいてほしい、いわゆる「プラス・セキュリティ人材」と呼ばれる人材である。</p> <p>本授業では前半にWebシステムに潜むセキュリティ脅威やSNS利用の際の注意点などを理解することで、社会人に必要なセキュリティリテラシーを学ぶ。中盤以降では、Webシステムを中心としたコンピュータシステムの各構成要素の概要と各構成要素において注意すべきセキュリティ事項について事例を交えながら学び、情報セキュリティ全般に対する学習を行う。最後の総まとめでは授業全般を振り返り、セキュリティ専門家だけでなく、どのような分野に進んでも必要とされる「プラス・セキュリティ人材」に求められる、情報セキュリティに関する知識とスキルの定着を図る。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>ICTに大きく依存している現代社会において、情報漏えい事件やインターネット上での詐欺事件などが後を絶たない。これはICTが取り扱う情報の価値が年々高まってきていることが背景にある。将来ICTを職業とする人はもちろんのこと、ICT業界以外に進む人にとってもICTを使用せずに暮らすことがほとんど不可能な状況の中、情報の取り扱い方やその危険性について理解しておくことが、今後益々必要になってくる。</p> <p>本授業では、ICTにおける情報とは何であり、情報セキュリティの事件や事故が自分自身を含む社会全体に対して、多大な影響を与える可能性があることを、事例などを通じて、「セキュリティは自分ごと」を実感し、理解することを目標とする。加えて情報セキュリティにおける攻撃方法とその対策についての概要を理解し、今後社会人として情報セキュリティに対して何をすべきかについて、自身で対策できる対処方法を理解し、実行できることを目標とする。</p>						
授業計画							
第1回	<p>(1) 情報におけるリスクとは</p> <p>現代における情報とは何であり、その情報がなぜ価値あるものに変化したのかについて学びます。</p> <p>加えて、ITにおける情報がどのような危機に瀕しているのかを学ぶことで、情報セキュリティの重要性を理解します。</p>						
第2回	<p>(2) インターネット概説&Webシステム概要</p> <p>インターネット誕生の背景を学び、なぜインターネットが社会に広まったのかについて学びます。またWebシステムがどのような構成で構築されているかについて理解します。</p>						
第3回	<p>(3) ネットワーク基礎技術</p> <p>サイバーセキュリティを理解する前提知識となるインターネットやTCP/IPプロトコルの概要を理解します。またIPアドレスを使用してデータがどのように相手に届き、通信が行われるのかについて学びます。</p>						
第4回	<p>(4) ネットワークリスク</p> <p>ネットワークに潜んでいる脅威やリスクについて理解し、ネットワーク基礎技術で学んだネットワークの仕組みを利用して、どのようにセキュリティインシデントが発生するのかについて学びます。</p>						
第5回	<p>(5) Webサーバーシステムリスク</p> <p>Webシステムにおいて、WebサーバーおよびDBサーバーなどWebシステムを構成するコンポーネントにおけるリスクを理解すると共に、その対策例について学びます。</p>						
第6回	<p>(6) Webアプリケーションへの脅威</p> <p>Webアプリケーションの仕組みを学ぶと共に、どのようなセキュリティ脅威があるのかを理解し、Security by DesignなどWebアプリケーション作成時における、設計段階からのセキュリティを考慮する重要性について学びます。</p>						
第7回	<p>(7) 映画に学ぶ情報セキュリティ基礎技術</p> <p>情報セキュリティがテーマの映画を鑑賞し、その中で使用されているサイバー攻撃手法について、第6回までの講義で学んだ知識を利用して見つけ出すことで、セキュリティスキルの整理と定着を図ります。</p>						
第8回	<p>(8) サイバーセキュリティ対策基礎技術まとめ</p> <p>Webシステムを構成する各コンポーネントの役割とそこに潜む脅威やリスクについてのまとめを行い、各回の講義で学んだ内容を総合的に理解します。</p>						
第9回	<p>(9) オペレーティングシステムにおけるセキュリティ</p> <p>オペレーティングシステムにおけるセキュリティリスクを理解し、その対策を学びます。</p>						
第10回	<p>(10) 認証とアクセス制御</p> <p>認証技術とアクセス制御方法について理解し、データ保護の重要性和その対策方法を学びます。</p> <p>また暗号化の基本技術については、簡易的なデータ暗号化および復号化を体験することで理解を深めます。</p>						
第11回	<p>(11) クラウドセキュリティ</p> <p>クラウドコンピューティングの概要、およびクラウド環境におけるセキュリティ／プライバシーの脅威と対策について学びます。</p>						

第12回	(12) 新たな働き方に潜むセキュリティの脅威と事業継続におけるセキュリティの在り方 攻撃者のターゲットが個人へ移行している現状を理解することと、自然災害などと同様にセキュリティにおいても事業継続の考え方が必要なことを理解します。			
第13回	(13) スマートデバイスにおけるセキュリティの脅威と防御策 スマートデバイスやSNSの標準設定は、世界基準で考えられているため、使用者自身が設定内容を理解していないことで、予期せぬ自身の情報公開をしているケースがあり、その結果情報漏えい事件に発展している場合もあります。そのような危険に巻き込まれないため、サイバーセキュリティ脅威の理解と防御策を学びます。			
第14回	(14) 自分の身の回りに潜むセキュリティ 大学を狙ったサイバー攻撃事例などをもとに、身近にある情報漏えいの危険性を理解すると共に、企業・組織としてのリスクを学ぶことにより、企業における情報漏えい対策を学びます。			
第15回	(15) 情報セキュリティ基礎総括 今日の社会で求められている「プラス・セキュリティ人材」とは、どのような人材であるのかを知ることにより、全15回講義で学んだことが、どのような分野に進んだとしても受講者自身が実践の場で活用出来る内容であることを理解し、講義終了後もセキュリティ意識が必要であることを理解します。			
成績評価の方法	(1) 試験・テストについて 定期試験を実施します。 (2) 試験以外の評価方法 講義時に提出する授業内容確認小レポートによる評価をします。 (3) 成績の配分・評価基準等 定期試験の評価に加え、毎回の授業時に提出する小レポートおよび確認テストを下記の割合で評価します。 (定期試験70%、授業内での提出物30% (小レポート15%、確認テスト15%))			
準備学修 (予習・復習、課題等)	(予習) 次回講義内容について、インターネットなどを利用して、具体的なセキュリティインシデント (事件・事故) 事例などを調査しておくこと。また自身や自分の周りでの身近な事例があるかについても調べておくこと。(標準学習時間：1.5時間) (復習) 毎回講義の最後に確認テストを実施するので、その正解と理由について学んだ講義内容を復習して、確認しておくこと。答え合わせは、基本翌週講義の最初に実施する。(標準学習時間：1.5時間)			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
自分ごとのサイバーセキュリティ～手口を理解し、対策を知らう～	平山 敏弘	ビジネス教育出版社	978-4828310923	
参考書	講義時に投影する資料については、Googleクラスルームで配布する。 参考文献： ・「情報セキュリティ白書2025」 独立行政法人情報処理推進機構 (IPA)、ISBN 978-4-905318-81-1 ・「実践サイバーセキュリティ入門講座 現場に残された痕跡からハッカーの攻撃を暴け」 林 憲明、SBクリエイティブ、ISBN-13：978-4815634254 ・「CISOのための情報セキュリティ戦略」 日本ネットワークセキュリティ協会、技術評論社、ISBN-13：978-4297132941			
備考	当講義では、UNIPAでの出席コード入力以外に、その場での出欠確認 (点呼) と出席カードの提出により、出欠を確認します。 * 本科目は、ICT関連の開発職としての実務経験のある教員による授業科目です。			
昨年度からの振り返り	・ 暗い説明資料が欲しいとの声がありましたので、教科書を使用するようにしました。 ・ 当講義は知識習得の座学中心のため本格的なグループワーク導入は難しいですが、質問形式の仕組みを駆使したり、履修生自らが「体を使って体験」することで理解を深めるなどの工夫をしています。 ・ 当講義のレベルは、セキュリティリテラシー＋αの「プラス・セキュリティ人材」向けのレベルを継続していきます。さらにアドバンスの学習をしたい方は、情報セキュリティ演習Ⅱの履修も是非検討ください。 ・ 「動画があるのでわかりやすかった」や、「コンピテンシーやコミュニケーションに関する内容が興味深く、また役立った」などの声もありましたので、その点については継続していきます。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	担当学年	カリキュラムにより 異なります。	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	[旧]情報セキュリティ演習Ⅱ／[新]情報セキュリティⅡ					授業形態	演習
授業コード	PS21330001	単位数	2単位	必修・選択の 別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	平山 敏弘、林 憲明						
授業概要	<p>本科目は、セキュリティコンサルタントの現場でも実施されているリスクアセスメント手法を学生でも理解できるように、グローバルで多く実施されているサイバー脅威の机上演習（TTX：Table Top Exercise）を取り入れて進めていく。</p> <p>最初に情報セキュリティマネジメントの視点より、企業で準備しなければならないセキュリティポリシーを学び、ビジネスにおける情報の価値を理解することにより、情報におけるリスクとは何かを他者に説明できることを目指す。中盤以降は、学生では経験することが難しいリスクアセスメントやセキュリティインシデント対応・手法について、グローバル標準であるサイバーセキュリティフレームワーク（CSF）などを参考に、セキュリティインシデント発生時の役割や防御・復旧方法を意識したサイバー脅威を想定した机上演習を通じて、セキュリティインシデント発生時の役割や防御・復旧方法などを学ぶ。また、独立行政法人 情報処理推進機構（IPA）から毎年発表される「情報セキュリティ10大脅威」など最新セキュリティ状況を交えることで、最新のセキュリティ脅威に対応したセキュリティシステム対策ができることを目標にしている。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>デジタル田園都市国家構想の推進など、デジタル化時代が進む現代において、セキュリティは基盤技術と変化しているが、そのセキュリティ分野は知識を学んだだけでは、身に付けた能力を活かす事ができない分野である。また、近年セキュリティ人材が約20万人不足と叫ばれているが、セキュリティ人材といってもその役割は様々であり、その多くはセキュリティの専門家ではなく、ITを活用して通常の業務を行う中で、セキュリティ知識も身につけておいてほしい、いわゆる「プラス・セキュリティ人材」と呼ばれる人材である。</p> <p>本科目では、学生では学ぶことが難しいセキュリティインシデント発生時の対応をケーススタディ形式での演習を通じて学ぶことにより、セキュリティに携わる仕事の種類や役割を理解すると共に、セキュリティマネジメントやセキュリティ運用についての理解を深め、学生が下記のことができるようになることを目標としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティインシデント発生時の対応について、基本行動を実行できること ・セキュリティに携わる仕事の種類や役割を説明できること ・セキュリティマネジメントに必要な管理項目を列挙できること ・セキュリティ運用に必要な作業項目や運用体制について説明できること 						
授業計画							
第1回	<p>（1）身の回りにある危険と個人レベルでのリスク管理</p> <p>一般人においてもセキュリティを考慮しなければならない時代である点を理解するため、個人レベルでのリスクとは何かを学びます。</p>						
第2回	<p>（2）身近なインシデント事例</p> <p>身近なインシデント事例や情報セキュリティ10大脅威を学んだ後、インシデント事例調査の演習を行います。</p>						
第3回	<p>（3）身近なインシデント事例の発表</p> <p>第2回で調査したインシデント事例についての発表を行います。</p>						
第4回	<p>（4）セキュリティ運用体制とセキュリティインシデント初動対応演習</p> <p>セキュリティ運用についてCSIRT（Computer Security Incident Response Team）とは何であり、そのチーム内でのそれぞれの役割について理解します。</p> <p>運用体制について理解した後、自分のPCがウィルス感染し、いきなりマルウェアに「感染しました」とのポップアップ画面が表示された時を想定した演習を実施して理解を深めます。</p>						
第5回	<p>（5）身近なインシデントを分類</p> <p>第2回および第3回の演習で調査した身近なインシデント事例を攻撃毎に分類する演習を実施します。</p>						
第6回	<p>（6）通販サイトの問題点と改善策</p> <p>ケーススタディを通して、通販サイトで発生したセキュリティインシデントの問題点と改善策を考える演習を行います。</p>						
第7回	<p>（7）非機能要件とセキュリティ（当通販サイトで検討すべき非機能要件演習）</p> <p>機能要件と非機能要件の概要を学び、非機能要件の中で検討すべきセキュリティ項目について学びます。</p> <p>ケーススタディである通販サイトにおいて、検討すべき非機能要件の検討を行う演習を行います。</p>						
第8回	<p>（8）セキュリティマネジメント基礎</p> <p>企業活動を行う上で、個人情報などの秘密性の高いデータを取り扱うことが必須となり、そのようなデータ取り扱い時のセキュリティ対策や方針をセキュリティポリシーとして取りまとめます。セキュリティポリシーとはどのようなものかなど、セキュリティマネジメントの基礎を学びます。</p>						
第9回	<p>（9）サイバーキルチェーンとは</p> <p>近年、サイバー攻撃は段階を踏んで行われるようになっていきます。この攻撃を構造化したものが「サイバーキルチェーン」であり、標的型攻撃の一連の行動を軍事行動に似せてモデル化されたものですが、事例を通じてサイバーキルチェーンの理解を深めます。</p>						

第10回	(10) セキュリティ運用と通販サイトでの封じ込め対応演習 グローバル標準であるCSF（サイバーセキュリティフレームワーク）やJPCERT/CCインシデントハンドリングマニュアルなどを参考に、セキュリティインシデント発生時の役割や防御・復旧方法の基礎を学びます。 その後、サイバークルチェーンの考え方に基づき、ケーススタディの通販サイトにおける封じ込め対応について、リアル感を持った机上演習を実施します。			
第11回	(11) 封じ込め対策の経営層への報告演習 演習で検討した封じ込め対策について、経営層を意識した模擬報告の発表（演習）を行います。			
第12回	(12) 多層防御とスイスチーズモデル 事故モデルとして提唱された「スイスチーズモデル」は、事故は単独で発生するのではなく複数の事象が連鎖して発生するとしたものです が、情報リスク管理の多層防御の考え方にも通じるものです。スイスチーズモデルと多層防御とは何かを学び、ケーススタディの通販サイ トにおける多層防御対策を検討する演習を行います。			
第13回	(13) 再発防止策検討結果の発表 演習で検討した多層防御の視点からの再発防止対策について、経営層を意識した模擬報告の発表（演習）を行います。			
第14回	(14) 情報漏えい被害額の算定 漏えいした個人情報について、1人当たりの損害賠償額は、500円ではありません。今回情報漏えいしてしまったケーススタディ企業での、 想定される損失額を算出する演習を行い、情報漏えいが企業経営へ大きな影響を与えることを理解します。			
第15回	(15) まとめ 演習を通じての気づきや学びについて、履修生各人から発表すると共に、第一線での経験がある教員が発表に対して補足説明を行うこと で、学生では学ぶことが難しいセキュリティマネジメントやセキュリティインシデントハンドリングについての理解を深めます。			
成績評価の方 法	(1) 試験・テストについて ・定期試験に準ずる最終レポートを提出していただきます。 (2) 最終レポート以外の評価方法 ・講義時に提出する演習資料と発表評価 ・授業時の貢献度（毎回の講義時に提出する小レポートなどにより判断） (3) 成績の配分・評価基準等 最終レポートの評価に加え、授業時作成資料・発表内容および授業への貢献度を総合的に判断して評価します。 （最終レポート70％、授業への貢献度（毎回課す小レポート）30％）			
準備学修（予 習・復習、課 題等）	演習成果を発表することが含まれる講義のため、チームおよび個人での演習資料作成など、約4時間程度の授業時間以外の予習・復習が必 要。 復習） 講義内で実施した演習について、講義時間内で終了しない内容の継続検討および、演習結果資料のまとめを行っておくこと。（標準学習時 間：2時間） 予習） 次回講義にプレゼンテーション実施できるため発表資料の準備。または、次回講義の際における講義内で使用される言葉の内容などを調べて おくなどの事前調査を行っておくこと。（標準学習時間：2時間）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	教科書：必要な資料については、授業時に配布する資料を使用する。 参考文献： ・「自分ごとのサイバーセキュリティ～手口を理解し、対策を知ろう～」 平山敏弘、ビジネス教育出版、ISBN-13：978-4828310923 ・「実践サイバーセキュリティ入門講座 現場に残された痕跡からハッカーの攻撃を暴け」 林憲明、SBクリエイティブ、ISBN-13：978-4815634254 ・「セキュリティエンジニアの知識地図」 上野宣ほか、技術評論社、ISBN-13：978-4297147488 ・「CSIRT：構築から運用まで」 日本シーサート協議会、NTT出版、ISBN-13：978-4757103696			
備考	本科目では、UNIPAでの出席コード入力以外に、その場での出欠確認（点呼）と出席カードの提出により、出欠を確認します。			
昨年度からの 振り返り	机上演習（TTX：Table Top Exercise）中心の講義であり、サイバー攻撃や情報漏えい事件での被害額想定など、セキュリティ専門家を目指 す人はもちろんのこと、経営視点でのセキュリティを考えたり、マネジメント面での対応など、「プラス・セキュリティ人材」向けとして も、学んでもらいたい講義内容になります。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	[旧]データサイエンス／[新]データサイエンス基礎					授業形態	講義
授業コード	DSC1350001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	梶田 尚亨						
授業概要	<p>データサイエンスは、文字通り、“データを科学（分析）する”ものであるが、人間の代わりに機械が代替することを目的としているAIとは異なり、分析結果を“人間が解釈する”ことで実社会に有益な知見（価値）を提供するものである。これを実践するためには、単にデータを統計解析するだけでなく、分析対象の背後にある知識を駆使してデータを観察することが重要となる。特に、以下の3つのスキルが必要になる。</p> <p>（1）ビジネス力（課題背景を理解した上で、ビジネス課題を整理し、解決する力）</p> <p>・分析対象の背景や知識に基づき、分析結果を評価・解釈すること</p> <p>（2）データサイエンス力（数理モデル、統計モデル、機械学習モデルを駆使して、適材適所で使いこなす力）</p> <p>・分析対象の特性や目的に応じて、適切な分析手法を選択すること</p> <p>（3）データエンジニア力（実際にデータを意味のあるような形に加工・表現する力）</p> <p>・計算機を用いてデータを加工し、人間が解釈し易い形に処理すること</p> <p>本講義では、はじめに、データサイエンスに必要なこれら3つのスキルの概要について学ぶ。そして、データサイエンスの主役である“データ”を解釈するための手法（データの特性分析等）やモデリング手法（数理モデル、統計モデル、機械学習モデル化等）の基礎についても学ぶ。</p> <p>さらに、実データとPythonのサンプルコードを使ってデータ分析の演習を行うことで、データサイエンスの各手法の特徴を体感しながら理解を深めていく。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>実応用の分野で用いられている代表的なデータサイエンスに関する手法を用途に応じて適材適所で見極められることを究極の目標とし、各手法の特徴や用途が平易な表現で説明できることを目指す。</p>						
授業計画							
第1回	<p>イントロダクション</p> <p>授業の進め方、使用するデータセット</p> <p>実社会での適用事例からデータサイエンスの役割と全体的な流れ、さらにはAIとの違いを学ぶ</p>						
第2回	<p>データサイエンスに必要な3つのスキル</p> <p>ビジネス力、データサイエンス力、データエンジニア力の概要を学ぶ</p>						
第3回	<p>データ分析時に用いるモデリング手法</p> <p>数理モデル、統計モデル、機械学習モデルの基礎を学ぶ</p>						
第4回	<p>データ分析の具体的な流れの概要</p> <p>「データ前処理」、「分析モデルの構築」、「モデルの妥当性評価」を学ぶ</p>						
第5回	<p>データ前処理（1）</p> <p>データの特性を評価する手法を学ぶ</p>						
第6回	<p>データ前処理（2）</p> <p>規格化・標準化や特徴量抽出などデータを加工する手法を学ぶ</p>						
第7回	<p>様々なデータ分析手法(1)</p> <p>・時系列分析</p>						
第8回	<p>様々なデータ分析手法(2)</p> <p>・単回帰分析</p>						
第9回	<p>様々なデータ分析手法(3)</p> <p>・時系列分析と回帰分析(1)</p>						
第10回	<p>様々なデータ分析手法(4)</p> <p>・時系列分析と回帰分析(2)</p>						
第11回	<p>様々なデータ分析手法(5)</p> <p>・教師あり学習と教師なし学習モデル</p> <p>・アソシエーション分析(1)</p>						
第12回	<p>様々なデータ分析手法(6)</p> <p>・アソシエーション分析(2)</p>						
第13回	<p>最終課題発表準備(1)</p> <p>・最終課題説明</p> <p>・各自、どのようなデータ分析を行うのかテーマを検討</p>						

第14回	最終課題発表準備(2) ・各自で設定したテーマでデータ分析がうまくできない等の相談に乗ります			
第15回	最終課題発表 ・全員に必ず発表していただきます			
成績評価の方法	最終課題(発表含む)：30％ 毎回の課題：60％ 授業取り組み状況等の学習意欲：10％			
準備学修（予習・復習、課題等）	予習：事前に配布された資料を確認。不明点はインターネット等で調べる。できれば事前にサンプルプログラムを動かしてみる(90分程度) 復習：配布された資料のレビュー。サンプルプログラムから得られたことをまとめる。課題を提出する(90分程度) 特に、欠席した場合は次回に備え、自身で資料を読み、必ずサンプルプログラムを動かし、何がわかったのかよく理解しておくこと。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	資料を配布			
	◎準教科書 『Pythonで儲かるAIをつくる』 赤石雅典（著）、日経BP、2020年 ◎参考文献 『応用基礎としてのデータサイエンス』 北川源四郎（著）、講談社、2022年			
備考	・本授業は、“技術系の専門科目”、すなわち、技術志向の学生向けの講義である。従って、微分積分や確率統計に関する基礎知識があることが望ましい。 ・プログラムのサンプルコードを活用するが、授業の中でプログラミング言語の教育は設定していないので、自習できるスキルがあることを前提とする。 ・進捗状況により授業内で扱う題材の難易度を変更する場合がある。 *本科目は、ICT関連の開発職としての実務経験のある教員による授業科目です。			
昨年度からの振り返り	昨年度の演習では、データ分析手法をよく理解できていない方が多くいたため、演習時の説明をよりわかりやすくするようにします。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	データサイエンス応用					授業形態	演習
授業コード	DS21320001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	梶田 尚亨						
授業概要	データサイエンスは、文字通り、“データを科学（分析）する”ものであるが、人間の代わりに機械が代替することを目的としているAIとは異なり、分析結果を”人間が解釈する”ことで実社会に有益な知見（価値）を提供するものである。これを実践するためには、単にデータを統計解析だけでなく、分析対象の背後にある知識を駆使してデータを観察することが重要となる。 本科目は、「データサイエンス基礎」を履修した学生がさらに深く、多様なデータ分析手法を学び、データサイエンスの知見を得ようとするものである。 本科目では「データサイエンス基礎」よりも難易度の高い、実データとPythonのサンプルコードを使ったデータ分析の演習を行うことで、データサイエンスの各手法の特徴を体感しながら理解をより深めていく。						
授業の目的・到達目標	実応用の分野で用いられている代表的なデータサイエンスに関する手法を用途に応じて適材適所で見極められることを究極の目標とし、「データサイエンス基礎」履修時よりも各手法の特徴や用途がより明確に自身の平易な表現で説明できることを目指す。						
授業計画							
第1回	イントロダクション ・授業の進め方、使用するデータセット ・最終課題とその発表について						
第2回	重回帰分析（1） ・重回帰分析モデルの基礎						
第3回	重回帰分析（2） ・様々な重回帰分析手法						
第4回	重回帰分析（3） ・重回帰分析の実践						
第5回	クラスタリング（1） ・教師あり学習と教師なし学習モデル						
第6回	クラスタリング（2） ・クラスタリングの基礎						
第7回	クラスタリング（3） ・クラスタリングの実践						
第8回	主成分分析（1） ・主成分分析の原理：固有値と固有ベクトル						
第9回	主成分分析（2） ・主成分分析結果の評価方法						
第10回	主成分分析（3） ・主成分分析の実践						
第11回	複合手法による分析（1） ・課題を見極め、分析手法を選択						
第12回	複合手法による分析（2） ・分析結果の評価方法						
第13回	最終課題発表準備（1） ・最終課題説明 ・各自、どのようなデータ分析を行うのかテーマを検討						
第14回	最終課題発表準備（2） ・各自で設定したテーマでデータ分析がうまくできない等の相談に乗ります。						
第15回	最終課題発表 ・全員に必ず発表していただきます。						

成績評価の方法	最終課題（発表含む）：30％ 毎回の課題：60％ 授業取り組み状況等の学習意欲：10％			
準備学修（予習・復習、課題等）	予習：事前に配布された資料を確認。不明点はインターネット等で調べる。できれば事前にサンプルプログラムを動かしてみる（90分程度） 復習：配布された資料のレビュー。サンプルプログラムから得られたことをまとめる。課題を提出する（90分程度） 特に、欠席した場合は次回に備え、自身で資料を読み、必ずサンプルプログラムを動かし、何が分かったのかよく理解しておくこと。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	◎準教科書 『Pythonで儲かるAIをつくる』 赤石雅典（著）、日経BP、2020年 ◎参考文献 『応用基礎としてのデータサイエンス』 北川源四郎（著）、講談社、2022年			
備考	・本科目は、「データサイエンス基礎」を履修して得た知識があるものとして行うため、「データサイエンス基礎」を履修していることが望ましい。 ・また、“技術系の専門科目”、すなわち、技術志向の学生向けの講義である。従って、微分積分、ベクトルと行列、確率統計に関する基礎知識があることが望ましい。 ・プログラムのサンプルコードを活用するが、授業の中でプログラミング言語の教育は設定していないので、自習できるスキルがあることを前提とする。 ・進捗状況により授業内で扱う題材の難易度を変更する場合がある。 *本科目は、ICT関連の開発職としての実務経験のある教員による授業科目です。			
昨年度からの振り返り	昨年度は未開講のため該当なし。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	プロジェクト入門					授業形態	演習
授業コード	IPJ1510001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	石村 源生						
授業概要	本科目では、2年次に配属されるLabでのプロジェクト遂行に必要な基礎的なスキルを学び、実践を通じてその理解を深める。コミュニケーション、ファシリテーション、チームビルディング、リーダーシップ、プロジェクトマネジメントといった要素を体系的に学習し、協働して成果を生み出す力を養う。講義、演習、iUtopiaへの参加、Lab訪問などを通じて、実践的に学ぶ。						
授業の目的・到達目標	・プロジェクトにおけるグループワークの基本を理解し、協働のためのスキルを身につける。 ・効果的な話し合いの進め方を学び、意思決定の質を向上できるようになる。 ・会議のファシリテーションやドキュメンテーションの技術を得し、チームの成果を最大化できるようになる。 ・チームビルディングの理論を理解し、実際のプロジェクトで応用できるようになる。 ・シェアド・リーダーシップの概念を学び、メンバー全員が主体的に関与するチーム運営を実践できるようになる。 ・プロジェクトマネジメントの基本を得し、計画立案、進捗管理、タスク調整などを適切に行えるようになる。						
授業計画							
第1回	イントロダクション ・本授業の導入として、受講生に「プロジェクト入門」の目的や進め方を説明する。 ・まず、講師の自己紹介を行い、授業の趣旨や到達目標を共有する。 ・続いて、プロジェクトとは何かについて基本概念を解説し、チームで成果を生み出すことの重要性を理解してもらう。 ・加えて、授業の進め方や成績評価基準についても説明し、受講生が学習の流れを把握できるようにする。 ・グループワークに必要な下記の要素について理解する。 - コミュニケーション -- 自分を知る -- 相手を知る -- 相手から見た自分を知る -- 自分から見た相手を伝える -- 話す -- 聞く - コラボレーション -- 合意する -- 協力する - ファシリテーション						
第2回	話し合いの作法 プロジェクトを成功させるためには、効果的な話し合いのスキルが欠かせない。今回は、日本人が話し合いを苦手とする背景について学ぶ。特に、集団の同質性が高いことや、話し合いに対する期待が低いこと、そして正解主義に陥りやすいことが問題であることを理解し、これらを克服するための方法を考える。さらに、話し合いが今後ますます重要になる理由についても触れ、良い話し合いのプロセスとして「対話」と「決断」のバランスを理解する。						
第3回	会議ファシリテーションとドキュメンテーション プロジェクトにおける会議は、単なる情報共有の場ではなく、意思決定や合意形成を行う重要な機会である。今回は、会議の質を向上させるためのファシリテーション技術を学ぶ。議論を円滑に進めるための工夫や、参加者の意見を引き出しながら論点を整理する方法について、具体的な事例を交えながら解説する。また、ドキュメンテーションの重要性にも焦点を当て、議事録の効果的な書き方や記録の残し方を学ぶ。						
第4回	チームビルディング プロジェクトにおいて、個々のメンバーが力を発揮するためには、まずチームとしての基盤を築く必要がある。今回は、チームビルディングの初期段階に焦点を当て、チームの形成（Forming）から混乱期（Storming）までのプロセスを学ぶ。タックマンモデルを用いて、チームがどのように成長していくのかを理論的に理解するとともに、心理的安全性の確保がいかに重要であるかを考察する。また、リーダーの役割についても学び、コンサルタント型、ティーチャー型、マエストロ型、ファシリテーター型のリーダーシップの違いを理解する。次にチームが成熟し、実際に成果を出すまでのプロセスに焦点を当てる。タックマンモデルのNorming（規範形成）とPerforming（成果創出）の段階について学び、チームの一体感を高める方法や、効果的なコラボレーションのポイントを理解する。特に、個々のメンバーの強みを活かしながらチームとしての成果を最大化する方法について考え、実際の事例を交えながら学習する。						
第5回	リーダーシップ チームを成功へ導くためには、リーダーシップが不可欠である。しかし、現代の組織では、一人のリーダーが全てを担う従来のスタイルではなく、メンバー全員がリーダーシップを発揮する「シェアド・リーダーシップ」が求められている。リーダーシップとは何か、リーダーシップの要素にはどのようなものがあるのかを理解し、自分自身がどのような形でリーダーシップを発揮できるのかを考える。						
第6回	プロジェクトマネジメント プロジェクトを成功させるためには、適切な計画と進捗管理が欠かせない。今回は、プロジェクトの基本構造を学ぶ。プロジェクトの要素として、人員、最終成果物、中間成果物、予算、時間、情報、コミュニケーションなどを整理し、それぞれがどのように影響し合うのかを理解する。また、タスクの相互依存関係についても学び、タスク管理の方法を実践的に学習する。						
第7回	まとめと振り返り 最終回では、これまでの学びを振り返り、自身の成長を確認するとともに、今後のプロジェクト活動にどのように活かしていくかを考え						

	る。受講生それぞれが印象に残ったことや難しかったことを振り返りながら、自身の強みや課題を明確にする。最後に、プロジェクト遂行の本質や、チームワークとリーダーシップの重要性について再確認し、受講生が今後のLabでの学びやキャリアに活かせるようにする。				
第8回	iUtopia（ちょもろー）への参加				
第9回	iUtopia（ちょもろー）への参加				
第10回	iUtopia（ちょもろー）への参加				
第11回	iUtopia（ちょもろー）への参加				
第12回	Lab説明会への参加				
第13回	Lab見学				
第14回	Lab見学				
第15回	Lab見学				
成績評価の方法	<div>- 講義</div> <div>- 課題（49％）</div> <div>- 授業への貢献（14％ 加点要素）</div> <div>- iUtopia（ちょもろー）の見学（25％）</div> <div>- Lab説明会（6％）</div> <div>- Lab見学（20％）</div>				
準備学修（予習・復習、課題等）	<div>予習（各回90分）：</div> <div>第1回から第7回までは、授業で扱うテーマについて、文献やインターネットを用いて自分なりに調べ、不明点・疑問点を整理しておくこと。また、事前課題が提示された場合は、必ず取り組むこと。</div> <div>第8回以降は、自身の興味・関心や2年次以降のLab配属後にどのようなプロジェクトに取り組みたいかを整理するとともに、配属希望のLabを検討すること。</div> <div>復習（各回90分）：</div> <div>第1回から第7回までは、授業内容を振り返り、学習内容の定着を図るとともに、興味・関心のある点について、各自でさらに調べ、理解を深めること。</div> <div>第8回以降は、提示される事後課題に必ず取り組むこと。</div>				
教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
指定なし					
参考書	授業で適宜指示				
備考					
昨年度からの振り返り	より実践的な授業内容に改善する。				

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	基礎プロジェクトⅠ					授業形態	演習（卒業研究）
授業コード	FP1151	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Kim Jieun、中田 豊久、Kamyā Yekeh Yazdandoost、梶田 尚亨、韓 旭、阿部川 久広、石村 源生、江端 浩人、片桐 雅二、志村 一隆、中嶋 隆一、桐谷 恵介、奥村 耕一、斎藤 祐士、仁木 隆大、小林 久美子、松村 太郎、山内 正人、Joe Hug、佐々木 竜介、堀野 裕子、康 翰娜、山中 哲男、岡田 直己						
授業概要	<p>本科目、2年次後期配当の「基礎プロジェクトⅡ」、3年次後期配当の「プロジェクト実践演習Ⅰ」及び4年次配当の「プロジェクト実践演習Ⅱ・Ⅲ」の履修を通じて、プロジェクトを構想・企画・実践し、最終的に4年間の学びの集大成として卒業課題を作成する。</p> <p>本科目では、学生の興味・関心のある分野について、担当教員の指導の下、先行・関連研究の情報収集・論文読解、先行事例の調査・資料収集・実態把握、既存のビジネスモデル・サービス・製品等の分析、フィールドワーク、ケーススタディ等を行い、卒業課題の作成を見据えたプロジェクトを構想・企画する上で必要となる知見を広げる。あわせて、論理的な記述展開の方法、データのまとめ方や図表の示し方など、自らの主張を明確に表現し他者に伝える基礎的な技法を学ぶ。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>【授業目的】</p> <p>卒業課題の作成を見据えたプロジェクトを構想・企画する上で必要な知見を広げるとともに、卒業課題の作成に必要な基礎的な技能を身に付ける。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●興味・関心のある分野について、知見を広げる。 ●自らの主張を明確に表現し他者に伝える基礎的な技法を身に付けている。 ●先行研究・事例、既存のビジネスモデル・サービス・製品等を批判的に捉えることができる。 						
授業計画							
第1回	<p>ガイダンスとプロジェクトの概要</p> <p>授業の目的と進め方を説明するとともに、前期に扱うプロジェクトの分野を紹介する。プロジェクト型学習の進め方や、チームでの取組みにおける基本的な役割について理解する。また、テーマの例を紹介し、今後のプロジェクト活動の流れを確認する。</p>						
第2回	<p>プロジェクトテーマの理解と課題整理</p> <p>プロジェクトで扱うテーマや課題について説明する。テーマに関する調査やアイデア整理を行い、問題の背景や目的を理解する。調査結果をもとに、プロジェクトで取り組む課題の方向性を検討する。</p>						
第3回	<p>アイデア創出</p> <p>検討したアイデアを教員および他の学生に共有し、プロジェクトの方向性について議論する。取り組むテーマや課題を具体化するとともに、プロジェクトの基本方針を整理する。</p>						
第4回	<p>企画検討</p> <p>プロジェクトの基本方針を基に、プロジェクトの企画内容を検討・整理する。</p>						
第5回	<p>企画発表とフィードバック</p> <p>プロジェクトの企画内容を発表する。発表を通して、プロジェクトの目的や実現方法を共有する。教員および他の学生からの意見を参考に、企画内容を改善する。</p>						
第6回	<p>実施計画検討</p> <p>企画したプロジェクトの実現に向け、実施計画を検討する。</p>						
第7回	<p>実施計画の具体化</p> <p>実施計画をさらに具体化し、作業内容を整理する。プロジェクトの遂行に必要な要素を洗い出し、手順やスケジュールを検討する。</p>						
第8回	<p>プロジェクト実施</p> <p>実施計画に基づき、先行・関連研究・事例の調査・分析、フィールドワーク等を行う。</p>						
第9回	<p>プロジェクト実施</p> <p>先行・関連研究・事例の調査・分析、フィールドワーク等を継続して行う。</p>						
第10回	<p>中間発表</p> <p>プロジェクトの進捗状況を発表する。現在までの成果や課題について共有する。教員や他の学生からの意見を基に改善点を検討する。</p>						
第11回	<p>プロジェクト実施（改善と実装）</p> <p>中間発表で得られた意見をもとに、プロジェクトの改善を行う。</p>						
第12回	<p>プロジェクト実施（完成に向けた作業）</p> <p>最終成果物の完成に向けて作業を進める。必要に応じて内容の修正や改善を行う。</p>						

第13回	成果物の整理と発表準備 完成した成果物の整理を行う。発表資料を作成し、プロジェクトの内容や成果をまとめる。
第14回	最終発表 プロジェクトの成果を発表する。開発した内容や工夫した点、課題などを説明する。他の学生の発表を通して多様な取り組みを共有する。
第15回	振り返りとレポート作成 プロジェクト活動を振り返り、学んだ内容や課題について整理する。レポートを作成し、プロジェクトの成果や学習内容をまとめる。授業全体のまとめを行う。
成績評価の方法	プロジェクト成果物（40％）、発表内容（20％）、最終レポート（20％）、授業への取り組み状況（20％）として評価する。
準備学修（予習・復習、課題等）	各回の授業内容に関連する資料の確認や調査を行うとともに、授業内で進めるプロジェクト作業の準備や整理を行うこと。授業後は作業内容の振り返りや課題の整理を行い、次の作業に備えること。また、必要に応じてプログラム作成や資料作成などの作業を進めること。（あわせて各回180分）
教科書	
参考書	
備考	
昨年度からの振り返り	昨年度は未開講のため該当なし。

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	基礎プロジェクトⅡ					授業形態	演習（卒業研究）
授業コード	FP2151	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Kim Jieun、中田 豊久、Kamyā Yekeh Yazdandoost、梶田 尚亨、韓 旭、阿部川 久広、石村 源生、江端 浩人、片桐 雅二、志村 一隆、中嶋 隆一、桐谷 恵介、奥村 耕一、斎藤 祐士、仁木 隆大、小林 久美子、松村 太郎、山内 正人、Joe Hug、佐々木 竜介、堀野 裕子、康 翰娜、山中 哲男、岡田 直己						
授業概要	<p>本科目、3年次後期配当の「プロジェクト実践演習Ⅰ」及び4年次配当の「プロジェクト実践演習Ⅱ・Ⅲ」の履修を通じて、プロジェクトを構想・企画・実践し、最終的に4年間の学びの集大成として卒業課題を作成する。</p> <p>本科目では、2年次前期配当の「基礎プロジェクトⅠ」に引き続き、学生の興味・関心のある分野について、担当教員の指導の下、先行・関連研究の情報収集・論文読解、先行事例の調査・資料収集・実態把握、既存のビジネスモデル・サービス・製品等の分析、フィールドワーク、ケーススタディ等を行い、卒業課題の作成を見据えたプロジェクトを構想・企画する上で必要となる知見を広げる。あわせて、論理的な記述展開の方法、データのまとめ方や図表の示し方など、自らの主張を明確に表現し他者に伝える基礎的な技法を学び、その定着を図る。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>【授業目的】</p> <p>卒業課題の作成を見据えたプロジェクトを構想・企画する上で必要な知見を広げるとともに、卒業課題の作成に必要な基礎的な技能の定着を図る。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●興味・関心のある分野について、知見を広げる。 ●自らの主張を明確に表現し他者に伝える基礎的な技法を身に付けている。 ●先行研究・事例、既存のビジネスモデル・サービス・製品等を批判的に捉えることができる。 						
授業計画							
第1回	<p>ガイダンスとプロジェクトの概要</p> <p>授業の目的と進め方を説明するとともに、後期に扱うプロジェクトの分野を紹介する。プロジェクト型学習の進め方や、チームでの取り組みにおける基本的な役割について再確認する。また、テーマの例を紹介し、今後のプロジェクト活動の流れを確認する。</p>						
第2回	<p>プロジェクトテーマの理解と課題整理</p> <p>プロジェクトで扱うテーマや課題について説明する。テーマに関する調査やアイデア整理を行い、問題の背景や目的を理解する。調査結果をもとに、プロジェクトで取り組む課題の方向性を検討する。</p>						
第3回	<p>アイデア創出</p> <p>検討したアイデアを教員および他の学生に共有し、プロジェクトの方向性について議論する。取り組むテーマや課題を具体化するとともに、プロジェクトの基本方針を整理する。</p>						
第4回	<p>企画検討</p> <p>プロジェクトの基本方針を基に、プロジェクトの企画内容を検討・整理する。</p>						
第5回	<p>企画発表とフィードバック</p> <p>プロジェクトの企画内容を発表する。発表を通して、プロジェクトの目的や実現方法を共有する。教員および他の学生からの意見を参考に、企画内容を改善する。</p>						
第6回	<p>実施計画検討</p> <p>企画したプロジェクトの実現に向け、実施計画を検討する。</p>						
第7回	<p>実施計画の具体化</p> <p>実施計画をさらに具体化し、作業内容を整理する。プロジェクトの遂行に必要な要素を洗い出し、手順やスケジュールを検討する。</p>						
第8回	<p>プロジェクト実施</p> <p>実施計画に基づき、先行・関連研究・事例の調査・分析、フィールドワーク等を行う。</p>						
第9回	<p>プロジェクト実施</p> <p>先行・関連研究・事例の調査・分析、フィールドワーク等を継続して行う。</p>						
第10回	<p>中間発表</p> <p>プロジェクトの進捗状況を発表する。現在までの成果や課題について共有する。教員や他の学生からの意見を基に改善点を検討する。</p>						
第11回	<p>プロジェクト実施（改善と実装）</p> <p>中間発表で得られた意見をもとに、プロジェクトの改善を行う。</p>						
第12回	<p>プロジェクト実施（完成に向けた作業）</p> <p>最終成果物の完成に向けて作業を進める。必要に応じて内容の修正や改善を行う。</p>						

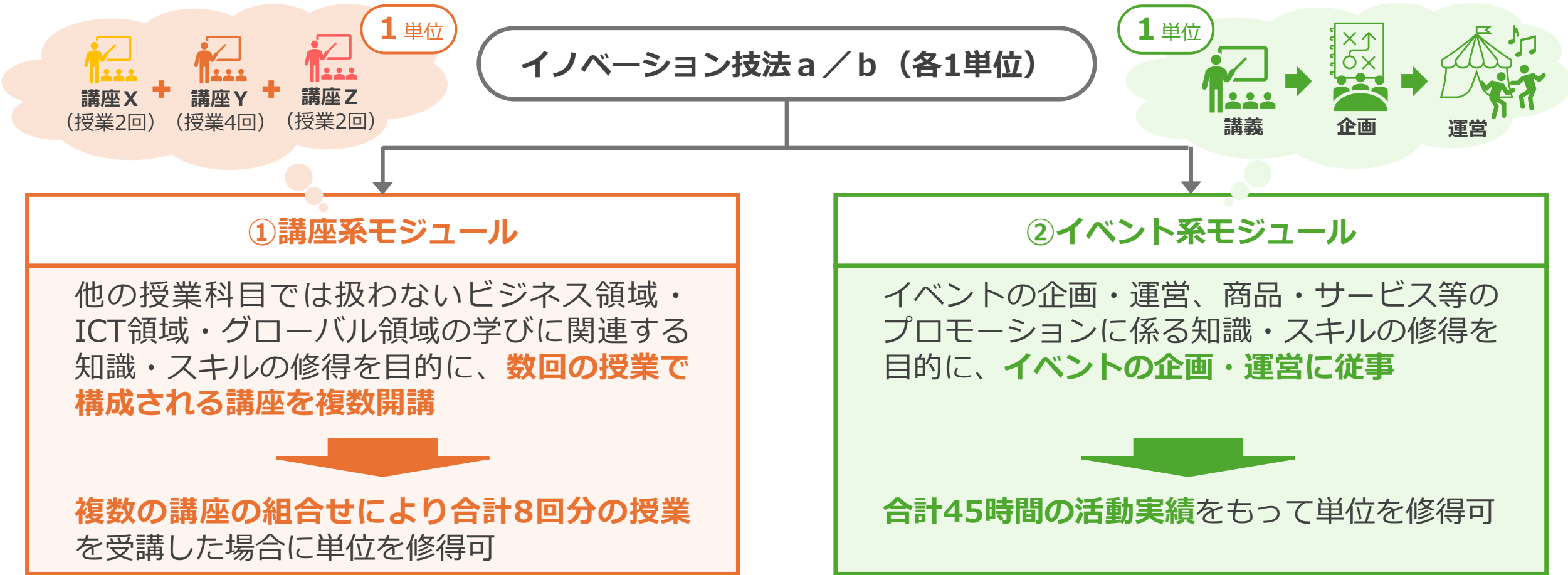
第13回	成果物の整理と発表準備 完成した成果物の整理を行う。発表資料を作成し、プロジェクトの内容や成果をまとめる。
第14回	最終発表 プロジェクトの成果を発表する。開発した内容や工夫した点、課題などを説明する。他の学生の発表を通して多様な取り組みを共有する。
第15回	振り返りとレポート作成 プロジェクト活動を振り返り、学んだ内容や課題について整理する。レポートを作成し、プロジェクトの成果や学習内容をまとめる。授業全体のまとめを行う。
成績評価の方法	プロジェクト成果物（40％）、発表内容（20％）、最終レポート（20％）、授業への取り組み状況（20％）として評価する。
準備学修（予習・復習、課題等）	各回の授業内容に関連する資料の確認や調査を行うとともに、授業内で進めるプロジェクト作業の準備や整理を行うこと。授業後は作業内容の振り返りや課題の整理を行い、次の作業に備えること。また、必要に応じてプログラム作成や資料作成などの作業を進めること。（あわせて各回180分）
教科書	
参考書	
備考	
昨年度からの振り返り	昨年度は未開講のため該当なし。

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年-4年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	[旧]イノベーション特論／[新]イノベーション特講a／b					授業形態	講義
授業コード	SL11510004	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	康 翰娜						
授業概要	<p>本科目では、大きく「コンテンツボーダーレスの時代を知る」、「グローバルビジネスを学ぶ」、「世界から日本を考える」という3つのテーマについて授業を行い、テーマごとの授業を行った後、履修者によるプレゼンテーションおよび履修者同士でのディスカッションの時間を作ります。みんなで「グローバルビジネス」、もしくは「グローバルコンテンツ」を少し考えてみる有意義な時間になればと思います。それが今後の人生における何かしらのエッセンスになることを期待しています。そのため、日本だけではなく、海外に興味を持つ学生、もしくはマスメディアやデジタルコンテンツに興味を持つ学生の履修を歓迎します。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>本科目では、グローバルを視野に入れ、ビジネスやコンテンツの世界の現実、経済の仕組み、企業活動の実態、企業経営や起業の方法、経営者の役割とリーダーシップ、ビジネスエリートに必要な資質と心構えなどを学び、その内容をビジネス現場で活かせる思考を身に付けます。</p>						
授業計画							
第1回	イントロダクション：本授業全体の概要						
第2回	<p>コンテンツボーダーレスの時代を知る（1） デジタルトランスフォーメーションで変化するコンテンツの価値</p>						
第3回	<p>コンテンツボーダーレスの時代を知る（2） グローバル時代に変化し続けるコンテンツ市場の現在</p>						
第4回	<p>コンテンツボーダーレスの時代を知る（3） 世界を熱狂させる韓国コンテンツの様々な戦略について</p>						
第5回	<p>コンテンツボーダーレスの時代を知る（4） 履修者のプレゼンテーションおよびディスカッション i</p>						
第6回	<p>コンテンツボーダーレスの時代を知る（5） 履修者のプレゼンテーションおよびディスカッション ii</p>						
第7回	<p>グローバルビジネスを学ぶ（1） スターバックスのブランディング及びグローバルマーケティング事例から</p>						
第8回	<p>グローバルビジネスを学ぶ（2） スターバックスのブランディング及びグローバルマーケティング事例から</p>						
第9回	<p>グローバルビジネスを学ぶ（3） スターバックスのブランディング及びグローバルマーケティング事例から</p>						
第10回	<p>グローバルビジネスを学ぶ（4） 履修者のプレゼンテーションおよびディスカッション i</p>						
第11回	<p>グローバルビジネスを学ぶ（5） 受講生のプレゼンテーションおよびディスカッション ii</p>						
第12回	<p>世界から日本を考える（1） コークの味は国ごとに違うべきか</p>						
第13回	<p>世界から日本を考える（2） 「自分らしい」ストーリーとしての競争戦略</p>						
第14回	<p>世界から日本を考える（3） 履修者のプレゼンテーションおよびディスカッション</p>						
第15回	ゲスト講師と履修者を交えてのパネル討議、質疑応答						
成績評価の方法	<p>授業内討議への参加、発表：70％ 課題のレポート提出：30％</p>						
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>・授業前にUNIPAに掲示される講義資料や参考書により、事前に内容を学習すること。 ・課題レポートは指定期間内に必ずUNIPAにアップすること。 （あわせて各回180分）</p>						
教科書							

書名		著者	出版社	ISBN	備考
指定なし					
参考書	・『コンテンツボーダーレス』カン・ハンナ（著）、クロスメディア・パブリッシング ・『スターバックスはなぜ値下げもCMもしないのにずっと強いブランドでいられるのか？』ジョン・ムーア（著）、花塚恵（翻訳）、ディスカバー・トゥエンティワン ・『コークの味は国ごとに違うべきか』パンカジ・ゲマワット（著）、文藝春秋 ・『ストーリーとしての競争戦略―優れた戦略の条件（Hitotsubashi Business Review Books）』楠木建（著）、東洋経済新報社				
備考	・授業は、内容により、オンラインもしくはオフラインで開講いたします。第1回目の授業はオフラインとなります。 ・履修者数により、授業内容を調整する場合があります。 ・課題のレポート提出は、学期末の授業日（仮）までとなります。				
昨年度からの振り返り	・昨年度は学生それぞれに発表の場を設けた参加型授業も行いました。学生が自身の関心のある分野に関して調査したことをプレゼンテーションし、それに対して全員でクリティカルな議論（質疑応答）を行うことで、客観的な視点から自身の論理を再構築する機会を創出しました。 ・本年度も、この双方向の対話をさらに活性化させ、論理的思考力だけでなく、他者の意見を取り入れて内容をブラッシュアップする「共創力」も養っていただけたらと思います。				

『イノベーション技法』について



「イノベーション技法 a」 (1単位)、「イノベーション技法 b」 (1単位) は単位修得上の区分を表し、

- ⇒ ① : 【講座系モジュール】 又は 【イベント系モジュール】 を修了 = 「イノベーション技法 a」 として単位修得
② : ①に加え 【講座系モジュール】 又は 【イベント系モジュール】 を修了 = 「イノベーション技法 b」 として単位修得

①講座系モジュール

概 要	数回の授業で構成される講座を複数開講 ⇒ 複数の講座の組合せにより合計8回分の授業受講で単位を修得可
講座内容	他の授業科目では扱わないビジネス・ICT・グローバルの各領域の学びに関連する知識・スキルの修得
授業形態	講義・演習・実習のいずれか
授業回数	1講座あたり2回～4回（1回＝90分）
授業形式	対面授業
成績評価	各講座の担当教員が「合格」又は「不合格」で成績評価 ＊「イノベーション技法 a / b」としての最終的な成績評価も「合格」又は「不合格」（GPA算出対象外）
単位修得	年度末に成績評価が「合格」の講座の授業回数を合算し8回に達する場合に単位修得 （単位修得にあたっては、同一年度に「合格」の評価を得た講座の授業回数が合計8回に達する必要がある、単位修得に必要な授業回数に、過年度に受講し「合格」の評価を得た講座の授業回数は算入しない。）
そ の 他	【講座系モジュール】により「イノベーション技法 a」の単位修得後に「イノベーション技法 b」として再度【講座系モジュール】を履修する場合、 <u>「イノベーション技法 a」で受講済みの講座の再受講は不可</u>

「イノベーション技法」講座系モジュール シラバス

授業年度	2026年度	学期	前期	曜日時限	水5・水6	領域区分	ビジネス
講座名	バズる！ショート動画企画講座					授業形態	演習
担当教員	駒場 舜						
講座概要	ショート動画制作の第一人者から、バズリテクとショート動画制作の基礎を学び、実際に自身でショート動画を企画する。						
講座の目的・到達目標	<p>【講座の目的】</p> <p>企業などから、ショート動画企画・制作・運用に関する業務を受託できるようになることを目指し、ショート動画企画・制作・運用に必要な知識・スキルを身に付ける。</p> <p>【到達目標】</p> <p>ショート動画企画・制作・運用の基礎を理解し、自身でショート動画を企画・制作・運用することができる。</p>						
授業計画							
第1回	ショート動画制作の基礎①： 映像の基礎文法、企画・シナリオアイデアの発想や考え方、撮影の基礎知識、編集手法を理解する。						
第2回	ショート動画制作の基礎②： SNS の特性やバズを起こす手法を理解し、実際にショート動画を企画する。						
合否判定の方法	授業内で行った講義を元に自身で考案した企画を提出する。実際に企画した動画を制作し、後日提出する。						
準備学修 (予習・復習、課題等)	自身の観点で SNS のトレンド動画をリサーチし、現時点で興味深い動画、現時点で再生数の多い動画、次のブームを起こしそうな動画を見つけメモする。 (各回の授業に対し180分程度)						
備考							

「イノベーション技法」講座系モジュール シラバス

授業年度	2026年度	学期	前期	曜日時限	水5・水6	領域区分	ビジネス
講座名	“地図力”で社会を変える！					授業形態	講義
担当教員	奥野 守						
講座概要	<p>私たちの身の回りには、様々な“地図”が溢れています。ランニングルートの軌跡を地図上で確かめたり、プラタモリのように古地図や観光マップを使って街歩きをしたり、山登りマップや釣りスポットなどレジャーで活用しています。</p> <p>本講座では、これらの“地図”が社会の中でどのように活用され、私たちの暮らしを支え、豊かにしてきたかを概観します。その上で、学生自身があったらいいな、便利だなと感じる“地図”のアイディアを考え、社会に役立つ“地図”を提案し、“地図力”を高めていくことを目的とします。</p>						
講座の目的・到達目標	<p>【講座の目的】</p> <p>“地図”が暮らしやビジネスなど様々なシーンで使われ、暮らしを支え豊かにし、社会課題の解決に役立っていることを理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>社会に役立つ“地図”を提案し、“地図力”を高めることで、自分の思いをカタチにできる。</p>						
授業計画							
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・“地図”とは何か？ ・“地図”ができるまで ・“地図”がどのように私たちの暮らしや社会に役立っているのか？ 						
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・あったらいいな、便利だなと感じる“地図”のアイディアを考え、提案する ・アイディアでまとめた“地図”を発表する 						
合否判定の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修のリストの提出 ・1回目、2回目の“地図”の提案資料 						
準備学修（予習・復習、課題等）	身近で目にする地図とその利用用途を最低3つリストアップしてください。（360分程度）						
備考							

「イノベーション技法」講座系モジュール シラバス

授業年度	2026年度	学期	前期	曜日時限	火5	領域区分	ビジネス
講座名	DX 活用コンサルタント基礎講座					授業形態	講義
担当教員	五十嵐 俊行						
講座概要	国家戦略である「デジタル田園都市国家総合戦略」とともに、DXに関わる基礎背景を理解し、どのように社会に関わっているのか、自己の生活との関係性に気づき、その学修成果を課題回答等で確認する。						
講座の目的・到達目標	<p>【講座の目的】</p> <p>「日本の未来に関わる DX の推進」とその重要な取組みを推進する人材のプレミアムの重要性・ニーズの現状を知る。</p> <p>【到達目標】</p> <p>DX の本質の意味を理解し、将来的にマーケットから選ばれる人材像について説明することができる。</p>						
授業計画							
第1回	<p>■危機～いまさら聞けない！？ DX すら出遅れている日本の現状～</p> <ul style="list-style-type: none"> 統計データから日本の未来を考えてみよう あなたは日本の危うさに気づけるか！？ 政府が DX を求める理由とは？ 日本のデジタル化の取組みの歴史 						
第2回	<p>■真実～就活に活かせる！ 極秘情報、上場企業が語る会社の仕組み～</p> <ul style="list-style-type: none"> 社長って何をしているの？ どれくらい偉いの、孤独な社長の助けになるのは 国内企業の DX 化の現状 大企業がすべてじゃない。国内99.7%を占める中小企業の実態と課題 						
第3回	<p>■変化～生き残る組織で“選ばれる”人になる～</p> <ul style="list-style-type: none"> 成功企業と失敗企業の違い “選ばれる”組織・人とは？ 第三者認証とその取得効果 						
第4回	<p>■展望～企業の ESG、GX 化の取組み～</p> <ul style="list-style-type: none"> 大手企業から始まっている ESG 対応のための DX 活用並びに GX 化の対応について マーケットで需要の増す DX 人材、今後需要の増す ESG 人材 						
合否判定の方法	授業毎の課題回答						
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>第1回 【事前】日本の人口推移について確認：90分 【事後】課題回答を講義後のアンケートへ記載：90分</p> <p>第2回 【事前】中小企業の DX 化の取組みの確認：90分 【事後】課題回答を講義後のアンケートへ記載：90分</p> <p>第3回 【事前】「ISO 認証」と個人向け「第三者認証資格」の確認：90分 【事後】課題回答を講義後のアンケートへ記載：90分</p> <p>第4回 【事前】「統合報告書」について確認：90分 【事後】課題回答を講義後のアンケートへ記載：90分</p>						
備考	受講中に、希望者は「DX アドバイザー資格」取得のための受験申込／学習を進め、受験準備を行うことができます。その詳細は、希望者に個別案内します。「DX アドバイザー資格」取得者は、「GDY アドバイザー資格」取得のためのガイダンス講座へ						

	<p>進むことができます。</p> <p>また、希望者には、本講座の受講終了後に、DX マネジメントを実地学習できる機会を提供します。そのための告知を適宜行います。</p>
--	--

「イノベーション技法」講座系モジュール シラバス

授業年度	2026年度	学期	前期	曜日時限	水6	領域区分	ビジネス
講座名	イノプロアクセラ：最強のピッチ創作セッション					授業形態	演習
担当教員	田中 昌明						
講座概要	本講座は、イノプロ（2～4年次配当の必修科目「イノベーションプロジェクト」）と連携した講座です。イノプロで学ぶビジネスの基礎をプレゼンするスキルを学び、身につけます。イノプロで学べるプロダクト作りのアウトプットに当たる「ピッチ」にフォーカスしたセッションを行います。ピッチは、自分の魅力を表現するピッチから、ビジョンピッチ、プロダクトピッチ、ファイナンスピッチと目的に応じて様々です。全4回で自己紹介ピッチ、ビジョンピッチを行います。						
講座の目的・到達目標	<p>【背景】</p> <p>スタートアップでも、スモールビジネスでも、個人事業主でもどんな事業スタイルであれ、起業家としての自分を魅力的に伝えることがとても重要です。例えば、自己紹介一つとっても、所属大学、学年、出身から語るなど画一的な内容を語る学生が多く、大勢いる学生のうちの一人という印象で終わるケースばかりです。</p> <p>【講座の目的】</p> <p>興味を惹く、共感する、応援したくなるような自分やプロダクトアイデアを表現できるピッチをできるようになることを目的とします。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己紹介ピッチ：単なる自己紹介ではなく、応援したくなるような自分を表現できる1分ピッチを創作して行えるようになる。 ビジョンピッチ：ビジョン、理由、原体験、ソリューション、ユニークネスを組み込んだ2分ピッチを創作して行えるようになる。 						
授業計画							
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ピッチの目的と種類について コミュニケーションのギャップについての演習 自己紹介1分ピッチ練習 						
第2回	<ul style="list-style-type: none"> 原体験ディープダイブ 自己紹介1分ピッチブラッシュアップ 						
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ビジョンについて学ぶ ビジョンキャンバスを用いたビジョンピッチ創作 						
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ビジョンピッチレビュー オーディエンスの共感度 						
合否判定の方法	授業内で行うピッチのオーディエンス共感度により合否判定します。						
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>予習：自分が起業家として解決したい課題やその方法、その先にある実現したい世界について思考し、言語化して発表できるように準備する。（各回90分）</p> <p>復習：授業で学んだ、又は個別にフィードバックされた内容を踏まえて自分のアウトプットを磨き上げて次の授業に望む。その際、課題を持っている人にヒアリングしたことや、ベンチマークプロダクトを研究して、改善した方がよいことを発見して反映すること。（各回90分）</p>						
備考							

「イノベーション技法」講座系モジュール シラバス

授業年度	2026年度	学期	前期	曜日時限	水5・水6	領域区分	ICT
講座名	SNS マーケティング基礎					授業形態	演習
担当教員	神山 季己						
講座概要	<p>今や企業の集客や採用に欠かせないのが Instagram や TikTok などの SNS。SNS マーケターという仕事に従事するために必要なスキル「SNS マーケティング」の基礎と技術を修得することでマーケティング力を養い、個人事業主としても企業のマーケターとしても通用する人材になるための基盤を形成します。</p> <p>本講座では、SNS 総フォロワー28万人超を抱えるインフルエンサー講師による SNS マーケティングの基礎や仕事内容に関する講義とショート動画を実際に作成するワークを通して、SNS 運用に関する理解を深めます。</p> <p>また、本講座はデジタルマーケティング・広報戦略・ビジネスブランディングなど、他のマーケティング系科目とも密接に関連しており、企業や個人のブランディングに SNS を活用するための基礎となる内容です。</p>						
講座の目的・到達目標	<p>【講座の目的】</p> <p>企業の広報担当、起業家、クリエイターなど、多様なキャリアにおいて即戦力となり得る SNS マーケティングの基礎スキルを獲得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>■知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS マーケティングの基礎について理解し、説明できる。 ・ SNS マーケティングをビジネス戦略と関係づけて説明できる。 <p>■技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スマートフォンのカメラを効果的に使い、撮影を行うことができる。 ・ 用意してある素材を使って実際にショート動画を編集できる。 ・ 課題を通して、自身でショート動画を作ることができるようになる。 						
授業計画							
第1回	<p>SNS マーケティングの基礎修得：</p> <p>SNS マーケティングの基礎と SNS マーケティングを使った仕事に関する講義</p>						
第2回	<p>Edits を使ったリール動画の作成：</p> <p>ワーク（ショート動画の作成練習、台本作成練習）</p>						
合否判定の方法	提出課題（期限までに提出必須）						
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>■事前準備・予習（120分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 無料動画編集アプリ「Edits」を必ずスマホへインストールし、自分なりに使い方を確認してきてください。 <p>https://apps.apple.com/jp/app/edits-an-instagram-app/id6738967378</p> <p>https://play.google.com/store/apps/details?id=com.instagram.basel&hl=ja</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自身の Instagram アカウントを作成しておいてください。（既存のものがある場合は、それを使用することも可） <p>■復習・課題（240分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内で提示する課題に取り組んでください。 ・ 授業資料を基に学んだ内容を振り返りながら、自身でショート動画の作成や SNS 運用に取り組み、スキルの定着を図ってください。 						

備考	
----	--

「イノベーション技法」講座系モジュール シラバス

授業年度	2026年度	学期	前期	曜日時限	水5・水6	領域区分	ICT
講座名	分解工学					授業形態	実習
担当教員	小宮 一恭						
講座概要	<p>身近な電子機器を分解し、内部構造や電子回路、部品の役割を実際に観察・調査することで、電子機器の構造や設計について学ぶ。また、分解した電子機器の構造等を適切に記録しレポートにまとめることで、仕組みや動作原理を把握するプロセスを実践的に理解する。</p> <p>分解作業を通じて、ものづくりや電気製品への理解を深めることに繋がり、レポート作成やプレゼンテーションを通じて調査結果をまとめることで、他者に分かりやすく伝えるスキルの基礎となる。</p>						
講座の目的・到達目標	<p>【講座の目的】</p> <p>電子回路や電子機器に対して興味・関心を高め、今後の学修やものづくりに主体的に取り組む姿勢を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子機器の分解手順を理解し、分解作業を行うことができる。 ・分解した部品の役割や電子回路の構造を調べ、概要を説明できる。 ・写真や調査結果を整理・分析し、プレゼン資料・レポートとしてまとめることができる。 						
授業計画							
第1回	電子機器の分解と調査（グループワーク）						
第2回	分解した電子機器の調査と発表（グループワーク）						
合否判定の方法	<p>授業への取組態度：60％</p> <p>レポート課題：40％</p>						
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>予習（90分程度）： 分解方法や注意点、電子機器に使われている部品などについて調査する。</p> <p>復習・課題（90分程度）： 自身の分解した電子機器について調査し、その結果をレポートとして提出する。</p>						
備考	<p>分解は工具を使用して作業を行うため、袖口の大きい服など、作業に適さない服装での参加は推奨しない。</p> <p>その他心配なことや不明点があれば、履修前に担当教員まで相談すること。</p>						

「イノベーション技法」講座系モジュール シラバス

授業年度	2026年度	学期	前期	曜日時限	夏季集中	領域区分	ICT
講座名	スマートフォンセキュリティ演習					授業形態	演習
担当教員	山内 正人						
講座概要	スマートフォン向けアプリケーション開発において混入しやすい脆弱性について事例学習し、ハンズオン形式で脆弱性の混入したアプリケーションの挙動について体験する。また、その体験や発生要因などを基に適切な対策方法についても学ぶ。						
講座の目的・到達目標	<p>【講座の目的】</p> <p>スマートフォンのアプリケーション開発においてどのような点に気を付ける必要があるかについて理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン向けアプリケーション開発において混入しやすい代表的な脆弱性の種類と発生要因を理解し、説明できる。 ・脆弱性を含むアプリケーションの挙動をハンズオン形式で体験し、どのように悪用され得るかを具体的に説明できる。 ・脆弱性の原因を分析し、安全な実装方法（セキュアコーディング）の観点から適切な対策を提案できる。 ・スマートフォンアプリケーションのセキュリティに関する基本的なリスクを理解し、セキュリティを考慮した設計・開発の重要性を説明できる。 						
授業計画							
第1回	スマートフォンアプリケーション開発とは						
第2回	スマートフォンアプリケーションに混入しやすい事例1						
第3回	スマートフォンアプリケーションに混入しやすい事例2						
第4回	スマートフォンアプリケーションに混入しやすい事例3						
第5回	脆弱性対策についてグループで討議し最終発表の準備をする						
第6回	脆弱性対策についてグループで討議し最終発表の準備をする						
第7回	最終発表						
第8回	まとめと振り返り						
合否判定の方法	最終発表を基に合否判定						
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>予習：スマートフォンの操作、スマホアプリ開発方法等について調査（各回90分）</p> <p>復習：セキュアコーディングのポイントについて整理（各回90分）</p>						
備考	BasicSecCap 科目						

「イノベーション技法」講座系モジュール シラバス

授業年度	2026年度	学期	前期	曜日時限	夏季集中	領域区分	ICT
講座名	セキュリティ脅威に対する情報システム防御基礎演習					授業形態	演習
担当教員	山内 正人						
講座概要	<p>本演習では、管理・更新が停止したレガシーシステム（Windows XP 等）が抱える脆弱性を対象に、攻撃者視点からの擬似攻撃（ペネトレーションテスト）をクローズドな実験ネットワーク内で体験する。</p> <p>脆弱性スキャンからエクスプロイト（攻撃実行）までのプロセスを実践する。後半では、攻撃の原理を理解し、最新の OS やセキュリティ対策ソフトがどのような原理でこれらを防いでいるのか、また未知の脅威に対してどのように組織として防御すべきかを、グループワーク形式で考察・発表する。</p>						
講座の目的・到達目標	<p>【講座の目的】</p> <p>攻撃原理の理解：脆弱性が悪用される具体的なメカニズムを、手を動かして理解する。</p> <p>防御思考の育成：攻撃手法を知ること、実効性の高い多層防御の考え方を習得する。</p> <p>協働的課題解決：グループでのログ解析や対策立案を通じ、専門知識の共有と合意形成能力を養う。</p> <p>倫理観の醸成：攻撃技術の危険性を認識し、ホワイトハッカーとしての倫理遵守を徹底する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 講座で取り上げた脆弱性に対する攻撃が、システムにどのような影響を与えるか説明できる。 攻撃を受けた際、一人で抱え込まずに周囲や専門組織へ適切に情報共有・援助手配（ヘルプシーキング）を行う重要性を説明できる。 						
授業計画							
第1回	ペネトレーションテストとは						
第2回	攻撃体験1						
第3回	攻撃体験2						
第4回	攻撃原理の解説						
第5回	脆弱性対策についてグループで討議し最終発表の準備をする						
第6回	脆弱性対策についてグループで討議し最終発表の準備をする						
第7回	最終発表						
第8回	まとめと振り返り						
合否判定の方法	最終発表を基に合否判定						
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>予習：ペネトレーションテスト等について調査（各回90分）</p> <p>復習：攻撃原理や対策について整理（各回90分）</p>						
備考	BasicSecCap 科目						

「イノベーション技法」講座系モジュール シラバス

授業年度	2026年度	学期	前期	曜日時限	火5	領域区分	グローバル
講座名	グローバルイノベーターマインドセット① Global Innovator Mindset ①					授業形態	演習
担当教員	平野 麻紀子						
講座概要	<p>※グローバルイノベーターマインドセット①は、②とセットで受講することをお勧めします。</p> <p>起業家やイノベーションを起こす人材にとって大切な自己信頼力（自信）・主体性・ビジョン意識等が内面から自然と湧き出るためのマインドセットを行うと同時に、グローバル環境でも活躍するための英語コミュニケーションの基礎スキルも使います。</p> <p>講座は学生の国籍に応じて日本語と英語で実施され、自分への理解と信頼を深めながら、各自がマイペースでイノベーターマインドを築いていきます。</p> <p>人材の能力や強さを引き出す根本的なアプローチである当プログラムは、教育分野では、他大学のグローバルイノベーション講義や研究者向け教育として使われています。スポーツ界では、元日本代表選手の指導者や、プロチーム、強豪校の部活動指導者達が取り入れ始めています。ビジネス界では、従業員の生産性やエンゲージメントを高めたい経営者が、従業員研修に採用しています。</p> <p>当プログラムで用いるマインド構築モデルは、アメリカの著名大学や国際的な出版社が手がけるリーダーシップ書籍に、「次世代型リーダーのマインド設計」というテーマで掲載されています。また、文部科学省・経済産業省が設置する Japan Entrepreneurship Alliance（日本に起業家精神に関する教育を広める取組み）が採用している教育モデルです。</p> <p>自分の能力を最大限活かして活躍し、社会に変革をもたらすイノベーターになりたい学生や、グローバル環境での活躍を視野に入れている学生、また、自信を持つと心掛けたり人から褒められても自分に自信が持てない学生に向いています。</p> <p>※It is recommended to take “Global Innovator Mindset ①” together with “Global Innovator Mindset ②”.</p> <p>For entrepreneurs and people who aim to create innovation, this course cultivates the mindset that brings out self-confidence, initiative, and vision. In addition, English communication is used in class so that students can engage with global perspectives.</p> <p>Classes are conducted in both Japanese and English according to the needs of the students. Through this process, students deepen their understanding of themselves and build trust in themselves while forming their own innovator mindset.</p> <p>This program takes a fundamental approach that draws out each individual's abilities and strengths. In the field of education, it has been used in global innovation lectures at universities and in research guidance for students who aim to create innovation. In the sports field, similar approaches are used by former members of Japan's national teams who now work as coaches for professional teams and strong club teams. In the business field, it has been</p>						

	<p>applied in employee training programs led by managers who aim to improve productivity and engagement.</p> <p>The Global Innovator Mindset used in this program will be introduced in several leadership books published by major academic publishers in the United States under the theme of “Transformation of Business and Education for Social Prosperity.” It is also used as an educational model in entrepreneurship education initiatives promoted through collaboration between academia and industry in Japan, including programs related to the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT), the Ministry of Economy, Trade and Industry (METI), and the Japan Entrepreneurship Alliance (JEA).</p> <p>This class is intended for students who want to create a positive impact in society, students who wish to be active in global environments, and also students who may find it difficult to build confidence in themselves even when they make efforts or accumulate experience.</p>
<p>講座の目的 ・到達目標</p>	<p>【講座の目的】 自分らしく力を発揮するための考え方や心のあり方を考え、特に起業家やイノベーターにとって大切なマインドを楽しく育てていきます。</p> <p>【到達目標】 グローバルイノベーターマインドセット②と合わせて受講することで、以下の理解と一部体得を目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イノベーターの持つ確固たる自信 2. 持続成果をもたらす働きに必要な主体性 3. 意図せずとも評価や応援が集まる人間力 4. 志を分かち仲間が気づけば集まる求心力 5. グローバル等の環境を選ばず活躍できる順応力 6. 直感やインスピレーションの意識的活用力 <p>[Purpose] This class will support you exert your strengths in your own way, and develop a mindset that is particularly important for innovators and entrepreneurs.</p> <p>[Goals] The students will understand the importance or method to acquire the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Self-confidence as an innovator 2. The initiative and driving force required for leading your work to sustainable results 3. The humanity that brings you recognition and support from other people. 4. Gravitational pull that brings you people who have a high ambition as you do. 5. Flexibility and strength to succeed in any environment including global. 6. How to use and train intuition and inspiration
授業計画	
第1回	<p>【オリエンテーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内観と自己理解 ・クラスメイトからチームメイトへ

	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル人材・イノベーターの定義と活躍する人材のマインド構造 <p>[Orientation]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Introspection and self-understanding ・ From classmates to teammates ・ Definition of global talent and the mindset of successful innovators
第2回	<p>【心の火種を確保】 ※重要回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己信頼の源 ・ 経験の消化度を高める <p>[Origin of Self-Trust] ※Key-part</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A source of self-confidence ・ Deepen the learning from experiences
第3回	<p>【直感とインスピレーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成長サイクル ・ 自己対話 <p>[Intuition and inspiration]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Growth cycle ・ Self-dialogue
合否判定の方法	Attitude・Participation・Assignmentなどを総合的に判断
準備学修 (予習・復習、 課題等)	<p>各回で配布するワークシートを埋めながら、自分への理解や信頼が増す自分資料を作っていきます。授業で埋め切れなかった箇所を課題にすることもあります。 (各回の授業に対し180分程度)</p> <p>As you fill out the worksheets distributed at each class, you will create your own original "personal notes" that will deepen your self-understanding and trusting. You may also be given assignments for any parts that you were unable to fill in during class.</p>
備考	

「イノベーション技法」講座系モジュール シラバス

授業年度	2026年度	学期	前期	曜日時限	火5	領域区分	グローバル
講座名	グローバルイノベーターマインドセット② Global Innovator Mindset ②					授業形態	演習
担当教員	平野 麻紀子						
講座概要	<p>※グローバルイノベーターマインドセット②は、①とセットで受講することをお勧めします。</p> <p>起業家やイノベーションを起こす人材にとって大切な自己信頼力（自信）・主体性・ビジョン意識等が内面から自然と湧き出るためのマインドセットを行うと同時に、グローバル環境でも活躍するための英語コミュニケーションの基礎スキルも使います。</p> <p>講座は学生の国籍に応じて日本語と英語で実施され、自分への理解と信頼を深めながら、各自がマイペースでイノベーターマインドを築いていきます。</p> <p>人材の能力や強さを引き出す根本的なアプローチである当プログラムは、教育分野では、他大学のグローバルイノベーション講義や研究者向け教育として使われています。スポーツ界では、元日本代表選手の指導者や、プロチーム、強豪校の部活動指導者達に取り入れ始めています。ビジネス界では、従業員の生産性やエンゲージメントを高めたい経営者が、従業員研修に採用しています。</p> <p>当プログラムで用いるマインド構築モデルは、アメリカの著名大学や国際的な出版社が手がけるリーダーシップ書籍に、「次世代型リーダーのマインド設計」というテーマで掲載されています。また、文部科学省・経済産業省が設置する Japan Entrepreneurship Alliance（日本に起業家精神に関する教育を広める取組み）が採用している教育モデルです。</p> <p>自分の能力を最大限活かして活躍し、社会に変革をもたらすイノベーターになりたい学生や、グローバル環境での活躍を視野に入れている学生、また、自信を持とうと心掛けたり人から褒められても自分に自信が持てない学生に向いています。</p> <p>※It is recommended to take “Global Innovator Mindset ②” together with “Global Innovator Mindset ①”.</p> <p>For entrepreneurs and people who aim to create innovation, this course cultivates the mindset that brings out self-confidence, initiative, and vision. In addition, English communication is used in class so that students can engage with global perspectives.</p> <p>Classes are conducted in both Japanese and English according to the needs of the students. Through this process, students deepen their understanding of themselves and build trust in themselves while forming their own innovator mindset.</p> <p>This program takes a fundamental approach that draws out each individual's abilities and strengths. In the field of education, it has been used in global innovation lectures at universities and in research guidance for students who aim to create innovation. In the sports field, similar approaches are used by former members of Japan's national teams who now work as coaches for professional teams and strong club teams. In the business field, it has been</p>						

	<p>applied in employee training programs led by managers who aim to improve productivity and engagement.</p> <p>The Global Innovator Mindset used in this program will be introduced in several leadership books published by major academic publishers in the United States under the theme of “Transformation of Business and Education for Social Prosperity.” It is also used as an educational model in entrepreneurship education initiatives promoted through collaboration between academia and industry in Japan, including programs related to the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT), the Ministry of Economy, Trade and Industry (METI), and the Japan Entrepreneurship Alliance (JEA).</p> <p>This class is intended for students who want to create a positive impact in society, students who wish to be active in global environments, and also students who may find it difficult to build confidence in themselves even when they make efforts or accumulate experience.</p>
<p>講座の目的 ・到達目標</p>	<p>【講座の目的】 自分らしく力を発揮するための考え方や心のあり方を考え、特に起業家やイノベーターにとって大切なマインドを楽しく育てていきます。</p> <p>【到達目標】 グローバルイノベーターマインドセット①と合わせて受講することで、以下の理解と一部体得を目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イノベーターの持つ確固たる自信 2. 持続成果をもたらす働きに必要な主体性や行動力 3. 意図せずとも評価や応援が集まる人間力 4. 志を分かち仲間が気づけば集まる求心力 5. グローバル等の環境を選ばず活躍できる順応力 6. 直感やインスピレーションの意識的活用力 <p>↑①の受講に対する目標 ↓②の受講に対する目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 協働を可能にする自分らしくいコミュニケーション力 8. 自分の中から湧き出るビジョン 9. ビジョンが機能するチームの構築力 10. 自己表現力と相手に伝わる力 11. グローバルビジネス SNS の活用 12. 多様性と異文化の受容力と共感力 <p>[Purpose] This class will support you exert your strengths in your own way, and develop a mindset that is particularly important for innovators and entrepreneurs.</p> <p>[Goals] The students will understand the importance or method to acquire the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Self-confidence as an innovator 2. The initiative and driving force required for leading your work to sustainable results 3. The humanity that brings you recognition and support from other people. 4. Gravitational pull that brings you people who have a high ambition as you

	<p>do.</p> <p>5. Flexibility and strength to succeed in any environment including global.</p> <p>6. How to use and train intuition and inspiration</p> <p>↑Goals for class-① ↓Goals for this class-②</p> <p>7. Confidence and joy in your own way of communication</p> <p>8. A vision that springs from within yourself</p> <p>9. Skill of building a team where the team vision functions well</p> <p>10. Self-expression and delivering skill to make your saying understood by people</p> <p>11. Using global business SNS effectively</p> <p>12. Diversity and different cultures</p>
授業計画	
第1回	<p>※グローバルイノベーターマインドセット①の内容の落とし込みと平行して進みます</p> <p>【ビジョン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンの効果と落とし穴 ・ビジョンの映像化 ・自分と社会を繋ぐ社会的ビジョン <p>[Vision]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Effects and risks of vision ・ Visualization skill ・ Social vision that connects individuals and society
第2回	<p>【特別企画講義】</p> <p>ゲストスピーカーによる特別講義「イノベーターのリアルを知る」</p> <p>[Special lecture]</p> <p>Lecture by a special guest!! "Knowing the reality of innovators"</p>
第3回	<p>【ビジョンの共有とエンパワーメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション力 ・エンパワーメント力 <p>[Sharing vision and empowering]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Presentation skill ・ Empowerment skill
合否判定の方法	Attitude・Participation・Assignmentなどを総合的に判断
準備学修 (予習・復習、課題等)	<p>各回で配布するワークシートを埋めながら、自分への理解や信頼が増す自分資料を作っていきます。授業で埋め切れなかった箇所を課題にすることもあります。 (各回の授業に対し180分程度)</p> <p>As you fill out the worksheets distributed at each class, you will create your own original "personal notes" that will deepen your self-understanding and trusting. You may also be given assignments for any parts that you were unable to fill in during class.</p>
備考	

「イノベーション技法」講座系モジュール シラバス

授業年度	2026年度	学期	前期	曜日時限	水5	領域区分	グローバル
講座名	日本の商品を世界でバズらせるコツを考えよう					授業形態	演習
担当教員	児玉 佳奈						
講座概要	<p>人口減少に伴い市場が小さくなっていく日本。たくさんの企業が海外に市場を開拓しようとしています。一方、そのチャレンジは容易ではありません。どうやったら成功するのか？どのような工夫があればいいのか？企業の経営者は常に工夫を考えています。</p> <p>この講座の前半では、いま、世界中で大人気の“抹茶（Matcha）”を題材に、日本の伝統的な商品を世界でバズらせるヒントを見つけていただきます。後半では、抹茶から得られた示唆をヒントに、みなさんが考える次なる“抹茶的存在”はなに？それはどうしたら世界的に人気が出るのか？を発表していただきます。</p>						
講座の目的・到達目標	<p>【講座の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定のテーマの特定の事象に対する発生要因を特定し、一般化する力を身に着けること ・一般化した示唆や気づきを、他のお題に対し応用できるようになること ・自身が考えたことを他人にわかるように説明できるようになること ・他の人の考えに対し、自分自身の意見を持ち、適切に伝えられるようになること <p>【到達目標】</p> <p>どのような状態を目指したいか？の観点で記載します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絶対的な正解がない中でも自分なりに考え切っている ・思い切った発想をした上で、それがなぜ最善なのか説明できる ・積極的に議論に参加し、他者に配慮しながら自分の意見が言える 						
授業計画							
第1回	“抹茶（Matha）”のトレンド理解と構造的な調査設計のHow toを学ぶ						
第2回	調査結果発表とグループディスカッション						
第3回	ネクストブレイク日本の商品／サービス発掘とバズらせ戦略を考える						
第4回	最終発表とグループディスカッション・まとめ						
合否判定の方法	<p>以下2つのアウトプットをもとに合否判定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“抹茶”トレンドに関する調査結果の発表 ・ネクストブレイク商品の最終発表 						
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>▼第1回授業前：</p> <p>抹茶トレンドについて自分なりに調べてくる（90分）</p> <p>▼第1回授業終了後～第2回授業前：</p> <p>第1回授業中に実施した調査設計をもとに、調査を実施しプレゼンテーションをまとめる（180分）</p> <p>▼第2回授業終了後～第3回授業前：</p> <p>自身が扱いたいネクストブレイク日本の商品を探してくる（90分）</p> <p>▼第3回授業終了後～第4回授業前：</p> <p>最終発表の準備を行う（240分）</p>						
備考	<p>▼受講時のルール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リサーチにAIを使用することは許可しますが、あくまで効率的に事実を集めるためにのみ使用してください。示唆は自分で考えること。 						

▼心構え

本講座では、◎か×かといった“正解”を教えることはしません。なぜなら、ビジネスの世界に絶対的な正解はないからです。

また、「あなた自身がなぜそう考えたのか？」を徹底的に聞いていきます。そのときに「AI で調べたらそう出てきたので…」の回答は禁止とし、ご自身で考え直していただきます。なぜなら、それではAI を使うのではなく AI に使われる人になってしまうからです。

正直、講師自身も AI は大好きなテーマの一つで日常的に使い倒し、また、AI を使ったビジネスも作っています。でも、確かに AI が考えつくことも十分面白いこともあるけれど、ビジネスの実践の場では、もっともっと広くて深くて面白いことがたくさんあります。みなさんの中にはもっと豊かな発想が広がっているはずです。その力をビジネスに組み合わせてみる経験をしてみましょう。

みなさんがいままで経験してきたこと、この授業の中で新しく出会う知識や考え方を、存分に自由に組み合わせて新しい発想をしてみること、自分なりに考えきることそのものを評価していきます。

自分が考えた戦略がはまっていく感覚はすごくわくわくします。その一端をこの講座で体験いただけたらと思います。

「イノベーション技法」講座系モジュール シラバス

授業年度	2026年度	学期	後期	曜日時限	水5・水6	領域区分	領域共通
講座名	アカデミックライティング					授業形態	講義
担当教員	加藤 大弥						
講座概要	<p>「自分の考えを正しく、説得力を持って伝える力」は、大学生活だけでなく社会に出ても求められる一生モノのスキルです。本講座では、大学生として避けては通れないレポートや論文執筆の「ルール」を基礎から学びます。</p> <p>単に長い文章を書くのではなく、学术界の共通ルールである「論文の型」を身に付けることで、読み手に迷いを与えない論理的な文章構成力を養います。また、他者の著作権を尊重し、不正行為（剽窃など）を防ぐための引用ルールや、信頼できる情報の探し方についても実践的に学びます。現時点で論文を書く予定がない人でも、日々のレポート課題で自信を持って提出できるようになることを目指します。</p>						
講座の目的・到達目標	<p>【講座の目的】</p> <p>大学での学びを支える「アカデミックライティング」の基礎をマスターし、根拠に基づいた論理的な文章を書けるようになる。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「感想文」と「レポート・論文」の違いを明確に説明でき、客観的な視点で文章が書ける。 ・「型（序論・本論・結論など）」に沿った文章構成を理解し、説得力のある論理展開ができる。 ・剽窃（ひょうせつ・コピー）の危険性を理解し、正しい引用方法を用いて自分の意見と他者の意見を区別できる。 ・Google Scholar 等を用いた文献調査の基本を習得し、信頼性の高い根拠を提示できる。 ・推敲（読み直しと修正）を繰り返し、他者に伝わる適切な語彙と表現を選択できる。 						
授業計画							
第1回	レポート・論文（基礎）： レポート・論文の特徴や必要性及びルールや形態、基本構造などの基本について学ぶ。						
第2回	レポート・論文（実践）： レポート・論文の執筆において欠かすことのできない文献調査の方法などについて知り、文献調査や学術文書の執筆を実践する。また、論文の質を向上させるための推敲などについても学ぶ。						
合否判定の方法	レポートを基に合否判定						
準備学修 （予習・復習、課題等）	<p>予習：Google Scholar で興味のある論文について検索し、読む。（120分）</p> <p>復習：論文のルールや形態、基本構造などの学んだことに気をつけながら課題に取り組む。（240分）</p>						
備考	講座「文書処理」もあわせて受講することを推奨する。						

「イノベーション技法」講座系モジュール シラバス

授業年度	2026年度	学期	後期	曜日時限	木5・木6	領域区分	領域共通
講座名	文書処理					授業形態	講義
担当教員	加藤 大弥						
講座概要	<p>レポートや論文を書いているとき、図の位置を少しずらしただけで全体のレイアウトが崩れ、修正に何時間も費やした経験はありませんか？本講座では、世界中の研究者や技術者に愛用されている高機能な文書作成ツール「LaTeX（ラテフ）」を、ブラウザ上で簡単に使える Overleaf というサービスを通して学びます。</p> <p>私たちが普段使う Word 等のソフト（WYSIWYG）は「見た目」を整えながら書きますが、LaTeX は「文章の構造」を命令として入力し、コンピュータに一括で美しいレイアウトを作成させる「バッチ処理」方式を採用しています。これにより、ページ数が増えても動作が重くならず、図表の番号や参考文献のリストもすべて自動で管理されます。執筆中の「レイアウト調整のイライラ」を取り払い、本来の目的である「文章の内容」に集中できるようになることを目指します。</p>						
講座の目的・到達目標	<p>【講座の目的】</p> <p>長編の文章や数式、多くの図表を含む文書を、プロレベルの美しさと正確さで効率的に作成する「文書処理スキル」を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ LaTeX と一般的な文書ソフト（Word 等）の違いを理解し、それぞれの得意・不得意を説明できる。 ・ Overleaf の基本操作をマスターし、クラウド上で LaTeX を使って文書を管理・編集できる。 ・ 文書の「見出し」「段落」「図表」などを適切に指定し、論文の基本構造を正しく構築できる。 ・ 図表の挿入や参考文献の引用を自動化する方法を習得し、ミスを少なく長文を構成できる。 						
授業計画							
第1回	<p>文書処理（基礎）：</p> <p>LaTeX を活用した文書処理の基本的な知識、文章の入力、ファイル出力について学ぶ。</p>						
第2回	<p>文書処理（実践）：</p> <p>LaTeX を活用した論文執筆に必要となる図表、引用などの方法について学ぶ。</p>						
合否判定の方法	レポートを基に合否判定						
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>予習：Overleaf の事前準備、操作方法の確認（120分）</p> <p>復習：文章構造や図、表、引用などの学んだことに気をつけながら課題に取り組む。（240分）</p>						
備考	講座「アカデミックライティング」もあわせて受講することを推奨する。						

「イノベーション技法」講座系モジュール シラバス

授業年度	2026年度	学期	後期	曜日時限	水5・水6	領域区分	ビジネス
講座名	バズる！ショート動画企画講座					授業形態	演習
担当教員	駒場 舜						
講座概要	ショート動画制作の第一人者から、バズリテクとショート動画制作の基礎を学び、実際に自身でショート動画を企画する。						
講座の目的・到達目標	<p>【講座の目的】</p> <p>企業などから、ショート動画企画・制作・運用に関する業務を受託できるようになることを目指し、ショート動画企画・制作・運用に必要な知識・スキルを身に付ける。</p> <p>【到達目標】</p> <p>ショート動画企画・制作・運用の基礎を理解し、自身でショート動画を企画・制作・運用することができる。</p>						
授業計画							
第1回	ショート動画制作の基礎①： 映像の基礎文法、企画・シナリオアイデアの発想や考え方、撮影の基礎知識、編集手法を理解する。						
第2回	ショート動画制作の基礎②： SNS の特性やバズを起こす手法を理解し、実際にショート動画を企画する。						
合否判定の方法	授業内で行った講義を元に自身で考案した企画を提出する。実際に企画した動画を制作し、後日提出する。						
準備学修 (予習・復習、課題等)	自身の観点で SNS のトレンド動画をリサーチし、現時点で興味深い動画、現時点で再生数の多い動画、次のブームを起こしそうな動画を見つけメモする。 (各回の授業に対し180分程度)						
備考							

「イノベーション技法」講座系モジュール シラバス

授業年度	2026年度	学期	後期	曜日時限	水5・水6	領域区分	ビジネス
講座名	“地図力”で社会を変える！					授業形態	講義
担当教員	奥野 守						
講座概要	<p>私たちの身の回りには、様々な“地図”が溢れています。ランニングルートの軌跡を地図上で確かめたり、プラタモリのように古地図や観光マップを使って街歩きをしたり、山登りマップや釣りスポットなどレジャーで活用しています。</p> <p>本講座では、これらの“地図”が社会の中でどのように活用され、私たちの暮らしを支え、豊かにしてきたかを概観します。その上で、学生自身があったらいいな、便利だなと感じる“地図”のアイディアを考え、社会に役立つ“地図”を提案し、“地図力”を高めていくことを目的とします。</p>						
講座の目的・到達目標	<p>【講座の目的】</p> <p>“地図”が暮らしやビジネスなど様々なシーンで使われ、暮らしを支え豊かにし、社会課題の解決に役立っていることを理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>社会に役立つ“地図”を提案し、“地図力”を高めることで、自分の思いをカタチにできる。</p>						
授業計画							
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・“地図”とは何か？ ・“地図”ができるまで ・“地図”がどのように私たちの暮らしや社会に役立っているのか？ 						
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・あったらいいな、便利だなと感じる“地図”のアイディアを考え、提案する ・アイディアでまとめた“地図”を発表する 						
合否判定の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修のリストの提出 ・1回目、2回目の“地図”の提案資料 						
準備学修（予習・復習、課題等）	身近で目にする地図とその利用用途を最低3つリストアップしてください。（360分程度）						
備考							

「イノベーション技法」講座系モジュール シラバス

授業年度	2026年度	学期	後期	曜日時限	火5	領域区分	ビジネス
講座名	DX 活用コンサルタント基礎講座					授業形態	講義
担当教員	五十嵐 俊行						
講座概要	国家戦略である「デジタル田園都市国家総合戦略」とともに、DX に関わる基礎背景を理解し、どのように社会に関わっているのか、自己の生活との関係性に気づき、その学修成果を課題回答等で確認する。						
講座の目的・到達目標	<p>【講座の目的】</p> <p>「日本の未来に関わる DX の推進」とその重要な取組みを推進する人材のプレミアムの重要性・ニーズの現状を知る。</p> <p>【到達目標】</p> <p>DX の本質の意味を理解し、将来的にマーケットから選ばれる人材像について説明することができる。</p>						
授業計画							
第1回	<p>■危機～いまさら聞けない！？ DX すら出遅れている日本の現状～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計データから日本の未来を考えてみよう あなたは日本の危うさに気づけるか！？ 政府が DX を求める理由とは？ ・日本のデジタル化の取組みの歴史 						
第2回	<p>■真実～就活に活かせる！ 極秘情報、上場企業が語る会社の仕組み～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社長って何をしているの？ どれくらい偉いの、孤独な社長の助けになるのは ・国内企業の DX 化の現状 ・大企業がすべてじゃない。国内99.7%を占める中小企業の実態と課題 						
第3回	<p>■変化～生き残る組織で“選ばれる”人になる～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成功企業と失敗企業の違い ・“選ばれる”組織・人とは？ 第三者認証とその取得効果 						
第4回	<p>■展望～企業の ESG、GX 化の取組み～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大手企業から始まっている ESG 対応のための DX 活用並びに GX 化の対応について ・マーケットで需要の増す DX 人材、今後需要の増す ESG 人材 						
合否判定の方法	授業毎の課題回答						
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>第1回 【事前】日本の人口推移について確認：90分 【事後】課題回答を講義後のアンケートへ記載：90分</p> <p>第2回 【事前】中小企業の DX 化の取組みの確認：90分 【事後】課題回答を講義後のアンケートへ記載：90分</p> <p>第3回 【事前】「ISO 認証」と個人向け「第三者認証資格」の確認：90分 【事後】課題回答を講義後のアンケートへ記載：90分</p> <p>第4回 【事前】「統合報告書」について確認：90分 【事後】課題回答を講義後のアンケートへ記載：90分</p>						
備考	受講中に、希望者は「DX アドバイザー資格」取得のための受験申込／学習を進め、受験準備を行うことができます。その詳細は、希望者に個別案内します。「DX アドバイザー資格」取得者は、「GDX アドバイザー資格」取得のためのガイダンス講座へ						

	<p>進むことができます。</p> <p>また、希望者には、本講座の受講終了後に、DX マネジメントを実地学習できる機会を提供します。そのための告知を適宜行います。</p>
--	--

「イノベーション技法」講座系モジュール シラバス

授業年度	2026年度	学期	後期	曜日時限	木5	領域区分	ビジネス
講座名	地域創生とイノベーション					授業形態	演習
担当教員	今井 豪						
講座概要	本講座は、地域創生とイノベーションをテーマに、実践的なマインドセットからデザイン思考、ビジネス発想の可視化、そしてプロジェクトベースドラーニング（PBL）型ワークショップを通じたアイディエーションやプレゼンテーションスキルの修得を目指します。学生が自ら課題を発見し、解決策を創出・発信できる実践的能力を育成します。						
講座の目的・到達目標	<p>【講座の目的】</p> <p>イノベーション創出に必要なマインドセット、デザイン思考、アイディエーションスキル、プレゼンテーションスキルなど、自ら課題を発見し、解決策を創出・発信できる実践的能力を修得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イノベーション創出に必要なマインドセットができている。 ・デザインシンキングの基礎を修得し、ビジネス発想を可視化できる。 ・PBL 型ワークショップを通じて課題解決のアイデアを生み出せる。 ・効果的なプレゼンテーションスキルを身に付け、自らの企画を発信できる。 						
授業計画							
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス：地域創生とイノベーションの意義 ・イノベーションに必要なマインドセット（挑戦・共創・失敗許容） ・簡単なワークで思考を切り替える体験 						
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインシンキング入門 ・パーセプションマップを用いたビジネス思考の可視化 ・ケーススタディ演習 						
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・PBL 型ワークショップ：企業ゲストによる課題設定とアイディエーション ・グループディスカッションによるアイデア創出 ・プレゼンテーション技法を体系化して指導（ストーリーテリング・構成・表現） 						
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・成果整理：発表用資料の作成（スライド・企画書形式） ・個別指導・グループ内ブラッシュアップ ・最終資料を提出、講座全体の振り返り 						
合否判定の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参加度 ：40% ・グループワーク ：30% ・課題提出資料 ：30% 						
準備学修（予習・復習、課題等）	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ：身近な地域課題を1つ調査・整理してくる ・復習 ：授業内容を振り返り、自分の言葉でまとめる（簡易レポート） ・グループ課題：ワークショップの進捗を整理し、発表資料を作成 <p>* 事前課題、復習、グループ課題をあわせて、各回あたり180分の授業外学修が必要</p>						
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本講座はPBL 型（Project Based Learning）を重視し、主体的な参加を前提とする。 ・グループワークを基本とするため、積極的な発言・協働姿勢を求める。 ・1グループ4名程度、全16～20名が理想的な人数構成と考える。 						

「イノベーション技法」講座系モジュール シラバス

授業年度	2026年度	学期	後期	曜日時限	水6	領域区分	ビジネス
講座名	忘我 LMS によるイノベーション創出					授業形態	演習
担当教員	矢追 良太						
講座概要	<p>本講座は、現代のビジネス環境において不可欠なイノベーション創出のための基礎知識を学ぶ講座です。AI との対話型学習を通じてビジネスモデル設計、事業計画策定、資本政策・組織計画まで、起業家精神を育成し実際のビジネス創出に必要な基本的な知識とスキルを体系的に修得します。事業計画の基本的な考え方、リーンキャンパスによるアイデアの整理、現代的なビジネスモデルの理解、そして資金調達と組織づくりに至るまで、イノベーション創出へのファーストステップを踏み出すための知識基盤を忘我 LMS によって構築します。</p>						
講座の目的・到達目標	<p>【講座の目的】</p> <p>現代のビジネス環境で求められるイノベーション創出に必要な基礎知識を身に付け、AI との共創学習によるビジネス企画・事業計画策定のプロセスを理解し、実際のイノベーション活動への第一歩を踏み出すことを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>本講座を通して、学生は以下のことができるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画策定の基本的な考え方やビジネスモデルの構成要素について説明することができる。 ・リーンキャンパスの各要素を理解し、自身の事業アイデアを整理して表現することができる。 ・対話型学習用 AI（忘我 LMS）を活用して必要な知識を調べ、事業アイデアの検討を進めることができる。 						
授業計画							
第1回	<p>ツールセットアップと事業計画策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・忘我 LMS の操作方法習得と学習環境構築 ・事業計画策定の目的や役割、市場分析など 						
第2回	<p>リーンキャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーンキャンパスの理論的背景と9つの構成要素の理解 						
第3回	<p>現代的なビジネスモデル設計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代的ビジネスモデルの類型と特徴分析（サブスクリプションモデル、フリーミアムモデル、プラットフォームモデル、その他の新興モデル） 						
第4回	<p>資本政策と組織計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資金調達の種類と選択基準など ・組織設計の基本、採用戦略など 						
合否判定の方法	<p>合格要件：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席要件：全4回の授業のうち、3回以上の出席が必須 ・学習進捗：忘我 LMS の履歴評価 						
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>【第1回】</p> <p>復習：忘我 LMS 上で提供されている「事業計画策定」カリキュラムに取り組み、事業計画策定の基本的な考え方や市場分析の基礎について理解を深めること。（180分）</p>						

	<p>【第2回】</p> <p>予習：忘我 LMS 上で提供されている「リーンキャンバス」カリキュラムを進め、リーンキャンバスの理論的背景や構成要素について概要を把握しておくこと。(90分)</p> <p>復習：忘我 LMS 上で提供されている「リーンキャンバス」カリキュラムを進めながら、自身の事業アイデアをもとにリーンキャンバスの各要素を整理すること。(90分)</p> <p>【第3回】</p> <p>予習：忘我 LMS 上で提供されている「ビジネスモデル」カリキュラムを進め、サブスクリプションモデルやプラットフォームモデルなどの特徴について理解を深めること。(90分)</p> <p>復習：忘我 LMS 上で提供されている「ビジネスモデル」カリキュラムを進めながら、自身の事業アイデアに適したビジネスモデルを検討すること。(90分)</p> <p>【第4回】</p> <p>予習：忘我 LMS 上で提供されている「資金調達・資本政策・組織設計」カリキュラムを進め、資金調達の方法や組織設計の基本的な考え方について理解を深めること。(90分)</p> <p>復習：忘我 LMS 上で提供されている「資金調達・資本政策・組織設計」カリキュラムを進めながら、事業計画の実現に向けた資本政策や組織体制について整理し、リーンキャンバスの内容を見直すこと。(90分)</p>
備考	

「イノベーション技法」講座系モジュール シラバス

授業年度	2026年度	学期	後期	曜日時限	火5	領域区分	ビジネス
講座名	共感型コーポレートコミュニケーション戦略					授業形態	講義
担当教員	登坂 泰斗、大高 真由、鳥居 保人						
講座概要	近年、SDGs や ESG が取りざたされる中で、自社のサービスや商品だけでなく、企業自体が社会や生活者との接点を持つことが重要な時代となってきた。企業の認知度や好意度を上げることは、株価や採用にも寄与すると言われ、経営の根幹にも関わる。						
講座の目的・到達目標	<p>【講座の目的】</p> <p>PR（パブリックリレーションズ）の基礎発想法や仕組みを理解することで、企業と社会をつなぐ共感型コミュニケーションの実践力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>企業と社会の接点を創出し、企業と社会の良好な関係値を築くける力を身に付けることとを目標とする。</p>						
授業計画							
第1回	<p>企業価値を上げるということの意味</p> <p>①企業が社会との接点を持つ意味と意義を社会的背景から読み解く</p> <p>②企業が社会との接点を持つために行うコーポレートアクションの事例を ACC の事例を基に解説</p>						
第2回	<p>BtoB 企業の CM 増加の要因</p> <p>①BtoB 企業の CM の増加数とその背景</p> <p>②BtoB 企業の CM の事例紹介と企業メッセージの変遷</p> <p>③データから見る CM の効果</p>						
第3回	<p>企業の社会との接点づくりとコーポレートコミュニケーション</p> <p>①社員を巻き込むインテナルコミュニケーション</p> <p>②PES0 メディア、それぞれの役割を整理する</p> <p>③PES0 メディアを連携する統合型コミュニケーション</p> <p>④社会と企業をつなぐ社会デザインキーワードの考え方</p> <p>⑤社会デザインキーワードを考える</p>						
第4回	<p>実践・共創型コーポレートコミュニケーションを企画する</p> <p>①企業のコミュニケーション案を考える</p> <p>②グループごとの発表</p> <p>③フィードバック</p>						
合否判定の方法	授業への参加態度（ディスカッションやワークなどの参加）、課題提出から総合的に判断する。						
準備学修（予習・復習、課題等）	課題提出を通して、予習・復習とみなす。（各回180分程度）						
備考							

「イノベーション技法」講座系モジュール シラバス

授業年度	2026年度	学期	後期	曜日時限	水5・水6	領域区分	ICT
講座名	SNS マーケティング基礎					授業形態	演習
担当教員	神山 季己						
講座概要	<p>今や企業の集客や採用に欠かせないのが Instagram や TikTok などの SNS。SNS マーケターという仕事に従事するために必要なスキル「SNS マーケティング」の基礎と技術を修得することでマーケティング力を養い、個人事業主としても企業のマーケターとしても通用する人材になるための基盤を形成します。</p> <p>本講座では、SNS 総フォロワー28万人超を抱えるインフルエンサー講師による SNS マーケティングの基礎や仕事内容に関する講義とショート動画を実際に作成するワークを通して、SNS 運用に関する理解を深めます。</p> <p>また、本講座はデジタルマーケティング・広報戦略・ビジネスブランディングなど、他のマーケティング系科目とも密接に関連しており、企業や個人のブランディングに SNS を活用するための基礎となる内容です。</p>						
講座の目的・到達目標	<p>【講座の目的】</p> <p>企業の広報担当、起業家、クリエイターなど、多様なキャリアにおいて即戦力となり得る SNS マーケティングの基礎スキルを獲得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>■ 知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS マーケティングの基礎について理解し、説明できる。 ・ SNS マーケティングをビジネス戦略と関係づけて説明できる。 <p>■ 技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スマートフォンのカメラを効果的に使い、撮影を行うことができる。 ・ 用意してある素材を使って実際にショート動画を編集できる。 ・ 課題を通して、自身でショート動画を作ることができるようになる。 						
授業計画							
第1回	<p>SNS マーケティングの基礎修得：</p> <p>SNS マーケティングの基礎と SNS マーケティングを使った仕事に関する講義</p>						
第2回	<p>Edits を使ったリール動画の作成：</p> <p>ワーク（ショート動画の作成練習、台本作成練習）</p>						
合否判定の方法	提出課題（期限までに提出必須）						
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>■ 事前準備・予習（120分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 無料動画編集アプリ「Edits」を必ずスマホへインストールし、自分なりに使い方を確認してきてください。 <p>https://apps.apple.com/jp/app/edits-an-instagram-app/id6738967378</p> <p>https://play.google.com/store/apps/details?id=com.instagram.basel&hl=ja</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自身の Instagram アカウントを作成しておいてください。（既存のものがある場合は、それを使用することも可） <p>■ 復習・課題（240分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内で提示する課題に取り組んでください。 ・ 授業資料を基に学んだ内容を振り返りながら、自身でショート動画の作成や SNS 運用に取り組み、スキルの定着を図ってください。 						

備考	
----	--

「イノベーション技法」講座系モジュール シラバス

授業年度	2026年度	学期	後期	曜日時限	水5・水6	領域区分	ICT
講座名	映像表現技法					授業形態	演習
担当教員	有馬 俊						
講座概要	映像制作における基礎的な撮影・編集の知識及び考え方を学ぶ。						
講座の目的 ・到達目標	<p>【講座の目的】</p> <p>カメラ及び映像編集ソフトの基礎的な機能を理解し、意図した映像を撮影・編集できる知識と考え方を身に付ける。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マニュアル操作によるデジタルカメラ撮影と意図した映像素材の撮影ができる。 ・撮影素材を組み合わせて映像編集を行い、簡易的な映像作品を完成させることができる。 						
授業計画							
第1回	映像の歴史とカメラの基礎						
第2回	カメラによる撮影練習						
第3回	映像編集の基礎と編集の練習						
第4回	完成系を見据えた上での撮影と編集練習						
合否判定の方法	グループの成果物により合否判定						
準備学修 (予習・復習、課題等)	<p>【事前準備】</p> <p>各自のスマートフォンに「Blackmagic Camera」をインストールしておく。</p> <p>【予習：90分】</p> <p>自分の好きな映画、映像作品、漫画のいずれかの作品から1場面選択して、作者がどのような意図でその場面の「画面」を構成しているかを考察し、スライド1枚にまとめる。</p> <p>【復習：90分】</p> <p>授業内でのフィードバックを基に、完成を目指す映像作品の修正に取り組む。</p>						
備考	授業はグループワークを中心に行う。						

「イノベーション技法」講座系モジュール シラバス

授業年度	2026年度	学期	後期	曜日時限	火5	領域区分	グローバル
講座名	グローバルイノベーターマインドセット① Global Innovator Mindset ①					授業形態	演習
担当教員	平野 麻紀子						
講座概要	<p>※グローバルイノベーターマインドセット①は、②とセットで受講することをお勧めします。</p> <p>起業家やイノベーションを起こす人材にとって大切な自己信頼力（自信）・主体性・ビジョン意識等が内面から自然と湧き出るためのマインドセットを行うと同時に、グローバル環境でも活躍するための英語コミュニケーションの基礎スキルも使います。</p> <p>講座は学生の国籍に応じて日本語と英語で実施され、自分への理解と信頼を深めながら、各自がマイペースでイノベーターマインドを築いていきます。</p> <p>人材の能力や強さを引き出す根本的なアプローチである当プログラムは、教育分野では、他大学のグローバルイノベーション講義や研究者向け教育として使われています。スポーツ界では、元日本代表選手の指導者や、プロチーム、強豪校の部活動指導者達が取り入れ始めています。ビジネス界では、従業員の生産性やエンゲージメントを高めたい経営者が、従業員研修に採用しています。</p> <p>当プログラムで用いるマインド構築モデルは、アメリカの著名大学や国際的な出版社が手がけるリーダーシップ書籍に、「次世代型リーダーのマインド設計」というテーマで掲載されています。また、文部科学省・経済産業省が設置する Japan Entrepreneurship Alliance（日本に起業家精神に関する教育を広める取組み）が採用している教育モデルです。</p> <p>自分の能力を最大限活かして活躍し、社会に変革をもたらすイノベーターになりたい学生や、グローバル環境での活躍を視野に入れている学生、また、自信を持とうと心掛けたり人から褒められても自分に自信が持てない学生に向いています。</p> <p>※It is recommended to take “Global Innovator Mindset ①” together with “Global Innovator Mindset ②”.</p> <p>For entrepreneurs and people who aim to create innovation, this course cultivates the mindset that brings out self-confidence, initiative, and vision. In addition, English communication is used in class so that students can engage with global perspectives.</p> <p>Classes are conducted in both Japanese and English according to the needs of the students. Through this process, students deepen their understanding of themselves and build trust in themselves while forming their own innovator mindset.</p> <p>This program takes a fundamental approach that draws out each individual's abilities and strengths. In the field of education, it has been used in global innovation lectures at universities and in research guidance for students who aim to create innovation. In the sports field, similar approaches are used by former members of Japan's national teams who now work as coaches for professional teams and strong club teams. In the business field, it has been</p>						

	<p>applied in employee training programs led by managers who aim to improve productivity and engagement.</p> <p>The Global Innovator Mindset used in this program will be introduced in several leadership books published by major academic publishers in the United States under the theme of “Transformation of Business and Education for Social Prosperity.” It is also used as an educational model in entrepreneurship education initiatives promoted through collaboration between academia and industry in Japan, including programs related to the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT), the Ministry of Economy, Trade and Industry (METI), and the Japan Entrepreneurship Alliance (JEA).</p> <p>This class is intended for students who want to create a positive impact in society, students who wish to be active in global environments, and also students who may find it difficult to build confidence in themselves even when they make efforts or accumulate experience.</p>
<p>講座の目的 ・到達目標</p>	<p>【講座の目的】 自分らしく力を発揮するための考え方や心のあり方を考え、特に起業家やイノベーターにとって大切なマインドを楽しく育てていきます。</p> <p>【到達目標】 グローバルイノベーターマインドセット②と合わせて受講することで、以下の理解と一部体得を目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イノベーターの持つ確固たる自信 2. 持続成果をもたらす働きに必要な主体性 3. 意図せずとも評価や応援が集まる人間力 4. 志を分かち仲間が気づけば集まる求心力 5. グローバル等の環境を選ばず活躍できる順応力 6. 直感やインスピレーションの意識的活用力 <p>[Purpose] This class will support you exert your strengths in your own way, and develop a mindset that is particularly important for innovators and entrepreneurs.</p> <p>[Goals] The students will understand the importance or method to acquire the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Self-confidence as an innovator 2. The initiative and driving force required for leading your work to sustainable results 3. The humanity that brings you recognition and support from other people. 4. Gravitational pull that brings you people who have a high ambition as you do. 5. Flexibility and strength to succeed in any environment including global. 6. How to use and train intuition and inspiration
授業計画	
第1回	<p>【オリエンテーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内観と自己理解 ・クラスメイトからチームメイトへ

	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル人材・イノベーターの定義と活躍する人材のマインド構造 <p>[Orientation]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Introspection and self-understanding ・ From classmates to teammates ・ Definition of global talent and the mindset of successful innovators
第2回	<p>【心の火種を確保】 ※重要回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己信頼の源 ・ 経験の消化度を高める <p>[Origin of Self-Trust] ※Key-part</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A source of self-confidence ・ Deepen the learning from experiences
第3回	<p>【直感とインスピレーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成長サイクル ・ 自己対話 <p>[Intuition and inspiration]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Growth cycle ・ Self-dialogue
合否判定の方法	Attitude・Participation・Assignmentなどを総合的に判断
準備学修 (予習・復習、 課題等)	<p>各回で配布するワークシートを埋めながら、自分への理解や信頼が増す自分資料を作っていきます。授業で埋め切れなかった箇所を課題にすることもあります。 (各回の授業に対し180分程度)</p> <p>As you fill out the worksheets distributed at each class, you will create your own original "personal notes" that will deepen your self-understanding and trusting. You may also be given assignments for any parts that you were unable to fill in during class.</p>
備考	

「イノベーション技法」講座系モジュール シラバス

授業年度	2026年度	学期	後期	曜日時限	火5	領域区分	グローバル
講座名	グローバルイノベーターマインドセット② Global Innovator Mindset ②					授業形態	演習
担当教員	平野 麻紀子						
講座概要	<p>※グローバルイノベーターマインドセット②は、①とセットで受講することをお勧めします。</p> <p>起業家やイノベーションを起こす人材にとって大切な自己信頼力（自信）・主体性・ビジョン意識等が内面から自然と湧き出るためのマインドセットを行うと同時に、グローバル環境でも活躍するための英語コミュニケーションの基礎スキルも使います。</p> <p>講座は学生の国籍に応じて日本語と英語で実施され、自分への理解と信頼を深めながら、各自がマイペースでイノベーターマインドを築いていきます。</p> <p>人材の能力や強さを引き出す根本的なアプローチである当プログラムは、教育分野では、他大学のグローバルイノベーション講義や研究者向け教育として使われています。スポーツ界では、元日本代表選手の指導者や、プロチーム、強豪校の部活動指導者達が取り入れ始めています。ビジネス界では、従業員の生産性やエンゲージメントを高めたい経営者が、従業員研修に採用しています。</p> <p>当プログラムで用いるマインド構築モデルは、アメリカの著名大学や国際的な出版社が手がけるリーダーシップ書籍に、「次世代型リーダーのマインド設計」というテーマで掲載されています。また、文部科学省・経済産業省が設置する Japan Entrepreneurship Alliance（日本に起業家精神に関する教育を広める取組み）が採用している教育モデルです。</p> <p>自分の能力を最大限活かして活躍し、社会に変革をもたらすイノベーターになりたい学生や、グローバル環境での活躍を視野に入れている学生、また、自信を持とうと心掛けたり人から褒められても自分に自信が持てない学生に向いています。</p> <p>※It is recommended to take “Global Innovator Mindset ②” together with “Global Innovator Mindset ①”.</p> <p>For entrepreneurs and people who aim to create innovation, this course cultivates the mindset that brings out self-confidence, initiative, and vision. In addition, English communication is used in class so that students can engage with global perspectives.</p> <p>Classes are conducted in both Japanese and English according to the needs of the students. Through this process, students deepen their understanding of themselves and build trust in themselves while forming their own innovator mindset.</p> <p>This program takes a fundamental approach that draws out each individual's abilities and strengths. In the field of education, it has been used in global innovation lectures at universities and in research guidance for students who aim to create innovation. In the sports field, similar approaches are used by former members of Japan's national teams who now work as coaches for professional teams and strong club teams. In the business field, it has been</p>						

	<p>applied in employee training programs led by managers who aim to improve productivity and engagement.</p> <p>The Global Innovator Mindset used in this program will be introduced in several leadership books published by major academic publishers in the United States under the theme of “Transformation of Business and Education for Social Prosperity.” It is also used as an educational model in entrepreneurship education initiatives promoted through collaboration between academia and industry in Japan, including programs related to the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT), the Ministry of Economy, Trade and Industry (METI), and the Japan Entrepreneurship Alliance (JEA).</p> <p>This class is intended for students who want to create a positive impact in society, students who wish to be active in global environments, and also students who may find it difficult to build confidence in themselves even when they make efforts or accumulate experience.</p>
<p>講座の目的 ・到達目標</p>	<p>【講座の目的】 自分らしく力を発揮するための考え方や心のあり方を考え、特に起業家やイノベーターにとって大切なマインドを楽しく育てていきます。</p> <p>【到達目標】 グローバルイノベーターマインドセット①と合わせて受講することで、以下の理解と一部体得を目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イノベーターの持つ確固たる自信 2. 持続成果をもたらす働きに必要な主体性や行動力 3. 意図せずとも評価や応援が集まる人間力 4. 志を分かち仲間が気づけば集まる求心力 5. グローバル等の環境を選ばず活躍できる順応力 6. 直感やインスピレーションの意識的活用力 <p>↑①の受講に対する目標 ↓②の受講に対する目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 協働を可能にする自分らしくいコミュニケーション力 8. 自分の中から湧き出るビジョン 9. ビジョンが機能するチームの構築力 10. 自己表現力と相手に伝わる力 11. グローバルビジネス SNS の活用 12. 多様性と異文化の受容力と共感力 <p>[Purpose] This class will support you exert your strengths in your own way, and develop a mindset that is particularly important for innovators and entrepreneurs.</p> <p>[Goals] The students will understand the importance or method to acquire the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Self-confidence as an innovator 2. The initiative and driving force required for leading your work to sustainable results 3. The humanity that brings you recognition and support from other people. 4. Gravitational pull that brings you people who have a high ambition as you

	<p>do.</p> <p>5. Flexibility and strength to succeed in any environment including global.</p> <p>6. How to use and train intuition and inspiration</p> <p><u>↑Goals for class-① ↓Goals for this class-②</u></p> <p>7. Confidence and joy in your own way of communication</p> <p>8. A vision that springs from within yourself</p> <p>9. Skill of building a team where the team vision functions well</p> <p>10. Self-expression and delivering skill to make your saying understood by people</p> <p>11. Using global business SNS effectively</p> <p>12. Diversity and different cultures</p>
授業計画	
第1回	<p>※グローバルイノベーターマインドセット①の内容の落とし込みと平行して進みます</p> <p>【ビジョン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンの効果と落とし穴 ・ビジョンの映像化 ・自分と社会を繋ぐ社会的ビジョン <p>[Vision]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Effects and risks of vision ・ Visualization skill ・ Social vision that connects individuals and society
第2回	<p>【特別企画講義】</p> <p>ゲストスピーカーによる特別講義「イノベーターのリアルを知る」</p> <p>[Special lecture]</p> <p>Lecture by a special guest!! "Knowing the reality of innovators"</p>
第3回	<p>【ビジョンの共有とエンパワーメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション力 ・エンパワーメント力 <p>[Sharing vision and empowering]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Presentation skill ・ Empowerment skill
合否判定の方法	Attitude・Participation・Assignmentなどを総合的に判断
準備学修 (予習・復習、 課題等)	<p>各回で配布するワークシートを埋めながら、自分への理解や信頼が増す自分資料を作っていきます。授業で埋め切れなかった箇所を課題にすることもあります。 (各回の授業に対し180分程度)</p> <p>As you fill out the worksheets distributed at each class, you will create your own original "personal notes" that will deepen your self-understanding and trusting. You may also be given assignments for any parts that you were unable to fill in during class.</p>
備考	

②イベント系モジュール

概 要	イベントの企画・運営に従事 ⇒ 合計45時間の活動実績をもって単位を修得可
内 容	イベントの企画・運営、商品・サービス等のプロモーションに係る知識・スキルの修得
対 象 イベント	<ul style="list-style-type: none"> ● iUtopia（ちょもろー） …プロジェクト・研究等成果発表イベント ● BLabマルシェ …学生・教員・職員交流イベント
授業日程	<p>① イベントの企画・運営手法に係る講義…火曜6限：4/14、4/21、5/12 ⇒ ②『iUtopia』又は『BLabマルシェ』を選択し、グループ別に各イベントの実施に向け活動</p> <p>● iUtopia ミーティング…火曜6限：6/16、6/23、7/7、7/14、7/21、8/18、9/1、9/15、9/29、10/13、10/27 イベント実践…【前日準備】11/6（金） 【本番】11/7（土）～8（日） 【振返り】11/10（火）6限</p> <p>● BLabマルシェ ミーティング…火曜6限：8/7、9/4、9/25、10/16、10/30、11/13、11/20、12/4、12/18、1/8、1/15 イベント実践…【本番（仮）】1/21（木） 【振返り】1/29（火）6限</p>
成績評価 単位修得	担当教員が「 合格 」又は「 不合格 」で 成績評価 を行い、「合格」の場合に単位修得
そ の 他	【イベント系モジュール】により「イノベーション技法 a」の単位修得後に「 イノベーション技法 b 」として再度【イベント系モジュール】を履修する場合、 <u>「イノベーション技法 a」履修時とは異なる役割を担当</u>

「イノベーション技法」イベント系モジュール シラバス

授業年度		2026年度	学期	通期	曜日時限	火6／金6	領域区分	領域共通
授業名		イベント運営・実践					授業形態	実習
担当教員		松村 太郎（iUtopia：火6）、斎藤 祐士（BLab マルシェ：金6）						
授業概要		<p>イベント（以下のいずれか）の企画・運営に携わり、イベント作りの基本、イベントのデザイン手法などについて、実践的に学ぶ。</p> <p>■iUtopia</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本学最大のアウトリーチイベント <ul style="list-style-type: none"> ☞ 本学のプロジェクト・起業活動を学外の多くの人に知ってもらう。 ☞ 本学のプロジェクトや起業のスポンサー獲得を目指す。 ・ 「ちょっと先のおもしろい未来」（通称：ちょもろー）内で開催する。 <ul style="list-style-type: none"> ☞ 本学の iUtopia 以外にも KMD の KMD Forum や CANVAS のワークショップコレクションなど、多くの企業や研究機関のイベントが開催される。 <p>■BLab マルシェ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本学付属研究所 BLab の研究員交流会 <ul style="list-style-type: none"> ☞ BLab 研究員の交流を促進する。 ☞ BLab のプロジェクト活動を促進する。 						
授業の目的・到達目標		<p>【授業の目的】</p> <p>イベントの企画・運営の実践を通じて、イベント作りに必要となる基本的な知識・スキルを身に付ける。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イベントの企画・運営の基本的な手法を理解し実践できる。 ・ 体験価値の高いイベントのデザイン手法を理解し、イベントの企画に活かすことができる。 ・ 他者と協働してイベントを企画・運営できる。 						
授業計画								
共通	第1回	イベント作りに大切なもの（基礎編）【4/14（火）6限】						
	第2回	イベント作りに大切なもの（実践編）【4/21（火）6限】						
	第3回	イベントコンセプトと経験デザイン 【5/12（火）6限】						
イベント実践		<p>「iUtopia」又は「BLab マルシェ」のいずれかのイベントを選択し、定期的に行うミーティングで進捗状況の報告等をしながら企画・運営に取り組む。</p> <p>ー基本スケジュールー</p> <p>■iUtopia</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期ミーティング（以下日程：6限） 6/16（火）、6/23（火）、7/7（火）、7/14（火）、7/21（火）、8/18（火）、9/1（火）、9/15（火）、9/29（火）、10/13（火）、10/27（火） ・ イベント運営 前日準備：11/6（金）、本番：11/7（土）～11/8（日） ・ 振り返り 11/10（火）6限 						

	<p>■BLab マルシェ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期ミーティング（以下日程：6限） 8/7（金）、9/4（金）、9/25（金）、10/16（金）、10/30（金）、11/13（金）、11/20（金）、12/4（金）、12/18（金）、1/8（金）、1/15（金） ・イベント運営 本番：1/21（木）※仮設定 ・振り返り 1/29（金）6限
合否判定の方法	各自の役割の遂行状況、取組態度により合否を判定する。
準備学修 （予習・復習、 課題等）	<p>各自の役割等に応じ定期ミーティング等で指示する。</p> <p>※合格判定にあたり、定期ミーティング等以外に最低でも15時間以上の活動が必要となる。</p>
備考	<p>「授業計画」欄に記載の基本スケジュール以外にも活動が必要となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況に応じた追加ミーティングへの参加 ・iU フェスでの会場設営の練習 など

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	[旧]イノベーションプロジェクトⅢ／[新]イノベーションプロジェクトA					授業形態	実習
授業コード	IPA1520001	単位数	1単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	志村 一隆、斎藤 祐士、仁木 隆大、小林 久美子、松村 太郎						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・3～5人のグループ単位で事業計画の策定を行う。 ・投資家・起業家に説得力のある企画にするために、市場調査の重要性を学び、客観的なデータを元にした事業プランを作り上げる。 ・適宜、各界のビジネスリーダーを授業に招き、実際のビジネスパーソンとのコミュニケーションを通じて事業開発に必要な観点を学ぶ。 ・最終的に策定したビジネス企画をプレゼンし、以下の6つの観点から評価を受ける。 ①新規性・独自性、②現実性、③市場性、④継続性、⑤拡張性、⑥プレゼン 						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの夢とビジネスの違いを理解する。 ・投資家・起業家に判断されるに足るビジネス企画を立案、プレゼンできることが目的であり、目標である。 ・そのために、自らの夢だけでなく、客観的なデータの提示が必要であることを学ぶ。 ・ビジネスには、顧客の存在が必要であり、そのために他者とのコミュニケーションスキルが必要であることを学ぶ。 ・礼儀、挨拶、時間を守ることなど、最低限のビジネスマナーを学び、会得、体現する。 ・他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践する。 						
授業計画							
第1回	科目の全体像と流れの説明、グループ編成、チームビルディング 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第2回	顧客観察と理解の手法、フィールドワーク 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第3回	顧客課題の分析と特定（1）共感マップ 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第4回	顧客課題の分析と特定（2） 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第5回	課題の解決策のアイデア創出（1）バリュープロポジション・キャンバス 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第6回	課題の解決策のアイデア創出（2）市場調査、TAMSAMSOMの設定 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第7回	アイデアのプロトタイピング（実装）市場調査に基づいた客観的なデータの取得 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第8回	プロトタイプテスト（1）フィールドワーク 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第9回	テスト結果の分析と再実装への反映 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第10回	プロトタイプテスト（2）フィールドワーク 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第11回	ストーリーテリングの手法 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						

第12回	ストーリーの構想とプレゼンテーション練習 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践			
第13回	中間プレゼン発表とフィードバック 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践			
第14回	プレゼンテーションの再構成 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践			
第15回	最終プレゼン発表とフィードバック 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践			
成績評価の方法	・授業におけるリーダーシップ・積極性：30％ ・中間プレゼン発表：10％ ・最終プレゼン発表：60％			
準備学修（予習・復習、課題等）	・予習：授業資料を読み込み、疑問点等を整理しておく。また、事前課題が出された場合は、期限までに提出する。（90分） ・復習：授業内容を振り返り、知識等の定着を図るとともに、構想しているビジネス企画をブラッシュアップする。（90分）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	各回ごとに必要な資料を適宜配布する。			
備考				
昨年度からの振り返り	昨年度は未開講のため該当なし。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	[旧]イノベーションプロジェクトⅣ／[新]イノベーションプロジェクトB					授業形態	実習
授業コード	IPB1520001	単位数	1単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	志村 一隆、斎藤 祐士、仁木 隆大、小林 久美子、松村 太郎						
授業概要	<ul style="list-style-type: none">・前期の「イノベーションプロジェクトA」からグループ編成を変更し、事業計画の策定に取り組む。・投資家・起業家に説得力のある企画にするために、市場調査の重要性を学び、客観的なデータを元にした事業プランを作り上げる。・適宜、各界のビジネスリーダーを授業に招き、実際のビジネスパーソンとのコミュニケーションを通じて事業開発に必要な観点を学ぶ。・最終的に策定したビジネス企画をプレゼンし、以下の6つの観点から評価を受ける。 ①新規性・独自性、②現実性、③市場性、④継続性、⑤拡張性、⑥プレゼン						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none">・自らの夢とビジネスの違いを理解する。・投資家・起業家に判断されるに足るビジネス企画を立案、プレゼンできることが目的であり、目標である。・そのために、自らの夢だけでなく、客観的なデータの提示が必要であることを学ぶ。・ビジネスには、顧客の存在が必要であり、そのために他者とのコミュニケーションスキルが必要であることを学ぶ。・礼儀、挨拶、時間を守ることなど、最低限のビジネスマナーを学び、会得、体現する。・他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践する。						
授業計画							
第1回	科目の全体像と流れの説明、グループ編成、チームビルディング 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第2回	顧客観察と理解の手法、フィールドワーク 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第3回	顧客課題の分析と特定（1）共感マップ 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第4回	顧客課題の分析と特定（2） 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第5回	課題の解決策のアイデア創出（1）バリュープロポジション・キャンバス 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第6回	課題の解決策のアイデア創出（2）市場調査、TAMSAMSOMの設定 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第7回	アイデアのプロトタイピング（実装）市場調査に基づいた客観的なデータの取得 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第8回	プロトタイプテスト（1）フィールドワーク 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第9回	テスト結果の分析と再実装への反映 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第10回	プロトタイプテスト（2）フィールドワーク 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第11回	ストーリーテリングの手法 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						

第12回	ストーリーの構想とプレゼンテーション練習 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践			
第13回	中間プレゼン発表とフィードバック 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践			
第14回	プレゼンテーションの再構成 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践			
第15回	最終プレゼン発表とフィードバック 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践			
成績評価の方法	・授業におけるリーダーシップ・積極性：30％ ・中間プレゼン発表：10％ ・最終プレゼン発表：60％			
準備学修（予習・復習、課題等）	・予習：授業資料を読み込み、疑問点等を整理しておく。また、事前課題が出された場合は、期限までに提出する。（90分） ・復習：授業内容を振り返り、知識等の定着を図るとともに、構想しているビジネス企画をブラッシュアップする。（90分）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	各回ごとに必要な資料を適宜配布する。			
備考				
昨年度からの振り返り	昨年度は未開講のため該当なし。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	実習事前指導					授業形態	実習
授業コード	PT11530002	単位数	1単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	石村 源生、阿部川 久広、志村 一隆、斎藤 祐士、仁木 隆大						
授業概要	本科目は、次年度に実施する臨地実務実習に向けた事前指導科目である。学生がこれまでの学修で身につけたビジネス、ICT、グローバルコミュニケーション等の知識・技能を実務の場で効果的に発揮できるよう、実習前に必要な準備を体系的に行う。						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> - 授業の目的 <ul style="list-style-type: none"> - これまで様々な授業で獲得した知識・スキルを実践現場で活用し、そこでの経験を省察して理論化し、自らの成長へと転化するための考え方を学ぶ。 - 到達目標 <ul style="list-style-type: none"> - ①実習の学びの最大化 <ul style="list-style-type: none"> - 実習の学びを最大化するために必要な知識・スキル・考え方・態度・習慣を身につける。 - ②知識・技能の統合的活用 <ul style="list-style-type: none"> - ビジネス・ICT・グローバルコミュニケーションなど授業で得た理論や知識を実務に役立つように統合することができる。 - ③経験学習の考え方の理解 <ul style="list-style-type: none"> - 経験を通じて実践知を身につける、経験学習の考え方を身につける。 - ④キャリア教育との接続 <ul style="list-style-type: none"> - 実務経験をキャリアデザインに結びつけるための考え方を身につける。 						
授業計画							
第1回	<ul style="list-style-type: none"> - イントロダクション - 履歴書の作成・希望企業へのエントリー提出 						
第2回	授業で学んだ知識・技能の統合的活用						
第3回	経験学習の考え方の理解						
第4回	キャリア教育との接続						
第5回	<ul style="list-style-type: none"> - 企業研究 - 実習において求められる能力と現状 						
第6回	<ul style="list-style-type: none"> - ギャップの明確化と学習到達目標の設定 - 前半振り返り - 志望理由書の作成 						
第7回	- PROG受検						
第8回	実習先で必要な振る舞い方のトレーニング①						
第9回	実習先で必要な振る舞い方のトレーニング②						
第10回	<ul style="list-style-type: none"> - PROG受検結果の解説 - ビジネスにおいて知るべき知識の再確認 - ビジネスマナー 						
第11回	<ul style="list-style-type: none"> - 実習のルール - 実習における注意点 - 理解度テスト 						
第12回	<ul style="list-style-type: none"> - 実習で起こりがちな問題のケーススタディ - 日報の意義と書き方 						
第13回	事前指導中の学習：実施と結果報告						
第14回	実習開始後の学習：到達目標の設定①						
第15回	実習開始後の学習：到達目標の設定②						
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> - 課題、プレゼンテーション：100% - 詳細は1回目の授業で告知する。 						
準備学修（予習・復習、課題等）	配付資料などを基に授業内容を振り返り、臨地実務実習に向けた準備を行うこと。 また、随時設定される課題に取り組むこと。 （各回45分）						

教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
指定なし					
参考書	配布資料による。				
備考					
昨年度からの振り返り	昨年度は未開講のため該当なし。				

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	展開科目
授業科目名	[旧]ビジネス英語実習Ⅰ／[新]ビジネス英語実習Ⅰa					授業形態	実習
授業コード	EA11410001	単位数	1単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Joe Hug、平野 麻紀子、田中 亮子、横井 博文						
授業概要	<p>This Business English course uses authentic content to bring real-world business concepts for complete beginners. The course focuses on developing all English communication skills—reading, writing, listening, and speaking. It is designed for students at the CEFR A1 to A2 level who are learning the fundamentals of business English.</p> <p>このビジネス英語コースは、実際のビジネスシーンで役立つコンテンツを用いて、ビジネス英語を全く知らない初心者にも分かりやすく解説します。リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングといった、あらゆる英語コミュニケーションスキルの向上に重点を置いています。CEFR A1～A2レベルで、ビジネス英語の基礎を学びたい方を対象としています。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>1. Build fundamental business English vocabulary. 2. Develop practical business English communication skills. 3. Improve Business English listening, reading, and skills.</p> <p>1. ビジネス英語の基礎語彙を身につける。 2. 実践的なビジネス英語コミュニケーションスキルを養う。 3. ビジネス英語のリスニング、リーディング、およびコミュニケーション能力を向上させる。</p>						
授業計画							
第1回	<p>INTRODUCTIONS: Introducing yourself</p> <p>• LANGUAGE: Nationalities; to be; a / an with jobs; wh- questions • SKILL: Introducing yourself to others</p>						
第2回	<p>WORK & LEISURE: Discuss what people want from work/jobs</p> <p>• LANGUAGE: Days, months, dates; Leisure activities; Present simple; Adverbs and expressions of frequency • SKILL: Talking about work and leisure</p>						
第3回	<p>PROBLEMS: Talk about problems at work</p> <p>• LANGUAGE: Adjectives too / enough; Present simple; negatives and questions; have some and any • SKILL: Telephoning: Solving problems</p>						
第4回	<p>REVIEW: Week 1 to 3</p> <p>Working Across Cultures: Eating out</p>						
第5回	<p>TRAVEL: Talk about business travel</p> <p>• LANGUAGE: Travel details; can/can't; there is / there are • SKILL: Making bookings and checking arrangements</p>						
第6回	<p>FOOD & ENTERTAINMENT: Discuss food from different countries</p> <p>• LANGUAGE: Eating out; some/any; Countable and uncountable nouns • SKILL: Making decisions</p>						
第7回	<p>BUYING & SELLING: Talk about buying different products</p> <p>• LANGUAGE: Choosing a product; Choosing a service; Past simple; Past time references • SKILL: Describing a product</p>						
第8回	<p>REVIEW: Week 4 to 6</p> <p>Working Across Cultures: Communication Styles</p>						
第9回	<p>PEOPLE: Talk about how you like to work</p> <p>• LANGUAGE: Describing people; Past simple; negatives and questions; Question forms • SKILL: Dealing with problems</p>						
第10回	<p>ADVERTISING: Discuss advertising</p>						

	<ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: Advertising and markets; Comparatives and superlatives; much / a lot, a little / a bit• SKILL: Participating in discussions			
第11回	COMPANIES: Discuss companies <ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: Describing companies; Present continuous; Present simple or present continuous• SKILL: Starting a presentation			
第12回	REVIEW: Week 7 to 9 Working Across Cultures: Doing Business Internationally			
第13回	COMMUNICATION: Discuss business communication <ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: Internal business communication; Talking about future plans; will• SKILL: Making arrangements			
第14回	CULTURES: Discuss doing business in other countries <ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: Company cultures; should / shouldn't; could / would• SKILL: Identifying problems and agreeing action			
第15回	FINAL PRESENTATION JOBS: Discuss jobs <ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: Skills and abilities; Present perfect; Past simple and present perfect• SKILL: Interview skills			
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none">• Class participation and engagement: 5%• Completion of weekly speeches, presentations, and assignments: 15%• Midterm (Reviews) Presentation x3: 30%• Final Presentation: 50% <ul style="list-style-type: none">• 授業への参加度：5%• 毎週のスピーチとプレゼンテーションの完了：15%• 中間プレゼンテーション：30%• 期末プレゼンテーション：50%			
準備学修（予習・復習、課題等）	<div>1. Practice delivering speeches without relying on notes or slides to improve spontaneity and confidence.</div> <div>2. Focus on using effective body language, maintaining good posture, and making consistent eye contact with the audience.</div> <div>3. Rehearse presentations multiple times, refining content and delivery to ensure clarity and impact.</div> <div>1. メモやスライドに頼らずにスピーチを練習して、自発性と自信を高めます。</div> <div>2. 効果的なボディランゲージの使用、良い姿勢の維持、聴衆との一貫したアイコンタクトに重点を置きます。</div> <div>3. プレゼンテーションを何度もリハーサルして、内容と伝え方を洗練させ、明瞭性とインパクトを確保します。</div> <div>• The slides used in class will be distributed via Google Classroom, so be sure to read them in advance.</div> <div>• 授業で使用するスライドは Google Classroom で配布されるので、事前にスライドを読んでおくこと。</div> <div>（あわせて各回45分程度）</div>			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書				
備考	<ul style="list-style-type: none">• You need to become familiar with and utilize AI tools (e.g., Notebook LM, Canva, ChatGPT, etc.).• AIツール（例：Notebook LM、Canva、ChatGPTなど）に精通し、活用できるようになる必要があります。			
昨年度からの振り返り	<ul style="list-style-type: none">• The difficulty of the lectures will vary depending on the way of basic explanations and the use of terms and expressions. Opportunities will be given to improve speaking and listening skills.• Classes will be structured efficiently and intensively to minimize lecture time and allow students to focus on group discussions and presentations.• Students are expected to actively participate in activities and reflect autonomous leadership and teamwork. <ul style="list-style-type: none">• 授業の難易度は、基本的な説明のしかた、用語や表現の使い方によって変わります。スピーキングとリスニングのスキルを向上させる機会が与えられます。• 授業は、講義時間を最小限に抑えながら、グループディスカッションとプレゼンテーションに集中できるように、効率的かつ集中的に構成			

されます。

- 履修者は、活動に積極的に参加し、自律的なリーダーシップとチームワークを反映させることが望まれます。

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	展開科目
授業科目名	[旧]ビジネス英語実習Ⅰ／[新]ビジネス英語実習Ⅰb					授業形態	実習
授業コード	EB11410001	単位数	1単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Joe Hug、平野 麻紀子、田中 亮子、横井 博文						
授業概要	<p>This Business English course uses authentic content to bring real-world business concepts for complete beginners. The course focuses on developing all English communication skills—reading, writing, listening, and speaking. It is designed for students at the CEFR A1 to A2 level who are learning the fundamentals of business English.</p> <p>このビジネス英語コースは、実際のビジネスシーンで役立つコンテンツを用いて、ビジネス英語を全く知らない初心者にも分かりやすく解説します。リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングといった、あらゆる英語コミュニケーションスキルの向上に重点を置いています。CEFR A1～A2レベルで、ビジネス英語の基礎を学びたい方を対象としています。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>1. Build fundamental business English vocabulary. 2. Develop practical business English communication skills. 3. Improve Business English listening, reading, and skills.</p> <p>1. ビジネス英語の基礎語彙を身につける。 2. 実践的なビジネス英語コミュニケーションスキルを養う。 3. ビジネス英語のリスニング、リーディング、およびコミュニケーション能力を向上させる。</p>						
授業計画							
第1回	<p>INTRODUCTIONS: Introducing yourself</p> <p>Case Study: A job fair in Singapore: Decide on the successful candidate for a job</p> <p>Writing: e-mail</p>						
第2回	<p>WORK & LEISURE: Discuss what people want from work/jobs</p> <p>Case Study: Hudson Design Inc.: Resolve issues with unhappy staff</p> <p>Writing: e-mail</p>						
第3回	<p>PROBLEMS: Talk about problems at work</p> <p>Case Study: High-Style Business Rentals: Respond to negative customer feedback</p> <p>Writing: e-mail</p>						
第4回	<p>REVIEW: Week 1 to 3</p> <p>Unit A: Revision</p>						
第5回	<p>TRAVEL: Talk about business travel</p> <p>Case Study: The Gustav Conference Centre: Coordinate the needs of three different companies</p> <p>Writing: e-mail</p>						
第6回	<p>FOOD & ENTERTAINMENT: Discuss food from different countries</p> <p>Case Study: Which restaurant? Choose the right place to eat for some important clients</p> <p>Writing: e-mail</p>						
第7回	<p>BUYING & SELLING: Talk about buying different products</p> <p>Case Study: NP Innovations: Decide on a new product</p> <p>Writing: e-mail</p>						

第8回	<p>REVIEW: Week 4 to 6</p> <p>Unit B: Revision</p>
第9回	<p>PEOPLE: Talk about how you like to work</p> <p>Case Study: Tell us about it: Give advice on problems at work</p> <p>Writing: reply to a problem message</p>
第10回	<p>ADVERTISING: Discuss advertising</p> <p>Case Study: Excelsior Chocolate Products: Devise an advertising campaign</p> <p>Writing: product launch plan</p>
第11回	<p>COMPANIES: Discuss companies</p> <p>Case Study: Presenting your company: Prepare a short presentation</p> <p>Writing: company profile</p>
第12回	<p>REVIEW: Week 7 to 9</p> <p>Unit C: Revision</p>
第13回	<p>COMMUNICATION: Discuss business communication</p> <p>Case Study: Blakelock Engineering: Decide who should leave a company</p> <p>Writing: e-mail</p>
第14回	<p>CULTURES: Discuss doing business in other countries</p> <p>Case Study: The wind of change: Assess ideas for changing a company culture</p> <p>Writing: action minutes</p>
第15回	<p>FINAL PRESENTATION</p> <p>JOBS: Discuss jobs</p> <p>Case Study: Nelson & Harper Inc.: Interview candidates for a job</p> <p>Writing: letter</p>
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> • Class participation and engagement: 5% • Completion of weekly speeches, presentations, and assignments: 15% • Midterm (Reviews) Presentation x3: 30% • Final Presentation: 50% <ul style="list-style-type: none"> • 授業への参加度：5% • 毎週のスピーチとプレゼンテーションの完了：15% • 中間プレゼンテーション：30% • 期末プレゼンテーション：50%
準備学修（予習・復習、課題等）	<ol style="list-style-type: none"> 1. Practice delivering speeches without relying on notes or slides to improve spontaneity and confidence. 2. Focus on using effective body language, maintaining good posture, and making consistent eye contact with the audience. 3. Rehearse presentations multiple times, refining content and delivery to ensure clarity and impact. <p>1. メモやスライドに頼らずにスピーチを練習して、自発性と自信を高めます。</p> <p>2. 効果的なボディランゲージの使用、良い姿勢の維持、聴衆との一貫したアイコンタクトに重点を置きます。</p> <p>3. プレゼンテーションを何度もリハーサルして、内容と伝え方を洗練させ、明瞭性とインパクトを確保します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 授業で使用するスライドは Google Classroom で配布されるので、事前にスライドを読んでおくこと。

	• The slides used in class will be distributed via Google Classroom, so be sure to read them in advance. (あわせて各回45分程度)			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書				
備考	• You need to become familiar with and utilize AI tools (e.g., Notebook LM, Canva, ChatGPT, etc.). • AIツール（例：Notebook LM、Canva、ChatGPTなど）に精通し、活用できるようになる必要があります。			
昨年度からの振り返り	• The difficulty of the lectures will vary depending on the way of basic explanations and the use of terms and expressions. Opportunities will be given to improve speaking and listening skills. • Classes will be structured efficiently and intensively to minimize lecture time and allow students to focus on group discussions and presentations. • Students are expected to actively participate in activities and reflect autonomous leadership and teamwork. • 授業の難易度は、基本的な説明のしかた、用語や表現の使い方によって変わります。スピーキングとリスニングのスキルを向上させる機会が与えられます。 • 授業は、講義時間を最小限に抑えながら、グループディスカッションとプレゼンテーションに集中できるように、効率的かつ集中的に構成されます。 • 履修者は、活動に積極的に参加し、自律的なリーダーシップとチームワークを反映させることが望まれます。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	展開科目
授業科目名	[旧]ビジネス英語実習Ⅱ／[新]ビジネス英語実習Ⅱa					授業形態	実習
授業コード	EA21410001	単位数	1単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Joe Hug、平野 麻紀子、田中 亮子、横井 博文						
授業概要	<p>This Business English course uses authentic content to bring real-world business concepts for pre-intermediate level studies. The course focuses on developing all English communication skills through project-based learning (PBL) —featuring case studies, role plays, and group discussions. It is designed for students at the CEFR A1 to A2 level who are learning business English.</p> <p>このビジネス英語コースは、実際のビジネス概念を中級レベルの学習者に分かりやすく伝えるため、本物のコンテンツを使用しています。ケーススタディ、ロールプレイ、グループディスカッションなどを取り入れたプロジェクト型学習（PBL）を通して、あらゆる英語コミュニケーションスキルを育成することに重点を置いています。CEFR A1～A2レベルのビジネス英語学習者を対象としています。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>1. Expand business English vocabulary and concepts. 2. Develop practical business English communication skills. 3. Enhance Business English comprehension.</p> <p>1. ビジネス英語の語彙と概念を拡大する。 2. 実践的なビジネス英語のコミュニケーションスキルを身につける。 3. ビジネス英語の読解力を向上させる。</p>						
授業計画							
第1回	<p>CAREERS: Talk about your future career plan</p> <p>• LANGUAGE: Career moves; Modals 1 – ability, requests and offers • SKILL: Telephoning – making contacts</p>						
第2回	<p>COMPANIES: Talk about companies</p> <p>• LANGUAGE: Describing companies; Present simple and present continuous • SKILL: Presenting your company</p>						
第3回	<p>SELLING: Talk about shopping habits</p> <p>• LANGUAGE: Making sales; Modals 2 – must, need to, have to, should • SKILL: Negotiating – reaching agreement</p>						
第4回	<p>REVIEW: Week 1 to 3</p> <p>Working Across Cultures: Saying ‘No’ politely</p>						
第5回	<p>IDEAS: Discuss what makes a great idea</p> <p>• LANGUAGE: Verb and noun combinations; Past simple and past continuous • SKILL: Successful meetings</p>						
第6回	<p>STRESS: Discuss stressful situations and activities</p> <p>• LANGUAGE: Stress in the workplace; Pas simple and present perfect • SKILL: Participating in discussions</p>						
第7回	<p>ENTERTAINING: Discuss corporate entertaining</p> <p>• LANGUAGE: Eating and drinking; Multiword verbs • SKILL: Socializing – greetings and small talk</p>						
第8回	<p>REVIEW: Week 4 to 6</p> <p>Working Across Cultures: Doing Business Internationally</p>						
第9回	<p>NEW BUSINESS: Discuss new businesses and business sectors</p> <p>• LANGUAGE: Economic terms; Time clauses • SKILL: Dealing with numbers</p>						
第10回	<p>MARKETING: Talk about the marketing mix and marketing campaigns</p>						

	<ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: Word partnerships; Questions• SKILL: Telephoning – exchanging information			
第11回	<p>PLANNING: Discuss how and when to plan</p> <ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: Making plans; Talking about future plans• SKILL: Meetings – interrupting and clarifying			
第12回	<p>REVIEW: Week 7 to 9</p> <p>Working Across Cultures: International Conference Calls</p>			
第13回	<p>MANAGING PEOPLE: Discuss the qualities of a good manager</p> <ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: Verbs and prepositions; Reported speech• SKILL: Socializing and entertaining			
第14回	<p>CONFLICT: Talk about managing conflict</p> <ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: Word building; Conditionals• SKILL: Negotiating – dealing with conflict			
第15回	<p>FINAL PRESENTATION</p> <p>PRODUCTS: Discuss products</p> <ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: Describing products; Passives• SKILL: Presenting a product			
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none">• Class participation and engagement: 5%• Completion of weekly speeches, presentations, and assignments: 15%• Midterm (Reviews) Presentation x3: 30%• Final Presentation: 50% <ul style="list-style-type: none">• 授業への参加度：5%• 毎週のスピーチとプレゼンテーションの完了：15%• 中間プレゼンテーション：30%• 期末プレゼンテーション：50%			
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>1. Practice delivering speeches without relying on notes or slides to improve spontaneity and confidence.</p> <p>2. Focus on using effective body language, maintaining good posture, and making consistent eye contact with the audience.</p> <p>3. Rehearse presentations multiple times, refining content and delivery to ensure clarity and impact.</p> <p>1. メモやスライドに頼らずにスピーチを練習して、自発性と自信を高めます。</p> <p>2. 効果的なボディランゲージの使用、良い姿勢の維持、聴衆との一貫したアイコンタクトに重点を置きます。</p> <p>3. プレゼンテーションを何度もリハーサルして、内容と伝え方を洗練させ、明瞭性とインパクトを確保します。</p> <ul style="list-style-type: none">• The slides used in class will be distributed via Google Classroom, so be sure to read them in advance.• 授業で使用するスライドは Google Classroom で配布されるので、事前にスライドを読んでおくこと。 <p>（あわせて各回45分程度）</p>			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書				
備考	<ul style="list-style-type: none">• You need to become familiar with and utilize AI tools (e.g., Notebook LM, Canva, ChatGPT, etc.).• AIツール（例：Notebook LM、Canva、ChatGPTなど）に精通し、活用できるようになる必要があります。			
昨年度からの振り返り	<ul style="list-style-type: none">• The difficulty of the lectures will vary depending on the way of basic explanations and the use of terms and expressions. Opportunities will be given to improve speaking and listening skills.• Classes will be structured efficiently and intensively to minimize lecture time and allow students to focus on group discussions and presentations.• Students are expected to actively participate in activities and reflect autonomous leadership and teamwork. <ul style="list-style-type: none">• 授業の難易度は、基本的な説明の仕方、用語や表現の使い方によって変わります。スピーキングとリスニングのスキルを向上させる機会が与えられます。• 授業は、講義時間を最小限に抑えながら、グループディスカッションとプレゼンテーションに集中できるように、効率的かつ集中的に構成			

されます。

- 履修者は、活動に積極的に参加し、自律的なリーダーシップとチームワークを反映させることが望まれます。

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	展開科目
授業科目名	[旧]ビジネス英語実習Ⅱ／[新]ビジネス英語実習Ⅱb					授業形態	実習
授業コード	EB21410001	単位数	1単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Joe Hug、平野 麻紀子、田中 亮子、横井 博文						
授業概要	<p>This Business English course uses authentic content to bring real-world business concepts for pre-intermediate level studies. The course focuses on developing all English communication skills through project-based learning (PBL) —featuring case studies, role plays, and group discussions. It is designed for students at the CEFR A1 to A2 level who are learning business English.</p> <p>このビジネス英語コースは、実際のビジネス概念を中級レベルの学習者に分かりやすく伝えるため、本物のコンテンツを使用しています。ケーススタディ、ロールプレイ、グループディスカッションなどを取り入れたプロジェクト型学習（PBL）を通して、あらゆる英語コミュニケーションスキルを育成することに重点を置いています。CEFR A1～A2レベルのビジネス英語学習者を対象としています。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>1. Expand business English vocabulary and concepts. 2. Develop practical business English communication skills. 3. Enhance Business English comprehension.</p> <p>1. ビジネス英語の語彙と概念を拡大する。 2. 実践的なビジネス英語のコミュニケーションスキルを身につける。 3. ビジネス英語の読解力を向上させる。</p>						
授業計画							
第1回	<p>CAREERS: Talk about your future career plan</p> <p>Case Study: Youjuice: Decide on the successful candidate for a job</p> <p>Writing: e-mail</p>						
第2回	<p>COMPANIES: Talk about companies</p> <p>Case Study: Dino Conti Ice Cream: Decide on the best way to invest in a company's future</p> <p>Writing: proposal</p>						
第3回	<p>SELLING: Talk about shopping habits</p> <p>Case Study: A partnership agreement: Work on a proposed partnership between a jet charter company and a hotel group</p> <p>Writing: letter</p>						
第4回	<p>REVIEW: Week 1 to 3</p> <p>Unit A: Revision</p>						
第5回	<p>IDEAS: Discuss what makes a great idea</p> <p>Case Study: The new attraction: Decide on the best idea for a new attraction</p> <p>Writing: report</p>						
第6回	<p>STRESS: Discuss stressful situations and activities</p> <p>Case Study: Davies-Miller Advertising: Suggest ways of reducing stress amongst staff</p> <p>Writing: report</p>						
第7回	<p>ENTERTAINING: Discuss corporate entertaining</p> <p>Case Study: Organizing a conference: Choose the location for a sales conference</p> <p>Writing: e-mail</p>						

第8回	<p>REVIEW: Week 4 to 6</p> <p>Unit B: Revision</p>
第9回	<p>NEW BUSINESS: Discuss new businesses and business sectors</p> <p>Case Study: Taka Shimizu Cycles: Choose the location for a new factory</p> <p>Writing: e-mail</p>
第10回	<p>MARKETING: Talk about the marketing mix and marketing campaigns</p> <p>Case Study: Wincote International: Devise a plan to improve sales at an outdoor-clothing company</p> <p>Writing: e-mail</p>
第11回	<p>PLANNING: Discuss how and when to plan</p> <p>Case Study: European Press and Media Corporation: Plan a new issue of a magazine</p> <p>Writing: letter</p>
第12回	<p>REVIEW: Week 7 to 9</p> <p>Unit C: Revision</p>
第13回	<p>MANAGING PEOPLE: Discuss the qualities of a good manager</p> <p>Case Study: Ashley Cooper Search Agency: Advise on improving staff relations at a property company</p> <p>Writing: report</p>
第14回	<p>CONFLICT: Talk about managing conflict</p> <p>Case Study: Herman & Corrie Teas: Decide whether a company should accept a buy-out offer</p> <p>Writing: letter</p>
第15回	<p>FINAL PRESENTATION</p> <p>PRODUCTS: Discuss products</p> <p>Case Study: The George Marshall Awards: Choose the winner of a product-innovation competition</p> <p>Writing: report</p>
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> • Class participation and engagement: 5% • Completion of weekly speeches, presentations, and assignments: 15% • Midterm (Reviews) Presentation x3: 30% • Final Presentation: 50% • 授業への参加度：5% • 毎週のスピーチとプレゼンテーションの完了：15% • 中間プレゼンテーション：30% • 期末プレゼンテーション：50%
準備学修（予習・復習、課題等）	<ol style="list-style-type: none"> 1. Practice delivering speeches without relying on notes or slides to improve spontaneity and confidence. 2. Focus on using effective body language, maintaining good posture, and making consistent eye contact with the audience. 3. Rehearse presentations multiple times, refining content and delivery to ensure clarity and impact. <p>1. メモやスライドに頼らずにスピーチを練習して、自発性と自信を高めます。</p> <p>2. 効果的なボディランゲージの使用、良い姿勢の維持、聴衆との一貫したアイコンタクトに重点を置きます。</p> <p>3. プレゼンテーションを何度もリハーサルして、内容と伝え方を洗練させ、明瞭性とインパクトを確保します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • The slides used in class will be distributed via Google Classroom, so be sure to read them in advance.

	• 授業で使用するスライドは Google Classroom で配布されるので、事前にスライドを読んでおくこと。 (あわせて各回45分程度)			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書				
備考	• You need to become familiar with and utilize AI tools (e.g., Notebook LM, Canva, ChatGPT, etc.). • AIツール（例：Notebook LM、Canva、ChatGPTなど）に精通し、活用できるようになる必要があります。			
昨年度からの振り返り	• The difficulty of the lectures will vary depending on the way of basic explanations and the use of terms and expressions. Opportunities will be given to improve speaking and listening skills. • Classes will be structured efficiently and intensively to minimize lecture time and allow students to focus on group discussions and presentations. • Students are expected to actively participate in activities and reflect autonomous leadership and teamwork. • 授業の難易度は、基本的な説明のしかた、用語や表現の使い方によって変わります。スピーキングとリスニングのスキルを向上させる機会が与えられます。 • 授業は、講義時間を最小限に抑えながら、グループディスカッションとプレゼンテーションに集中できるように、効率的かつ集中的に構成されます。 • 履修者は、活動に積極的に参加し、自律的なリーダーシップとチームワークを反映させることが望まれます。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	展開科目
授業科目名	[旧]ビジネス英語実習Ⅲ／[新]ビジネス英語実習Ⅲa					授業形態	実習
授業コード	EA31410001	単位数	1単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Joe Hug、小林 美恵子、横井 博文						
授業概要	<p>The course features the reading of texts, discussion of mini-case studies, expressing opinions and learning about real-world business consultants. The course is designed to prepare students at the CEFR B1 level to interact confidently with both native and non-native speakers of English in a professional business context, bridging the gap from pre-intermediate to intermediate proficiency.</p> <p>このコースでは、テキストの読解、ミニケーススタディのディスカッション、意見表明、そして実際のビジネスコンサルタントについて学ぶことなどを行います。CEFR B1レベルの学生が、専門的なビジネス環境において英語のネイティブスピーカーと非ネイティブスピーカーの両方と自信を持って交流できるよう準備し、初中級から中級レベルの英語力へとステップアップできるよう設計されています。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>1. Expand professional business English vocabulary. 2. Develop practical business English communication skills through problem-based learning (PBL). 3. Enhance listening comprehension and analytical skills.</p> <p>1. ビジネス英語の語彙を増やす。 2. 問題解決型学習（PBL）を通して、実践的なビジネス英語コミュニケーション能力を養う。 3. リスニング力と分析力を向上させる。</p>						
授業計画							
第1回	<p>BRANDS: Talk about your favorite brands</p> <ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: Words that go with brand, product, and marker; Present simple and present continuous• SKILL: Taking part in meetings						
第2回	<p>TRAVEL: Talk about your travel experiences</p> <ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: British and American travel words; Talking about the future• SKILL: Telephoning – making arrangements						
第3回	<p>CHANGE: Discuss attitudes to change in general and at work</p> <ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: Words for describing change; Past simple and present perfect• SKILL: Managing meetings						
第4回	<p>REVIEW: Week 1 to 3</p> <p>Working Across Cultures: Socializing</p>						
第5回	<p>ORGANIZATION: Talk about status within an organization</p> <ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: Words and expressions to describe company structure; Noun combinations• SKILL: Socializing – introductions and networking						
第6回	<p>ADVERTISING: Discuss authentic advertisements</p> <ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: Words and expressions for talking about advertising; Articles• SKILL: Starting and structuring a presentation						
第7回	<p>MONEY: Discuss attitudes to money</p> <ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: Words and expressions for talking about finance; Describing trends• SKILL: Dealing with figures						
第8回	<p>REVIEW: Week 4 to 6</p> <p>Working Across Cultures: International meetings</p>						
第9回	<p>CULTURES: Discuss the importance of culture awareness in business</p> <ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: Idioms for talking about business relationships; Advice, obligation, and necessity• SKILL: Social English						
第10回	<p>HUMAN RESOURCES: Talk about job interviews</p>						

	<ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: Expressions for talking about job applications; -ing forms and infinitives• SKILL: Getting information on the telephone			
第11回	INTERNATIONAL MARKETS: Discuss the development of international markets <ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: Words and expressions for talking about free trade; Conditions• SKILL: Negotiating			
第12回	REVIEW: Week 7 to 9 Working Across Cultures: Doing Business Internationally			
第13回	ETHICS: Discuss questions of ethics at work <ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: Words describing illegal activity or unethical behavior; Narrative tenses• SKILL: Considering options			
第14回	LEADERSHIP: Discuss the qualities of good leadership <ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: Words to describe character; Relative clauses• SKILL: Presenting			
第15回	FINAL PRESENTATION COMPETITION: Talk about how competitive you are <ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: Idioms from sports to describe competition; Passives• SKILL: Negotiating			
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none">• Class participation and engagement: 5%• Completion of weekly speeches, presentations, and assignments: 15%• Midterm (Reviews) Presentation x3: 30%• Final Presentation: 50% <ul style="list-style-type: none">• 授業への参加度：5%• 毎週のスピーチとプレゼンテーションの完了：15%• 中間プレゼンテーション：30%• 期末プレゼンテーション：50%			
準備学修（予習・復習、課題等）	<div>1. Practice delivering speeches without relying on notes or slides to improve spontaneity and confidence.</div> <div>2. Focus on using effective body language, maintaining good posture, and making consistent eye contact with the audience.</div> <div>3. Rehearse presentations multiple times, refining content and delivery to ensure clarity and impact.</div> <div>1. メモやスライドに頼らずにスピーチを練習して、自発性と自信を高めます。</div> <div>2. 効果的なボディランゲージの使用、良い姿勢の維持、聴衆との一貫したアイコンタクトに重点を置きます。</div> <div>3. プレゼンテーションを何度もリハーサルして、内容と伝え方を洗練させ、明瞭性とインパクトを確保します。</div> <div>• The slides used in class will be distributed via Google Classroom, so be sure to read them in advance.</div> <div>• 授業で使用するスライドは Google Classroom で配布されるので、事前にスライドを読んでおくこと。</div> <div>（あわせて各回45分程度）</div>			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書				
備考	<ul style="list-style-type: none">• You need to become familiar with and utilize AI tools (e.g., Notebook LM, Canva, ChatGPT, etc.).• AIツール（例：Notebook LM、Canva、ChatGPTなど）に精通し、活用できるようになる必要があります。			
昨年度からの振り返り	<ul style="list-style-type: none">• The difficulty of the lectures will vary depending on the way of basic explanations and the use of terms and expressions. Opportunities will be given to improve speaking and listening skills.• Classes will be structured efficiently and intensively to minimize lecture time and allow students to focus on group discussions and presentations.• Students are expected to actively participate in activities and reflect autonomous leadership and teamwork. <ul style="list-style-type: none">• 授業の難易度は、基本的な説明のしかた、用語や表現の使い方によって変わります。スピーキングとリスニングのスキルを向上させる機会が与えられます。• 授業は、講義時間を最小限に抑えながら、グループディスカッションとプレゼンテーションに集中できるように、効率的かつ集中的に構成			

されます。

- 履修者は、活動に積極的に参加し、自律的なリーダーシップとチームワークを反映させることが望まれます。

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	展開科目
授業科目名	[旧]ビジネス英語実習Ⅲ／[新]ビジネス英語実習Ⅲb					授業形態	実習
授業コード	EB31410001	単位数	1単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Joe Hug、成田 絵怜奈						
授業概要	<p>The course features the reading of texts, discussion of mini-case studies, expressing opinions and learning about real-world business consultants. The course is designed to prepare students at the CEFR B1 level to interact confidently with both native and non-native speakers of English in a professional business context, bridging the gap from pre-intermediate to intermediate proficiency.</p> <p>このコースでは、テキストの読解、ミニケーススタディのディスカッション、意見表明、そして実際のビジネスコンサルタントについて学ぶことなどを行います。CEFR B1レベルの学生が、専門的なビジネス環境において英語のネイティブスピーカーと非ネイティブスピーカーの両方と自信を持って交流できるよう準備し、初中級から中級レベルの英語力へとステップアップできるよう設計されています。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>1. Expand professional business English vocabulary. 2. Develop practical business English communication skills through problem-based learning (PBL). 3. Enhance listening comprehension and analytical skills.</p> <p>1. ビジネス英語の語彙を増やす。 2. 問題解決型学習（PBL）を通して、実践的なビジネス英語コミュニケーション能力を養う。 3. リスニング力と分析力を向上させる。</p>						
授業計画							
第1回	<p>BRANDS: Talk about your favorite brands</p> <p>Case Study: Hudson Corporation: Decide how a luggage manufacturer can protect its brand</p> <p>Writing: e-mail</p>						
第2回	<p>TRAVEL: Talk about your travel experiences</p> <p>Case Study: BTS: Retain a travel agent's key client</p> <p>Writing: e-mail</p>						
第3回	<p>CHANGE: Discuss attitudes to change in general and at work</p> <p>Case Study: Acquiring Asia Entertainment: Solve the problems arising from a recent merger</p> <p>Writing: action minutes</p>						
第4回	<p>REVIEW: Week 1 to 3</p> <p>Unit A: Revision</p>						
第5回	<p>ORGANIZATION: Talk about status within an organization</p> <p>Case Study: InStep's relocation: Decide on the relocation site of a shoe manufacturer</p> <p>Writing: e-mail</p>						
第6回	<p>ADVERTISING: Discuss authentic advertisements</p> <p>Case Study: Alpha Advertising: Develop an advertising campaign</p> <p>Writing: summary</p>						
第7回	<p>MONEY: Discuss attitudes to money</p> <p>Case Study: Make your pitch: Present a new idea to investors</p> <p>Writing: e-mail</p>						

第8回	<p>REVIEW: Week 4 to 6</p> <p>Unit B: Revision</p>
第9回	<p>CULTURES: Discuss the importance of culture awareness in business</p> <p>Case Study: Business culture briefing: Prepare a talk on business culture</p> <p>Writing: report</p>
第10回	<p>HUMAN RESOURCES: Talk about job interviews</p> <p>Case Study: Fast Fitness: Find a new manager for a health dub chain</p> <p>Writing: letter</p>
第11回	<p>INTERNATIONAL MARKETS: Discuss the development of international markets</p> <p>Case Study: Pampas Leather Company: Negotiate a deal on leather goods</p> <p>Writing: e-mail</p>
第12回	<p>REVIEW: Week 7 to 9</p> <p>Unit C: Revision</p>
第13回	<p>ETHICS: Discuss questions of ethics at work</p> <p>Case Study: Principles or profit?: Debate some ethical dilemmas facing a drugs company</p> <p>Writing: report</p>
第14回	<p>LEADERSHIP: Discuss the qualities of good leadership</p> <p>Case Study: Lina Sports: Decide on the best leader for a troubled sportswear manufacturer</p> <p>Writing: e-mail</p>
第15回	<p>FINAL PRESENTATION</p> <p>COMPETITION: Talk about how competitive you are</p> <p>Case Study: Fashion House: Negotiate new contracts with suppliers</p> <p>Writing: e-mail</p>
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> • Class participation and engagement: 5% • Completion of weekly speeches, presentations, and assignments: 15% • Midterm (Reviews) Presentation x3: 30% • Final Presentation: 50% • 授業への参加度：5% • 毎週のスピーチとプレゼンテーションの完了：15% • 中間プレゼンテーション：30% • 期末プレゼンテーション：50%
準備学修（予習・復習、課題等）	<ol style="list-style-type: none"> 1. Practice delivering speeches without relying on notes or slides to improve spontaneity and confidence. 2. Focus on using effective body language, maintaining good posture, and making consistent eye contact with the audience. 3. Rehearse presentations multiple times, refining content and delivery to ensure clarity and impact. <p>1. メモやスライドに頼らずにスピーチを練習して、自発性と自信を高めます。</p> <p>2. 効果的なボディランゲージの使用、良い姿勢の維持、聴衆との一貫したアイコンタクトに重点を置きます。</p> <p>3. プレゼンテーションを何度もリハーサルして、内容と伝え方を洗練させ、明瞭性とインパクトを確保します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • The slides used in class will be distributed via Google Classroom, so be sure to read them in advance.

	• 授業で使用するスライドは Google Classroom で配布されるので、事前にスライドを読んでおくこと。 (あわせて各回45分程度)			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書				
備考	• You need to become familiar with and utilize AI tools (e.g., Notebook LM, Canva, ChatGPT, etc.). • AIツール（例：Notebook LM、Canva、ChatGPTなど）に精通し、活用できるようになる必要があります。			
昨年度からの振り返り	• The difficulty of the lectures will vary depending on the way of basic explanations and the use of terms and expressions. Opportunities will be given to improve speaking and listening skills. • Classes will be structured efficiently and intensively to minimize lecture time and allow students to focus on group discussions and presentations. • Students are expected to actively participate in activities and reflect autonomous leadership and teamwork. • 授業の難易度は、基本的な説明のしかた、用語や表現の使い方によって変わります。スピーキングとリスニングのスキルを向上させる機会が与えられます。 • 授業は、講義時間を最小限に抑えながら、グループディスカッションとプレゼンテーションに集中できるように、効率的かつ集中的に構成されます。 • 履修者は、活動に積極的に参加し、自律的なリーダーシップとチームワークを反映させることが望まれます。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	展開科目
授業科目名	[旧]ビジネス英語実習Ⅳ／[新]ビジネス英語実習Ⅳa					授業形態	実習
授業コード	EA41410001	単位数	1単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Joe Hug、小林 美恵子、横井 博文						
授業概要	<p>The course features application and discussion of mini-case studies to apply integrated business English language and business skills based on realistic scenarios. The course is designed to prepare students and bridge their learning between CEFR B1 to B2 levels. The course is designed to develop both fluency and accuracy for sophisticated business.</p> <p>本コースでは、現実的なシナリオに基づいた統合的なビジネス英語とビジネススキルを応用するためのミニケーススタディの実践とディスカッションを行います。CEFR B1レベルからB2レベルへの学習の橋渡しとなるよう設計されており、高度なビジネスに対応できる流暢さと正確さの両方を養います。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>1. Master advanced business English vocabulary and business concepts 2. Develop higher-level business English communication skills 3. Enhance critical thinking skills</p> <p>1. 高度なビジネス英語の語彙とビジネス概念を習得する 2. より高度なビジネス英語のコミュニケーション能力を養う 3. 批判的思考力を高める</p>						
授業計画							
第1回	<p>COMMUNICATION: Talk about what makes a good communicator</p> <p>• LANGUAGE: Good communicators; Idioms • SKILL: Dealing with communication breakdown</p>						
第2回	<p>INTERNATIONAL MARKETING: Talk about international brands</p> <p>• LANGUAGE: Marketing word partnerships; Noun compounds and nouns phrases • SKILL: Brainstorming</p>						
第3回	<p>RELATIONSHIPS: Talk about building relationships</p> <p>• LANGUAGE: Describing relationships; Multiword verbs • SKILL: Networking</p>						
第4回	<p>REVIEW: Week 1 to 3</p> <p>Working Across Cultures: Doing business internationally</p>						
第5回	<p>SUCCESS: Discuss what makes people and companies successful</p> <p>• LANGUAGE: Prefixes; Present and past tense • SKILL: Negotiating</p>						
第6回	<p>JOB SATISFACTION: Discuss motivational factors</p> <p>• LANGUAGE: Synonyms and word-building; Passives • SKILL: Cold-calling</p>						
第7回	<p>RISK: Discuss different aspects of risk</p> <p>• LANGUAGE: Describing risk; Adverbs of degree • SKILL: Reaching agreement</p>						
第8回	<p>REVIEW: Week 4 to 6</p> <p>Working Across Cultures: International meetings</p>						
第9回	<p>MANAGEMENT STYLES: Discuss different aspects of management styles</p> <p>• LANGUAGE: Management qualities; Text reference • SKILL: Presentations</p>						
第10回	<p>TEAMS: Talk about working in teams</p>						

	<ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: Prefixes; Modal perfect• SKILL: Resolving conflict			
第11回	<p>BASIC FINANCE: Discuss how and where finance can be raised</p> <ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: Financial terms; Dependent prepositions• SKILL: Negotiating			
第12回	<p>REVIEW: Week 7 to 9</p> <p>Working Across Cultures: Managing international teams</p>			
第13回	<p>CUSTOMER SERVICE: Discuss factors in an importance of customer service</p> <ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: Complaints; Gerunds• SKILL: Active listening			
第14回	<p>CRISIS MANAGEMENT: Discuss ways of handling crisis</p> <ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: Handling crises; Conditionals• SKILL: Asking and answering difficult questions			
第15回	<p>FINAL PRESENTATION</p> <p>MERGERS & ACQUISITIONS (M&A): Define and discuss acquisitions, mergers, and joint ventures</p> <ul style="list-style-type: none">• LANGUAGE: Describing mergers and acquisitions; Prediction and probability• SKILL: Making a presentation			
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none">• Class participation and engagement: 5%• Completion of weekly speeches, presentations, and assignments: 15%• Midterm (Reviews) Presentation x3: 30%• Final Presentation: 50% <ul style="list-style-type: none">• 授業への参加度：5%• 毎週のスピーチとプレゼンテーションの完了：15%• 中間プレゼンテーション：30%• 期末プレゼンテーション：50%			
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>1. Practice delivering speeches without relying on notes or slides to improve spontaneity and confidence.</p> <p>2. Focus on using effective body language, maintaining good posture, and making consistent eye contact with the audience.</p> <p>3. Rehearse presentations multiple times, refining content and delivery to ensure clarity and impact.</p> <p>1. メモやスライドに頼らずにスピーチを練習して、自発性と自信を高めます。</p> <p>2. 効果的なボディランゲージの使用、良い姿勢の維持、聴衆との一貫したアイコンタクトに重点を置きます。</p> <p>3. プレゼンテーションを何度もリハーサルして、内容と伝え方を洗練させ、明瞭性とインパクトを確保します。</p> <ul style="list-style-type: none">• The slides used in class will be distributed via Google Classroom, so be sure to read them in advance.• 授業で使用するスライドは Google Classroom で配布されるので、事前にスライドを読んでおくこと。 <p>（あわせて各回45分程度）</p>			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書				
備考	<ul style="list-style-type: none">• You need to become familiar with and utilize AI tools (e.g., Notebook LM, Canva, ChatGPT, etc.).• AIツール（例：Notebook LM、Canva、ChatGPTなど）に精通し、活用できるようになる必要があります。			
昨年度からの振り返り	<ul style="list-style-type: none">• The difficulty of the lectures will vary depending on the way of basic explanations and the use of terms and expressions. Opportunities will be given to improve speaking and listening skills.• Classes will be structured efficiently and intensively to minimize lecture time and allow students to focus on group discussions and presentations.• Students are expected to actively participate in activities and reflect autonomous leadership and teamwork. <ul style="list-style-type: none">• 授業の難易度は、基本的な説明のしかた、用語や表現の使い方によって変わります。スピーキングとリスニングのスキルを向上させる機会が与えられます。• 授業は、講義時間を最小限に抑えながら、グループディスカッションとプレゼンテーションに集中できるように、効率的かつ集中的に構成			

されます。

- 履修者は、活動に積極的に参加し、自律的なリーダーシップとチームワークを反映させることが望まれます。

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	展開科目
授業科目名	[旧]ビジネス英語実習Ⅳ／[新]ビジネス英語実習Ⅳb					授業形態	実習
授業コード	EB41410001	単位数	1単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Joe Hug、成田 絵怜奈						
授業概要	<p>The course features application and discussion of mini-case studies to apply integrated business English language and business skills based on realistic scenarios. The course is designed to prepare students and bridge their learning between CEFR B1 to B2 levels. The course is designed to develop both fluency and accuracy for sophisticated business.</p> <p>本コースでは、現実的なシナリオに基づいた統合的なビジネス英語とビジネススキルを応用するためのミニケーススタディの実践とディスカッションを行います。CEFR B1レベルからB2レベルへの学習の橋渡しとなるよう設計されており、高度なビジネスに対応できる流暢さと正確さの両方を養います。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>1. Master advanced business English vocabulary and business concepts 2. Develop higher-level business English communication skills 3. Enhance critical thinking skills</p> <p>・高度なビジネス英語の語彙とビジネス概念を習得する ・より高度なビジネス英語のコミュニケーション能力を養う ・批判的思考力を高める</p>						
授業計画							
第1回	<p>COMMUNICATION: Talk about what makes a good communicator</p> <p>Case Study: The price of success: Make recommendations to improve communications within an electronics company</p> <p>Writing: e-mail</p>						
第2回	<p>INTERNATIONAL MARKETING: Talk about international brands</p> <p>Case Study: Henri-Claude Cosmetics - creating a global brand: Devise a TV commercial for a new eau-de-cologne</p> <p>Writing: action minutes</p>						
第3回	<p>RELATIONSHIPS: Talk about building relationships</p> <p>Case Study: Al-Munir Hotel and Spa Group: Come up with a plan for improving customer satisfaction and loyalty</p> <p>Writing: letter</p>						
第4回	<p>REVIEW: Week 1 to 3</p> <p>Unit A: Revision</p>						
第5回	<p>SUCCESS: Discuss what makes people and companies successful</p> <p>Case Study: Kensington United: Negotiate a sponsorship deal for a football club</p> <p>Writing: press release / letter</p>						
第6回	<p>JOB SATISFACTION: Discuss motivational factors</p> <p>Case Study: Just good friends? Decide how to deal with in-house personal relationships</p> <p>Writing: guidelines</p>						
第7回	<p>RISK: Discuss different aspects of risk</p> <p>Case Study: JWinton Carter Mining: Evaluate the risks of a new mining venture</p> <p>Writing: report</p>						

第8回	<p>REVIEW: Week 4 to 6</p> <p>Unit B: Revision</p>
第9回	<p>MANAGEMENT STYLES: Discuss different aspects of management styles</p> <p>Case Study: Selig and Lind: Choose a new project manager for a team</p> <p>Writing: report</p>
第10回	<p>TEAMS: Talk about working in teams</p> <p>Case Study: Motivating the sales team: Work out an action plan for improving the motivation of a sales team</p> <p>Writing: letter</p>
第11回	<p>BASIC FINANCE: Discuss how and where finance can be raised</p> <p>Case Study: Last throw of the dice: Negotiate finance for a new film</p> <p>Writing: summary</p>
第12回	<p>REVIEW: Week 7 to 9</p> <p>Unit C: Revision</p>
第13回	<p>CUSTOMER SERVICE: Discuss factors in an importance of customer service</p> <p>Case Study: Hurrah Airlines: Deal with customer complaints</p> <p>Writing: report</p>
第14回	<p>CRISIS MANAGEMENT: Discuss ways of handling crisis</p> <p>Case Study: In Range: Plan a press conference to defend criticism of a video game</p> <p>Writing: article/report</p>
第15回	<p>FINAL PRESENTATION</p> <p>MERGERS & ACQUISITIONS (M&A): Define and discuss acquisitions, mergers, and joint ventures</p> <p>Case Study: Rinnovar International: Present recommendations for an acquisition</p> <p>Writing: report</p>
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> • Class participation and engagement: 5% • Completion of weekly speeches, presentations, and assignments: 15% • Midterm (Reviews) Presentation x3: 30% • Final Presentation: 50% • 授業への参加度：5% • 毎週のスピーチとプレゼンテーションの完了：15% • 中間プレゼンテーション：30% • 期末プレゼンテーション：50%
準備学修（予習・復習、課題等）	<ol style="list-style-type: none"> 1. Practice delivering speeches without relying on notes or slides to improve spontaneity and confidence. 2. Focus on using effective body language, maintaining good posture, and making consistent eye contact with the audience. 3. Rehearse presentations multiple times, refining content and delivery to ensure clarity and impact. <p>1. メモやスライドに頼らずにスピーチを練習して、自発性と自信を高めます。</p> <p>2. 効果的なボディランゲージの使用、良い姿勢の維持、聴衆との一貫したアイコンタクトに重点を置きます。</p> <p>3. プレゼンテーションを何度もリハーサルして、内容と伝え方を洗練させ、明瞭性とインパクトを確保します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • The slides used in class will be distributed via Google Classroom, so be sure to read them in advance.

	• 授業で使用するスライドは Google Classroom で配布されるので、事前にスライドを読んでおくこと。 (あわせて各回45分程度)			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書				
備考	• You need to become familiar with and utilize AI tools (e.g., Notebook LM, Canva, ChatGPT, etc.). • AIツール（例：Notebook LM、Canva、ChatGPTなど）に精通し、活用できるようになる必要があります。			
昨年度からの振り返り	• The difficulty of the lectures will vary depending on the way of basic explanations and the use of terms and expressions. Opportunities will be given to improve speaking and listening skills. • Classes will be structured efficiently and intensively to minimize lecture time and allow students to focus on group discussions and presentations. • Students are expected to actively participate in activities and reflect autonomous leadership and teamwork. • 授業の難易度は、基本的な説明のしかた、用語や表現の使い方によって変わります。スピーキングとリスニングのスキルを向上させる機会が与えられます。 • 授業は、講義時間を最小限に抑えながら、グループディスカッションとプレゼンテーションに集中できるように、効率的かつ集中的に構成されます。 • 履修者は、活動に積極的に参加し、自律的なリーダーシップとチームワークを反映させることが望まれます。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	カリキュラムにより 異なります。	学期	前期	科目分類	展開科目
授業科目名	日本文化					授業形態	演習
授業コード	JCS1430001	単位数	2単位	必修・選択の 別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	渡辺 祐真						
授業概要	現在、世界ではゲームやアニメなどのポップカルチャーを中心にクール・ジャパン現象への関心が寄せられているが、これはジャポニズムから始まる近現代の日本文化ブームの一連の流れの一つである。本講義では、古代から近現代まで、時代ごとの「日本文化論」とそれを構成する要素、またそれらの国内外での評価をもとに「日本文化」自体の形成過程を論じる。様々な文献や映像、絵画、マンガ等を教材とし、日本独自の文化の歴史的な変遷や海外の文化との関係性についても理解を深める。日本文化への理解を通じ、文化や社会の形成の観点からもビジネスの思想や発想ができるよう理論や知識を習得する。						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞した作品について、複数の見方ができるようになる。 ・「好き」を共有できない相手にも理解可能な仕方 で文化を語り伝えることができる。 ・ポピュラーカルチャーを通じて、現代という時代や日本社会の特性を論じることができる。 ・友人とともに、事柄のより深い理解を目指して主張し、議論することができる。 ・論説文を適切かつ妥当に読解することができる。 						
授業計画							
第1回	ガイダンス、自己紹介、本の読み方、資料の作り方						
第2回	日本文化の見方を学ぶ①：日本文化論への入門～日本文学史 古代から平安～ 古事記、万葉集、古今和歌集、源氏物語など、古代の日本文学について概説を行う。						
第3回	日本文化の見方を学ぶ②：日本文化論への入門～日本文学史 鎌倉から江戸～ 新古今和歌集、おくのほそ道など、中世から近世の日本文学について概説を行う。						
第4回	日本文化の見方を学ぶ③：日本文化論への入門～日本文学史 近代～ 夏目漱石、森鷗外など、近代の日本文学について概説を行う。						
第5回	日本文化の見方を学ぶ④：日本文化論への視点～日本美術史 古代から近代～ 寺院や仏像、都、浮世絵など、日本美術について概説を行う。						
第6回	日本文化の見方を学ぶ⑤：日本文化論への視点～日本音楽史 古代から近代～ 雅楽を中心に日本の音楽について概説を行う。						
第7回	日本文化の見方を学ぶ⑥：日本文化論の深化～日本史総まとめ～ 日本の歴史について、政治・社会・文化を総まとめて講義する。						
第8回	日本文化の見方を学ぶ⑦：日本文化論の深化～アニメ・ゲームの作り方～ アニメやゲーム制作が、どのような組織やプロセスで行われるかを概説する。						
第9回	日本文化の見方を学ぶ⑧：日本文化の相対化～仏教史① ブッダから最澄・空海まで～ 仏教について概説を行う。インドで生まれ、中国と朝鮮を経由し、日本に渡来した仏教が、どのように独自の発展を遂げるか、その端緒について概説する。						
第10回	日本文化の見方を学ぶ⑨：日本文化の相対化～仏教史② 鎌倉仏教～ 仏教について概説を行う。日本独自の成熟を遂げた鎌倉仏教について概説する。						
第11回	日本文化の見方を学ぶ⑩：日本文化論の考察と展開～日本語学～ 日本語とはいかなる言語か、言語学の観点から概説を行う。						
第12回	日本文化の見方を学ぶ⑪：日本文化論の考察と展開～比較としてのヨーロッパ文化史～ 日本文化をよりよく学ぶため、相対項としてヨーロッパ文化史について概説を行う。						
第13回	日本文化の見方を学ぶ⑫：日本文化論の発展～能～ 舞台芸術について、特に能について概説を行う。						
第14回	日本文化の見方を学ぶ⑬：日本文化論の発展～アニメ・ゲーム～ 現代の日本文化として、アニメとゲームについて概説を行う。						
第15回	日本文化の見方を学ぶ⑭：日本文化論の総括と今後 講座のまとめを行う。						
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での発言等：20% ・授業内での発表：40% ・期末課題：40% 						

準備学修（予習・復習、課題等）	受講生は、専門家たる教員の案内を受けながら、日本文化の知識・鑑賞法を身につける。その知見を活かし、自身が好む日本文化の内容と魅力を紹介する発表を各人一回行ってもらう。発表担当者は、発表資料（パワポまたはレジュメ）を作り、発表の準備をしておくこと。予習120分程度・復習60分程度の時間配分を想定している。期末課題は、テストではなく提出物を予定している。				
教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
物語のカギ		渡辺祐真	笠間書院	978-4305709653	電子版でもよい
参考書	田畑書店編集部（編）『小川洋子のつくり方』田畑書店、2021年 安田登『野の古典』紀伊国屋書店、2021年 廣野由美子『批評理論入門』中公新書、2005年				
備考	教科書を第3回目が始まるまでに入手しておくこと。電子版でもよい。 授業は、「講義＋発表＋それに対するコメント」の形で進めていく。発表パートでは、事前に指定された受講生が該当箇所を整理し、発表することになる（参加者は必ず1回発表する）。発表担当者は初回に決定するので、受講希望者は初回に必ず参加するように。				
昨年度からの振り返り	昨年度の講義では、文学や舞台芸術、アニメについての話題を多くしたが、社会や宗教についても学びたいという声をいただいたので、今回は「仏教」を扱う回を設けた。仏教は日本文化の一つといって差し支えないほどに大きな存在感を誇っており、そのエッセンスをお伝えしたい。				

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	展開科目
授業科目名	多文化理解					授業形態	演習
授業コード	CCM1430001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	岩澤 康一						
授業概要	本科目は、多くの文化が共存している社会でよく生き、活動し、他者と協力し合っていくために有益な理解、「多文化理解」をテーマとする。この多くの文化の中には、自身が属する文化だけでなく、属していない文化も含まれる。他者とよく協力し合っていく個人が集まることで、社会は健全に持続していく。国家、民族、宗教、言語、世代、ジェンダーなどのマクロな集団単位だけでなく、職業、業界、会社、学校、クラス、オンライン仲間などよりミクロな集団単位でも、それぞれの文化が存在しうる。また、あらかじめ決まった属性ではなく、時々 の選択や価値観によっても、それぞれの文化が生まれうる。積極的に戦争を求める文化、非暴力を基調とする文化では差があり、両者のあいだには文化差があろう。担当教員が属し、実感をもって伝える文化や多文化理解の認識だけでは、包括的な議論は難しい。最良の「多文化理解」とは何だろうか？それは外部（生成AIを含む）からただ与えられるものではなく、履修者各自が考え、授業内外・中後に追いつめていくべきものだろう。その営為を最大限に支援するために、本科目では担当教員に加えて各界からゲスト講師を招く。履修者は本授業を通して、様々な集団単位での文化の特徴や文化差を感じ、アクティブラーニングを通じて、より活発に学ぶことができる。よい理解とは、自分の内側で生まれるだけでなく、外部と共有され、磨かれることでよく育つ。本科目では、「多文化理解」について履修者自身が考え、差別化された自分の言葉でそれを表現し、積極的に伝える姿勢を期待する。						
授業の目的・到達目標	本科目は「多文化理解」について、検索エンジンや生成AIが返す一般的でまとまった情報を越えて、履修者自身が多文化共存の状態を所与のものとして（再）認識し、自分で感じ、考え、まとめた、履修終了時点での「多文化理解」のありかた、活用法を（再）定義することを目的とする。具体的には、各自が至った定義を自分の内にとどめるのみではなく、最終課題の提出を通じて他者とよく共有することを、到達目標とする。						
授業計画							
第1回	多文化理解【基礎編】／オリエンテーション 授業概要、なぜ多文化理解を学ぶのか？集団とは何か？文化とは何か？文化の特徴とは？多文化理解の基本概念、多文化理解への問いと気づき、アクションなど。						
第2回	中東、アラブ、イスラームへの偏見と多文化理解 ゲスト講師：モハメド・アルマンスール氏。シリア出身。元アレップ大学教授。元アレップが日本文化センター長。在シリア日本大使館のアレップにおけるパートナーとして長年、日本文化普及に努める。現在は日本国籍を取得。大学で国際理解やイスラームなどを教える。昨今のハマス・イスラエル間の武力衝突、シリアのアサド政権崩壊にまつわる内容にも触れる予定。						
第3回	パタハラ裁判を経て思うグローバル社会の中の日本 ゲスト講師：グレン・ウッド氏。元三菱UFJモルガン・スタンレー証券機関投資家営業部特命部長。現スマート・ビジョン・ロジスティックス代表取締役。育児休業から復帰後に休職・解雇に追い込まれたとして2017年に提訴、高裁で敗訴、控訴は棄却された経験あり。パタニティ・ハラスメント（パタハラ）問題を日本社会に提起した。日本在住歴は30年以上。大好きな日本と、個人が声を上げられない日本社会との狭間で、グローバル社会の中の日本を多文化の視点から考える講義を予定。						
第4回	北海道厚真町から見るまちづくりと多文化問題 ゲスト講師：宮下圭氏。北海道厚真町まちづくり振興課課長。二地域居住による関係人口創出の取り組みが全国的に評価される北海道厚真町（札幌新千歳空港から車で30分）のまちづくりを牽引。地方・地域と首都圏・都市との間での、関係人口創出のための取り組みを通じて得た経験や気づきを共有しながら、（多）文化の側面からまちづくり、仲間づくりを考える講義を予定。						
第5回	たかが英語されど英語の重要性とインドの文化的多様性 ゲスト講師：クシャール・キレーティ氏。インド出身。建築家として来日。後に英語教師として再来日。現在は複数の大学や専門学校で英語教師として教壇に立つ。インドのシリコンバレーと呼ばれるバンガロール出身。英語がすべてではないが、それでもいかに英語が多文化・異文化環境へのカギになるかについて、インドの文化的多様性にも触れるような講義を予定。						
第6回	多文化理解【言語編】 なぜ文化間に違いや共通点が生まれるのか？言語とは？言語の特徴、多文化理解と言語、サビア＝ウォーフの仮説、映画「メッセージ」に学ぶ、言語の要素、文章構造の分類、日本語の特徴、多言語理解のキーポイントとアクションなど。						
第7回	多文化理解に見るデジタルコミュニケーションと消費者インサイトの新たな現実 ゲスト講師：ジョセフ・ラッテリ氏。米国オレゴン州出身。葛飾区在住。メルトウォーター日本法人エリアディレクター。同社のSNSモニタリングツールはグローバル市場においても業界屈指。多数の大型クライアントを抱えている。米国でラグビーをプレー、海外遠征を多く経験。週末は地元のサッカーコーチ。						
第8回	「西サハラ問題」に見る多文化問題：アフリカ最後の植民地、西サハラ ゲスト講師：岩崎有一氏。ジャーナリスト。アジアプレス所属。アフリカ地域に暮らす人々の日常と声を、社会・政治的背景とともに伝え						

	ている。1995年以来、アフリカ全地域にわたる27カ国を訪ねた。近年の取材テーマは「西サハラ問題」「マリ危機と北西アフリカへの影響」「マラウイの食糧事情」など。			
第9回	外交という仕事を通して考える外国との関係 ゲスト講師：安澤宗泰氏。外務省アラビスト外交官。アラビア語を使いながら、在シリア大使館、在カタール大使館、在サウジアラビア大使館、在オマーン大使館にて勤務し、政務や広報文化を担当。現在は外務本省にて勤務。外務省及び外交官の仕事を理解しながら、国際社会を生きる上で必要な心構えについて講義を予定。			
第10回	多文化理解【非言語編】 非言語コミュニケーションの種類、キネクシス、プロクセミクス、クロネミクス、ハプティクス、パラランゲージ、外見・服装・色、アイコンタクト、タブー、多言語理解向上へのアクションなど。			
第11回	世界の映画を通してみる異文化・多文化理解 ゲスト講師：菊地裕介氏。東京国際映画祭プロモーション部チーフプロデューサー。世界有数の国際映画祭（毎秋開催）のプロモーションを統括。日本も含めた世界の映画の紹介やプロモーション、その調整過程で経験してきた異文化・多文化理解についての講義を予定。			
第12回	SFで読み解く異文化・多文化理解とグッドアンセスターになるために ゲスト講師：小谷知也氏。WIRED日本版副編集長、SFプロタイピング研究所所長。「未来を実装するメディア」WIREDでは最先端の技術を切り口に、人間社会や地球の未来を見据える記事を量産。多文化を生物全般にも拡張した概念も紹介。特にSFを切り口にして、いかにグッドアンセスター（よき祖先）になるかを問うような講義を予定。			
第13回	東アジアの中の日本、和解や地域課題への協力を文化の視点で考える ゲスト講師：長川美里氏。NPO法人Wake Up Japan理事。武蔵大学非常勤講師。東アジアの和解や社会課題に対してのプログラムを多数実施。北京大学、ソウル大学へ留学経験あり。2023年のダボス会議へ招へい。東アジアの視点から、多文化状況下で日本がどのように見られてきたか／いるかを中国や韓国の観点からも議論することで、近隣諸国から見た日本像に迫る講義内容を予定。			
第14回	非暴力コミュニケーションで築く平和と異文化・多文化共生 ゲスト講師：今井麻希子氏。非暴力コミュニケーション（NVC）のトレーナー。共感に重きをおいたコミュニケーションによって、感情やニーズを理解した上で、互いにリクエストし合うような関係を構築するためのNVCを全国で講演・講義。異文化・多文化の目的として、平和構築を目指すような人材になるための知識やコツ、考え方についての講義を予定。			
第15回	多文化理解【応用編】／授業全体のまとめ エリン・メイヤーのカルチャーマップ、ホフステッドの6次元モデル、レジリエンス、カルチャーショック、異文化感受性発達モデル、多文化理解力のある人材へなど。			
成績評価の方法	①授業への質的参加度合と回数：15％ ②毎回の講義で講師が指示する課題の提出回数：15％ ③上記課題の内容：20％ ④最終課題の内容：50％ の4つで総合的に評価する。			
準備学修（予習・復習、課題等）	担当教員が告知する次回授業の内容に即して、予習すること。また、課題にあたる際は、授業資料を参考にして復習を行い、自分の考えと言葉で論じることが求められる。（予習・復習（課題への取り組み）をあわせて各回180分）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
世界標準の説明力 頭のいい説明には「型」がある	岩澤康一	SBクリエイティブ	978-4815623111	
参考書	『異文化理解入門』原沢伊都夫（著）、研究社、ISBN 978-4327377526			
備考	ゲスト講師のスケジュールの都合で、登壇回が変更になる可能性あり。また、最終的な発表内容は、登壇回前にゲスト講師と調整を予定。			
昨年度からの振り返り	年々、各履修者にカスタマイズした対応（例＞課題のフィードバック、相談、ゲスト講師の紹介など）が増えてきているため、早期から各履修者と担当教員との関係構築を期待する。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	展開科目
授業科目名	比較宗教論					授業形態	演習
授業コード	CRS1430001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	李 美奈						
授業概要	本科目では、1) 私たちが宗教を捉えるときの視点を見直し、宗教学のさまざまな議論を通して宗教概念や宗教比較の問題性を学び（第1－5回）、2) 個別宗教の歴史と現代での現れについての知識を身につけ、また各宗教についての固定概念の問題性を検討し（第6－8回）、3) さらに宗教と社会の関係を、具体的な現象の考察を通してさまざまな視点から論じる（第9－15回）。現在では情報検索が容易なため個別の宗教についての講義は最低限とし、社会における宗教を考察する視点を養うことに重点を置く。宗教そのもの、あるいは宗教と社会との関係の捉えにくさを議論し、また同時に自らのもつ固定概念や特定の視点を反省することで、宗教について考える際に必要な姿勢を習得する。						
授業の目的・到達目標	1) 現代の私たちが「宗教」を捉える時の視点について批判的に論じることができる。 2) 個別宗教の知識と宗教学の議論を用いて、宗教と社会の関係を具体的に述べることができる。						
授業計画							
第1回	【宗教概念と宗教比較（第1回～第5回）】 オリエンテーション						
第2回	他者学としての宗教学：私たちは何を宗教と捉えてきたのか						
第3回	宗教概念再考：宗教の定義とその問題						
第4回	宗教比較の歴史1：大航海時代まで						
第5回	宗教比較の歴史2：近代以降の視点の変遷						
第6回	【個別宗教の歴史（第6回～第8回）】 アブラハムー神教とその広がり：ユダヤ教、キリスト教、イスラーム						
第7回	アジアにおける多様性と統一性の豊かさ：ヒンドゥー教と仏教						
第8回	近代の変化：日本の新宗教						
第9回	【社会と宗教の諸現象（第9回～第15回）】 宗教と教育：知の担い手としての宗教、教育における宗教の語り						
第10回	宗教・科学・呪術：宗教とその周辺						
第11回	宗教とテクノロジー：科学技術、AIとの関係						
第12回	メディアと宗教：メディアが作り出す宗教のかたち						
第13回	宗教とジェンダー：伝統における規範と近代以降の変容						
第14回	宗教と国家：ナショナリズム、国民意識との関係						
第15回	宗教と戦争：宗教はいかに戦争に関わるのか						
成績評価の方法	1) 授業への参加状況：30％：予習・復習を行い、それに基づいて授業内のディスカッションに積極的に参加していること 2) 授業後小課題：30％：授業の内容に基づいて自分の意見を述べていること 3) 期末レポート：40％：授業の内容に基づき、さらに論点を発展させて考えを述べていること						
準備学修（予習・復習、課題等）	1) 予習（2時間程度）：前の授業で予習課題を提示する。特定のテーマについて調べたり、提示した資料を読み、自分なりに疑問点や考えをまとめておくこと。授業内でのディスカッションでまとめておいた考えを提示してもらいます（成績評価1に該当）。 2) 復習（2時間程度）：各授業の最後に小課題を提示する。授業内容に基づき、自分なりの考えを含めて回答すること（成績評価2に該当）。						
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	備考
指定なし							
参考書	毎回の授業で教員が用意する資料を使用します。以下は授業の理解を助けるものとして参考にしてください。 山中弘、藤原聖子『世界は宗教とこうしてつきあっている－社会人の宗教リテラシー入門』弘文堂、2013年 島菌進、奥山倫明『いまを生きるための宗教学』丸善出版、2022年 伊原木大祐、竹内綱史、古荘匡義（編）『宗教学』昭和堂、2023年						

備考	履修者との双方向性を重視し、授業内で特定のトピックについて議論する時間を設けるほか、授業毎に質問や感想を受け付けます。授業中の疑問点や分かりにくかった点、質問、感想などは積極的に述べてください。
昨年度からの振り返り	昨年と同様に、答えが定まらない問題に創造的に考える時間を重点的に取る予定である。

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	基礎科目
授業科目名	数学基礎A					授業形態	講義
授業コード	FMA1130001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	梶田 尚亨						
授業概要	経営分野、工学分野等における実世界の課題は、数式により定義でき、これを数値解法を用いて解くことができるものが多く存在する。こうした課題を解くためには、数学的な課題の捉え方や考え方が重要となる。本科目では基礎的な解析学として「微分」「積分」をテーマに取り上げ、解析学の基本的な内容を学んでいく。これらの理論や考え方は、経営分析やデータサイエンスなどの分野の学習を深めるうえで基本的な考え方となる。「微分」「積分」において重要な基本概念について学ぶとともに、理解をより深めるために、本科目がデータサイエンスの分野でどのように利用されているなど、実際の応用例との関りについても学ぶ。						
授業の目的・到達目標	・「微分」「積分」に出てくる数式について、その意味や考え方を説明できる。 ・既に習得した知識を駆使することで、新規に出てきた数式であっても、大まかな数式の意味を解釈する（“数式を読む（解釈する）”）ことができることを目標とする。						
授業計画							
第1回	イントロダクション 「数式を読む！」など実用的な数学の考え方を学ぶ						
第2回	微分・積分の概要 微分・積分の定性的な意味やデータサイエンス等での事例を学ぶ						
第3回	微分・積分のための基礎ツール（1） 微分・積分を学ぶ上で必要な数列を学ぶ						
第4回	微分・積分のための基礎ツール（2） 微分・積分を学ぶ上で必要な指数関数・対数関数・三角関数を学ぶ						
第5回	微分（1） 導関数の定義や関数の挙動を分析する方法（関数の極値等）を学ぶ						
第6回	微分（2） 初等関数の微分、積の微分、合成関数の微分を学ぶ						
第7回	微分（3） テイラー展開や関数近似を学ぶ						
第8回	多変数関数の微分（1） 偏微分の定義、極値問題を学ぶ						
第9回	多変数関数の微分（2） ラグランジェの未定係数法を学ぶ						
第10回	微分のまとめ ここまでの微分の内容についてまとめる						
第11回	積分（1） 積分の基本計算を学ぶ						
第12回	積分（2） 置換積分と部分積分を学ぶ						
第13回	多変数関数の積分 重積分の変数変換を学ぶ						
第14回	積分のまとめ ここまでの積分の内容についてまとめる						
第15回	まとめ これまで学習した内容とデータサイエンス分野との関りについてまとめる						
成績評価の方法	■各授業内容の理解と応用する力を下記の観点から評価する。 ・各授業で「課題」を出します。これをノートに解き、写真を撮影して、課題レポートとして提出して下さい（70％）。課題を解くために、授業資料、本、インターネット等で調べ学習をして解いて頂いて結構です。Word、PowerPoint等により、電子文字を用いて作成したレポートは、電子的コピーが作れる為、不可とします。手書きにより作成したレポートの写真（jpegフォーマット）を原則とします。この写真をPowerPointに貼り付けて提出することはOKで						

	<p>す。</p> <ul style="list-style-type: none">・課題の中に、少し難しい「発展課題」も出題し、加点します（10％）。・授業中での取り組み状況、発表や質疑応答などを評価します（20％）。 <p>■注意点</p> <p>★問題を第3者に公開することは禁止します。（著作権など、いろいろな問題が発生します）</p> <p>★各種サービスで、問題の解答を他の人から教えてもらうYahoo知恵袋などの利用は禁止です。</p> <p>★他人が作成した回答／プログラムファイルをそのままコピーしたレポート／プログラムファイル、及び、他人が作成した写真そのものの提出は不正行為とみなします。（バイナリレベルで比較し、同一かどうかを確認できます）</p>			
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>■予習と復習について</p> <p>予習：各授業ごとに事前に配布される資料について、概要、特徴などを調べてノートに書く（90分）</p> <p>授業：授業で新しく気づいた事、理解した事、理解度確認課題をノートに書く（90分授業）</p> <p>復習：課題に対する調べ学習、考察結果をノートに書いて、レポート提出（90分）</p>			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし（資料を配布）				
参考書	<p>◎参考文献（一般教養向け）</p> <p>『データサイエンスのための数学』</p> <p>椎名洋 他（著）、講談社、2019年</p> <p>『最短コースでわかるディープラーニングの数学』</p> <p>赤石雅典（著）、日経BP社、2019年</p> <p>◎参考文献（理系一般教養向け）</p> <p>『大学教養 微分積分』</p> <p>加藤文元（著）、数研出版、2019年</p> <p>『チャート式 大学教養 微分積分』</p> <p>加藤文元（著）、数研出版、2019年</p>			
備考	<ul style="list-style-type: none">・簡単な技術解説書に出てくる数式の意味が解釈できることを目指している。従って、単に公式に値を入れて解くことよりも“数式を読む（数式の意味を理解する）”ことに重点を置いた授業を行う。・授業では演習に時間を割けないので、各自が復習を兼ねて実施することを前提とする。・高校数学で数学Ⅱ、B、Ⅲまでの履修をしていない場合は、本科目で学習する「微分」「積分」の知識をインターネットあるいは参考書等で自主的に習得して授業参加することが望ましい。・進捗状況により授業内で扱う題材の難易度を変更する場合がある。・受講する学生の素養に応じて、簡単なサンプルコード（Python）を活用する場合がある。			
昨年度からの振り返り	毎回出す課題/発展課題によっては正解率が低いことがあったので、正解率が低い課題/発展課題に関しては翌週に時間をかけて解説するようにします。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	基礎科目
授業科目名	数学基礎B					授業形態	講義
授業コード	FMB1130001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	梶田 尚亨						
授業概要	経営分野、工学分野等における実世界の課題は、数式により定義でき、これを数値解法を用いて解くことができるものが多く存在する。こうした課題を解くためには、数学的な課題の捉え方や解き方が重要となる。本科目では基礎的な線形代数として「ベクトル」「行列」「線形方程式」などをテーマに取り上げ線形代数の基本的な内容を学んでいく。これらの理論や考え方は、データ分析やソフトウェア、IoT設計などの分野の学習を深めるうえで基本的な考え方となる。「ベクトル」「行列」「線形方程式」などの基本概念について学ぶとともに、演習を通して各手法の本質や適用方法についての理解を深める。 本科目では、こうした数学的素養の基礎となる線形代数について学ぶと共に、これに関連する各科目への入り口までを講義する。なお、本授業では数学の面白さや経営学、情報通信技術での有用性が十分理解できるような授業を行う。						
授業の目的・到達目標	・「ベクトル」「行列」「線形方程式」など線形代数の基本的な内容について、それぞれの考え方を説明できる。 ・適用する目的や対象に応じて各技術を使い分けることができる。						
授業計画							
第1回	■線形代数のガイダンス ベクトルと行列（1） ベクトルの考え方、図形表現など基本概念						
第2回	■ベクトルと行列（2） ベクトル、行列の基本演算と内積 ベクトルとベクトル空間、図形のベクトル表現						
第3回	■ベクトルと行列（3） 行列の基本変形（掃き出し法）と連立方程式の解法 連立一次方程式の解の存在（重要事項まとめ）						
第4回	■行列式（1） 行列式の計算方法と基本変形 行列式と逆行列						
第5回	■行列式（2） 余因子行列とクラメルの法則 行列式と余因子展開						
第6回	■ベクトル空間（1） 一次従属と一次独立 部分空間						
第7回	■ベクトル空間（2） 外積とベクトル空間 部分空間と基底、次元						
第8回	■線形写像、線形変換（1） 線形写像と行列 ベクトル空間と積空間、和空間、直和						
第9回	■線形写像、線形変換（2） 核と像 線形代数の基本定理						
第10回	■直交変換、直交化 内積と直交変換 正規直交基底とグラムシュミットの直交化						
第11回	■固有値、固有ベクトル 固有値と固有ベクトル、固有空間 線形変換とその特徴						
第12回	■対角化（1） 行列の対角化 実対象行列の対角化						
第13回	■対角化（2） 対角化できるための条件						

第14回	■三角化 対角化できない行列の三角化			
第15回	■二次形式 最小二乗法と二次形式 二次形式と最適化法			
成績評価の方法	■各授業内容の理解と応用する力を下記の観点から評価する。 ・各授業で「課題」を出します。これをノートに解き、写真を撮影して、課題レポートとして提出して下さい（70％）。課題を解くために、授業資料、本、インターネット等で調べ学習をして解いて頂いて結構です。Word、PowerPoint等により、電子文字を用いて作成したレポートは、電子的コピーが作れる為、不可とします。手書きにより作成したレポートの写真（jpegフォーマット）を原則とします。この写真をPowerPointに貼り付けて提出することはOKです。 ・課題の中に、少し難しい「発展課題」も出題し、加点します（10％）。 ・授業中での取り組み状況、発表や質疑応答などを評価します（20％）。 ■注意点 ★問題を第3者に公開することは禁止します。（著作権など、いろいろな問題が発生します） ★各種サービスで、問題の解答を他の人から教えてもらうYahoo知恵袋などの利用は禁止です。 ★他人が作成した回答／プログラムファイルをそのままコピーしたレポート／プログラムファイル、及び、他人が作成した写真そのものの提出は不正行為とみなします。（バイナリレベルで比較し、同一かどうかを確認できます。）			
準備学修（予習・復習、課題等）	■予習と復習について 予習：各授業ごとに事前に配布される資料について、概要、特徴などを調べてノートに書く（90分） 授業：授業で新しく気づいた事、理解した事、理解度確認課題をノートに書く（90分授業） 復習：課題に対する調べ学習、考察結果をノートに書いて、レポート提出（90分）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	『データサイエンスのための数学』椎名洋 他（著）、講談社、2019年 『最短コースでわかるディープラーニングの数学』赤石雅典（著）、日経BP社、2019年 『線形代数入門』（新装版）坂松和夫（著）、岩波書店、2018年（基礎事項を幅広く丁寧に解説、対角化、三角化、二次形式も記載。） 『線形代数』藤原毅夫（著）、岩波書店、1996年（初学者向き。基礎項目を簡潔に解説、固有値問題、対角化も記載。） 『線形代数入門』斎藤正彦（著）、東京大学出版会、1966年（基礎事項を幅広く解説、対角化、二次形式も記載。）			
備考	・簡単な技術解説書に出てくる数式の意味が解釈できることを目指している。 従って、単に公式に値を入れて解くことよりも“数式を読む（数式の意味を理解する）”ことに重点を置いた授業を行う。 ・授業では演習に時間を割けないので、各自が復習を兼ねて実施することを前提とする。 ・高校数学で数学Ⅱ、B、Ⅲまでの履修をしていない場合は、本科目で学習する「ベクトル」「行列」「線形方程式」の知識をインターネットあるいは参考書等で自主的に習得して授業参加することが望ましい。 ・進捗状況により授業内で扱う題材の難易度を変更する場合がある。 *本科目は、ICT関連の開発職としての実務経験のある教員による授業科目です。			
昨年度からの振り返り	毎回出す課題／発展課題によっては正解率が低いことがあったので、正解率が低い課題／発展課題に関しては翌週に時間をかけて解説するようにします。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	基礎科目
授業科目名	先端グローバル社会					授業形態	講義
授業コード	LGS1120001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	小林 久美子						
授業概要	過去から現在のグローバルで起きている変化、今後の未来予測を踏まえた将来のグローバル社会の潮流を理解し、これらをICTが支える可能性について探求する。 具体的には持続可能な開発目標（SDGs）をもとに、その概要と今日的な社会課題とそれに向けた取り組みや企業の現状について概説する。また、グローバルな課題設定と自らの生活や学びがどのようにつながっているのかを考える。これらの学習を通じ、自分なりにグローバル社会に対し、ICTやビジネスなど本学での学びがどのように寄与していくのかを考える。 最終的にはテーマを絞り、個人での実行計画を策定する。						
授業の目的・到達目標	目的：持続可能な開発目標（SDGs）を実例で学ぶ。 目標：持続可能な社会の仕組みを理解し、自らが持つ課題へ関係づけることができる。						
授業計画							
第1回	ガイダンス・地球と人間活動の関係性を解説する。						
第2回	持続可能な開発目標（SDGs）とサステナビリティ経営						
第3回	アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み・偏見）						
第4回	経済成長と企業の責任・役割						
第5回	ソーシャルビジネス						
第6回	気候変動・環境破壊						
第7回	災害とパンデミック						
第8回	エネルギー・水資源						
第9回	貧困と飢餓						
第10回	廃棄物						
第11回	食品廃棄・フードロス						
第12回	多様性・ジェンダー・少子高齢化						
第13回	DX（デジタルトランスフォーメーション）						
第14回	社会課題とステークホルダーの関係性						
第15回	1回から14回のまとめ、持続可能な社会・サステナビリティ経営とは						
成績評価の方法	・授業内課題：50％ ・最終課題：50％						
準備学修（予習・復習、課題等）	予習：テーマに関する文献リサーチ（90分） 復習：授業課題への取り組み（90分）						
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	備考
指定なし							
参考書	参考書・資料等は授業の中で適宜紹介する。						
備考							
昨年度からの振り返り	グループワークとディスカッションの時間を多く配分する。						

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	基礎科目
授業科目名	英語アカデミックリテラシー					授業形態	演習
授業コード	ALE1120001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Joe Hug						
授業概要	<p>This course offers a visual and conversational approach to ideas paired with the practical application of Artificial Intelligence (AI). The curriculum prioritizes verbal "output" to improve fluency and explore academic concepts alongside AI.</p> <p>このコースでは、人工知能（AI）の実践的な応用と組み合わせた、視覚的かつ対話的なアプローチでアイデアを解説します。カリキュラムでは、流暢さを向上させ、AIと並行して学術的な概念を探索するために、口頭での「出力」を重視しています。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>1. Learn to express philosophical arguments and technical concepts in English with increasing fluency and confidence. 2. Explain core academic theories and use AI to augment reasoning. 3. Work in teams to synthesize philosophical and technological concepts for formal presentations.</p> <p>• 哲学的な議論や技術的な概念を、英語でより流暢かつ自信を持って表現できるようになる。 • 主要な学術理論を説明し、AIを活用して推論を強化する。 • チームで協力し、哲学のおよび技術的な概念を統合して、正式なプレゼンテーションに活用する。</p>						
授業計画							
第1回	<p>Who Are You?</p> <p>1. Who am I? A philosophical inquiry - Amy Adkins 2. The Ship of Theseus 3. Persistence of Identity</p>						
第2回	<p>Imposter Syndrome</p> <p>1. What is imposter syndrome and how can you combat it? - Elizabeth Cox 2. Gestalt Perception Principle</p>						
第3回	<p>Argumentation</p> <p>1. How can you change someone's mind? (hint: facts aren't always enough) - Hugo Mercier 2. Arguments 3. Axioms</p>						
第4回	<p>What is real?</p> <p>1. How do you know you exist? - James Zucker 2. Solipsism 3. I think therefore I am</p>						
第5回	<p>The Twin paradox</p> <p>1. Einstein's twin paradox explained - Amber Stuver</p>						
第6回	<p>The Trolley Problem</p> <p>1. Case Study 2. Ethical Dilemma 3. Moral Code 4. Utilitarianism</p>						
第7回	<p>Irrational Thinking</p> <p>1. The psychology behind irrational decisions - Sara Garofalo 2. Availability heuristic 3. Anchoring effect 4. Loss Aversion 5. Conjunction Fallacy</p>						
第8回	<p>MID-TERM PRESENTATION.</p> <p>1. Group Think Vs. Herd Mentality 2. Conformity</p>						

	Kafkaesque			
第9回	1. What makes something "Kafkaesque"? - Noah Tavlin 2. Existentialism 3. Circular Reasoning			
第10回	Orwellian 1. What "Orwellian" really means - Noah Tavlin 2. Doublespeak, Newspeak, Doublethink			
第11回	The Milgram Experiment 1. The Milgram Experiment: Obedience to Authority 2. Social Influence 3. Depersonalizing, Social Loafing, Group Polarization The Stanford Experiment 1. The Stanford Prison Experiment & The Psychology of Evil 2. Authority 3. Altruism			
第12回	Russell's Teapot 1. Russell's Teapot (explained in 3 minutes) 2. Claim & Burden of Proof 3. Assertion, claim, evidence			
第13回	Fake News 1. How false news can spread - Noah Tavlin 2. Disinformation, Satire, Irony			
第14回	Tulip Mania 1. What causes economic bubbles? - Prateek Singh 2. Intrinsic Value, Irrational Behavior			
第15回	FINAL PRESENTATIONS			
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none">• Class participation and engagement: 10%• Weekly Quizzes: 40%• Final startup project/presentation: 50% <ul style="list-style-type: none">・授業への参加と関与：10%・毎週のクイズ：40%・最終的なスタートアッププロジェクト／プレゼンテーション：50%			
準備学修（予習・復習、課題等）	1. Based on the theme set for each session, prepare and review the expressions and content. 2. Look up vocabulary in the distributed materials as necessary. 1. 各回設定されるテーマをもとに、表現や内容の準備と振り返りを行う。 2. 必要に応じて配布された資料の単語などを調べておく。 （あわせて各回180分程度）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書				
備考	<ul style="list-style-type: none">• You need to prepare to use AI tools during class.• The slides used in class will be distributed via Google Classroom, so be sure to read them in advance. <ul style="list-style-type: none">・授業中にAIツールを使用する準備をする必要がある。・授業で使用するスライドは Google Classroom で配布されるので、事前にスライドを読んでおくこと。			
昨年度からの振り返り	1. The difficulty of the lectures will vary depending on the way of basic explanations and the use of terms and expressions. Opportunities will be given to improve speaking and listening skills. 2. Classes will be structured efficiently and intensively to minimize lecture time and allow students to focus on group discussions and presentations.			

3. Students are expected to actively participate in activities and reflect autonomous leadership and teamwork.

1. 講義の難易度は、基本的な説明のしかた、用語や表現の使い方によって変わります。スピーキングとリスニングのスキルを向上させる機会が与えられます。
2. 授業は、講義時間を最小限に抑えながら、グループディスカッションとプレゼンテーションに集中できるように、効率的かつ集中的に構成されます。
3. 履修者は、活動に積極的に参加し、自律的なリーダーシップとチームワークを反映させることが望まれます。

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	基礎科目
授業科目名	科学史					授業形態	講義
授業コード	HSE1120001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	井出 祐貴						
授業概要	科学とは普遍的な真理の探究であると同時に、歴史的な文脈の中で人間が生み出してきた営みである。本科目では、17世紀西欧における近代科学の誕生から、幕末・明治期の日本への導入過程、そして現代のICTやバイオ技術が融合する社会に至るまでの道のりを辿る。特に、量子力学から半導体へ、あるいは物理学から生命科学へといった『技術的・思想的パラダイムシフトがいかにして現代の産業構造に繋がっているか』に焦点を当て、学生が将来イノベーションを起こすための『思考の羅針盤』となることを目指す。なお、授業内ではグループワークや対話の時間を設け、科学史のロジックを現代のビジネス課題にどう適用できるかについて、履修者同士で実践的に考察する。						
授業の目的・到達目標	・科学の歴史的背景と現代の繋がりを説明できる 科学の歴史的背景を理解した上で、現代の科学技術文明および産業構造がどのようなプロセスを経て形成されたかを客観的に説明できる。 ・科学的発見と社会実装の関係を議論できる 特定の科学的発見がいかなる『物（デバイス）』や『技術』の創出に繋がりと、それらがどのように社会を変革（実装）してきたかを通時的に考察し、議論できる。 ・次世代の技術革新を予測する論理的思考力を修得する 過去のパラダイムシフトの事例に基づき、既存の専門領域の壁を越えた『次世代の技術革新（特に融合領域）』の方向性を洞察・予測するための論理的思考力を身につける。						
授業計画							
第1回	「ガイダンス：なぜビジネス・起業に科学史が必要か」 科学史を単なる過去の記録ではなく、現代のビジネス課題を解決し未来を予測するための『戦略的ツール』として再定義する。イノベーションの源泉である科学的探究心が、新たな市場や価値を創造してきたかについて、歴史的パラダイムシフトの事例を交えて概説する。						
第2回	「古代の自然観と計測の始まり：アリストテレスと測定器具」 経験と直感に基づく古代のアリストテレス的自然観を概説する。特に日時計やアストロラーベといった初期の測定器具の誕生が、主観的な知覚を客観的な数値へと変換し、世界の客観化を推し進めた歴史的意義を論じる。測定技術の進화가、どのような経緯で学問の成立や社会制度（暦、航海、農業等）の基盤となったかを考察する。						
第3回	「科学革命（Ⅰ）：観察が常識を破壊する」 望遠鏡の発明がもたらした新たな観測データが、千年以上続いた天動説という巨大なパラダイムを崩壊へと導いた軌跡を詳述する。コペルニクス、ガリレオ、ケプラーといった科学者たちが、既存の宗教的・哲学的な常識よりも、観測された事実（データ）を優先させたことで起きた知の転換プロセスを考察する。理論の整合性とデータの矛盾に直面した際の科学的態度の確立について論じる。						
第4回	「科学革命（Ⅱ）：運動の法則と時間の定量化」 ガリレオ・ニュートンによる運動法則の確立と、ホイヘンスによる振り子時計の実用化が、人間の生活リズムを自然の周期から機械的な定量化へと変貌させた過程を詳述する。物理法則の標準化と精緻な計時が、大航海時代の経度問題の解決や、後の産業革命における工場での生産管理（科学的管理法）にどのような波及効果をもたらしたか、物理学の発見と経済活動の密接な相関関係を考察する。						
第5回	「エネルギーと効率の科学：産業革命のエンジン」 鉱山の排水ポンプから始まった蒸気機関という『産業革命のエンジン』の進化と、ジェームズ・ワットによる効率化の追求が世界にもたらした変革を詳述する。熱という目に見えないエネルギーを動力に変えるプロセスの解明（熱力学）が、大量生産・大量輸送を可能にし、現代の産業構造を決定づけた歴史を辿る。エネルギー変換の法則が、現代の経営におけるリソースの最適化やコスト削減の思考にどう繋がっているかを考察する。						
第6回	「見えない力のプラットフォーム化：電気と磁気の文明史」 ファラデーやマクスウェルによる電気と磁気の相互作用の発見（物理法則）が、エジソンやテスラというイノベーターの手によって、電力という巨大なインフラへと社会実装されるに至った歩みを詳述する。直流（エジソン）対交流（テスラ）の電流戦争を、現代のプラットフォーム間競争の先駆けとして分析し、目に見えない物理現象が『都市のOS』をアップデートし、人々のライフスタイルを根本から変えたプロセスを考察する。						
第7回	「原子を富に変える：化学産業の誕生と素材の革新」 錬金術（魔法）から近代化学（ロジック）への転換が産業創出の原動力となった背景を詳述する。ラバアジエの質量保存の法則やドルトンの原子説が、物質の反応を予測・コントロール可能なものに変えた歴史的意義を論じる。メンデレーエフの周期表という『物質の地図』を手に入れた人類が、天然物（染料、肥料等）を人工的に合成することで、近代産業を築き上げるに至ったプロセスを考察する。物理学的な原子の概念が、化学という手法を通じて新素材という経済価値（富）に変換されるメカニズムを解明する。						
第8回	「デジタル文明の種火：量子力学の黎明とミクロの支配」 真空管の改良や光電効果の発見といった、目に見えないミクロの挙動（電子の動き）の解明が、後の現代文明を支えるエレクトロニクス産業の種火となったプロセスを詳述する。ニュートン力学的な直感が通用しないミクロの世界の新しいルール（量子力学）がどのように構築され、それが後の半導体革命や情報社会への扉を開いたのか。既存のパラダイムでは説明不能な異常事態に直面した際、科学者たちがどうロジックを再構築したかを考察する。						
第9回	「物質から知能へ：半導体革命と情報社会のロジック」 量子力学というミクロの物理理論が、半導体という『産業の米』を生み出すに至った論理的必然性を詳述する。真空管からトランジスタへ						

	の転換が計算機の小型化・高速化を可能にし、Intelに代表される巨大産業やシリコンバレーの形成を導いたか、その歴史的プロセスを辿る。物理学の理論が知能（計算能力）を物質に実装し、社会を情報化したメカニズムを、ビジネスモデルの変遷と共に考察する。			
第10回	「知能の外部化：情報理論と計算機の進化」 アラン・チューリングの計算可能性の概念から、ジョン・フォン・ノイマンによる現在のコンピュータの基本設計（プログラム内蔵方式）への変遷を詳述する。計算という抽象的な論理プロセスが電気回路という物理的営みに変換され、マイクロチップというハードウェアに実装されたかを解明する。単なる道具であった機械が、記憶や計算という知能を肩代わりさせる『知能の外部化』という知の転換がもたらした歴史的意義と、それが現代のAI社会へと繋がる必然性を考察する。			
第11回	「生命の情報化とバイオ技術：シュレディンガーの問い」 物理学者シュレディンガーの著書『生命とは何か』が、なぜ当時の若き物理学者たちを生命科学の探究へと駆り立てたかを詳述する。X線回折という物理学の測定手法がDNAの二重螺旋構造の解明に果たした決定的役割を解説し、生命現象を負のエントロピーや情報（コード）として捉えるパラダイムシフトの歴史的意義を論じる。この生命の情報化が、現代のゲノムビジネスやバイオDXといった巨大市場を創出するに至るまでの軌跡を考察する。			
第12回	「日本における科学の受容と独自進化：幕末から明治への技術転換」 蘭学から始まった西欧科学の受容過程と、それが日本独自のものづくり文化と融合し、独自の近代化を成し遂げた歩みを詳述する。幕末から明治にかけて、外来の技術を単に模倣するのではなく、日本の社会構造や商慣習、言語に合わせて再定義・調整していったプロセスを歴史的に紐解く。日本の現場力が外来のロジックをどう取り込み、独自の競争力いわば『和魂洋才の技術版』へと昇華させたかを、初期の工業化事例を元に考察する。			
第13回	「巨大科学と社会実装のガバナンス：国家プロジェクトと責任」 宇宙開発、原子力、巨大加速器といった、民間企業単独では不可能な国家レベルの科学プロジェクト（ビッグ・サイエンス）がもたらした破壊的イノベーションの軌跡を詳述する。アポロ計画やマンハッタン計画、CERN（欧州原子核研究機構）などの事例を挙げ、それらが副産物として生み出した技術（インターネット、GPS、医療用スキャナ等）がいかに現代のビジネス基盤を構築したかを考察する。同時に、強大なテクノロジーの社会実装に伴う倫理的課題や社会的責任（ELSI：倫理的・法的・社会的課題）について、現代のAI規制やバイオエシックスとの共通点から論じる。			
第14回	「現代のICT社会と未来のパラダイム：複雑系としての世界」 17世紀の決定論的な世界観（ニュートン力学）から、現代のカオス理論や複雑系へのパラダイムシフトを詳述する。要素の足し算では説明できない創発や非線形といった物理学の概念が、現代のネットワーク社会、経済変動、そしてAIの進化を記述する理論的基盤へと昇華したプロセスを論じる。歴史の法則（パラダイムの交代周期）に基づき、今後10～20年で起きる科学技術と社会の完全融合の方向性を予測する。			
第15回	「総括：あなたのイノベーションへ」 14回にわたる科学技術の変遷とパラダイムシフトの歴史を総括する。古代の計測から、産業革命、デジタル革命、そして生命の情報化へと続く知の連鎖が、現代のビジネス環境を規定するに至った道のりを再確認する。科学史の知見を、単なる過去の記録ではなく、不確実な未来において意思決定を行い、新しい価値を創造するための戦略的な『思考の羅針盤』として定着させるための最終講義を行う。			
成績評価の方法	・ 定期試験：50％ ・ リフレクション・レポート：35％ ・ 授業内での貢献度：15％			
準備学修（予習・復習、課題等）	【予習：90分】 シラバスの授業計画を確認し、各回のテーマに関連する現代の技術動向やビジネスニュースを事前にリサーチすること。特に「その歴史的背景にある科学的発見が、現代のどのような製品やサービスに繋がっているか」について、自身の関心領域（経営、情報、イノベーション等）との接点を見出し、自分なりの問いを立てて授業に臨むこと。 【復習：90分】 講義でのインプットとグループワークでの議論を統合し、Google Classroomを通じてリフレクション・レポートを作成・提出すること。授業で扱った歴史的なパラダイムシフトのロジックを、現代の具体的なビジネスプランや社会課題の解決にいかに応用できるかを深く考察し、論理的に言語化すること。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	池内了『知識ゼロからの科学史入門』幻冬舎、2012年、978-4344902558 カール・B・フレイ『テクノロジーの世界経済史』日経BP、2020年、978-4822289027 エルヴィン・シュレディンガー『生命とは何か』岩波文庫、2008年、978-4003394618			
備考	特定の教科書は指定しません。毎回の講義内容に合わせ、独自に作成したレジュメや参考資料をGoogle Classroomを通じて適宜配布します。			
昨年度からの振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	基礎科目
授業科目名	ICTと人間					授業形態	講義
授業コード	HBI1120001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Kim Jieun						
授業概要	この科目は、基礎デザインの授業を中心に、リサーチや基本的なカラー、レイアウト、フォントについて学びます。この科目の授業は、英語で行われます。学生は英語で授業を受けながら発表しなければなりません。						
授業の目的・到達目標	基礎デザイン能力を養い、デザイナーとしての感覚を磨く。						
授業計画							
第1回	Orientation / Ice Breaking: Wall to Wall						
第2回	チームアイデーション						
第3回	発表						
第4回	Understanding Layout, レイアウトの理解 / Typography, タイポグラフィ						
第5回	発表						
第6回	Concept & Colour, コンセプトとカラー						
第7回	Research, リサーチ						
第8回	中間試験の発表						
第9回	Layout Practice, レイアウト実践						
第10回	Layout Practice, レイアウト実践						
第11回	Layout Practice, レイアウト実践						
第12回	Layout Practice, レイアウト実践						
第13回	Layout Practice, レイアウト実践						
第14回	Layout Practice, レイアウト実践						
第15回	期末試験の発表						
成績評価の方法	授業参加度：20％ 出席：20％※ 中間発表：30％ 学期末発表：30％ ※単に出席することをもって加点するものではなく、知識・スキルの修得に向け、適切な態度・姿勢で受講しているかを評価します。						
準備学修（予習・復習、課題等）	アドビフォトショップとイラストレーター先行学習を推奨します。（各回の授業に対し180分程度）						
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	備考
指定なし							
参考書							
備考							
昨年度からの振り返り							

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	基礎科目
授業科目名	キャリアデザインⅡ					授業形態	講義
授業コード	CD21110005	単位数	1単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	石村 源生、吉田 明子						
授業概要	本科目では、インターンシップの経験を振り返りながら、現代の労働環境や社会の変化を理解し、今後のキャリアを主体的にデザインするための知識とスキルを身につけることを目的とする。ジョブマーケットの動向やキャリア形成の考え方を学び、自分のキャリアプランを具体化する。						
授業の目的・到達目標	- 本授業を通じて、インターンシップの経験を振り返りながら自身の成長ポイントを明確にし、現代の労働市場や社会環境の変化を理解してキャリア形成に活かせるようになる。 - また、自分にとって最適なキャリアの方向性を考え、具体的なキャリアプランを作成できるようになる。						
授業計画							
第1回	イントロダクション ・授業の目的、概要、進め方などについて説明する。 ・また、インターンシップの経験を振り返り、自身の成長や課題を明確にしながら、今後のキャリアにどう活かせるのかを考える。 ・他者の経験を共有し、自分とは異なる視点を得て理解を深める。						
第2回	就活対策⑥ ・一般的な就活スケジュールの振り返りを行い、スケジュールについて理解する。 ・会社説明会における注意事項を理解する。						
第3回	就活対策⑦ 模擬面接と模擬グループディスカッションを行う。 ・選考の中で、特に事前対策が重要なのが面接・グループディスカッションであることを理解する。 ・講義内で対策方法を理解し、実践形式でグループディスカッションを体験することで本番に臨む準備を整える。						
第4回	キャリアと学習（トランジションとスキル形成） ・高校・大学・大学院といった各段階での学びがどのようにキャリアに結びつくのかを考えながら、トランスファーラブルスキル（汎用性のあるスキル）の重要性について学ぶ。 ・また、教育の職業的意義（レリバンス）や生涯学習の必要性を理解し、リスキリングやリカレント教育がキャリアの選択肢を広げることを認識することで、長期的な視点での学びの計画を立てる。						
第5回	ジョブマーケットと働き方の変化 ・現代の労働市場におけるジョブ型とメンバーシップ型の雇用形態の違いや、働き方改革による変化について学び、これからの時代に求められる働き方を考察する。 ・さらに、外国人労働力の受け入れやグローバル化の進展が日本の雇用に与える影響についても議論し、自分自身がどのような環境で働きたいのかを具体的にイメージする。						
第6回	社会環境の変化とキャリア ・少子高齢化や人手不足が労働環境やキャリア、マーケットにどのような影響を及ぼすのかを考える。						
第7回	AIとキャリア ・AIの急速な進歩と普及が仕事やキャリアデザインにどのような影響を及ぼすのか考える。						
第8回	ライフキャリア ・職業キャリアだけでなく、ライフキャリアの視点から長期的なキャリア形成を考える。 ・ワークライフバランスの重要性について学びながら、持続可能なキャリアのあり方を模索する。 ・自身の価値観やライフスタイルに合った働き方を考えることで、より納得感のあるキャリア設計を行う。						
成績評価の方法	授業への参加態度（発言回数など）（24％）（加点要素） 授業課題（96％）						
準備学修（予習・復習、課題等）	事前準備学習90分。当回の振り返りのための復習90分程度。						
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	備考
指定なし							
参考書	教科書を含め、必要な資料を適宜配布する。						
備考							

昨年度からの 振り返り	より実践的な授業内容に改善する。
----------------	------------------

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	3年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	ビジネスゲームによる経営意思決定					授業形態	講義
授業コード	DMT1210001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	矢賀部 裕						
授業概要	ゲーム理論は、複数の主体が互いの行動を考慮しながら意思決定を行う状況を分析する理論であり、企業競争、交渉、インセンティブ設計など多くの分野で応用されている。本講義では、囚人のジレンマ、ナッシュ均衡、繰り返しゲーム、不完備情報ゲームなどの基本概念を学び、企業競争や市場戦略などの実際のビジネス問題を分析するための思考方法を習得する。講義ではゲーム演習やケース分析を取り入れ、戦略的思考力を養うことを目的とする。						
授業の目的・到達目標	(1) ゲーム理論の基本概念（支配戦略、ナッシュ均衡など）を理解できる。 (2) 戦略的相互依存の状況をゲームとしてモデル化できる。 (3) 社会や企業の意思決定を戦略的視点から考察できる。						
授業計画							
第1回	第Ⅰ部 ゲーム理論の基礎 イントロダクション_ウォーミングアップ コンセンサスゲーム（自己紹介ゲーム、NASAゲーム）を行い、意思決定の特徴を体験的に理解する。						
第2回	囚人のジレンマ 協力と競争のジレンマを分析する。						
第3回	支配戦略 合理的意思決定の基本概念を理解する。						
第4回	ナッシュ均衡と混合戦略 支配戦略がないゲームの均衡概念を学ぶ。						
第5回	チキンゲーム 対立状況における均衡の特徴を分析する。						
第6回	第Ⅱ部 動学ゲーム（時間のあるゲーム） 交互ゲームとゲームの木 ゲームツリーと後ろ向き帰納法を学ぶ。						
第7回	伝達ゲーム 戦略的コミュニケーションを分析する。						
第8回	第Ⅲ部 情報の経済学 プリンシパル＝エージェント理論 インセンティブとモラルハザードを理解する。						
第9回	不完備情報ゲーム ベイジアンナッシュ均衡とシグナリングを学ぶ。						
第10回	第Ⅳ部 ビジネスと市場のゲーム理論 ホテリングモデル 企業の立地競争と差別化戦略を分析する。						
第11回	繰り返しゲーム 協力が成立する条件を理解する。						
第12回	無限回繰り返しゲーム 長期関係と信頼の形成を考える。						
第13回	オークション理論 入札制度と価格決定メカニズムを理解する。						
第14回	第Ⅴ部 ゲーム理論の発展 進化ゲーム 進化的安定戦略を学ぶ。						
第15回	まとめ ゲーム理論の応用可能性を整理する。						

成績評価の方法	授業内での発言（グループワーク）：30％ 授業内課題（個人ワーク）：70％			
準備学修（予習・復習、課題等）	毎回、簡単な演習を行い、答え合わせを行う。これにより授業時間内で重要ポイントは理解してもらうようにする。予習はなく、復習を推奨する。（各回180分程度）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書				
備考	人数や進捗等によりシラバスは変更することがある。			
昨年度からの振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	地域創生とイノベーション					授業形態	演習
授業コード	RRI1220001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	久米 信行						
授業概要	<p>講師は、墨田区観光協会 発起人理事・東京商工会議所墨田支部 副会長、墨田区文化振興財団並びに新日本フィルハーモニー交響楽団 評議員として、一貫して墨田区の観光地域づくりに邁進し、シティプロモーション、人口増加、産業・観光・文化振興に貢献してきました。その根幹は地域のキーパーソンを中心に、各個人がSNSによる地域の魅力発見と発信を行う「勝手に観光協会」になったことです。当授業は、その成功体験に基づく具体的な手法を伝授し、各人が街歩きとSNS発信の手法を学びながら、自ら発信を行うアクティブ・ラーニングです。毎回出される、墨田区のイチオシグルメや絶景スポットなど計10の課題を、受講生が自ら街歩きをしながら、写真撮影と文章作成をして、InstagramとFacebookで発信を行います。授業中は、その投稿を、講師だけではなく受講生同士でレビューし合って、よりよい発信ができるように学んでいきます。授業の最後には、毎週の投稿をまとめて「私の墨田区ベスト10」として発表します。その発表内容は、墨田区長、墨田区議会議長、墨田区観光協会理事長はじめ地元のキーパーソンにもシェアされ、優れた発表や提案は、公式ツアーやWebサイトに採用される可能性もあります。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>今後あらゆるビジネスで重要になる、自ら有用な情報を発見する力と、SNS（instagramとfacebook）を活用して分かりやすく発信する実践的な発信スキルと自己ブランディング・プロモーションの技術を身につけます。</p> <p>その成果を「私の墨田区ベスト10」としてまとめ上げ、地域のキーパーソンにもシェアして、優れた提案は社会実装をしていただきます。</p> <p>地域のキーパーソンと講義・フィールドワーク・SNS等で交流を結び、より深く学びながら、イノベーションプロジェクトや卒業研究で協働するパートナーを見つけます。</p>						
授業計画							
第1回	<p>◎概要 教員紹介とガイダンス。Instagram・Facebookへの投稿を授業用Facebookへ投稿する方法</p> <p>◎事前準備 InstagramとFacebook（講義用新設可）を開設しておくこと</p> <p>◎詳細 1) SNSを活用してキャリアを積んで来た講師の自己紹介をします。 2) 教員のSNS投稿事例を紹介しながら、受講生のみなさんに受講半年後の可能性を示します。 3) 各自が取材してSNSに投稿するアクティブ・ラーニングの進め方についてお伝えします。</p>						
第2回	<p>◎概要 SNSを活用した地方創生・観光地域づくりの手法</p> <p>◎事前準備 墨田区の魅力について、インターネットで調べておくこと</p> <p>◎詳細 1) 教員が全国の観光協会などで講演している内容を講義します。 2) インターネット上の情報の量と質が地方創生の成否に関わることを体感します。 3) 当該地域の魅力をインターネットで調べる方法を学びます。</p>						
第3回	<p>◎概要 お店やスポットの探し方と、東京スカイツリーの投稿発表</p> <p>◎事前準備 自分が一番美しいと考える東京スカイツリーの写真と紹介文を投稿</p> <p>◎詳細 1) ネットや専門誌などを活用して、お店やスポットを探す方法を学びます。 2) 学生の投稿の中から数名をランダムに選んで、発表をしてもらいます。 3) 全員で各自の発表にコメントをつけて、一番惹かれた投稿に投票します。</p>						
第4回	<p>◎概要 インスタ映える写真の撮り方と、墨田区の絶景or珍風景の発表</p> <p>◎事前準備 墨田区で見つけた絶景や珍風景の写真と紹介文を投稿</p> <p>◎詳細 1) スマホでインスタ映える写真の構図・撮り方・フィルターのかけ方を学びます。 2) 学生の投稿の中から数名をランダムに選んで、発表をしてもらいます。 3) 全員で各自の発表にコメントをつけて、一番惹かれた投稿に投票します。</p>						
第5回	<p>◎概要 投稿で紹介した店主とSNSで仲良くなる方法と、墨田区イチオシのカフェor喫茶店の発表</p> <p>◎事前準備 墨田区にあるカレー屋さんの中からイチオシのカフェor喫茶店を投稿</p> <p>◎詳細 1) 写真を撮る時のあいさつと、投稿後のお礼メッセージの出し方を学びます。 2) 学生の投稿の中から数名をランダムに選んで、発表をしてもらいます。 3) 全員で各自の発表にコメントをつけて、一番惹かれた投稿に投票します。</p>						
第6回	<p>◎概要 読者の興味を惹くタイトルやキャッチコピーの付け方と、墨田区の商店街の発表</p>						

	<p>◎事前準備 墨田区にある商店街の中からイチオシのお店と逸品を投稿</p> <p>◎詳細 1) 投稿記事につけるタイトルやキャッチコピーのつけ方について学びます。 2) 学生の投稿の中から数名をランダムに選んで、発表をしてもらいます。 3) 全員で各自の発表にコメントをつけて、一番惹かれた投稿に投票します。</p>
第7回	<p>◎概要 検索してもらえるハッシュタグのつけ方、墨田区イチオシのグルメスポットの発表</p> <p>◎事前準備 墨田区にあるイチオシのグルメスポットを見つけて投稿</p> <p>◎詳細 1) 投稿記事につけるハッシュタグの選び方・つけ方について学びます。 2) 学生の投稿の中から数名をランダムに選んで、発表をしてもらいます。 3) 全員で各自の発表にコメントをつけて、一番惹かれた投稿に投票します。</p>
第8回	<p>◎概要 Facebookで目立って信用される自己紹介文の作り方と、墨田区イチオシのスイーツorパンの発表</p> <p>◎事前準備 墨田区にあるイチオシのスイーツorパンを見つけて投稿</p> <p>◎詳細 1) 興味を惹き信用されて自己プロデュースにつながる自己紹介文について学びます。 2) 学生の投稿の中から数名をランダムに選んで、発表をしてもらいます。 3) 全員で各自の発表にコメントをつけて、一番惹かれた投稿に投票します。</p>
第9回	<p>◎概要 SNS向きのプロフィール写真の作り方と、一番好きな墨田区製品の発表</p> <p>◎事前準備 墨田区にある一番好きな墨田区製品を見つけて投稿</p> <p>◎詳細 1) 顔と人物像を憶えてもらえるプロフィール写真について学びます。 2) 学生の投稿の中から数名をランダムに選んで、発表をしてもらいます。 3) 全員で各自の発表にコメントをつけて、一番惹かれた投稿に投票します。</p>
第10回	<p>◎概要 自分らしさを強調する独自のこだわりテーマの見つけ方と、墨田区の一つ好きな観光スポットの発表</p> <p>◎事前準備 墨田区にある一番好きな観光スポットを見つけて投稿</p> <p>◎詳細 1) 個性を発揮しつつ生涯究めたいこだわりテーマの見つけ方を学びます。 2) 学生のおすすめ投稿の中から数名をランダムに選んで、発表をしてもらいます。 3) 全員で各自の発表にコメントをつけて、一番惹かれた投稿に投票します。</p>
第11回	<p>◎概要 自分らしさを表現しSNSへと導く個人名刺の作り方と、墨田区のおすすめ銭湯の発表</p> <p>◎事前準備 墨田区で見つけたおすすめの銭湯を見つけて投稿</p> <p>◎詳細 1) 教員が親しい達人たちの名刺を紹介しながら個性的な名刺作成法について学びます。 2) 学生のおすすめ投稿の中から数名をランダムに選んで、発表をしてもらいます。 3) 全員で各自の発表にコメントをつけて、一番惹かれた投稿に投票します。</p>
第12回	<p>◎概要 私の墨田区ベスト10 & マップの作り方と、私のこだわりテーマの発表</p> <p>◎事前準備 墨田区で見つけたこだわりテーマに関するものごとを投稿</p> <p>◎詳細 1) これまで10回にわたって投稿してきたお勤めをA4用紙の裏表にまとめる方法を学びます。 2) 学生のこだわりテーマの投稿の中から数名をランダムに選んで、発表をしてもらいます。 3) 全員で各自の発表にコメントをつけて、一番惹かれた投稿に投票します。</p>
第13回	<p>◎概要 私の墨田区ベスト10 & マップの最終発表会1</p> <p>◎事前準備 これまで投稿してきた内容をA4用紙の裏表にまとめて前日までにネットで、当日授業前に印刷して提出。</p> <p>◎詳細 1) 私の墨田区ベスト10 & マップを発表してもらいます。(発表できるところまで) 2) 全員で各自の発表にコメントをつけて、一番惹かれた投稿に投票します。 3) 優秀作は後日、発表動画と合わせて墨田区長や墨田区観光協会理事長などにも謹呈します。</p>
第14回	<p>◎概要 私の墨田区ベスト10 & マップの最終発表会2</p>

	<p>◎事前準備 前回の発表を見て改良した場合は、印刷して当日授業前に提出。</p> <p>◎詳細 1) 私の墨田区ベスト10 & マップを発表してもらいます。(前回の続き) 2) 全員で各自の発表にコメントをつけて、一番惹かれた投稿に投票します。 3) 優秀作は後日、発表動画と合わせて墨田区長や墨田区観光協会理事長などにも謹呈します。</p>			
第15回	<p>◎概要 私が生涯かけて実現したいゴールと発信したいテーマの発表会</p> <p>◎事前準備 以下の発表内容を1人2～3分で発表できるように準備</p> <p>◎詳細 1) 私が人生をかけて実現したいゴール 2) その実現のために 3) 優秀作は後日、発表動画と合わせて墨田区長や墨田区観光協会理事長などにも謹呈します。</p>			
成績評価の方法	<p>試験は行わず、毎回のレポートと課題、並びに最終発表で評価します。 (出席していてもレポートと課題が提出されなければ単位取得はできません。)</p> <p>1. 出席代わりに授業中に書くレポート：30% (各回2%×15回) 毎回の学びのまとめと学生発表への評価と投票。クラスルームで提出。 当日中に提出できなかった場合は、提出しても1%換算。</p> <p>2. 第3～12回まで、10のテーマについてのSNS投稿：50% (各回5%×10回) 自分のSNSにアップした上で、授業用Facebookページに各回前日の17時までに投稿。 各回前日17時までに提出できなかった場合は、提出しても3%換算。</p> <p>3. 13回と14回に行う私のベスト10とマップの提出と発表：20% (クラスルームと印刷各10%) 自分のSNSにアップした上で、授業用Facebookページに前日の17時までに投稿。 13回目の前日17時までにクラスルームで提出できなかった場合は、提出しても各5%換算。</p>			
準備学修 (予習・復習、課題等)	<p>以下の対応が可能な方を履修対象とします。</p> <p>1. 当授業を受講する前の準備 InstagramとFacebookアカウントの開設 (既存の個人と別アカウントも可)</p> <p>2. 授業開始前の予習 (各回120分程度) 10のテーマに従い、墨田区のイチオシを調べておく 3回目以降、毎回のテーマに合わせて、前日17時までに自分のSNSと授業用Facebookに投稿する。</p> <p>3. 授業中の課題 毎回、授業中に当日の学びを簡潔にまとめるレポートと、学生の発表に対する評価コメントと投票をクラスルームに提出する。</p> <p>4. 授業開始後の復習 (各回60分程度) 当授業の学びを活かしInstagramとFacebookのプロフィールや記事投稿の不備を直していく。</p> <p>5. 最終発表の予習 (240分程度) 10のテーマを、自分なりのレイアウトで私のベスト10とマップにまとめる。 13回目の前日17時までに授業用Facebookに投稿し、クラスルームにもアップする。 プリントアウトしたものも13回目の授業前に提出する。</p>			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	<p>参考サイト</p> <p>授業で使うfacebook iU勝手に墨田区観光協会 https://www.facebook.com/groups/iusumidakk</p> <p>amazon 著者ページ https://amzn.to/3CwOmWe</p> <p>講師のSNS facebook.com/nobukume instagram.com/nobukume</p> <p>日経産業SmartTimes https://tinyurl.com/nikkei-kume</p> <p>日経クロステック https://tinyurl.com/62fj8su2</p>			

	<p>大人の学び道楽 mag2.com/m/0001692487</p> <p>墨田区観光協会 https://visit-sumida.jp/</p>
備考	<p>受講する際の注意点</p> <p>1. iUのある墨田区を各自が授業時間外にフィールドワークをして魅力を発掘します。 街を探訪して歩くことが好きで、記事投稿に時間と手間がかけられる人向けの授業です。</p> <p>2. 実名顔出しにてFacebook投稿をすることで墨田区のキーパーソンにも見てもらいながら、自分のブランド価値を高めますので、実名投稿ができる人向けの授業です。</p> <p>3. 毎回、数名の受講生に、投稿した記事を、クラスの前で発表してもらい、プレゼン力も高めていきますので、積極的に人前で発表する力を身に着けたい人向けの授業です。</p> <p>4. 出席率100%でも、毎週の記事投稿が出来ない人、最終発表の課題が提出されない人は、単位取得できませんのでご注意ください。</p>
昨年度からの振り返り	<p>この授業を選んでくれたみなさんが、墨田区を愛し、独自の視点で魅力を発見し楽しまれていることに感動しました。最も優れた最終報告を行った受講生には、私が全国の経営者・各界キーパーソン向けにリアルとオンラインのハイブリッドで行った「最後の公開講義」の場で発表していただきました。地元墨田区の経営者も知らないディープな情報発信に驚き、感謝して感激をされていました。どうもありがとうございました。</p>

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	コーポレートファイナンス					授業形態	講義
授業コード	CFI1230001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	佐藤 剛						
授業概要	本科目では、企業がどのように資金を調達し、その資金をどのように投資することで企業価値を高めるのかという「コーポレートファイナンス」の基本的な考え方を学ぶ。企業経営における財務意思決定の基礎として、貨幣の時間価値、投資評価、資本コスト、資本構成、企業価値評価などの理論を体系的に理解する。また、企業の財務データや事例を用いた分析を通じて、企業の財務戦略を多面的に理解する力を養う。本科目は、本学カリキュラムにおける「会計・財務・法務」分野の科目として位置づけられ、企業の持続的成長を評価・分析するための知識と技能を修得することを目的とする。						
授業の目的・到達目標	本科目を履修することにより、学生は次の能力を身につけることを目標とする。 1. コーポレートファイナンスの基本概念（企業価値、資本コスト、投資意思決定など）を説明できるようになる。 2. 投資プロジェクトの評価手法（正味現在価値、内部収益率など）を用いて企業の投資判断の考え方を説明できるようになる。 3. 企業の資本構成や資金調達の方法について比較し、その特徴を説明できるようになる。 4. 財務情報をもとに企業価値の考え方を分析し、基本的な評価手法を理解できるようになる。 5. 実際の企業事例を通じて企業の財務戦略について議論し、自らの考えを説明できるようになる。						
授業計画							
第1回	コーポレートファイナンスの概要 企業財務と企業価値						
第2回	企業活動と財務意思決定 投資・資金調達・配当						
第3回	財務諸表の基礎 企業財務を理解するための情報						
第4回	貨幣の時間価値① 現在価値と将来価値						
第5回	貨幣の時間価値② 割引率と資本コスト						
第6回	投資意思決定① 正味現在価値（NPV）						
第7回	投資意思決定② 内部収益率（IRR）と投資判断						
第8回	リスクとリターン 資本市場の基本概念						
第9回	資本コスト 企業の資金調達コスト						
第10回	資本構成① モディリアーニ＝ミラー理論						
第11回	資本構成② 負債と株式のバランス						
第12回	企業価値評価① ディスカウントキャッシュフロー法						
第13回	企業価値評価② 市場倍率による評価						
第14回	ケーススタディ 企業の財務戦略分析						
第15回	総括 企業価値とコーポレートファイナンス						
成績評価の方法	レポート・課題：40％ 小テストまたは授業内課題：30％ 期末レポートまたは最終課題：30％						
準備学修（予習・復習、課題等）	各回の授業に先立ち、指定された資料や参考文献を読み、授業で扱う基本概念を確認すること。授業後は配布資料や講義内容を整理し、重要な概念や計算方法を復習する。また、授業内で提示する簡単なケースや問題について自ら考察することで理解を深めることが求められる。本科目では、1回の授業につき予習90分、復習90分、合計180分程度の授業外学修を想定している。予習では、教科書や資料の該当部分を読み、基本的な用語や概念を確認する。復習では、授業内容をノートに整理し、授業内で扱った問題やケースを振り返ることで、企業の財務意思決定の考え方を体系的に理解することを目指す。						
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	備考
指定なし							

参考書	藤井彰夫『コーポレートファイナンス入門』 Brealey, Myers, and Allen, Principles of Corporate Finance Berk, J. and DeMarzo, P., Corporate Finance ※授業では適宜プリント・資料を配布する。
備考	授業では講義形式を基本とするが、理解を深めるために授業内で簡単な演習やディスカッションを行うことがある。学生には主体的に授業に参加し、財務に関する基本概念について積極的に考察する姿勢が求められる。また、本科目では企業の実際の財務データや企業事例を取り上げることがある。企業の財務戦略や投資判断について多面的に考察することを通じて、企業経営を財務の視点から理解する力を養う。
昨年度からの振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	グローバル企業戦略論					授業形態	講義
授業コード	GES1210001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	馬場 章正						
授業概要	本科目では、企業戦略の基本を押さえた上で、汎用的な経営理論を土台に、国際的な事業展開について学ぶ。 まず、企業による事業の選択、競争における強みの発揮、成長に向けた取り組みなどの戦略の基本を扱う。その上で、海外展開の方法、グローバルな事業活動の統合と現地適応のバランス、本社と海外拠点の役割分担について、国や地域による市場・制度・文化の違いを踏まえながら学ぶ。 日本企業の実例を中心に、理論と実務を結び付けて考える。授業は原則として2コマを1セットとし、講義と事例の検討・議論を組み合わせで進める。						
授業の目的・到達目標	本科目の履修を通じて、学生が以下を身につけることを目標とする。 ①企業戦略と事業戦略の関係を理解し、事業の選択、競争優位、成長の基本的な考え方を説明できる。 ②企業が国際化する目的を理解し、国や地域による市場・制度・文化の違いが、戦略の選択や実行に与える影響を説明できる。 ③日本企業などの具体的な事例について、授業で学んだ考え方をを用い、国際展開における戦略と経営の仕組みに関する課題を整理できる。 ④国際経営における具体的な意思決定について、本社と海外拠点などの異なる立場を踏まえ、取り得るオプションの利点と課題を比較し、自分ならどう判断するかを根拠とともに示すことができる。						
授業計画							
第1回	企業にとって戦略とは何か － 目指すものと、その実現に向けた選択						
第2回	戦略を考えるベースとなるもの － 取り巻く環境と自社の強みを知る						
第3回	顧客に選ばれ、利益を生むには何が必要か － 競争相手との違いと、それを活かし、支える仕組み						
第4回	どこに成長の可能性を見出すのか － 事業を伸ばす方向と方法、限られたリソースの使い方						
第5回	戦略があっても、その実行が難しいのはなぜか － 組織の仕組みと、実行しながら見直すことの重要性						
第6回	企業の戦略を読み解く － 具体的事例で、戦略を選んだ理由を考える						
第7回	企業は何を目指して海外に進出するのか － 国際化の目的と、国境を越えるビジネスの現実						
第8回	どの国・地域に取り組むか － 市場の魅力と、国によって異なる事業の条件						
第9回	海外で事業を行うには、どんな方法があるか － 輸出、現地での会社設立、買収・提携						
第10回	企業の海外展開を読み解く － 具体的事例から、進出先と進出方法を選んだ理由を考える						
第11回	世界で揃えること、市場に合わせて変えること － 競争力を高めるために、どのようにバランスを取るか						
第12回	世界のどこで、何を行うか － 開発・生産・販売の配置と、成長に向けた投資						
第13回	世界各地の強みを、企業全体で活用する － 技術や知識を伝え合い、新たな強みを育てる						
第14回	本社が決めること、現地に任せること － 権限と責任の分担、現場の判断を支える仕組み						
第15回	グローバル企業の戦略を、自分の言葉で考える － 総合事例の検討と、授業全体の振り返り						

成績評価の方法	・定期試験（70％）：企業戦略と国際経営の基本的な考え方の理解と、事例に即して考察する力を評価する。 ・授業内課題（20％）：企業の戦略や海外展開について、資料と授業で学んだ考え方を結び付けて説明する力を評価する。 ・貢献度（10％）：事例の検討やディスカッションにおける意見・質問、他者の意見を踏まえた応答など、議論を深める取り組みを評価する。 ※試験の形式、課題の実施時期・提出方法等の詳細は、授業内で事前に説明する。			
準備学修（予習・復習、課題等）	〔予習〕 次回の授業テーマに関連するニュースや企業情報等を確認しておく（1コマあたり90分程度）。 〔復習〕 授業で使用した教材や扱った事例を振り返り、理解が不十分な点を中心に理解を深める（1コマあたり90分程度）。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	牛島辰男（著）『企業戦略論―構造をデザインする』有斐閣、2022年、ISBN-13：978-4641165977 吉原英樹（著）『国際経営〔第5版〕』有斐閣、2021年、ISBN-13：978-4641221727			
備考	本科目は講義に加え、ディスカッションやグループワークを取り入れて進める。 そのため、学生の主体的な参加を前提とする。			
昨年度からの振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	4年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	新興市場における事業開発					授業形態	講義
授業コード	NBE1220001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	馬場 章正						
授業概要	本科目では、新興市場を対象に、ビジネスの可能性をどのように見出し、それをどのように事業として構想するかを扱う。 中国やインド、タイなどを事例に、市場の特徴や人々の行動を理解するとともに、日本や自分自身の強みをどのように活かすかを検討する。 最終的には、自らの問題意識に基づき、新興市場における事業構想を具体的に示すことを目指す。						
授業の目的・到達目標	本科目を通じて、学生が以下を身につけることを目標とする。 ① 新興市場の特徴（制度、消費者行動、技術普及など）を理解し、日本との違いを説明できる。 ② 新興市場における市場の特徴や課題を整理し、どの市場にどのようなチャンスを見出すかを考えることができる。 ③ 自分自身や日本の強みを整理し、それをどのように活かすかを考えることができる。 ④ 「何を実現したいか」「どの市場にどのようなチャンスを見出すか」「どのような強みを活かすか」という観点から、事業構想を考え、示すことができる。						
授業計画							
第1回	新興市場で事業を創るとは何か ― この授業で扱う問いと進め方						
第2回	制度の違いがビジネスを左右する ― ルール・インフラ・商習慣						
第3回	人々は何にお金を使うのか ― 所得構造と消費行動						
第4回	技術はなぜ一気に市場を変えるのか ― リーフログ型イノベーション						
第5回	どこにビジネスの可能性を見出すのか ― 課題から考える						
第6回	なぜ中国では新しいサービスが急速に普及するのか ― デジタルサービスの事例から考える						
第7回	インドとタイをどう捉えるか ― 市場の特徴とビジネスの可能性						
第8回	どの市場で戦うか ― 市場選択の考え方						
第9回	自分たちの強みは何か ― 日本・個人の視点から考える						
第10回	チャンスと強みをどうつなぐか ― ビジネスの形を考える						
第11回	何を実現したいのか ― 自分のビジョンを描く						
第12回	事業として成立させるには何が必要か ― ビジョンを事業の形にする						
第13回	構想を磨く ― グループワーク						
第14回	プレゼンテーション準備						
第15回	最終発表						
成績評価の方法	・貢献度（20％）：講義中の発言、ディスカッションへの参加姿勢。 ・週次振り返り（30％）：毎回の講義後、Google Classroom上で「その日の最も重要な気づき」を自分の言葉を使って300文字程度で提出。 なお、講義の進行に応じて、内容を自身の関心や事業構想に関連づけて記述することを求める。 ・最終アウトプット（50％）：最終発表（第15回）の内容と提出されるビジネスプラン（または新規事業構想）。						
準備学修（予習・復習、課	〔予習〕 ・次回の講義内容に関連するトピックについて、ニュースや記事等を事前に確認しておくことが望ましい。						

題等)	<ul style="list-style-type: none">・具体的なテーマや観点については、各回の講義内で提示する。・これらを含め、1回あたり90分程度の学修を想定する。 〔復習〕 <ul style="list-style-type: none">・各回の講義内容を踏まえ、重要な気づきや学びを300字程度で整理すること。・あわせて、関心のあるテーマについて追加調査や具体例の収集を行い、理解を深めることを推奨する。・これらを含め、1回あたり90分程度の学修を想定する。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	パンカジ・ゲマワット「コークの味は国ごとに違うべきか」文藝春秋 ISBN:978-4163713700 クレイトン クリステンセン「イノベーションのジレンマ」翔泳社 ISBN: 978-4798100234			
備考	本授業は講義に加え、ディスカッションやグループワークを取り入れて進める。 そのため、学生の主体的な参加を前提とする。			
昨年度からの振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	4年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	クロステックビジネスデザイン					授業形態	講義
授業コード	XTD1210001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	江端 浩人						
授業概要	情報通信技術の発展の中で、金融や教育、医療、農業などの既存のビジネス領域とテクノロジーを融合し、産業構造の変化が進んでいる。これは既存のビジネスモデルの拡大や高度化、他分野やベンチャー企業の新規参入など、多様な論点が含まれている。本科目ではこれらの産業のイノベーションの事例を紹介するとともに、テクノロジーと融合した既存のビジネスがどのように発展・成長してきたか、技術軸・時間軸の観点から概観する。あわせて、それぞれの産業特有の法律や規制などの課題や論点を整理し、ビジネスとテクノロジーの融合のあり方、ビジネスモデルについて、検討、議論を通じて理解を深めていく。スタートアップ企業が特定の業界の課題を解決するサービスを提供することで成長できる場合がよくある。そのため、起業する場合でも、業界の動向・課題をしっかりと理解することは重要である。						
授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】</p> <p>既存産業におけるビジネスの発展過程を技術軸および時間軸の観点から理解するとともに、テクノロジーを活用したビジネスモデルの構造を分析し、新たなビジネスの可能性を検討する力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>本授業の履修を通じて、学生は次のことができるようになる。</p> <p>1. 既存産業におけるビジネスの発展過程を技術軸・時間軸の観点から説明できる。 2. テクノロジーを活用したビジネスモデルの構造を整理し、特徴を分析できる。 3. 産業事例を基にビジネスモデルの課題や可能性を評価できる。 4. テクノロジーを活用した新しいビジネスモデルを構想し説明できる。</p>						
授業計画							
第1回	授業内容 本授業の目的、全体構成、評価方法を説明するとともに、クロステックおよびDXに関する基礎的な概念を整理する。 事前学習（90分） クロステック、DX、ビジネスモデルに関する基本用語を調査し、概要を整理する。 事後学習（90分） 授業で扱った基礎概念について、具体的な産業事例を調査し、自身の関心分野との関係を整理する。 4/16(木) 10:40-12:10 江端						
第2回	IT関連の法律・規制、IT化促進のための制度、DX推進のための政策、オープンデータなど 授業内容 IT・デジタル分野に関わる主要な法律・規制、DX推進のための制度や政策、オープンデータ活用について学ぶ。 事前学習（90分） 個人情報保護法、デジタル関連政策について基礎的な情報を調査する。 事後学習（90分） 特定の業界における法規制とDXの関係について整理する。 4/23(木) 10:40-12:10 伊藤 多嘉彦様						
第3回	経営戦略の概要、ビジネスモデルの手法・記法、プラットフォーム・エコシステム化 授業内容 経営戦略の概要、ビジネスモデルの代表的な手法・記法、プラットフォームおよびエコシステムの考え方を学ぶ。 事前学習（90分） ビジネスモデルキャンパス等の基本フレームワークを調査する。 事後学習（90分） 既存企業またはスタートアップのビジネスモデルを分析する。 4/30(木) 10:40-12:10 高口 裕之様						
第4回	業界毎の動向・事例等 製造・農業のDX 授業内容 製造業・農業分野におけるDXの動向や具体的事例を通じて、技術活用の特徴を理解する。 事前学習（90分） 製造業または農業におけるDX事例を1つ調査する。 事後学習（90分） 調査した事例の課題とビジネスモデルの特徴を整理する。 5/7(木) 10:40-12:10 藤元健太郎様						
第5回	業界毎の動向・事例等 流通、オムニチャネル／OMO 第5回 流通・オムニチャネル／OMO 授業内容 流通業界におけるオムニチャネル、OMOの考え方と実践事例を学ぶ。 事前学習（90分） OMOやオムニチャネルの概念について調査する。						

	<p>事後学習（90分） 実在する企業の取り組みを分析する。 5/14(木) 10:40-12:10 奥谷 孝司様</p>
第6回	<p>業界毎の動向・事例等 金融・広告・教育のDX 第6回 金融・広告・教育のDX 授業内容 金融、広告、教育分野におけるDX事例を比較し、それぞれの特徴を理解する。 事前学習（90分） 各分野のDX事例を1つ選び概要を調査する。 事後学習（90分） 分野間の共通点・相違点を整理する。 5/21(木) 10:40-12:10 関口憲議様</p>
第7回	<p>業界毎の動向・事例等 物流・旅客・モビリティ・旅行のDX 授業内容 物流、旅客、モビリティ、旅行分野のDX事例を学ぶ。 事前学習（90分） モビリティまたは物流分野のDX事例を調査する。 事後学習（90分） 技術導入によるビジネスモデルの変化を整理する。 5/28(木) 10:40-12:10 山名敏雄様</p>
第8回	<p>業界毎の動向・事例等 新規授業開発、オンライン診療など 授業内容 BtoC、CtoC、BtoB、越境ECなど多様なECモデルを学ぶ。 事前学習（90分） オンライン診療など新規事業開発の代表的なビジネスモデルを調査する。 事後学習（90分） 成功事例と課題を整理する。 6/11(木) 10:40-12:10 室山慎一郎様</p>
第9回	<p>業界毎の動向・事例等 ネットショッピング／EC（BtoC、CtoC、BtoB、越境EC等） 授業内容 BtoC、CtoC、BtoB、越境ECなど多様なECモデルを学ぶ。 事前学習（90分） ECの代表的なビジネスモデルを調査する。 事後学習（90分） 成功事例と課題を整理する。 6/18(木) 10:40-12:10 青山直美（村山らむね）様</p>
第10回	<p>業界毎の動向・事例等 メディア企業のDX 授業内容 メディア産業におけるDXと収益モデルの変化を学ぶ。 事前学習（90分） デジタルメディアの事例を調査する。 事後学習（90分） 従来モデルとの違いを整理する。 6/25(木) 10:40-12:10 今井豪様</p>
第11回	<p>業界毎の動向・事例等 医療・ヘルスケア等のサービスのDX、PHR活用、個人情報ビジネス 授業内容 医療・ヘルスケア分野におけるDX、PHR活用、個人情報ビジネスについて学ぶ。 事前学習（90分） 医療DXまたはPHRに関する基礎情報を調査する。 事後学習（90分） 倫理・法的課題について整理する。 7/2(木) 10:40-12:10 峯 啓真様</p>
第12回	<p>ビジネスモデル特許（ビジネス方法特許）の概要と事例 授業内容 ビジネスモデル特許の概要と具体的事例を学ぶ。 事前学習（90分） ビジネス方法特許の基本概念を調査する。 事後学習（90分） 事例の特徴と活用可能性を整理する。 7/9(木) 10:40-12:10 伊藤 多嘉彦様</p>
第13回	<p>業界毎の動向・事例等 音楽業界 授業内容 音楽業界におけるDXとビジネスモデルの変化を学ぶ。 事前学習（90分）</p>

	音楽配信サービスの事例を調査する。 事後学習（90分） 収益構造の変化を整理する。 7/16(木) 10:40-12:10 梶 望様			
第14回	業界毎の動向・事例等 美容・化粧品・ラグジュアリー業界 授業内容 化粧品業界におけるDXとビジネスモデルの変化を学ぶ。 授業内作業： 化粧品業界商品・サービスの事例を学ぶ。 事前学習（90分） 化粧品業界のサービス事例を調査する。 事後学習（90分） 化粧品業界構造の変化を整理する。 7/23(木) 10:40-12:10 北原 規稚子様			
第15回	第15回 授業内容 これまでの授業で扱った各産業（製造、農業、流通、金融、広告、教育、物流、医療、メディア、音楽など）のDX事例を振り返り、テクノロジーの進展によるビジネスモデルの変化を総括する。 また、クロスセクタの観点から各産業に共通するビジネスモデルの特徴や課題を整理し、テクノロジーとビジネスの融合による今後の産業構造の変化について考察する。 授業全体のまとめとして、テクノロジーを活用したビジネスモデル設計のポイントを整理する。 授業内作業（70分） 1. 授業内容の振り返りシートの作成 これまでの授業で扱った産業分野およびDX事例を整理し、共通するビジネスモデルの特徴をまとめる。 2. 授業満足度レポートの作成 授業を通じて学んだ内容、関心を持った産業分野、今後の学修やキャリアとの関係について整理する。 3. 最終レポート作成 授業で扱った産業事例を踏まえ、テクノロジーを活用したビジネスモデルについて自分の考察をまとめる。 事前学習（90分） これまでの授業で扱った各産業分野のDX事例を振り返り、印象に残った事例やビジネスモデルの特徴を整理する。 事後学習（90分） 授業で整理した内容を踏まえ、最終レポートを完成させる。 テクノロジーを活用したビジネスモデルの特徴や課題について、授業で扱った事例を参考にしながら論理的にまとめる。			
成績評価の方法	最終レポート：60％ 授業内プレゼンテーション：20％ 授業内討議への貢献度：20％ 最終レポートは、授業で扱った産業分野やDX事例を踏まえ、テクノロジーを活用したビジネスモデルについて論理的に分析し、自身の考察を具体的に記述できているかを基準として評価する。 授業内プレゼンテーションは、ビジネスモデル分析の内容、資料構成の明確性、説明の論理性を基準として評価する。 授業内討議への貢献度は、授業内ディスカッションへの参加状況、他者の発表に対する質問や意見の内容を基準として評価する。			
準備学修（予習・復習、課題等）	予習（90分）では、次回の授業で扱う産業分野やDX事例に関する基本用語、関連企業の取り組み、業界動向等について文献やインターネット資料を用いて調査し、基礎情報を整理する。特に、テクノロジーの導入によって既存のビジネスモデルがどのように変化しているかという観点から事例を把握する。 復習（90分）では、授業で扱った産業事例やビジネスモデルについて整理し、テクノロジーの活用によるビジネス構造の変化や課題について考察する。また、授業で紹介された事例について追加調査を行い、ビジネスモデルの特徴や今後の可能性について自分の考えをまとめる。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	アレックス・オスターワルダー他「インピンシブル・カンパニー」翔泳社、2021年（ISBN：978-4798167862） 幡鎌博「eビジネス・DXの教科書ーデジタル経営の今を学ばー」創成社、2022年（ISBN：978-4794425980）			

	幡鎌博「DXのためのビジネスモデル設計方法 改訂版 ビジネスアーキテクトの必須知識」インプレス、2023年（ISBN：978-4295602286）
備考	* 本科目は、起業家・経営者としての実務経験のある教員による授業科目です。
昨年度からの 振り返り	

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	4年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	税務会計・会計処理					授業形態	講義
授業コード	TAT1230001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	柳田 具孝						
授業概要	企業は財務会計の計算によって財務諸表を作成するが、他方では、税務会計の計算によって企業にかかる税金の申告・納付を行う。本科目は企業にかかる税金のうち法人税と消費税を取り扱う。法人税の計算は「別段の定め」に基づく加減算調整が重要であり、会計と税法の考え方の相違を意識しながら調整を行う。消費税の計算は取引区分などの消費税法の基本的な考え方を理解したうえで、売上げと仕入れの各々に定められた計算体系を修得する。						
授業の目的・到達目標	<p>税務会計では主要な法人税と消費税について、計算方法を修得するだけでなく、各計算の背景となっている考え方までを専門的に学ぶことができる。ディプロマポリシーに定める「企業の持続性という観点から、評価・分析する経営理論や実践的技法を身に付け」るための科目である。</p> <ul style="list-style-type: none">・法人税は計算ルールを説明でき、簡単な法人税の申告書を自ら作成できるようになる。・消費税は経理実務で重要となる取引区分を判定し、計算体系を理解できるようになる。・具体的には全国経理協会主催の法人税法検定試験2級、消費税法検定試験2級レベルの問題を解答できるようになる。・起業を志す者は具体的な節税策・税負担を考慮した資金計画を検討できるようになる。						
授業計画							
第1回	ガイダンス：税務と会計						
第2回	消費税法：概要と納税義務者						
第3回	消費税法：課税対象・課税期間と譲渡等の時期、課税標準及び税率						
第4回	消費税法：課税仕入れと税額控除、国・地方公共団体の特例、納税地と申告・納税・還付						
第5回	消費税法：まとめ						
第6回	法人税法：基礎概念						
第7回	法人税法：益金の計算						
第8回	法人税法：減価償却						
第9回	法人税法：圧縮記帳						
第10回	法人税法：役員給与						
第11回	法人税法：寄附金						
第12回	法人税法：交際費						
第13回	法人税法：貸倒引当金						
第14回	法人税法：税額の計算						
第15回	法人税法：まとめ						
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none">・授業内での発言・発表、課題への取組み等の平常点：50％・授業内で行われる小テスト：50％						
準備学修（予習・復習、課題等）	<p>【準備学習】2時間程度 教科書の該当する単元およびページについて予習を行うこと。 テキストの演習問題はコピーするなどして工夫し、繰り返し解けるようにしておくこと。</p> <p>【復習】2時間程度 講義内容で取り扱った問題を、紙ベースでもう一度手を動かして解くことが求められる。 類題の問題を解くなどして、知識を定着させることが求められる。</p>						
教科書							
書名	著者		出版社		ISBN		備考
Newベーシック税務会計＜企業課税編＞〔改訂版〕	中島茂幸・櫻田譲		五紘舎		ISBN-10：4864341672		
参考書							

備考	①無断欠席5回で単位取得不可となるので注意すること。 ②筆記用具を毎回持参すること。 ③本科目履修にあたり日商簿記3級レベルの簿記能力があることが望ましい。
昨年度からの 振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	イノベーションプロジェクトⅠ					授業形態	演習
授業コード	IP11250001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	志村 一隆						
授業概要	3～5人のグループ単位で事業計画の策定を行う一連の中核プログラムの一部である。 身近な街の生活者など身の回りの人々の行動観察から課題を発見し、その課題を解決するプロダクト／サービスの考案に取り組む。ワークショップ形式の授業では、デザイン思考、リーンスタートアップのメソドロジーを取り入れて行い、適切なチームビルディングと事業開発のステップを踏めるようになることを狙う。また、その活動を通じて自分自身が「事業を興す」ために必要なビジネスの知識とICTのスキルが不足していることを痛感させ、個々の学生の今後の学習の意欲を高めるように促す。						
授業の目的・到達目標	授業の目的、目標 ・異なる価値観、性格のメンバーと、ゴールに向けて協働し期待された結果を出せるようになる ・観察、定義、解決策の考案・実装というデザイン思考の基本プロセスを理解し、実践できる ・身近なところに潜む課題解決に必要なスキルセットをイメージし、主体的に学習する意欲を得る						
授業計画							
第1回	科目の全体像と流れの説明、グループ編成、チームビルディング						
第2回	顧客観察と理解の手法、フィールドワーク						
第3回	顧客課題の分析と特定（１）共感マップ						
第4回	顧客課題の分析と特定（２）						
第5回	課題の解決策のアイデア創出（１）バリュープロポジション・キャンバス						
第6回	課題の解決策のアイデア創出（２）						
第7回	アイデアのプロトタイピング（実装）						
第8回	プロトタイプテスト（１）フィールドワーク						
第9回	テスト結果の分析と再実装への反映						
第10回	プロトタイプテスト（２）フィールドワーク						
第11回	ストーリーテリングの手法						
第12回	ストーリーの構想とプレゼンテーション練習						
第13回	中間プレゼン発表とフィードバック						
第14回	プレゼンテーションの再構成						
第15回	最終プレゼン発表とフィードバック						
成績評価の方法	・12回目までの各回のグループでの成果物提出とその内容（各回4％、計48％） ・グループ内メンバーのグループワークにおけるリーダーシップの相互評価（各回2％、計30％） ・中間および最終プレゼン発表におけるパフォーマンス（各11％、計22％）						
準備学修（予習・復習、課題等）	・予習：事前に、それぞれの回で必要となる知識やフレームワークについて授業資料を読み込む（90分） ・復習：次回講義までにその成果物をグループ単位でまとめ、発表できるようにしてくる（90分） ・課題：各回ともグループワーク課題が課され、それに取り組んで成果を発表する。もしくは、前回課された課題の成果を発表したうえで、その見直しに取り組む						
教科書							
参考書	教科書：各回ごとに必要な資料を適宜配布する。 参考文献： 『Lean Customer Development: Building Products Your Customers Will Buy』 Cindy Alvarez（著）、O'Reilly Media、2017 『起業の科学 スタートアップ・サイエンス』 田所雅之（著）、日経BP社、2017						
備考							

昨年度からの 振り返り	昨期はグループワーク、プレゼンなどに多くの時間を割いたが、リーダーシップなどグループ内の役割分担がうまくいくチームといかないチームに分かれた。 自らの知見・経験に加え、投資家・経営者をゲスト講師をさらに迎え、学生の視野を広げ、ビジネスアイデアを見つける可能性を拡大する。
----------------	--

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	イノベーションプロジェクトⅡ					授業形態	演習
授業コード	IP21250001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	志村 一隆						
授業概要	3～5人のグループ単位で事業計画の策定を行う一連の中核プログラムの一部である。 イノベーションプロジェクトⅡでは、Ⅰのグループからメンバーを再編成したうえで、身近な生活者の課題を発見し、その課題の解決策となるプロダクト／サービスを簡単なソフトウェア開発スキルを用いて実際に実装してみる（プロトタイピング）ことを通じて、解決策の実現可能性を高め、質を上げられるようになることを目指す。このため、Ⅰに比べてプロトタイピングからテストにかけてのサイクルをやや長めにとり、最終プレゼンでは単なるアイデアのみならず、実装されたプロダクト／サービスとその事業化の可能性までを展示・説明できるようにする。また、この活動を通じてソフトウェア技術やデータ解析のスキル習得に対する意欲をさらに高める。						
授業の目的・到達目標	・異なる価値観・性格のメンバーと、素早く打ち解けて協働できる対人スキルを身につける ・デザイン思考の基本プロセスを正しく理解し、その仮説検証サイクルを素早く回せるようになる ・ICTを用いた課題解決に必要なスキル（ソフトウェア開発・データ解析など）の全体像を把握し、それを用いたプロダクト実装と事業化した際の簡単な収益シミュレーションができるようになる						
授業計画							
第1回	科目の全体像と流れの説明、グループ編成、チームビルディング						
第2回	顧客観察と課題の分析・特定（１）						
第3回	顧客観察と課題の分析・特定（２）						
第4回	課題の解決策のアイデア創出						
第5回	アイデアのプロトタイピング（１）						
第6回	プロトタイプテスト（１）フィールドワーク						
第7回	ビジネスモデルへの落とし込み（１）ビジネスモデル図						
第8回	アイデアのプロトタイピング（２）						
第9回	プロトタイプテスト（２）フィールドワーク						
第10回	ビジネスモデルへの落とし込み（２）UXデザインとMOT						
第11回	ビジネスモデルへの落とし込み（３）収支モデルとKPI						
第12回	ストーリーの構想とプレゼンテーション練習						
第13回	中間プレゼン発表とフィードバック						
第14回	プレゼンテーションの再構成						
第15回	最終プレゼン発表とフィードバック						
成績評価の方法	・12回目までの各回のグループでの成果物提出とその内容（各回4％、計48％） ・グループ内メンバーのグループワークにおけるリーダーシップの相互評価（各回2％、計30％） ・中間および最終プレゼン発表におけるパフォーマンス（各11％、計22％）						
準備学修（予習・復習、課題等）	・課題：各回ともグループワーク課題が課され、それに取り組んで成果を発表する。もしくは、前回課された課題の成果を発表したうえで、その見直しに取り組む（180分）						
教科書							
参考書	教科書：各回ごとに必要な資料を適宜配布する。 参考文献： 『Lean UX 第2版 ―アジャイルなチームによるプロダクト開発 (THE LEAN SERIES) 』ジェフ・ゴーセルフ(著)ジョシュ・セイデン(著)坂田一倫(監修)エリック・リース(編集)児島修(翻訳)、オライリージャパン、2017年 『UX for Lean Startups: Faster, Smarter User Experience Research and Design』Laura Klein（著）、O'Reilly Media、2013年						
備考							

昨年度からの 振り返り	新たなビジネストレンド、海外市場など学生の知見を広げるゲスト、トピック紹介をさらに盛り込んでいく。
----------------	---

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	スタートアップ基礎（起業論）					授業形態	講義
授業コード	TEN1210001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	江端 浩人						
授業概要	本科目では、スタートアップや新規事業創出に必要な基本的な考え方を学ぶ。起業家の資質、ビジネスモデルの構築方法、収益構造の理解、顧客体験の設計などを具体的な事例を通して理解する。また、起業家や企業関係者によるゲスト講義を通して、実際の起業プロセスやスタートアップの課題について学ぶ。さらに、DXやAIなど現代のデジタル社会の変化を踏まえ、社会課題の解決につながるビジネスの可能性を考察する。授業を通じて、学生自身のパッション、ビジョン、ミッションを整理し、将来のキャリアや起業の可能性について主体的に考える力を養う。						
授業の目的・到達目標	本科目の履修を通じて、学生は次のことができるようになる。 1. スタートアップや新規事業創出に必要な基本概念を説明できる。 2. ビジネスモデルキャンパスやカスタマージャーニーなどを用いてビジネスモデルを整理できる。 3. 社会課題や技術動向を踏まえた新しいビジネスの可能性を考察できる。 4. 自身のパッション、ビジョン、ミッションを整理し、将来のキャリアや起業の方向性について説明できる。						
授業計画							
第1回	イントロダクション：授業の目的、進め方、スタートアップの基本概念を理解する。 授業内作業（60分） 起業や新規事業に関する関心分野についてグループで共有する。						
第2回	起業家に必要な資質と能力について学ぶ。 授業内作業（60分） 起業家に必要な能力についてグループ討議を行う。						
第3回	創業事例の分析（スタートアップ事例）。 授業内作業（60分） 創業プロセスを整理し、成功要因や課題について討議する。						
第4回	ゲスト講義：起業家による実践事例。 授業内作業（60分） 講義内容について質問や意見を整理する。						
第5回	ビジネスの収益構造と損益分岐点の理解。 授業内作業（60分） 簡易的な事業収支モデルを作成する。						
第6回	ゲスト講義：スタートアップ企業の事例。 授業内作業（60分） 企業のビジネスモデルを整理する。						
第7回	カスタマージャーニーの理解と顧客体験の設計。 授業内作業（60分） 顧客体験の流れを整理するワークを行う。						
第8回	ビジネスモデルキャンパスの理解。 授業内作業（60分） ビジネスモデルキャンパスを作成する。						
第9回	SDGsと社会課題を踏まえたビジネス。 授業内作業（60分） 社会課題をテーマにしたビジネスアイデアを検討する。						

	ビジネス倫理とモラルハザード。				
第10回	授業内作業（60分） 企業不祥事の事例を分析する。				
第11回	ゲスト講義：起業家による実践事例。 授業内作業（60分） 講義内容の整理と質疑。				
第12回	DX・AIなどデジタル社会の変化。 授業内作業（60分） 技術の変化がビジネスに与える影響を整理する。				
第13回	ゲスト講義：スタートアップの実践。 授業内作業（60分） ビジネス事例の分析。				
第14回	演繹思考とイノベーション。 授業内作業（60分） 未来の社会を前提としたビジネスアイデアを検討する。				
第15回	授業の振り返りと総括。スタートアップに関する学びを整理する。 授業内作業（90分） 授業内容の振り返りを行い、最終レポート（パッション・ビジョン・ミッション等）の作成を行う。				
成績評価の方法	最終レポート：60％ 授業内プレゼンテーション：20％ 授業内討議への貢献度：20％ ＜評価基準＞ 最終レポートは、授業で扱った内容を踏まえ、自身のパッション、ビジョン、ミッションおよびビジネスの可能性について論理的に整理できているかを基準として評価する。 授業内プレゼンテーションは、ビジネスアイデアの整理、説明の論理性、資料構成を基準として評価する。 授業内討議への貢献度は、ディスカッションへの参加状況および意見の内容を基準として評価する。				
準備学修（予習・復習、課題等）	予習（90分）では、次回の授業で扱うテーマに関連する起業事例、ビジネスモデル、企業活動などについて文献やインターネット資料を用いて調査し、基礎情報を整理する。 復習（90分）では、授業で扱ったビジネスモデルや事例についてノートや資料を整理し、スタートアップに必要な考え方やビジネス構造について自分の考えをまとめる。また、関心のあるビジネス分野について追加調査を行う。				
教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
指定なし					
参考書	資料を適宜配布します。 参考文献： 『ビジョナリー・カンパニー ― 時代を超える生存の原則』 ジム・コリンズ（著）、山岡洋一（翻訳）、日経BP社、1995年 『[新版]競争戦略論Ⅰ』 マイケル E. ポーター（著）、竹内弘高（翻訳）、ダイヤモンド社、2018年 『サステナビリティ sustainability × innovation：多様性時代における企業の羅針盤』 藤原遠（著）、日経BP社、2020年				
備考	＊本科目は、起業家・経営者としての実務経験のある教員による授業科目です。				
昨年度からの振り返り	本科目は学生の皆様に知識を与えながらも、学生の皆様にグループで考えていただくことを中心に考えています。是非、グループの課題を皆様がきちんと時間を作って議論されてください。				

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	ビジネスフィールドリサーチⅠ					授業形態	実習
授業コード	FR11220001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	松村 太郎						
授業概要	実際の企業が直面している課題の分析とその解決策の立案実習を通じて、実務における経営学の応用力を体得する。 具体的には、前半の回で国内外の企業のケースを用いて「ケースを解き、クラスで議論する」というケーススタディの基本的な学習方法とその学習目的を理解・習得する。その上で、本学が連携する企業から提示された事例に基づき、グループでその事例に対し、調査（企業訪問、現場観察、2次情報収集、インタビュー等）、仮説形成、分析し、課題解決策をまとめ、企業の担当者にプレゼンテーションするための資料作成、パフォーマンス等準備を行う。実際の企業担当者から講評を得る。 経営戦略や財務会計を中心としたケースを主に扱い、1年次前期に履修した「マネジメント（経営学基礎）」を実際の企業の経営に当てはめて検討した場合の経営判断における示唆を得、またそれを実際の企業の担当者に評価されることを目指す。						
授業の目的・到達目標	・問題解決と論理的思考、ビジネス・フレームワークを学び、素早く問題を捉えて分析し、解決策とアイデアに時間を割くことができるようにする。 ・プロジェクトベースドラーニング（課題解決型学習）という学習方法を正しく理解し、スピーディーに問いと検証を回せるようになる。 ・企業の戦略について、定性、定量の両方の側面から分析を深め、実現可能な施策を導ける。 ・戦略や財務などの分析ツールを正しく使いこなし、その適用条件や限界についても理解する。						
授業計画							
第1回	本コースの全体像と学習の進め方、イノベーションプロジェクトとの関係に関するオリエンテーション						
第2回	問題解決（1）：WHERE イシューを発見する、問題の箇所とロジックツリー						
第3回	問題解決（2）：WHY 問題の原因分析、因果構造図						
第4回	問題解決（3）：HOW 問題の解決方法、条件の変化に対応する						
第5回	論理思考（1）：3つの思考法（演繹法・帰納法・仮説推論）を使い分ける						
第6回	説得力の論理構造（ピラミッド・ストラクチャー）						
第7回	ビジネスを読み解く基本フレームワーク（1）：マトリクス分析とポジショニングマップ						
第8回	ビジネスを読み解く基本フレームワーク（1）：マトリクス分析とポジショニングマップ						
第9回	ビジネスを読み解く基本フレームワーク（2）：SWOT分析						
第10回	ビジネスを読み解く基本フレームワーク（2）：SWOT分析						
第11回	ビジネスを読み解く基本フレームワーク（3）：イノベータ理論						
第12回	ビジネスを読み解く基本フレームワーク（3）：イノベータ理論						
第13回	ビジネスを読み解く基本フレームワーク（4）：4P分析、4C分析						
第14回	ビジネスを読み解く基本フレームワーク（4）：4P分析、4C分析						
第15回	イノベーションを起こすフレームワーク（1）：デザイン思考						
第16回	イノベーションを起こすフレームワーク（1）：デザイン思考						
第17回	イノベーションを起こすフレームワーク（2）：行動変容モデル						
第18回	イノベーションを起こすフレームワーク（2）：行動変容モデル						
第19回	現代のビジネスモデルを構築するフレームワーク（1）：バリューチェーン分析						
第20回	現代のビジネスモデルを構築するフレームワーク（1）：バリューチェーン分析						
第21回	現代のビジネスモデルを構築するフレームワーク（2）：マルチサイドプラットフォーム						
第22回	現代のビジネスモデルを構築するフレームワーク（2）：マルチサイドプラットフォーム						
第23回	現代のビジネスモデルを構築するフレームワーク（3）：サブスクリプションとライフタイムバリュー						

第24回	現代のビジネスモデルを構築するフレームワーク（3）：サブスクリプションとライフタイムバリュー				
第25回	マーケティングを理解するためのフレームワーク（1）：顧客満足度				
第26回	マーケティングを理解するためのフレームワーク（1）：顧客満足度				
第27回	マーケティングを理解するためのフレームワーク（2）：ネットワーク理論				
第28回	マーケティングを理解するためのフレームワーク（2）：ネットワーク理論				
第29回	マーケティングを理解するためのフレームワーク（3）：5フォース分析				
第30回	マーケティングを理解するためのフレームワーク（3）：5フォース分析				
成績評価の方法	<div>・クラス内での議論への貢献（発言）：各回1.5%、計45%</div> <div>・事前課題等の提出物とその内容：各回0.5%、計15%</div> <div>・グループ活動での成果（プレゼンテーション）：各回0.5%、計15%</div> <div>・振り返りレポート：各回0.5%、計15%</div> <div>・リサーチ結果の評価：10%</div>				
準備学修（予習・復習、課題等）	予習：書籍を読んで、ケースとフレームワークを予習する（60分） 復習：ケース学習とグループ議論の振り返り（30分）				
教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
最強Appleフレームワークー ジョブズを失っても成長し続ける最高・堅実モデル		松村太郎・徳本昌大	時事通信社	9784788719170	
参考書	『経営戦略言論』琴坂将広（著）、東洋経済新報社、2018年 『コンサルを超える 問題解決と価値創造の全技法』名和高司（著）、東洋経済新報社、2018年 『イノベーションのDNA 破壊的イノベータの5つのスキル（Harvard Business School Press）』クレイトン・クリステンセン、ジェフリー・ダイアー、ハル・グレガーセン（著）、櫻井祐子（訳）、翔泳社、2012年 『問題解決 あらゆる課題を突破するビジネスパーソン必須の仕事術』高田貴久、岩澤智之（著）、英治出版、ISBN：4862761240、2014年 『ロジカル・プレゼンテーション 自分の考えを効果的に伝える戦略コンサルタントの「提案の技術」』高田貴久（著）、英治出版、ISBN：9784901234436、2004年 『改訂3版 グロービスMBAマネジメント・ブック』グロービス経営大学院（著）、ダイヤモンド社、ISBN：447800496X、2008年				
備考					
昨年度からの振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。				

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	ビジネスフィールドリサーチⅡ					授業形態	実習
授業コード	FR21220001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	松村 太郎						
授業概要	実際の企業が直面している課題の分析とその解決策の立案実習を通じて、実務における経営学の応用力を体得する。 前期「ビジネスフィールドリサーチⅠ」で扱ったビジネス・フレームワークに加え、マーケティングや組織のフレームワークを導入した上で、グループに分かれ、それぞれが業種や業態を選定し、リサーチプロジェクトを実施する。						
授業の目的・到達目標	・問題解決と論理的思考、ビジネス・フレームワークを学び、素早く問題を捉えて分析し、解決策とアイデアに時間を割くことができるようになる。 ・プロジェクトベースドラーニング（課題解決型学習）という学習方法を正しく理解し、スピーディーに問いと検証を回せるようになる。 ・ビジネスフィールドリサーチを体験する。 ・ビジネスアイデア創出、イノベーション創出の起点となる、リサーチを実施できるようにする。						
授業計画							
第1回	オリエンテーション						
第2回	ビジネスアイデア創出、イノベーション創出の起点となる、リサーチ実施というゴールの共有						
第3回	パーパス経営とKGI、KPI						
第4回	パーパス経営とKGI、KPI						
第5回	集合天才の組織をいかに作るか？						
第6回	集合天才の組織をいかに作るか？						
第7回	デザイン思考とアート思考						
第8回	アート思考を学ぶワークショップ実践（プレイフル）						
第9回	心理的安全性とイノベーション						
第10回	心理的安全性とイノベーション						
第11回	ビジネス創出やイノベーション創出に役立つ「仮説」づくりとは？						
第12回	リサーチプロジェクトキックオフ						
第13回	リサーチの設計とデスクリサーチ						
第14回	リサーチの設計とデスクリサーチ						
第15回	基礎リサーチ発表会						
第16回	基礎リサーチ発表会						
第17回	ファクトブックを作る（1）調べたリサーチ結果と社会問題の「切り口」を設定する						
第18回	ファクトブックを作る（1）調べたリサーチ結果と社会問題の「切り口」を設定する						
第19回	ファクトブックを作る（2）切り口をストーリー化し、やろうとしていることの意味づけを行う						
第20回	ファクトブックを作る（2）切り口をストーリー化し、やろうとしていることの意味づけを行う						
第21回	ファクトブック発表会						
第22回	ファクトブック発表会						
第23回	リサーチとファクトブックから、狙うべき市場とポジションを検討する（フレームワーク活用）						
第24回	リサーチとファクトブックから、狙うべき市場とポジションを検討する（フレームワーク活用）						

第25回	リサーチとファクトブックから、新規性が評価される領域を選定する（フレームワーク活用）			
第26回	リサーチとファクトブックから、新規性が評価される領域を選定する（フレームワーク活用）			
第27回	リサーチとファクトブックから、パーパス、KGI・KPIを設定する（フレームワーク活用）			
第28回	リサーチとファクトブックから、パーパス、KGI・KPIを設定する（フレームワーク活用）			
第29回	ビジネスフィールドリサーチのクラス内発表会			
第30回	ビジネスフィールドリサーチのクラス内発表会			
成績評価の方法	・クラス内での議論への貢献（発言）：各回1.5％、計45％ ・事前課題等の提出物とその内容：各回0.5％、計15％ ・グループ活動での成果（プレゼンテーション）：各回0.5％、計15％ ・振り返りレポート：各回0.5％、計15％ ・リサーチ結果の評価：10％			
準備学修（予習・復習、課題等）	予習：書籍を読んで、ケースとフレームワークを予習する（60分） 復習：ケース学習とグループ議論の振り返り（30分）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
最強Appleフレームワークー ジョブズを失っても、成長し 続ける最高・堅実モデル！	松村太郎・徳本昌大	時事通信社	9784788719170	
参考書	都度必要な資料を配布する			
	参考文献： 『経営戦略言論』琴坂 将広（著）、東洋経済新報社、2018年 『コンサルを超える 問題解決と価値創造の全技法』名和 高司（著）、東洋経済新報社、2018年 『イノベーションのDNA 破壊的イノベータの5つのスキル（Harvard Business School Press）』クレイトン・クリステンセン（著）、ジェフリー・ダイアー（著）、ハル・グレガーセン（著）、櫻井祐子（翻訳）、翔泳社、2012年 『HIGH OUTPUT MANAGEMENT－人を育て、成果を最大にするマネジメント』アンドリュー・S・グローブ（著）、ベン・ホロウィッツ（その他）、小林 薫（翻訳）、日経BP社、2017年			
備考				
昨年度からの振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	3年	学期	前期・後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	イノベーションプロジェクトⅤ					授業形態	演習
授業コード	IP51250001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	志村 一隆、斎藤 祐士、仁木 隆大、小林 久美子、松村 太郎						
授業概要	<ul style="list-style-type: none">・3～5人のグループ単位で事業計画の策定を行う一連の中核プログラムの一部である。・Ⅴでは、市場をリードしている企業をお招きし、その企業の課題を提示していただき、課題解決プランをグループで企画・プレゼンする。・各クラスで代表チームを選び、最終的に企業にプレゼンを行う。・企画プレゼンの審査は、当該企業が次の6項目で行う。①新規性・独自性、②現実性、③市場性、④継続性、⑤拡張性、⑥プレゼン・代表に選ばれなかったチームの企画資料も、フォルダに格納、企業に共有する。						
授業の目的・到達目標	<p>授業の目的、目標</p> <ul style="list-style-type: none">・実際の企業やビジネスリーダーと接することで、企業活動を理解し、その課題や解決手法などを体験、理解する。・社会情勢・トレンド、起業における仕組みなどを理解し、ビジネス立案できるようになる。・礼儀、挨拶、時間を守ることなど、最低限のビジネスマナーを学び、会得、体現する。・他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践する。						
授業計画							
第1回	企業からその企業が抱える課題についてプレゼンを受け、理解する。 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第2回	顧客観察と理解の手法、フィールドワーク 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第3回	顧客課題の分析と特定（１）共感マップ 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第4回	顧客課題の分析と特定（２） 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第5回	課題の解決策のアイデア創出（１）バリュープロポジション・キャンバス 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第6回	課題の解決策のアイデア創出（２） 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第7回	アイデアのプロトタイピング（実装） 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第8回	企業の課題解決アイデアについて、プレゼンを行い、当該企業から評価を受ける。 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第9回	企業からその企業が抱える課題についてプレゼンを受け、理解する。 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第10回	顧客観察と理解の手法、フィールドワーク 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第11回	顧客課題の分析と特定（１） 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						

第12回	顧客課題の分析と特定（2） 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践			
第13回	課題の解決策のアイデア創出（1） 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践			
第14回	課題の解決策のアイデア創出（2） 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践			
第15回	企業の課題解決アイデアについて、プレゼンを行い、当該企業から評価を受ける。 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践			
成績評価の方法	・前期プレゼン発表のパフォーマンス（40%） ・後期プレゼン発表におけるパフォーマンス（40%） ・授業内でのリーダーシップ・積極性（20%）			
準備学修（予習・復習、課題等）	・予習：事前に共有される企業の資料を読み込み、市場状況、企業課題を理解する。（90分） ・復習：グループ内で、役割分担し、企画作成を行う。（90分）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	特になし。			
備考				
昨年度からの振り返り	今回からは、礼儀、挨拶、時間を守ることなど、最低限のビジネスマナーを学び、会得、体現する点と、他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践することに重点を置く。企業課題を具体的に解決する事業プランを作成、評価されることを目指す。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	3年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	インターンシップⅠ					授業形態	実習
授業コード	IN11240001	単位数	12単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	石村 源生、阿部川 久広、志村 一隆、斎藤 祐士、仁木 隆大						
授業概要	<p>「インターンシップⅠ」とは、企業での実務を通じて課題を発見・解決し、特にシステム開発に関連する専門知識と技術を実践的に学ぶ授業科目である。</p> <p>学生は、実習先企業の業務内容やその意義を理解し、計画的に業務に取り組みながら、実務の一工程を担う。</p> <p>事前・事後の指導では、企業研究や自己分析、学習目標の設定・振り返りを通して、自立的に学ぶ力やビジネス現場での基本的な態度を養う。</p>						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実習先で与えられた業務の背景と目的を理解し、効率的・効果的に業務を遂行できる。 ・自ら学習目標を設定し、必要に応じて計画を柔軟に修正しながら、目標達成に向けて主体的に取り組める。 ・ICT系の作業において、設計書をもとに適切な実装を行うことができる。 ・実習先企業の関係者やIU担当教員、他の実習生と適切にコミュニケーションを取り、職業人としての基本的な態度を実践できる。 ・実習中のミスや課題に対して、誠実かつ前向きに対応し、成長につなげる姿勢を持つ。 						
授業計画							
事前指導（1日目）	<p>（事前指導：1日目・3時限分）</p> <p>【実習に向けての目的意識の醸成1】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクションと企業研究 2. 求められる能力と現状 3. ギャップの明確化と学習到達目標の設定 						
事前指導（2日目）	<p>（事前指導：2日目・3時限分）</p> <p>【実習先で必要な振る舞い方のトレーニング】</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 実習先で必要な振る舞い方のトレーニング1 5. 実習先で必要な振る舞い方のトレーニング2 6. PROG受検 						
事前指導（3日目）	<p>（事前指導：3日目・4時限分）</p> <p>【実習に向けての目的意識の醸成2】</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 事前指導中の学習：実施と結果報告 8. PROG受検結果の解説・日報の使い方の解説 9. 実習開始後の学習：到達目標の設定1 10. 実習開始後の学習：到達目標の設定2 						
インターンシップ実践（初日）	<p>（臨地実務実習：初日）</p> <p>オリエンテーション</p> <p>企業の沿革、組織体制、就業規則、実習・研修の体制などの説明と研修内容についてのオリエンテーションを実施する。</p> <p>また、学生自身の将来の目標について実習先指導者とすり合わせる。</p>						
インターンシップ実践（1週目）	<p>（臨地実務実習：1週目）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①業務の流れを見聞きし、理解した上で、実習先の取り扱う製品やサービス、ビジネスの企画、開発、生産などの業務を補助するための計画を立て、実習期間中の各自の目標設定を行い、実習指導者からのフィードバックを得る。 ②システム開発者の仕事の様子（プロジェクト型業務）を見学する。 ③システム開発を行う上での責任範囲、役割を理解し、手順に沿ってシステム開発を行うことの重要性を聴く。 						
インターンシップ実践（～3週目）	<p>（臨地実務実習：2～3週目）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①システム開発チームメンバーとして開発作業の補助業務を行う。 ②実習期間2週間を振り返り、補助業務の反省及び必要とされる知識・技能の不足部分、問題点と実習日誌の実習指導者からのフィードバックを基に自己分析を行う。また、実習先から与えられたテーマを課題として企画立案、計画準備などに取り組む。 						
インターンシップ実践（～5週目）	<p>（臨地実務実習：4～5週目）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①システム開発の作業の一工程について、示された設計書どおりに実装する課題に取り組む。 ②実習先から与えられた各自の課題の進捗状況について、適宜、実習指導者のチェックを受け、企画・計画などの内容に修正がないか確認しながら業務を遂行する。週末までに、修正内容の改善計画を確認し、実習指導者のアドバイスを受け、次のステップに移行する。 						
インターンシップ実践（～7週目）	<p>（臨地実務実習：6～7週目）</p> <p>引き続き、与えられた課題を基に業務を遂行する。適宜、実習指導者のチェックを受け、企画・計画などの内容に修正がないか確認を行う。</p> <p>週末までに、修正内容の改善計画を確認し、実習指導者のアドバイスを受け、最終プレゼンテーションに備えてブラッシュアップを行う。</p>						
インターンシップ実践（～8週目）	<p>（臨地実務実習：8週目）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①完成した成果物についてのプレゼンテーション及び実習目標に対する達成度の報告を行う。 ②実習先の協力を得て、できる限り多くのスタッフから評価を得ることを目指す。その評価を基に、得られた改善点について実習日誌にまとめ、成果物とともに実習指導者に提出し報告を行う。 						
事後指導（1日目）	<p>（事後指導：1日目・3時限分）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクションと経験学習 2. 実習の振り返り 3. プレゼンテーション 						

事後指導（2日目）	（事後指導：2日目・3時限分） 4. 日報を活用した振り返り 5. プレゼンテーション 6. キャリアデザインへの応用				
事後指導（3日目）	（事後指導：3日目・4時限分） 7. 新規事業を「自分ごと」として考える 8. 提案の骨子を作成する 9. プレゼンテーションの準備 10. プレゼンテーション				
成績評価の方法	・事前課題・事前指導：10％ ・臨地実務実習中の企業・教員からの評価：60％ ・事後課題・事後指導：30％ で総合評価する。 詳細は事前指導で告知する。				
準備学修（予習・復習、課題等）	実習先の企業研究、学習到達目標に沿った事前学習、臨地実務実習中の課題等 （事前・事後指導の各回に対し2時間程度、臨地実務実習1日に対し3.5時間程度）				
教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
指定なし					
参考書	配布資料による。				
備考					
昨年度からの振り返り	より実践的な教育内容に改善する。				

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	インターンシップⅡ					授業形態	実習
授業コード	IN21240002	単位数	12単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	石村 源生、阿部川 久広、志村 一隆、斎藤 祐士、仁木 隆大						
授業概要	<p>「インターンシップⅡ」では、「インターンシップⅠ」を踏まえ、実践活動の場において、情報通信技術を活用した課題発見・解決を行い、主にビジネスの観点からマーケティングや企画提案・実装するために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図り、企画や起業に繋がる知識や技能を修得する。</p> <p>具体的には、指示された業務についてこれまでに修得した知識や技能を実践する。また、与えられた業務を推進するための調整や提案を行う。一連の業務を通じて実際の企業活動の中での実務を理解するとともに、職務遂行に必要な知識やスキルを養う。</p>						
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のやるべき業務を的確に判断し、効率的な方法を考え、率先して創意工夫をしながら取り組むことができる。 ・異なる考え方の人たちと意見を交わして調整し、互いに納得できる結論を導き、状況に応じて自分の役割を適切に変えながら協力して業務を遂行することができる。 ・企業や事業を取り巻く状況について調査統計、アンケートやインタビューといった情報を適切に収集・分析し、それらを分かりやすく整理し、ビジネス上の的確な示唆を提示できる。 ・情報通信技術も活用し、事業の課題を解決する方策と実行計画、それによって生じるデメリットとその対処策などもあわせてプレゼンし、指導者の納得と助言を得ることができる。 						
授業計画							
事前指導（1日目）	<p>（事前指導：1日目・3時限分）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 後期実習に向けた準備 3. 科目担当教員との面談① 						
事前指導（2日目）	<p>（事前指導：2日目・3時限分）</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. ビジネスにおいて知るべき知識の再確認① 5. ビジネスにおいて知るべき知識の再確認② 6. 科目担当教員との面談② 						
事前指導（3日目）	<p>（事前指導：3日目・4時限分）</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 実習のルール 8. 実習における注意点 9. 実習で起こりがちな問題のケーススタディ 10. 科目担当教員との面談③ 						
インターンシップ実践（初日）	<p>（臨地実務実習：初日）</p> <p>オリエンテーション</p> <p>①必要に応じ、企業の沿革、組織体制、就業規則、実習・研修の体制などの説明と研修内容についてのオリエンテーションを実施する。また、学生自身の将来の目標について実習先指導者とすり合わせる。</p> <p>②「インターンシップⅠ」で発見した学生自身の課題等について実習先指導者とすり合わせる。</p>						
インターンシップ実践（1週目）	<p>（臨地実務実習：1週目）</p> <p>①業務の流れを見聞きし、理解した上で、実習先の取り扱う製品やサービス、ビジネスの企画、開発、生産などの業務を補助するための計画を立て、実習期間中の各自の目標設定を行い、実習指導者からのフィードバックを得る。</p> <p>②実習先で行われる実際の会議やミーティングに参加する。</p> <p>③マーケティング業務経験者や企画職経験者の仕事の様子（プロジェクト型業務）を見学する。</p>						
インターンシップ実践（～3週目）	<p>（臨地実務実習：2～3週目）</p> <p>①営業、マーケティング業務、企画業務の補助業務を行う。</p> <p>②実習期間2週間を振り返り、補助業務の反省及び必要とされる知識・技能の不足部分、問題点と実習日誌の実習指導者からのフィードバックを基に自己分析を行う。また、実習先から与えられたテーマを課題として企画立案、計画準備などに取り組む。</p>						
インターンシップ実践（～5週目）	<p>（臨地実務実習：4～5週目）</p> <p>①企業や事業を取り巻く状況について調査統計、アンケートやインタビューといった情報を適切に収集・分析し、それらを分かりやすく整理する課題に取り組む。</p> <p>②実習先から与えられた各自の課題の進捗状況について、適宜、実習指導者のチェックを受け、企画・計画などの内容に修正がないか確認しながら業務を遂行する。週末までに、修正内容の改善計画を確認し、実習指導者のアドバイスを受け、次のステップに移行する。</p>						
インターンシップ実践（～7週目）	<p>（臨地実務実習：6～7週目）</p> <p>①前回の課題、「インターンシップⅠ」を踏まえ、情報通信技術も活用し、事業の課題を解決する方策と実行計画、それによって生じるデメリットとその対処策などもあわせてプレゼンテーションする課題に取り組む。</p> <p>②課題に対し、実習指導者のチェックを受け、企画・計画などの内容に修正がないか確認を行う。週末までに、修正内容の改善計画を確認し、実習指導者のアドバイスを受け、最終プレゼンテーションに備えてブラッシュアップを行う。</p>						
インターンシップ実践（～8週目）	<p>（臨地実務実習：8週目）</p> <p>①完成した成果物についてのプレゼンテーション及び実習目標に対する達成度の報告を行う。</p> <p>②実習先の協力を得て、できる限り多くのスタッフから評価を得ることを目指す。その評価を基に、得られた改善点について実習日誌にまとめ、成果物とともに実習指導者に提出し報告を行う。</p>						
事後指導（1日目）	<p>（事後指導：1日目・3時限分）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 						

	2. 実習の振り返り 3. 成長の言語化と共有			
事後指導（2 日目）	（事後指導：2日目・3時限分） 4. PROG受検 5. 就活での経験活用ロールプレイ 6. 実習の経験に基づくプレゼンテーション準備1			
事後指導（3 日目）	（事後指導：3日目・4時限分） 7. PROG受検結果 8. 実習の経験に基づくプレゼンテーション準備2 9. 実習の経験に基づくプレゼンテーション1 10. 実習の経験に基づくプレゼンテーション2			
成績評価の方法	・事前課題・事前指導：10％ ・臨地実務実習中の企業・教員からの評価：60％ ・事後課題・事後指導：30％ で総合評価する。 詳細は事前指導で告知する。			
準備学修（予 習・復習、課 題等）	実習先の企業研究、臨地実務実習中の課題等 （事前・事後指導の各回に対し2時間程度、臨地実務実習1日に対し3.5時間程度）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	配布資料による。			
備考				
昨年度からの 振り返り	より実践的な教育内容に改善する。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	4年	学期	前期・後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	イノベーションプロジェクトⅥ					授業形態	演習
授業コード	IP61250001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	志村 一隆、斎藤 祐士、仁木 隆大、小林 久美子、松村 太郎						
授業概要	・3～5人のグループ単位で事業計画の策定を行う一連の中核プログラムの一部である。 ・Ⅵでは、マクロ経済、社会情勢のトレンドや起業に必要な枠組みを学び、自らの起業プラン立案に活かせるようにする。 ・社会でも、自分が属する組織で、新規ビジネス開発に携わることができるスキル・ノウハウを体得する。 ・自分自身が「事業を興す」ために必要なビジネスの知識・マナーが不足していることを痛感させ、個々の学生の今後の学習の意欲を高めるように促す。						
授業の目的・到達目標	・社会情勢と自らのスキルを意識し、客観的なデータをもとに新たなビジネスモデルを企画、第三者に納得のいくプレゼンができる。 ・社会でも通用する情報収集手法を体験し、新規ビジネス立案や起業に活用できる。 ・礼儀、挨拶、時間を守ることなど、最低限のビジネスマナーを学び、会得、体現する。 ・他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践する。						
授業計画							
第1回	科目の全体像と流れの説明 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第2回	マクロ経済のトレンド・知識の習得 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第3回	ミクロ経済のトレンド・知識の習得 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第4回	国際政治の枠組みなどを理解する。 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第5回	人口動態、世代と移民などのトレンドを理解する。 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第6回	グローバルな社会の思想を理解する。 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第7回	財務三表の分析手法・スキルを身につける。 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第8回	市場におけるイノベーションの発生・事例を知り、理解する。 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第9回	AIと人間の役割・働き方について理解する。 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第10回	起業における市場調査の手法・重要性を理解する。 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第11回	起業のアイデア創出と自らのスキル・強みを理解する。 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第12回	起業における資本政策を理解する。 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践						
第13回	合同会社と株式会社の違い・特性を理解する。 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得						

	他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践				
第14回	プレゼン作成 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践				
第15回	最終プレゼン発表 礼儀、挨拶、時間厳守などビジネスマナーの体得 他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践				
成績評価の方法	・ 発言・他者へのアドバイスなど授業での積極性：20％ ・ 課題の提出とその結果：20％ ・ ビジネスモデル・プレゼン発表におけるパフォーマンス：60％				
準備学修（予習・復習、課題等）	・ 予習：事前課題を出題するため、期限までに提出する。（90分） ・ 復習：各回の授業内容は、常に復習し、次回までに整理しておくこと。（90分）				
教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
指定なし					
参考書	デジタルサービスNotionで作成した資料を共有する。				
備考					
昨年度からの振り返り	今回からは、礼儀、挨拶、時間を守ることなど、最低限のビジネスマナーを学び、会得、体現する点と、他責な行動をすることなく、自主的、自立した思考、行動を実践することに重点を置く。企業課題の具体的な解決プランを作成、評価されることを目指す。				

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	プログラミングⅡ					授業形態	実習
授業コード	PG21310003	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	小沼 和彦						
授業概要	オブジェクト指向プログラミング言語であるJavaを使い、オブジェクト指向の三大要素である継承、カプセル化、ポリモーフィズムを理解し、それらをプログラミングする技術を学びます。						
授業の目的・到達目標	オブジェクト指向の三大要素である継承、カプセル化、ポリモーフィズムを習得する。 Java言語を用いたオブジェクト指向プログラムの構築を理解する。						
授業計画							
第1回	オブジェクト指向プログラミングの基本： オブジェクト指向を用いたソフトウェア開発について学ぶ。						
第2回	オブジェクト指向と図的表現： オブジェクト指向プログラミングにおいて特に重要度の高いUML記法について紹介する。						
第3回	クラスとメソッド： クラス定義、オブジェクトの生成を学習し、実習を行う。						
第4回	カプセル化と情報隠蔽： カプセル化および情報隠蔽の意義を説明する。さらに、アクセッサ・メソッドを理解し、使えるようになる。						
第5回	カプセル化と情報隠蔽（実習）： クラス定義、オブジェクト生成などについて、クラス図とシーケンス図に基づいたプログラミング実習を行う。						
第6回	コンストラクタ： コンストラクタについて学ぶ。コンストラクタの定義と利用について理解する。						
第7回	コンストラクタのオーバーロード・メソッドのオーバーロード（1）： コンストラクタのオーバーロードおよびメソッドのオーバーロードについて学ぶ。						
第8回	コンストラクタのオーバーロード・メソッドのオーバーロード（2）： オブジェクト生成時の初期化、同じ名前のメソッドの定義等について実習を行う。						
第9回	修飾子・static変数・staticメソッド： static変数とインスタンス変数の違いを学び、実習を行う。						
第10回	継承（1）： オブジェクト抽象化のためのメカニズムである継承について学ぶ。						
第11回	継承（2）： 継承の適切な使用について理解し、実習を行う。						
第12回	継承（3）： 抽象クラス・抽象メソッドについて学び、実習を行う。						
第13回	インタフェース： メソッドの使い方の統一について学ぶ。						
第14回	抽象クラスとインタフェース： 抽象クラスとインタフェースの違いについて理解し、実習を行う。						
第15回	クラス同士の関係（1）： 関連・集約について理解する。						
第16回	クラス同士の関係（2）： 関連・集約についてクラス図とシーケンス図に基づいたプログラミング実習を行う。						
第17回	多態性（1）： 多態性の意義について理解する。						
第18回	多態性（2）： 多態性の活用例について学び、実習を行う。						

第19回	例外処理（1）： 提供されている例外クラスについて学ぶ。				
第20回	例外処理（2）： ユーザー定義例外について学ぶ。また、例外処理の実習を行う。				
第21回	パッケージ： クラスの整理整頓について学び、実習を行う。				
第22回	Javaの基本動作に関するクラス（1）： Objectクラス、Stringクラスなど、Javaの基本動作に関するクラスについて理解する。				
第23回	Javaの基本動作に関するクラス（2）： Objectクラス、Stringクラスなど、JavaAPIの代表的なクラスを活用して実習を行う。				
第24回	コレクションフレームワーク（1）： コレクションフレームワークについて理解する。				
第25回	コレクションフレームワーク（2）： コレクションフレームワークの実装クラスによる実習を行う。				
第26回	JavaとUMLの対応（1）： クラス図とJavaとの対応を学び、UMLに基づきプログラムを作成する。				
第27回	JavaとUMLの対応（2）： シーケンス図とJavaとの対応を学び、UMLに基づきプログラムを作成する。				
第28回	総合実習（1）： これまでに習得した技法またはマルチスレッドの利用する技法について紹介し、実習を行う。				
第29回	総合実習（2）： これまでに習得した技法またはマルチスレッドの利用する技法について紹介し、実習を行う。				
第30回	総括： 学んだ内容を総括し、総合解説を行う。				
成績評価の方法	・授業への取り組み態度・授業への貢献：40％ ・授業内外に行う例題や課題、小テストや小レポートなどの学習成果物の提出状況と出来映え：60％				
準備学修（予習・復習、課題等）	毎回配布する教材の復習および例題や実習で扱った内容について繰り返しプログラミングしてみるなど、毎回の授業につき、60分程度の授業外学習が必要である。 もし、授業中に行う例題や課題を完成できず、遅れてしまった場合は、自分で教材を見直して次の授業日の前日までに完成させておくこと。				
教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
指定なし					
参考書	『Effective Java 第3版』 Joshua Bloch（著）、柴田芳樹（翻訳） 参考書は購入の必要はない。 以下に登録情報を記載する。 出版社：丸善出版；第3版（2018/10/30） 言語：日本語 ISBN-10：4621303252 ISBN-13：978-4621303252				
備考	アクティブラーニング形式を用いた授業は、学習内容によって効果的な場合に実施しています（毎回の講義で行いません）。				
昨年度からの振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。				

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	1年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	オペレーティングシステム演習					授業形態	演習
授業コード	POS1320001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	韓 旭						
授業概要	情報システムの形成に必要なオペレーティングシステムの役割、基本的概念および実現方式を理解する。 実際にPC、Linuxを利用し、CUIでの操作を修得する。基本的な概念を説明した後、実機演習を通じて操作を学ぶ。具体的にはコマンドを用いた操作、OS操作や管理、簡単なプログラムを用いたプロセスの自動化を演習形式で行う。オペレーティングシステムの技術や知識の習得を通じて、コンピュータシステムの動作原理に対する理解を深める。						
授業の目的・到達目標	OSの構成要素とそれぞれの役割について説明できるようになる。 テキストエディタによるテキスト編集、コマンドラインによるOS操作、スクリプトによるプロセスの自動化を行えるようになる。 リモートサーバ上で簡単なWebページやWebアプリを作成できるようになる。 仮想環境（コンテナ型）を用いて、簡単なサーバの構築やIoTデバイスの作成ができるようになる。						
授業計画							
第1回	・オリエンテーション ・ソフトウェアの概要と種類 オペレーティングシステムの役割、構成、基本機能						
第2回	・OSのインタフェース ・PCの準備と基本操作 WindowsあるいはmacOSでコマンドラインインタフェースに触れる。						
第3回	・ファイルシステム 目的、種類と名前、構造と型、制御ブロック、ディレクトリ						
第4回	・コマンドによるファイル、ディレクトリの操作（1）ディレクトリ、ファイルの作成 Windows、あるいはmacOSでのファイル操作を理解する。						
第5回	・SSH（Secure Shell） SSH接続、秘密鍵の生成、演習用Linuxをリモートからログイン ・Linuxの紹介						
第6回	・コマンドによるファイル、ディレクトリの操作（2）ディレクトリ、ファイルの操作 1. Linuxのコマンドラインでのファイル操作を理解する。 2. パーミッションの概念を理解し、実際にファイル、ディレクトリを操作する。						
第7回	・テキストエディタの基礎：nano, viテキストエディタ						
第8回	・シェルとシェルスクリプト						
第9回	・テキストエディタ（2） 条件分岐、繰り返し、関数						
第10回	・ファイル管理用アプリの作成 ・プロセス管理とスケジューリング ・プロセスの確認、一時停止、再開、終了						
第11回	・演習用LinuxでWebページを作成する 1. SCPを用いたファイルのアップロードとダウンロード 2. 自己紹介用ページを作成する						
第12回	・CGI（Common Gateway Interface）とは ・Bash CGI 1. 動作確認 2. 簡単なCGIアプリを作成する 3. ログ管理およびソフトウェアのログの参照方法						
第13回	・Ruby CGI 1. 動作確認 2. 簡単なCGIアプリを作成する						
第14回	・仮想環境の構成 ・SSHサーバを立てる						

第15回	・ 組み込み機器用ソフトウェアとIoT			
成績評価の方法	・ 授業内演習（Linux）の各回テーマの完成状況：30％ ・ 課題の提出状況と、その内容の評価：70％			
準備学修（予習・復習、課題等）	予習（標準学習時間：90分） ・ Webサイト等を閲覧し、基本的な用語・概念について理解をしたうえで授業に臨むこと 復習（標準学習時間：90分） ・ 各授業で示したWebサイト、演習課題等について振り返り、着実に理解した上で次回の授業につなげる			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	参考文献： 『IT Text オペレーティングシステム 改訂2版』野口健一郎、オーム社、2018/01/24 『オペレーティングシステムの仕組み』河野健二（著）、朝倉書店、2019/12/25 『組込みエンジニアの教科書』渡辺登（著）、牧野進二（著）、C&R研究所、2020/2/25 『IoTの基本・仕組み・重要事項が全部わかる教科書』八子知礼（著）、杉山恒司（著）、竹之下航洋（著）、松浦真弓（著）、土本寛子（著）、SBクリエイティブ、2017/10/19			
備考	この講義ではOSとしてLinuxを例に、使い方を中心に学びます。 まずは知るところ、経験するところから始めましょう！			
昨年度からの振り返り				

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	ソフトウェア設計・構築					授業形態	演習
授業コード	SDD1310001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	桐谷 恵介						
授業概要	実用的なソフトウェア・システムやソフトウェア製品を開発するために必要となる開発プロセスや開発技術（分析、設計、検証）に関する基礎知識と実践的なプロジェクトマネジメント手法を学ぶ。また、ソフトウェア設計の代表的なモデリング手法であるUML（Unified Modeling Language）を演習形式で理解する。これらの学習を通じ、ソフトウェアの設計や構築の基本的な技能と知識を習得するとともに、自らがソフトウェアやそれを使用するサービスを設計する際に協同者に対し、仕様や要件を適切に依頼できるようになることを目指す。						
授業の目的・到達目標	(1) ソフトウェアの開発及びマネジメントのプロセスを理解し、活用することができる。 (2) ソフトウェアの分析、設計手法を理解し、実際の開発に応用することができる。 (3) ソフトウェアの特徴を理解し、様々な問題に対して適切に判断し、行動することができる。 (4) ソフトウェアの代表的な設計手法であるUMLの概要を理解する。 (5) ソフトウェア開発を取り巻く社会環境や今後の動向について説明することができる。						
授業計画							
第1回	ガイダンス 授業ガイダンス（シラバス記載事項の確認、実習環境の確認、グループ構成など）。 ITシステムの現状、失敗事例などの例示。						
第2回	ソフトウェア開発プロセス ソフトウェアのライフサイクルにおけるプロセスモデルを概観し、プロセス改善の意義と狙いについて。						
第3回	ソフトウェア設計手法とプロジェクトマネジメント 代表的な設計手法を取り上げ、比較検討する。さらにプロジェクトマネジメントに必要なプロセスを概観し、プロジェクトの立上げから終結まで、どのような流れでプロジェクトが進むのかについて。						
第4回	ソフトウェアテストとソフトウェア品質 ソフトウェア開発におけるテストの位置付け、テストの種類、テスト技法について。ソフトウェアの品質の全体像を理解し、要求される品質を満たすための活動について。						
第5回	オブジェクト指向技術 再利用性、保守性に着目して、オブジェクト指向技術を理解する。						
第6回	UML（Unified Modeling Language）概説1 オブジェクト指向技術において、よく使用される代表的なダイアグラムの書き方について。						
第7回	UML（Unified Modeling Language）概説2 オブジェクト指向技術において、よく使用される代表的なダイアグラムの書き方について。						
第8回	UML（Unified Modeling Language）概説3 オブジェクト指向技術において、よく使用される代表的なダイアグラムの書き方について。						
第9回	グループ演習1 分析・設計モデリング：与えられたシステムを3つの視点（機能、構造、振る舞い）で整理し、UMLの図を使って表現する。課題設定と要求分析。						
第10回	グループ演習2 分析・設計モデリング：前回の続き。ユースケース設定。						
第11回	グループ演習3 分析・設計モデリング：前回の続き。クラス図、アクティビティ図、ユースケース図の作成。						
第12回	グループ演習4 分析・設計モデリング：前回の続き。シーケンス図、オブジェクト図、その他UML図の作成。						
第13回	グループ演習5 分析・設計モデリング：前回の続き。グループ内ディスカッション。						
第14回	グループ演習6 演習レポート提出 分析・設計モデリング（発表） 分析モデリングの結果をグループ毎に発表し、全員で意見交換。						

第15回	授業まとめ			
成績評価の方法	・ 演習結果のレポート：40％ ・ 演習発表内容：20％ ・ 授業での参加姿勢：20％ ・ 授業中ワーク結果：20％ を考慮し判断する。			
準備学修（予習・復習、課題等）	継続した演習を行うことから次回に備えて復習をしておくこと（各回180分程度）。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書				
備考				
昨年度からの振り返り	授業の進みが早いとの意見を受け、進め方を見直します。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	データベース					授業形態	演習
授業コード	DBM1340001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	片桐 雅二						
授業概要	<p>ソフトウェアシステムを構築する上で欠かせないデータベースについて講義と実習を組み合わせる形で学修する。データベースに関する一通りの知識を講義により学ぶとともに、実習により基本的な操作および設計を体験し知識を活用する実践力を体得する。</p> <p>データベースの基本について、仕組み・構成要素・基本的機能から、トランザクション処理・同時実行制御、障害復旧、設計の仕方などを知識として講義形式にて学ぶとともに、知識を実践し理解を深めるために、SQL問い合わせ、トランザクション処理・同時実行制御、設計・正規化などについての実習を行う。</p> <p>また、NoSQLなどの最近のデータベースおよび将来に向けたデータベースの重要性について学ぶ。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>データベースの原理・考え方や基本構造について理解し、説明できるようになる。</p> <p>SQLを用いたデータベースの基本的な操作方法を習得し、使うことができるようになる。</p> <p>小規模な関係データベースを設計構築する基礎的な能力を体験的に獲得する。</p>						
授業計画							
第1回	データベースとは（1） コースのイントロダクション。データベースシステムとはどのようなものか、日頃利用している実例などにより理解する。また歴史的な発展を知り、その位置付けについて学ぶ。						
第2回	データベースとは（2） データベースとは何かを理解するために、DBMS、データモデル、SQLなどの概要を学ぶ。						
第3回	SQL問い合わせ（1） SQL言語を用いてデータベースを操作する方法の基本（SELECT、FROM、*、AS、DISTINCT、WHERE）について学び、簡単なSQL問い合わせの実行を体験する。						
第4回	SQL問い合わせ（2） SQL言語を用いてデータベースを操作する方法の基本（算術式、集約関数、GROUP BY、HAVING、ORDER BY）について学び、簡単なSQL問い合わせの実行を体験する。 リレーショナルデータモデルにおいてデータ操作を行うための基本となる関係代数（射影・選択・和・差・共通）について、その概要とSQLにおける利用法を理解する。						
第5回	SQL問い合わせ（3） リレーショナルデータモデルにおいてデータ操作を行うための基本となる関係代数（結合・直積・商）について、その概要とSQLにおける利用法を理解する。						
第6回	SQL問い合わせ（4） SQL言語を用いてデータベースを操作する実習を行う。						
第7回	データベースの基本要素 データベースの構成要素と基本的機能を学ぶ。データベースにおける三層スキーマとは何かを理解する。データの一貫性の維持や安全性（セキュリティ）の確保の必要性を理解し、それらを実現する仕組みの概要を学ぶ。						
第8回	データの一貫性（1） トランザクション処理とは何か、同時実行制御とは何かを理解する。それぞれを実現するために用いられる基本的な仕組みについて概要を理解する。						
第9回	データの一貫性（2） トランザクション処理および同時実行制御について、その動作を確認する実習を行う。						
第10回	障害対策 実際のデータベースの運用において重要となる、障害対策の基本について学ぶ。想定される障害の種類や、対策として用いられている代表的な方策について、その概要を理解する。						
第11回	設計・正規化（1） データベースの設計とは、どのようなものかを学ぶ。概念スキーマの設計、および論理スキーマの設計について概要および基本的な手順を理解する。						
第12回	設計・正規化（2） 概念スキーマ設計としてE-R図を用いた設計、論理スキーマ設計としてリレーションへの変換の実習を行う。（机上演習）						

第13回	設計・正規化（3） 論理スキーマ設計として正規化の実習を行う。（机上演習）			
第14回	データベース応用（1） NoSQLと呼ばれ近年注目を集めている新しいタイプのデータベースについて、その概要と特徴を理解する。			
第15回	データベース応用（2） 様々な分野で用いられているデータベースについて特徴的なものを理解し、今後どのような応用の発展が考えられるかをその重要性とともに学ぶ。			
成績評価の方法	実習レポートの内容（15％×3）、問題演習の内容（15％×3）、受講態度等（10％）により評価する。			
準備学修（予習・復習、課題等）	授業範囲について教科書および講義前日より閲覧可能となる授業資料（PDFファイル）により（必要に応じて参考書等も活用して）予習することが望ましい（60分／回） 講義の内容について、復習によって自分なりに消化することが大切である。特にSQLによる操作を伴うものについては、指定された内容を盲目的に実行するだけでなく、自ら意図を持ってSQL文を作成し実行しその結果が意図通りとなっていたかを確認することで、その理解が深まるとともにスキルを修得することができる（90分／回） 項目毎に、演習問題または実習結果に基づいたレポート課題を設定する（60－120分×7回）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
データベース―基礎からネット社会での応用まで―	三木光範・田中美里	共立出版	978-4-320-12406-6	情報工学テキストシリーズ ※ 電子書籍可
参考書	「SQL第2版ゼロからはじめるデータベース操作」、ミック（著）、翔泳社、2016 「基本がわかるSQL入門」、西村（著）、技術評論社、2020 「おうちで学べるデータベースのきほん」、ミック・木村（著）、翔泳社、2015 「SQLデータ分析・活用入門」、西（著）、ソシム、2019			
備考	＊本科目は、ICT関連の研究職としての実務経験のある教員による授業科目です。			
昨年度からの振り返り	昨年度からの改善点：講義形式の説明パートをより探求的な内容とすることで、より主体的な授業参加を促す。実習取組み中の指導や支援の方法を工夫することで、履修者のエンゲージメントを高める。レポートについてはタイムリーに返却するよう努める。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	モバイルサービス概論					授業形態	講義
授業コード	MSD1350001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	藤田 和久						
授業概要	ICTとは、“Information Communications Technology”の略で、情報通信技術全般を指すものであり、人と人だけでなく、“人”と“モノ”を繋げる（コミュニケーションする）様々なサービスに関与している。本講義では、社会生活で情報をやり取りする際に不可欠なツールとなった“ケータイ”に着目し、人とモノを繋げているモバイルサービスを実現するために使われているICTのコア技術を俯瞰する。そして、サービスシステムを実現するために、これらのコア技術がなぜ使われているのかを“アプリケーションの利用環境条件”や“サービス提供の制約条件”の観点から技術を考察することで、各技術の特性の違いを定性的に理解する。						
授業の目的・到達目標	この授業では、技術だけでなく、ビジネス、UXデザイン、セキュリティ、倫理的課題など、多角的な視点からモバイルサービスを学ぶことで、ICTが人とモノをつなぐ基盤としてどのように機能しているのかを理解する。また、モバイルサービスが提供される環境や制約条件を踏まえ、ICT技術の選択理由を分析し、実社会におけるモバイルサービスの応用可能性について自分なりの見解を持ち、論理的に説明できる力を養う。さらに、最新のモバイル技術動向を調査し、その発展を予測するとともに、新たなモバイルサービスの活用方法を提案できる能力を身につける。						
授業計画							
第1回	「モバイルサービスの進化と提供者」 モバイル通信サービスやデバイスの進化の歴史を振り返り、技術の発展が社会に与えた影響を理解する。また、モバイルサービスに関わる主要な提供者の役割とビジネスモデルについて学ぶ。						
第2回	「モバイルデバイスと通信技術の基礎」 モバイルデバイスの特徴と、無線通信技術の基本を理解する。さらに、それぞれの通信技術が持つ特性や、適用されるシーンについて考察する。						
第3回	「インターネットとモバイルネットワーク」 ARPAnetから始まるインターネットの進化とその仕組み、TCP/IP、DNS、ストリーミング、メール、Webなどの基本構造について理解し、モバイルコアネットワークの構成と5G以降のアーキテクチャについて学ぶ。						
第4回	「モバイルプラットフォームの理解」 iOSおよびAndroidを中心とするモバイルプラットフォームの歴史、開発環境、アプリ配布の流れに加え、TizenやKaiOSなどの他OSやサードパーティストアについて学び、プラットフォームごとの制約や開発のポイントを理解する。						
第5回	「モバイルUX/UIデザインとユーザビリティ」 モバイルアプリのUXとUIデザインの基本を学び、モバイル特有のユーザビリティ評価基準やアクセシビリティの重要性について理解する。さらに、レスポンスデザインやマテリアルデザインなど、主要なデザイン手法についても理解を深める。						
第6回	「モバイルアプリ開発の実践」 ネイティブアプリ、ハイブリッドアプリ、PWAなどの開発手法を比較し、それぞれのメリット・デメリットを理解する。また、モバイルアプリの開発プロセスを学び、最新の開発ツールやフレームワークについても紹介する。						
第7回	「クラウド時代のモバイルサービスアーキテクチャ」 クラウド時代におけるモバイルサービスのアーキテクチャとして、クライアント・サーバー構成、API連携、分散処理、サーバーレスやエッジ処理の概念と実装例を学ぶ。						
第8回	「モバイルサービスのビジネスモデル/モバイルサービスとデータ分析」 広告・課金・サブスクなどアプリの収益化モデルを比較し、モバイルコマース（D2C、ライブ、AR/VR）、O2O戦略、モバイルマーケティング手法の全体像を理解する。 またKPI指標とファネル分析、位置情報や行動データの活用、AIによるパーソナライゼーション、プライバシー配慮設計まで、データドリブンなモバイル運営の実践を学ぶ。						
第9回	「モバイル決済とフィンテック」 QRコードやNFCなどのモバイル決済技術、世界各国のキャッシュレス事情、フィンテックやブロックチェーン、暗号資産といった金融領域の変革について多角的に考察する。						
第10回	「位置情報サービスとIoTセンサー連携」 GPSやWi-Fi測位、ビーコンなどの位置情報技術の仕組みを学び、モバイルサービスでの活用例を考察する。また、IoTデバイスとモバイルの連携によるスマートホーム、スマートヘルスケアなどのユースケースについても理解を深める。						
第11回	「モバイルゲーム産業」 モバイルゲーム市場の規模、収益モデルを学ぶとともに、主要KPIとレベルデザインの関係を理解する。またメタバースやeスポーツなど、モバイルゲームの未来について考察する。						
第12回	「メディアプレイヤーとしてのモバイルデバイス」 モバイル端末がニュース・音楽・動画・書籍といった各メディアにもたらした変化とCGM（ユーザー生成メディア）の発展を通して、新たな視聴体験と倫理的課題を考察する。						

第13回	「モバイルサービスとAI・IoT の融合」 AIの基礎からエッジAI、AIアシスタント、ウェアラブル、IoT連携によるスマートサービス、さらにはAGI/ASIといった未来の知能がもたらすモバイルサービス像を考える。			
第14回	「モバイルサービスにおけるセキュリティ、プライバシー、規制と倫理」 マルウェアやフィッシング詐欺などセキュリティ上の脅威、プライバシーと法的規制、開発者倫理やデジタルウェルビーイングの観点から、モバイル社会の健全なあり方を考える。			
第15回	「次世代モバイルサービスの展望」 MNO各社が推進する次世代モバイルサービスの動向を学び、6Gや量子コンピューティングなどの新技術がもたらす影響を理解する。最終的にモバイルサービスの未来について考察する。			
成績評価の方法	・各回に出題するミニレポート：3％×15回＝45％ ・期末レポート：45％ ・授業への取組状況（質問や意見など積極的な参加姿勢）：10％			
準備学修（予習・復習、課題等）	予習：各回のテーマについて事前に調査・考察し、疑問点を整理しておく。 復習：各回に出題されたテーマに沿ってミニレポートをまとめる。 （各回予習30分・復習150分程度）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書				
備考	・テキストは、PDFで配布します。 ・担当教員とのコミュニケーションツールは、Google Classroomを利用します。			
昨年度からの振り返り				

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	情報技術演習Ⅰ					授業形態	演習
授業コード	IT11310001	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Kamya Yekeh Yazdandoost						
授業概要	ユーザアプリケーションからサーバシステムまでを対象とした情報ネットワークシステムの全体アーキテクチャを理解し、演習による基本動作検証の体験を通じて、より実践的なスキルを習得する。また、与えられた情報ネットワークシステムの例題に対して、ユーザインタフェース設計書を作成し、デザインレビュー、基本動作検証、関係データベースの構築、プロジェクト管理までの演習を行う。						
授業の目的・到達目標	・情報ネットワークアーキテクチャの全体像の理解と、演習による実際の動作実証。 ・ユーザインタフェース設計書の作成方法の理解と、デザインレビューの演習。 ・与えられた要求条件を元にした、ソフトウェア設計スキルや関係データベースの設計構築スキルなどを演習を交えて習得する。 ・データベース連携技術を理解し、実際の動作検証手法について基本的な内容を身に付ける。						
授業計画							
第1回	授業の概要と目的、演習の進め方についての説明。 アカウント作成と基本操作確認（1）。						
第2回	アカウント作成と基本操作確認（2）。						
第3回	インスタンス作成と動作確認（1）。						
第4回	インスタンス作成と動作確認（2）。						
第5回	データベース構築と動作確認（1）。						
第6回	データベース構築と動作確認（2）。						
第7回	インスタンスとデータベースの連携動作確認（1）。						
第8回	インスタンスとデータベースの連携動作確認（2）。						
第9回	プロジェクト管理ツール、その他ICTツール等の動作確認。						
第10回	プロジェクト計画の策定。						
第11回	プロジェクト計画の実施と動作確認（1）。						
第12回	プロジェクト計画の実施と動作確認（2）。						
第13回	プロジェクト計画動作結果のとりまとめ（1）。						
第14回	プロジェクト計画動作結果のとりまとめ（2）。						
第15回	まとめと振り返り。						
成績評価の方法	・授業でのディスカッションへの参加。 ・プロジェクトグループ活動と個人活動。 ・前半及び後半で設定されるレポートとプレゼンテーションの提出状況とその内容（100％）。						
準備学修（予習・復習、課題等）	各授業で示した参考文献について振り返り、着実に理解した上で次回の授業につなげる。 基本的な用語・概念について理解をしたうえで授業に臨むこと。 （あわせて各回180分）						
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	備考
指定なし							
参考書	適宜、参考となる文献や等を指示する。						
備考							
昨年度からの振り返り							

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	3年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	情報技術演習Ⅱ					授業形態	演習
授業コード	IT21310001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Kamya Yekeh Yazdandoost						
授業概要	少人数グループ毎に、実際の社会課題及びサービス事例の調査を行い、新たなサービス事例の企画立案、検討を行う。検討結果から、ユースケースの議論及び、要求条件の明確化を行い、業務フローや機能一覧、ネットワーク構成等の基本設計と、機能設計やデータベース設計等の詳細設計を作成する。ユーザアプリケーション及びサーバアプリケーションを実際に構築し、情報ネットワーク統合システムの基本的な動作検証までの演習を行う。グループ毎に動作検証結果の中間報告を行い、改善点について議論し、基本設計・詳細設計の改訂を行う。最終的に得られたサービスの検証を行い、グループ毎に最終報告を行い、演習全体を総括する。						
授業の目的・到達目標	社会課題を解決するためのサービス検討、ユースケース及び要求条件検討を通じた、情報ネットワークアーキテクチャの全体像の実践的な理解と、演習による実際の動作実証。サービス導入までのプロジェクト管理と進捗確認によるフィードバックを演習することによる、実践的なプロジェクトマネジメントスキルの習得。						
授業計画							
第1回	授業の概要と目的、演習の進め方、動作検証環境についての説明, グループとグループプロジェクトの作成 (1)。						
第2回	グループとグループプロジェクトの作成 (2)。						
第3回	検証用アカウント作成と基本動作確認, 実際の社会課題、サービス事例の調査(1)。						
第4回	実際の社会課題、サービス事例の調査(2)。						
第5回	プロジェクト計画の策定 (1)。						
第6回	プロジェクト計画の策定 (2)。						
第7回	プロジェクト計画についての、中間発表会を実施する。						
第8回	プロジェクト修正計画の策定。						
第9回	プロジェクト計画の実施と動作確認 (1)。						
第10回	プロジェクト計画の実施と動作確認 (2)。						
第11回	プロジェクト計画動作結果のとりまとめと資料作成 (1)。						
第12回	プロジェクト計画動作結果のとりまとめと資料作成 (2)。						
第13回	プロジェクト計画動作結果のとりまとめと資料作成 (3) 評価結果についての発表会を実施する。						
第14回	プロジェクト計画動作結果のとりまとめと資料作成 (4) 評価結果についての発表会を実施する。						
第15回	まとめと振り返り。						
成績評価の方法	授業でのディスカッションへの参加。 プロジェクトグループ活動と個人活動。 前半及び後半で設定されるレポートとプレゼンテーションの提出状況とその内容 (100%)。						
準備学修 (予習・復習、課題等)	授業で配布された講義ノートおよび参考文献、Webサイト等について振り返り、着実に理解した上で次回の授業につなげる。(各回180分程度)						
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	備考
指定なし							
参考書	適宜、参考となる文献や等を指示する。						
備考							
昨年度からの振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。						

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	3年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	ソフトウェアプロセスと品質					授業形態	講義
授業コード	PQS1310001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	中田 豊久						
授業概要	ソフトウェアのもつ独特の性質、ソフトウェア開発のライフサイクルモデル、品質の概念についてソフトウェア工学、および、ソフトウェア開発の発展の歴史を通して学ぶ。歴史や概念をはっきりと定義した上で、ソフトウェア品質に関する現行規格に対して理解を深め、プログラムの構造設計・開発工程において、プログラムの品質を確保するためのレビュー技術とテスト技術の基本的な技術を学習する。						
授業の目的・到達目標	ソフトウェアのもつ独特の性質に着目し、それを作るプロセスや手法を学ぶ。さらには、ソフトウェア品質に対する変遷を学び、高品質なソフトウェアを開発するための考え方を説明できるようになり、各種技法を使えるようになる。						
授業計画							
第1回	ソフトウェアの品質管理： ソフトウェアの品質問題とその影響について学ぶ。						
第2回	ソフトウェアの品質： ソフトウェアの品質に対する考え方の変遷を概説する。また、ISO／IEC25010システム・ソフトウェアの品質を参照しながら、ソフトウェア品質を理解する。						
第3回	ソフトウェアの開発工程と品質管理： ソフトウェア開発工程と個々の工程での品質向上について理解する。						
第4回	レビュー技術（1）： プログラム開発におけるレビューの役割および分類について理解する。						
第5回	レビュー技術（2）： レビューの計画、準備、実施について理解する。						
第6回	レビュー技術（3）： 例題をもとにレビュー演習を行う。						
第7回	テスト技術： ソフトウェア開発におけるテストの目的、テストの種類、テストのタイプについて学ぶ。						
第8回	構造ベース技法： 構造ベース技法（ホワイトボックス）を学び、制御パステストの演習を行う。						
第9回	仕様ベース技法（1）： 仕様ベース技法（ブラックボックス）について学び、仕様ベース技法のメリット・デメリットを理解する。						
第10回	仕様ベース技法（2）： 同値分割・境界値分析について学び、演習を行う。						
第11回	仕様ベース技法（3）： デシジョンテーブル・状態遷移テストについて学び、演習を行う。						
第12回	プログラム開発におけるテスト作業： プログラム開発におけるテストの計画、準備、実施について学ぶ。						
第13回	プログラムの品質評価： プログラムの品質評価について学び、評価の手順と観点を理解する。						
第14回	品質データの分析： P-B曲線、また、QCの手法を説明する。レビューおよびテストの結果の分析について理解する。						
第15回	評価結果に対する処置： テスト結果の合格基準や作業改善について学ぶ。						
成績評価の方法	授業への取り組み態度（20％）、授業中に行う小テスト（30％）、課題・レポート（50％）として評価する。						
準備学修（予習・復習、課題等）	継続した演習を実施できるように復習および次回に備えて予習をしておくこと（各回予習90分、復習90分）。						

教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
指定なし					
参考書	『テスト駆動Python 第2版』 Brian Okken（著）、翔泳社、ISBN-10：4798177458 『ソフトウェア品質知識体系ガイドーSQuBOK Guide』 SQuBOK策定部会編、オーム社、2007、ISBN-13：978-4-274-50162-3 ISO/IEC25010:2011- Systems and software engineering Systems and Software Quality Requirements and Evaluation(SQuaRE) - System and Software Quality Models.				
備考	毎回の授業でノートパソコンを持参すること。				
昨年度からの振り返り					

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	3年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	モデル化と要求開発					授業形態	講義
授業コード	MRD1320001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	中田 豊久						
授業概要	要求開発とは、顧客の「要求」を「開発」することを意味する。ソフトウェアシステム開発は、顧客の要求をインプットとしてソフトウェアをアウトプットするプロセスと理解できるが、初期のインプットが誤っていると顧客の満足は得られない。 要求開発のプロセスは、要求獲得、要求記述、要求検証、要求管理から構成される。本講義では、要求定義のプロセスを理解するとともに、要求獲得、要求記述、要求検証を対象とし、ステークホルダの特定に始まり、構造化分析およびモデリング手法を用いた要求仕様化の方法と手法を学ぶ。						
授業の目的・到達目標	ガイダンスとソフトウェア開発の基礎概念 授業の目的と進め方を説明するとともに、心理的安全性を重視した学習環境について理解する。ソフトウェア開発における基本的な考え方や学習の進め方を確認する。また、ScratchやPythonに関する簡単なクイズを通して、受講者の基礎知識を把握する。						
授業計画							
第1回	ガイダンスと学習環境の確認 授業の目的と進め方を説明するとともに、心理的安全性を重視した学習環境について理解する。授業内のルールや学習方法について確認する。また、ScratchやPythonに関する簡単なクイズを通して、受講者の基礎知識を把握する。						
第2回	システム構造のモデル化（三層アーキテクチャ） Webシステムの基本構造として三層アーキテクチャを取り上げる。プレゼンテーション層、アプリケーション層、データ層の役割を理解する。システムの構造をモデルとして捉える視点を学ぶ。						
第3回	システム構造モデルの理解 三層アーキテクチャの構造を具体的な例を通して整理する。各層の役割と相互関係について分析する。システムの構造をモデルとして表現する考え方を身につける。						
第4回	アプリケーション構造のモデル化（MVCモデル） Webアプリケーション設計におけるMVCモデルについて学ぶ。Pythonの簡単なプログラムを題材として、モデル・ビュー・コントローラの役割を理解する。サーバを含むアプリケーション構造の基本を整理する。						
第5回	要求分析と要求定義の基礎 ソフトウェア開発における要求分析と要求定義の基本的な考え方を学ぶ。利用者の要求を整理し、システムとして実現するための視点を理解する。簡単な例題を通して、要求を整理する方法を体験する。						
第6回	プログラムによる処理のモデル化（Python基礎） Pythonプログラミングの基礎として、変数やリストの基本的な使い方を学ぶ。プログラムによってデータや処理をどのように表現するかを理解する。簡単な演習を通して基本的な文法に慣れる。						
第7回	処理構造のモデル化（条件分岐） Scratchを用いたプログラミング演習を行う。条件分岐やイベント処理を通して、処理の流れをモデルとして考える。視覚的なプログラミングにより基本的な制御構造を理解する。						
第8回	モデル化の実践（Scratch自由課題） Scratchを用いた自由課題に取り組む。これまでに学んだ制御構造を活用し、簡単なプログラムを設計・作成する。問題をどのようにモデル化するかを考えながら開発を行う。						
第9回	処理構造のモデル化（繰り返し処理） Scratchを用いた繰り返し処理の演習を行う。ループ構造の基本的な考え方を理解する。処理の流れを整理し、プログラムとして表現する方法を学ぶ。						
第10回	ソフトウェア設計とモデル化の体験 簡単なシステムを題材として、機能や構造をどのように設計するかを考える。要求をもとにシステムの構造を整理する活動を行う。モデル化を通して設計の考え方を体験的に理解する。						
第11回	Webシステムの処理モデル（JavaScript演習） JavaScriptを用いたWebプログラミング演習を行う。Webシステム演習の課題（kadai_javascript01、kadai_javascript02）に取り組む。ブラウザ上で動作する処理の構造を理解する。						
第12回	生成AIとプログラム生成 生成AIを活用したプログラム作成の方法を学ぶ。適切な指示を与えることでJavaScriptのプログラムを作成する演習を行う。AIを利用したソフトウェア開発の可能性について考える。						
第13回	アルゴリズムのモデル化（迷路問題） 迷路プログラミング課題に取り組む。問題解決の手順をアルゴリズムとして整理し、プログラムとして表現する。試行錯誤を通してプログラムを改善する。						

第14回	最終レポート作成（要求とモデルの整理） 最終レポートの作成を行う。授業で学んだモデル化や要求定義の考え方を振り返る。学習内容や演習課題を整理し、レポートとしてまとめる。			
第15回	最終レポート作成と総括 レポートの完成および提出を行う。授業全体を振り返り、モデル化や要求定義の考え方を整理する。ソフトウェア開発の基本的な視点についてまとめるを行う。			
成績評価の方法	授業中に行う課題（50％）、最終課題・レポート（50％）として評価する。			
準備学修（予習・復習、課題等）	継続した演習を実施できるように復習および次回に備えて予習をしておくこと（各回予習90分、復習90分）。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	『IT Text 情報システムの分析と設計』伊藤潔 他（著）、オーム社、ISBN-10：4274228177 『Software Engineering 10th ed.』Ian Sommerville、Pearson、2015、ISBN-10：0133943038 ISO／IEC25010:2011- Systems and software engineering Systems and Software Quality Requirements and Evaluation(SQuaRE) - System and Software Quality Models IEEE, Recommended Practice for Software Requirements Specifications. Std 830-1998, 1998.			
備考	毎回の授業でノートパソコンを持参すること。			
昨年度からの振り返り				

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	システムインテグレーション					授業形態	演習
授業コード	SIT1310001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	煤田 弘法						
授業概要	<p>情報システムを構築するサービス（SI）において、ITコンサルティングから要件定義、設計、開発、保守運用に至る一連の流れを理解するとともに、失敗事例やリスク事例を学ぶことで、情報システムを通じてビジネスに貢献することを目指す。前半では、過去の失敗例や大規模障害事例を通じ、成功のために何を注意すべきかを「失敗学」の視点から学ぶ。特に2026年時点での新たな脅威であるサイバー攻撃や、AI・クラウドネイティブ環境におけるレジリエンス（回復力）確保の重要性について学習する。また、ビジネスモデルの変革に影響を与えた事例を通じて、ITが社会に与える影響を考察する。後半では、ビジネスに役立つITシステムを導入するために発注者側と受注者側が何をすべきか、実務的なプロジェクトマネジメント体系を用いて理解する。RFP（提案依頼書）および提案書の作成演習を通じ、企画から実行までを成功に導く具体的な手法を習得する。発注者・受注者双方がメリットを享受し、事業価値を最大化できる次世代のSIエンジニアを育成する。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>情報技術分野におけるシステムインテグレーション（SI）を「異なるコンピューティングシステムとソフトウェアアプリケーションを物理的または機能的に接続し、1つの連携したシステムとして振る舞わせるプロセス」と定義した上で、現代の複雑化したプロジェクトを成功に導くための以下の能力習得を目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスク分析と回避能力：情報システムの開発・構築におけるリスクやプロジェクトの失敗例を分析し、成功に必要な検討項目を構造化して理解する。 ・上流工程の実践スキル：問題の洗い出しから課題のまとめ、施策の立案方法、およびシステム構想から運用保守に至るライフサイクル全体を理解する。 ・実務ドキュメンテーション能力：発注者の立場に必要な要求仕様書（RFP）の作成、および受注者の立場に必要な論理的かつ戦略的な提案書の作成手法を習得する。 ・最新技術の戦略的活用：事業価値を高めるためのIT活用方法を理解する。特に、生成AIやIoT技術を単なるツールとしてではなく、ビジネス変革の原動力としてどのように取り入れていくかを判断できる能力を養う。 ・合意形成とコミュニケーション：発注者と受注者の双方にメリットを生み出すための、対話と合意形成のプロセスを理解する。 						
授業計画							
第1回	<p>■ガイダンス 現代のSIとプロジェクトマネジメント、2026年のSI定義と全体像を把握する。</p>						
第2回	<p>■要件分析入門 要求から要件への変換、クラウドなどを活用時のデータ要件と非機能要件を学ぶ。</p>						
第3回	<p>■システム構想策定プロセス 超上流工程の意義、成果物例、技術進歩を織り込んだロードマップ。</p>						
第4回	<p>■要件定義の重要性 開発失敗のメカニズムと、2026年における認識齟齬の回避策。</p>						
第5回	<p>■情報システムの失敗（1） システム開発失敗、セキュリティ、システムダウンの三大リスク。</p>						
第6回	<p>■情報システムの失敗（2） 機能要件の欠落が招く法的・経営的リスクの深掘り。</p>						
第7回	<p>■非機能要件から見るリスク管理 SREの視点、サイバーレジリエンス、事業継続計画。</p>						
第8回	<p>■新たな脅威「セキュリティ視点」の対策 ゼロトラストやAI特有のセキュリティ被害を想定。</p>						
第9回	<p>■ビジネスモデル変革とシステム事例 社会やビジネスを変えたIT技術の最新事例分析。</p>						
第10回	<p>■まとめ①（レポート作成演習） 失敗事例の構造分析と、現代技術による対策の論述について、レポートを作成し提出する。</p>						
第11回	<p>■要求定義（RFP）の作り方 業務要件のまとめ方と、ベンダーに「勝たせる」RFPの書き方。</p>						
第12回	<p>■発注側の要求定義（RFP）作成（演習） 仮想プロジェクト題材を用いたRFP作成ワーク。</p>						
第13回	<p>■提案書の作り方 要求定義を受け、戦略的かつ論理的な構成・ドキュメント形式を学ぶ。</p>						

第14回	■提案書作成の実務（演習） 具体的なRFPサンプルに基づき、実現可能な提案書を立案する。				
第15回	■まとめ②（プレゼン・講評） RFPおよび提案書の発表、実務家視点による相互フィードバックを行う。				
成績評価の方法	・まとめ①及び②での課題、レポート：70％（まとめ①：30％、まとめ②：40％） ・毎回の講義時に提出する授業内容確認小レポート：30％				
準備学修（予習・復習、課題等）	予習：次回の授業内容に関する事例を参考資料などを利用して事前に調査する。（各回90分） 復習：授業内で完了しなかった課題について、次回発表できるように準備する。（各回90分）				
教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
指定なし					
参考書	『図解即戦力 システム開発の工程とマネジメントがこれ1冊でしっかりわかる教科書』 石黒直樹（著）、技術評論社、2025年 『動かないコンピュータ～情報システムに見る失敗の研究～』 日経BP 『システムを作らせる技術』 白川克（著）、瀧本佳史（著）、日本経済新聞出版、2021年 『プロジェクトのトラブル解決大全』 木部智之（著）、KADOKAWA、2022年 『RFP&提案書 完全マニュアル 改訂版』 永井昭弘（著）、日経BP、2016年				
備考					
昨年度からの振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。				

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	クラウド					授業形態	演習
授業コード	CLS1350001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Kamya Yekeh Yazdandoost						
授業概要	近年のシステム開発の現場では、一般にクラウド技術が利用されるようになってきた。本科目では、クラウドに関する基本的な知識を修得する。また、大手クラウドサービス事業者のサービスを実際に利用・操作して、その基本スキルを学び、システムの実装を行う。具体的には、クラウドの分類、ネットワーク構成、クラウドサーバー・ストレージ・データベースの管理や運用、セキュリティ、負荷分散技術などについて、各テーマごとに知識の習得と演習を行い、スキルを習得する。あわせて、発展・機能追加の早い分野であることから、新たな技術動向についても適宜解説し、クラウド上で実現されている機能の利用やクラウドの果たす役割や可能性について考え、実装できるようになる。						
授業の目的・到達目標	クラウドコンピューティングの概論とビジネスにおける活用方法を学ぶ。非エンジニアとして、エンジニアとシステム開発のディスカッションができる水準を目標とする。						
授業計画							
第1回	紹介、授業ガイダンス。 クラウドコンピューティングとは何か。						
第2回	ビジネスから見るクラウドコンピューティング（1）。						
第3回	ビジネスから見るクラウドコンピューティング（2）。						
第4回	大手クラウドサービスについて。 クラウドサーバーとストレージ。						
第5回	クラウドコンピューティング実践（1）。						
第6回	クラウドコンピューティング実践（2）。						
第7回	データベースとビジネスの歴史。						
第8回	クラウドコンピューティング実践 DB。						
第9回	データベース構築概論と活用事例。						
第10回	クラウドコンピューティング実践（3）。						
第11回	分散化技術概論－ブロックチェーンの基礎と活用事例。						
第12回	クラウドコンピューティング技術動向。						
第13回	日本企業とクラウドコンピューティング。						
第14回	クラウドコンピューティング実践（4）。						
第15回	まとめと振り返り。						
成績評価の方法	授業でのディスカッションやアクティビティへの参加、必要な課題の提出（20％＋30％＝50％）、最終レポート（50％）。						
準備学修（予習・復習、課題等）	講義後は扱った内容について復習するとともに、簡易レポートに取り組むこと。（各回180分）						
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	備考
指定なし							
参考書	特に設定しない。						
備考							
昨年度からの振り返り							

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	ビッグデータ					授業形態	演習
授業コード	BDP1350001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	梶田 尚亨						
授業概要	近年、コンピュータ、センサー、機器類が生成するデータの種類、量が爆発的に増大しており、今までのデータ管理ツールでは取り扱うことが困難な規模のデータ（ビッグデータ）になっている。こうしたビッグデータに潜む解析対象（人の行動、環境、社会現象）の傾向や異種データ間の関係性を洗い出すことにより、従来では発見できなかった知見を見出し、新たな学問領域やビジネスを開拓できる可能性がある。本科目では、このようなビッグデータ解析に関する基本的な知識や解析技術等を修得する。ビッグデータには、ICカードやGPSデータなどのような数値データ、SNSなどからの言語データに大別されるので、それぞれについてその処理技術を学ぶ。						
授業の目的・到達目標	[授業の目的] ・ビッグデータ解析の一連の処理、データ収集→解析・可視化→結果の解釈における基本的なデータの取り扱い方法や解析手法・手順を理解する。 ・ビッグデータ解析特有の問題点や、これを解決する方法・技術などについて理解する。 ・様々な分野の多種多様なデータを適切に取り扱う方法を習得する。 [到達目標] ・ビッグデータ解析を可能にするための解析環境を構築できるようになる。 ・適切な解析技術の適用方法を選択し、的確に結果の吟味ができるようになる。 ・新しい知見を発見ができるようになる。						
授業計画							
第1回	オリエンテーション 講義の進め方など						
第2回	テキストビッグデータとは 文字コード、コーパス						
第3回	テキストビッグデータの解析 形態素解析						
第4回	テキストビッグデータの解析 構文解析						
第5回	テキストビッグデータの解析 Rによるテキスト解析						
第6回	テキストビッグデータの解析 テキスト分類、重要文抽出、tfidfなど						
第7回	テキストビッグデータの解析 テキストマイニングの事例紹介。データジャーナリズム、評判分析など						
第8回	テキストビッグデータのまとめ 各自、課題発表						
第9回	構造化ビッグデータの解析 世の中の課題と構造化ビッグデータ、データ分析環境構築						
第10回	構造化ビッグデータの解析 データ入出力、基本統計量と求め方、データの可視化						
第11回	構造化ビッグデータの解析 2変数間の特徴を捉える。相関分析など。						
第12回	構造化ビッグデータの解析 線形回帰分析。単回帰分析、重回帰分析。						
第13回	構造化ビッグデータの解析 主成分分析						
第14回	構造化ビッグデータの解析 因子分析						
第15回	構造化ビッグデータの解析のまとめ 各自、最終発表						

成績評価の方法	各授業において出題する下記により評価する。 ・理解度確認課題：70％ ・課題レポート：30％			
準備学修（予習・復習、課題等）	予習：事前に配布された資料を確認。不明点はインターネット等で調べる。（90分程度） 復習：配布された資料のレビュー。課題を提出する（90分程度） ・授業で、各種ツール類を利用するため、Windows／MacOSの取扱いに慣れていることが望ましい。 ・本授業は1回で2コマずつ授業を実施するため、1回休むとかなり進捗に差が出る。欠席した場合はしっかりと配布資料で復習してください。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	『自然言語処理〔改訂版〕（放送大学教材）』黒橋禎夫（著）、NHK出版 『自然言語処理の基礎』奥村学（著）、コロナ社 『統計学が最強の学問である』西内啓（著）、ダイヤモンド社 『教養としてのデータサイエンス』北川源四郎 他（編著）、講談社			
備考	・本科目は、“技術系の専門科目”、すなわち、技術志向の学生向けのものである。 従って、微分積分や確率統計に関する基礎知識（旧カリキュラムでは「数学基礎A」ならびに「数学基礎C」履修レベル）があることが望ましい。 ・進捗状況により授業内で扱う題材の難易度を変更する場合がある。 *本科目は、ICT関連の開発職としての実務経験のある教員による授業科目です。			
昨年度からの振り返り	・構造化ビッグデータの解析モデルに関し、よく理解された方が少なかったようなので、本年度は時間をかけて説明したいと思います。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	IoT					授業形態	演習
授業コード	IOT1350001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Kamya Yekeh Yazdandoost						
授業概要	IoT（Internet of Things）は身近なものをインターネットとつなげ、新たなサービスやシステムを生み出す仕組みを指す。IoTを通じ、新たなサービスやシステムを生み出すためには、ネットワーク、無線通信、ソフトウェアなど、データベース、本学で学ぶ情報通信技術に関する様々な知識とスキルが必要となる。本科目では、ユーザアプリケーションからサーバシステムまでを対象としたIoTシステムの全体アーキテクチャを理解し、演習による基本動作検証の体験を通じて、IoTに関する基本的なスキルを習得する。国際標準に準拠したIoTシステムを構築するための組み込みコンピュータ、各種センサ、アクチュエータの制御手法について理解し、与えられた要求条件を満たすためのIoTシステムの構築について演習を行う。						
授業の目的・到達目標	・国際標準に準拠したIoTアーキテクチャ全体像の理解と演習による実際の動作実証。 ・与えられた要求条件を元にしたIoTシステム設計スキルの習得。 ・組み込みコンピュータ、各種センサ、アクチュエータの制御手法の理解。 ・演習による実際の動作検証の手法を身に付ける。						
授業計画							
第1回	なぜ IoT が必要なのでしょう？ IoT は私たちに何をもたらすのでしょうか？ 課題： IoT の例を3つ見つけてください。それぞれについて2行書き、どのように問題を解決しているかを説明してください（来週までに考える）。						
第2回	IoTの実例と、機能性による分類 機能、役割の複雑性による分類 - RFID - Bluetooth - NFC 機能による分類 - センサー - アクチュエータ - センサーコントローラ データ収集サービス						
第3回	IoT デバイスの通信（センサーと通信）。 通信路 - 有線／無線／無線マルチホップ - 短距離、中距離、長距離 センサー - 接触式、非接触式 - 医療および非医療 - 温度、湿度、風向風量、各種ガス濃度 - 電界、磁界、放射線、接触 - 加速度、気圧						
第4回	企画・予備調査。 来週までに短いエッセイを書いてください。 IoT関連で製品企画を行う。 需要・技術・市場価値などから総合的に調査、検討を行い、製品企画にまとめる。						
第5回	アナウンス・予備調査・チームメンバー。 企画概要を発表し、チームビルドを行う。 チームの参加者の適正に合わせ、企画をブラッシュアップすること。						
第6回	設計レビュー・チーム決定。 第5回で作った企画と予備調査から設計を行う。 方針が決まったチームから技術レビューを受けること。						
第7回	詳細設計・担当範囲決定。 第6回のレビューをもとに、詳細な設計を行う。 設計が終わり次第、チームメンバーで責任分担を決定し、スケジュール表を作成する。 設計書を制作し、チームで1つで構わない。ただし、担当分に署名を行うこと。						
第8回	制作（1） 各自担当範囲の実装を行う。 試験項目表に基づき、設計仕様を満たしていることを確認する。 各スケジュールの担当者が分かるように明記すること。 講義中に制作したスケジュール表で進捗報告を行うこと。						

第9回	制作（2） 各自担当範囲の実装を行う。 試験項目表に基づき、設計仕様を満たしていることを確認する。 各スケジュールの担当者が分かるように明記すること。 講義中に制作したスケジュール表で進捗報告を行うこと。			
第10回	制作（3） 結合時の不具合を改修し、完成を目指す。 試験項目表に基づき、設計仕様を満たしていることを確認する。 講義中に制作したスケジュール表で進捗報告を行うこと。			
第11回	制作（4） 結合時の不具合を改修し、完成を目指す。 試験項目表に基づき、設計仕様を満たしていることを確認する。 講義中に制作したスケジュール表で進捗報告を行うこと。			
第12回	企画についての発表資料を制作する。 発表資料はパワーポイント作成すること： ・ 概要：1ページ ・ 解決する課題：1ページ ・ 期待される利益：1ページ（計算根拠を示すこと） ・ 設計の概要：1ページ ・ 各人の担当範囲と技術課題：各人1ページ			
第13回	発表 他チームの発表を見て、懸念点を指摘する：有益な議論をしましょう。			
第14回	改善：先週受け取った懸念点への回答を行う。 振り返り資料： ・ 企画概要：1ページ ・ 制作実態報告：1ページ ・ 企画の不備：1ページ ・ 技術的課題：1ページ ・ 企画の改善すべき点のまとめ：1ページ			
第15回	振り返り、まとめと復習。			
成績評価の方法	・ 授業でのディスカッションへの参加。 ・ プロジェクトグループ活動と個人活動。 ・ 前半及び後半で設定されるレポートとプレゼンテーションの提出状況とその内容（100％）。			
準備学修（予習・復習、課題等）	・ 翌週はその課題を行ってきた前提で講義を進めます。 ・ 成績評価の根拠とします。 ・ ですので、授業のディスカッションに参加し、課題に取り組んでください。 （各回180分）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書				
備考				
昨年度からの振り返り	昨年度から科目責任者が変更となっているため該当なし。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	4年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	スーパーコンピュータ					授業形態	演習
授業コード	SCP1350001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	砂原 秀樹						
授業概要	スーパーコンピュータは天気予報、建物などの構造計算、遺伝子解析、人工知能など、様々な計算科学の基盤として利用される。そのために必要な高速な処理能力をどうやって実現しているのか？そしてまたそれをどのように利用するのかということを考えなければならない。本講義では、スーパーコンピュータの仕組み（アーキテクチャ）を理解するとともに、その応用という2つの課題について学ぶ。まずどのような仕組みで高速に計算処理を行っているのか、コンピュータの構成方法（アーキテクチャ）について学ぶ。また、最新の量子コンピュータについても概観する。さらに、スーパーコンピュータでどのような処理を行い活用するのかについて学ぶ。これらを通して、「高速な処理能力」が実際に人・社会に貢献しているのかを考える。						
授業の目的・到達目標	スーパーコンピュータは計算科学の基盤技術であり、それを使いこなすことでこれまで物理的なモデルを作らなければならなかったなどコストが掛かっていた計算をシミュレーションで実施できるようになる。そのために必要な仕組みを理解するとともに、その利用の方法・応用分野・その貢献を理解することでスーパーコンピュータを活用するための知識を獲得する。						
授業計画							
第1回	コンピュータの歴史と計算処理速度						
第2回	コンピュータアーキテクチャの基礎						
第3回	計算処理高速化のメカニズム（ベクトル処理）						
第4回	計算処理高速化のメカニズム（GPU）						
第5回	スーパーコンピュータのアーキテクチャ						
第6回	インターコネクト						
第7回	オペレーティングシステムの基礎						
第8回	スーパーコンピュータの入出力と大規模ファイルシステム						
第9回	スーパーコンピュータのプログラミング（MPI）						
第10回	数値計算の基礎						
第11回	計算科学とスーパーコンピュータの応用 構造計算と遺伝子解析						
第12回	人工知能とスーパーコンピュータ						
第13回	数値表現と精度						
第14回	性能評価と性能向上の壁						
第15回	新しいコンピュータシステム（量子コンピュータとデータフローマシン）						
成績評価の方法	・期末の成果物とその評価：40％ ・講義中に行うミニテスト：20％ ・各回の課題の提出状況とその内容の評価：40％						
準備学修（予習・復習、課題等）	講義毎に復習を目的とした課題を提示するので、次の講義までに回答を用意すること。 その内容を次の講義内での議論のきっかけとする。 （各回180分程度）						
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	備考
指定なし							
参考書	『スーパーコンピュータ（岩波講座 計算科学 別巻）』小柳義夫（著・編）、中村宏、佐藤三久、松岡聡（著）、岩波書店、2012年 その他講義中に提示する。						
備考							

昨年度からの
振り返り

昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	4年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	AI					授業形態	演習
授業コード	AIT1350001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	梶田 尚亨						
授業概要	人工知能で良く用いられるニューラルネット（脳のモデル）の基本的特徴を理解し、産業応用するための実用化技術の取得、及び、応用力を養うことを目的とする。各応用分野で良く利用されるニューラルネットの構造や学習機能等の基本的特徴を理解すると共に、産業応用時の問題点、及び、これを解決するために欠かせない実用化技術の知識を修得する。また、実課題への応用力を養う為に、大手ITベンダー等が公開している人工知能関連の各種のAPI、ツール等を活用して、簡単な実課題を解くためのアプリケーションを制作する演習を実施する。演習では、産業課題の捉え方から、実課題における検証方法まで、幅広い観点からの応用力を養う。						
授業の目的・到達目標	本授業では、各種ニューラルネットの基本的な機能、特徴を理解すると共に、特に、産業応用するための実用化技術の習得、及び、応用力を養うことを目標としている。 人工知能の産業応用で良く使われるニューラルネットのモデル構造・学習方法等の基本的特徴を理解すると共に、産業応用する際に必要となる実用化技術（学習の加速化、汎化技術等）を理解する。また、ニューラルネットを実課題に応用する力を養うため、大手ITベンダー等が公開している各種機械学習ツールの使い方を習得し、これを用いて簡易な産業課題に応用する演習を実施する。演習では、産業課題の捉え方、解決方針の立案、学習データの選定、実課題での検証方法等、幅広い観点からの応用力を養う。						
授業計画							
第1回	AIガイダンス 人工知能研究の盛衰と近年の産業活用について ～大脳の機能とニューラルネットで実現できる機能の比較なども交えて～						
第2回	機械学習モデルの種類、特徴とその応用例（1） Google Colaboratory上での演習（1） ・Pythonプログラミング（基礎）とGoogle Colaboratoryの利用方法（1）						
第3回	機械学習モデルの種類、特徴とその応用例（2） Google Colaboratory上での演習（2） ・多層NNの数学的要素、テンソル計算（積和計算）の構造とTensorflowについて						
第4回	・Google Colaboratory上での演習（3） 単層パーセプトロン（1層モデル）を用いた、論理関数（AND、OR、NAND、XOR）の学習と学習後の認識精度評価について						
第5回	ニューラルネットの学習法と加速化法 ・誤差逆伝搬法の原理と非線形最適化法の観点から加速化法を解説する ・様々な学習法について						
第6回	Google Colaboratory上での演習（4） ■NNの学習法（誤差逆伝搬法）の実装 ・NNの順方向計算（前向き計算）の実装 ・NNの逆方向計算（誤差逆伝搬法）の実装						
第7回	・ニューラルネットを用いた学習課題、及び、過学習と汎化技法 ・深層ニューラルネットと深層学習 ～深層学習における加速化、汎化技法なども交えて～ Google Colaboratory上での演習（5） ■多層NNを用いた画像認識の演習 ・多層NNを用いてファッションアイテム画像を学習し、画像の絵（服、靴等）を認識し、その性能を評価する ・上記を複数のコード（Tensorflow、Pytorch等）で実装したプログラムで実施						
第8回	画像認識モデル 畳み込みニューラルネット（CNN）と画像認識への応用 ・手書き文字認識 ・様々な対象の認識						
第9回	Google Colaboratory上での演習（6） ・畳み込みニューラルネット（CNN）を用いたファッションアイテムの学習と性能評価 ・上記を複数のコード（Tensorflow、Pytorch等）で実装したプログラムで実施						
第10回	・物体検出モデル ～注意機構、transformerなどの最新の動向も含めて解説～ YOLO、DTER等						

	<div>・ 行動認識モデル SlowFast、TimeSformer等</div>			
第11回	<div>自然言語処理と大規模言語モデル</div> <div>・ 自然言語処理の特徴</div> <div>・ 大規模言語モデル（LLM）／GPT</div>			
第12回	<div>■業務効率化のためのGPTの活用方法／GPTを用いた演習（7）</div> <div>・ 文書作成</div> <div>・ 情報収集（リサーチ）</div> <div>・ 文書要約（会議議事録要約）</div> <div>・ アイデア出し</div> <div>・ プレゼンスライドの自動生成</div>			
第13回	<div>■画像生成AI</div> <div>・ Stable Diffusion</div> <div>・ Midjourney</div> <div>・ GAN</div> <div>■生成AIを用いた画像生成演習（8）</div> <div>・ Stable Diffusionを用いたファッション（服）画像の生成の演習</div> <div>・ GANによる特徴を捉えた絵画生成等の演習</div>			
第14回	<div>プログラムコード生成AI（ノーコード）</div>			
第15回	<div>強化学習</div> <div>確率的推論に基づくエージェントモデルとロボティクスへの応用</div>			
成績評価の方法	<div>毎回の課題: 80％</div> <div>授業での発表、質問への回答等の学習意欲：20％</div>			
準備学修（予習・復習、課題等）	<div>演習にも力を入れて、いろいろな機械学習を利用する方法も学べるようにするが、授業の中でプログラミング言語の教育は設定していないので、自習できるスキルがあることを前提とする。各自プログラミングスキルの向上に努めること。（各回180分程度）</div>			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし（資料を配布）				
参考書	<div>『深層学習 Deep Learning（監修：人工知能学会）』</div> <div>麻生英樹（著）、安田宗樹（著）、前田新一（著）、岡野原大輔（著）、岡谷貴之（著）、久保陽太郎（著）、ボレガラ・ダヌシカ（著）、人工知能学会（監修）、神畠敏弘（編集）、近代科学社、2015年</div> <div>『機械学習のための連続最適化』</div> <div>金森敬文（著）、鈴木大慈（著）、竹内一郎（著）、佐藤 一誠（著）、講談社、2016年</div> <div>『これなら分かる最適化数学』</div> <div>金谷健一（著）、共立出版、2005年</div>			
備考	<div>・ 本科目は、“技術系の専門科目”、すなわち、技術志向の学生向けの講義である。</div> <div>従って、微分積分や確率統計に関する基礎知識（旧カリキュラムでの「数学基礎A」ならびに「数学基礎C」履修レベル）があることが望ましい。</div> <div>・ 進捗状況により授業内で扱う題材の難易度を変更する場合がある。</div> <div>＊本科目は、ICT関連の開発職としての実務経験のある教員による授業科目です。</div>			
昨年度からの振り返り	<div>AIは日進月歩の進化を続けているため、適宜、最新のトピックを紹介する。</div>			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	2年	学期	後期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	情報セキュリティ演習Ⅰ					授業形態	講義
授業コード	PS11330001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施しない
担当教員	平山 敏弘						
授業概要	<p>国によるデジタル田園都市国家構想の推進など、ICT利用なしの世界が考えられない現在、万一企業において情報流失などの事件が発生した場合には、金銭的な損失や企業イメージの低下など、計り知れない損害を被ることになる。また近年セキュリティ人材が、日本国内において約20万人不足と叫ばれているが、セキュリティ人材といってもその役割は様々であり、その多くはセキュリティの専門家ではなく、ITを活用して通常の業務を行う中で、セキュリティ知識も身につけておいてほしい、いわゆる「プラス・セキュリティ人材」と呼ばれる人材である。</p> <p>本授業では前半にWebシステムに潜むセキュリティ脅威やSNS利用の際の注意点などを理解することで、社会人に必要なセキュリティリテラシーを学ぶ。中盤以降では、Webシステムを中心としたコンピュータシステムの各構成要素の概要と各構成要素において注意すべきセキュリティ事項について事例を交えながら学び、情報セキュリティ全般に対する学習を行う。最後の総まとめでは授業全般を振り返り、セキュリティ専門家だけでなく、どのような分野に進んでも必要とされる「プラス・セキュリティ人材」に求められる、情報セキュリティに関する知識とスキルの定着を図る。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>ICTに大きく依存している現代社会において、情報漏えい事件やインターネット上での詐欺事件などが後を絶たない。これはICTが取り扱う情報の価値が年々高まってきていることが背景にある。将来ICTを職業とする人はもちろんのこと、ICT業界以外に進む人にとってもICTを使用せずに暮らすことがほとんど不可能な状況の中、情報の取り扱い方やその危険性について理解しておくことが、今後益々必要になってくる。</p> <p>本授業では、ICTにおける情報とは何であり、情報セキュリティの事件や事故が自分自身を含む社会全体に対して、多大な影響を与える可能性があることを、事例などを通じて、「セキュリティは自分ごと」を実感し、理解することを目標とする。加えて情報セキュリティにおける攻撃方法とその対策についての概要を理解し、今後社会人として情報セキュリティに対して何をすべきかについて、自身で対策できる対処方法を理解し、実行できることを目標とする。</p>						
授業計画							
第1回	<p>(1) 情報におけるリスクとは</p> <p>現代における情報とは何であり、その情報がなぜ価値あるものに変化したのかについて学びます。</p> <p>加えて、ITにおける情報がどのような危機に瀕しているのかを学ぶことで、情報セキュリティの重要性を理解します。</p>						
第2回	<p>(2) インターネット概説&Webシステム概要</p> <p>インターネット誕生の背景を学び、なぜインターネットが社会に広まったのかについて学びます。またWebシステムがどのような構成で構築されているかについて理解します。</p>						
第3回	<p>(3) ネットワーク基礎技術</p> <p>サイバーセキュリティを理解する前提知識となるインターネットやTCP/IPプロトコルの概要を理解します。またIPアドレスを使用してデータがどのように相手に届き、通信が行われるのかについて学びます。</p>						
第4回	<p>(4) ネットワークリスク</p> <p>ネットワークに潜んでいる脅威やリスクについて理解し、ネットワーク基礎技術で学んだネットワークの仕組みを利用して、どのようにセキュリティインシデントが発生するのかについて学びます。</p>						
第5回	<p>(5) Webサーバーシステムリスク</p> <p>Webシステムにおいて、WebサーバーおよびDBサーバーなどWebシステムを構成するコンポーネントにおけるリスクを理解すると共に、その対策例について学びます。</p>						
第6回	<p>(6) Webアプリケーションへの脅威</p> <p>Webアプリケーションの仕組みを学ぶと共に、どのようなセキュリティ脅威があるのかを理解し、Security by DesignなどWebアプリケーション作成時における、設計段階からのセキュリティを考慮する重要性について学びます。</p>						
第7回	<p>(7) 映画に学ぶ情報セキュリティ基礎技術</p> <p>情報セキュリティがテーマの映画を鑑賞し、その中で使用されているサイバー攻撃手法について、第6回までの講義で学んだ知識を利用して見つけ出すことで、セキュリティスキルの整理と定着を図ります。</p>						
第8回	<p>(8) サイバーセキュリティ対策基礎技術まとめ</p> <p>Webシステムを構成する各コンポーネントの役割とそこに潜む脅威やリスクについてのまとめを行い、各回の講義で学んだ内容を総合的に理解します。</p>						
第9回	<p>(9) オペレーティングシステムにおけるセキュリティ</p> <p>オペレーティングシステムにおけるセキュリティリスクを理解し、その対策を学びます。</p>						
第10回	<p>(10) 認証とアクセス制御</p> <p>認証技術とアクセス制御方法について理解し、データ保護の重要性和その対策方法を学びます。</p> <p>また暗号化の基本技術については、簡易的なデータ暗号化および復号化を体験することで理解を深めます。</p>						
第11回	<p>(11) クラウドセキュリティ</p> <p>クラウドコンピューティングの概要、およびクラウド環境におけるセキュリティ／プライバシーの脅威と対策について学びます。</p>						

第12回	(12) 新たな働き方に潜むセキュリティの脅威と事業継続におけるセキュリティの在り方 攻撃者のターゲットが個人へ移行している現状を理解することと、自然災害などと同様にセキュリティにおいても事業継続の考え方が必要なことを理解します。			
第13回	(13) スマートデバイスにおけるセキュリティの脅威と防御策 スマートデバイスやSNSの標準設定は、世界基準で考えられているため、使用者自身が設定内容を理解していないことで、予期せぬ自身の情報公開をしているケースがあり、その結果情報漏えい事件に発展している場合もあります。そのような危険に巻き込まれないため、サイバーセキュリティ脅威の理解と防御策を学びます。			
第14回	(14) 自分の身の回りに潜むセキュリティ 大学を狙ったサイバー攻撃事例などをもとに、身近にある情報漏えいの危険性を理解すると共に、企業・組織としてのリスクを学ぶことにより、企業における情報漏えい対策を学びます。			
第15回	(15) 情報セキュリティ基礎総括 今日の社会で求められている「プラス・セキュリティ人材」とは、どのような人材であるのかを知ることにより、全15回講義で学んだことが、どのような分野に進んだとしても受講者自身が実践の場で活用出来る内容であることを理解し、講義終了後もセキュリティ意識が必要であることを理解します。			
成績評価の方法	(1) 試験・テストについて 定期試験を実施します。 (2) 試験以外の評価方法 講義時に提出する授業内容確認小レポートによる評価をします。 (3) 成績の配分・評価基準等 定期試験の評価に加え、毎回の授業時に提出する小レポートおよび確認テストを下記の割合で評価します。 (定期試験70%、授業内での提出物30%（小レポート15%、確認テスト15%）			
準備学修（予習・復習、課題等）	(予習) 次回講義内容について、インターネットなどを利用して、具体的なセキュリティインシデント（事件・事故）事例などを調査しておくこと。また自身や自分の周りでの身近な事例があるかについても調べておくこと。（標準学習時間：1.5時間） (復習) 毎回講義の最後に確認テストを実施するので、その正解と理由について学んだ講義内容を復習して、確認しておくこと。答え合わせは、基本翌週講義の最初に実施する。（標準学習時間：1.5時間）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
自分ごとのサイバーセキュリティ～手口を理解し、対策を知らう～	平山 敏弘	ビジネス教育出版社	978-4828310923	
参考書	講義時に投影する資料については、Googleクラスルームで配布する。 参考文献： ・「情報セキュリティ白書2025」 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）、ISBN 978-4-905318-81-1 ・「実践サイバーセキュリティ入門講座 現場に残された痕跡からハッカーの攻撃を暴け」 林 憲明、SBクリエイティブ、ISBN-13：978-4815634254 ・「CISOのための情報セキュリティ戦略」 日本ネットワークセキュリティ協会、技術評論社、ISBN-13：978-4297132941			
備考	当講義では、UNIPAでの出席コード入力以外に、その場での出欠確認（点呼）と出席カードの提出により、出欠を確認します。 *本科目は、ICT関連の開発職としての実務経験のある教員による授業科目です。			
昨年度からの振り返り	・ 暗い説明資料が欲しいとの声がありましたので、教科書を使用するようにしました。 ・ 当講義は知識習得の座学中心のため本格的なグループワーク導入は難しいですが、質問形式の仕組みを駆使したり、履修生自らが「体を使って体験」することで理解を深めるなどの工夫をしています。 ・ 当講義のレベルは、セキュリティリテラシー＋αの「プラス・セキュリティ人材」向けのレベルを継続していきます。さらにアドバンスの学習をしたい方は、情報セキュリティ演習Ⅱの履修も是非検討ください。 ・ 「動画があるのでわかりやすかった」や、「コンピテンシーやコミュニケーションに関する内容が興味深く、また役立った」などの声もありましたので、その点については継続していきます。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	3年	学期	前期	科目分類	職業専門科目
授業科目名	ネットワーク構築Ⅲ					授業形態	演習
授業コード	DN31330001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	山内 正人						
授業概要	小規模なネットワークにおけるスイッチドネットワーク、仮想的なLANセグメント、ネットワークの冗長化及びトラブルシューティングについて演習形式で実践的に学ぶ。ネットワーク機器であるスイッチの動作について理解し、LAN環境での冗長性、リンク集約、トラブルシューティングの方法について学ぶことで問題の切り分けを行うことが出来るようになる。具体的には仮想的なLANセグメント(VLAN)の概念やその設定、VLAN間ルーティング及びスパニングツリープロトコル、ファストホップ冗長プロトコル、ゲートウェイロードバランシングプロトコル、リンクアグリゲーションの概要とその設定方法、トラブルシューティング方法について学ぶ。						
授業の目的・到達目標	ネットワーク機器を設定し、ネットワーク構築及びネットワークの冗長化が出来るスキル習得を目的とする。ネットワーク機器について理解し説明できる、ネットワーク機器の動作について理解し、説明できる、信頼のおけるネットワークを構築し疎通していることを確認できる事を目標とする。						
授業計画							
第1回	ルータの構成と起動について学ぶ						
第2回	ルータOSのナビゲート						
第3回	ルータOSの基本設定1（showコマンドなどの基本操作について学ぶ）						
第4回	ルータOSの基本設定2（各種設定コマンドなどの基本操作について学ぶ）						
第5回	スイッチとルータを使用したネットワーク構築						
第6回	トラブルシューティングの基本について学ぶ						
第7回	トラブルシューティングの実践1（トラブルシューティングに使用するツールについて学ぶ）						
第8回	トラブルシューティングの実践2（名前解決に関するトラブル）						
第9回	トラブルシューティングの実践3（Wi-Fiに関するトラブル）						
第10回	トラブルシューティングの実践4（トラブル解決に向けたヒアリング）						
第11回	これまでの内容を復習する						
第12回	ネットワークの構築実践1（実践的なネットワークの構築に必要な知識について学ぶ）						
第13回	ネットワークの構築実践2（実践的なネットワークの構築を行う）						
第14回	ネットワークの構築実践3（実践的なネットワークの構築を行う）						
第15回	ネットワークの構築実践4（実践的なネットワークの構築を行う）						
成績評価の方法	課題やクイズ 100%						
準備学修（予習・復習、課題等）	授業における資料や教材を用いて予習・復習を行う。 また演習課題については授業外の時間も活用し課題を完了させること。 （あわせて各回180分程度）						
教科書							
書名	著者		出版社		ISBN		備考
指定なし							
参考書	Cisco Networking Academy						
備考	「ネットワーク技術」「ネットワーク構築Ⅰ」「ネットワーク構築Ⅱ」の単位を修得済みまたは同等の知識、スキルを要していること。						
昨年度からの振り返り							

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	3年	学期	前期	科目分類	展開科目
授業科目名	グローバルビジネスと通訳					授業形態	講義
授業コード	EIB1420001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	阿部川 久広						
授業概要	<p>ビジネスの現場では、語学や専門知識に関する理解力や運用能力に格差があるチームメンバーとともに仕事を進めなければならない場面が数多くある。</p> <p>グローバルな場でリーダーシップを発揮していく中では、ビジネスや会議の内容をその場でまとめ、共有する場面や、相手の反応に応じて理解できるスキルやコミュニケーション力が求められる。本授業では、上記のような場面でも通用するグローバルコミュニケーションの技法の1つとして通訳を取り上げ、ビジネスの現場で多方面に展開できる通訳スキルとコミュニケーション力を修得する。</p> <p>In the business world, there are many situations where you must work with team members who have different levels of understanding and practical ability in terms of language or specialized knowledge. When demonstrating leadership in global situations, you will need the skills and communication ability to summarize and share business or meeting content on the spot, as well as to understand the other person's reactions. In this class, we will focus on interpreting as one of the global communication techniques that can be used in such situations, and acquire interpreting skills and communication abilities that can be used in a variety of areas in the business world.</p>						
授業の目的・到達目標	<p>多様な人種・文化・宗教・価値観が入り混じるグローバル社会について、ロールプレイを通じ体感しながら知識を習得し、文化の違いを受容しつつ、リーダーシップを発揮し、多方面にわたり円滑にビジネスを展開していくことができるようになること。</p> <p>Through role-playing, participants will gain experience and knowledge about a global society where diverse races, cultures, religions, and values coexist, and will be able to demonstrate leadership and smoothly develop business in a variety of areas while accepting cultural differences.</p>						
授業計画							
第1回	<p>通訳史、翻訳史、理論的バックグラウンドと周辺理論-1</p> <p>Theoretical background and related theories for interpreters and translators - 1</p>						
第2回	<p>通訳史、翻訳史、理論的バックグラウンドと周辺理論-2</p> <p>Theoretical background and related theories for interpreters and translators - 2</p>						
第3回	<p>内容の理解-1（小松第四章）理解と実習</p> <p>Understanding the content - 1 (Komatsu Chapter 4) Understanding and practice</p>						
第4回	<p>内容の理解-2（小松第四章）理解と実習</p> <p>Understanding the content - 2 (Komatsu Chapter 4) Understanding and practice</p>						
第5回	<p>内容の理解-3（小松第四章）理解と実習</p> <p>Understanding the content - 3 (Komatsu Chapter 4) Understanding and practice</p>						
第6回	<p>ノートの取り方-1（小松第5章）理解と実習</p> <p>How to take notes - 1 (Komatsu Chapter 5) Understanding and practice</p>						
第7回	<p>ノートの取り方-2（小松第5章）理解と実習</p> <p>How to take notes - 2 (Komatsu Chapter 5) Understanding and practice</p>						
第8回	<p>ノートの取り方-3（小松第5章）理解と実習</p> <p>How to take notes - 3 (Komatsu Chapter 5) Understanding and practice</p>						
第9回	<p>声に出して表現してみる-1（小松第6章）理解と実習</p> <p>Expressing aloud - 1 (Komatsu Chapter 6) Understanding and practice</p>						
第10回	<p>声に出して表現してみる-2（小松第6章）理解と実習</p> <p>Expressing aloud - 2 (Komatsu Chapter 6) Understanding and practice</p>						

第11回	サイトトランスレーションと同時通訳-1（小松第7章、第8章）理解と実習 Sight Translation and Simultaneous Interpretation - 1 (Komatsu Chapters 7 and 8) Understanding and Practice			
第12回	サイトトランスレーションと同時通訳-2（小松第7章、第8章）理解と実習 Sight Translation and Simultaneous Interpretation - 2 (Komatsu Chapters 7 and 8) Understanding and Practice			
第13回	翻訳入門-1 Introduction to Translation-1			
第14回	翻訳入門-2 Introduction to Translation-2			
第15回	まとめ：通訳とは何か、翻訳とは何か（歴史、考え方、テクニック、ビジネス現場での応用など） Summary: What is interpretation and translation? (History, concepts, techniques, application in the business world, etc.)			
成績評価の方法	(1) 毎回の講義内での議論、討議、実習の内容の理解と、実習に取り組む姿勢：65% (2) 実習での達成度：25% (3) クラスでの最終実習試験：10% (1) Understanding of lecture discussions, debates, and practical content, and attitude toward practical training: 65% (2) Achievement in practical training: 25% (3) Final practical training exam in class: 10%			
準備学修（予習・復習、課題等）	(1) 講義内での実習に集中し、講義時間内に内容を理解し、さらなる実践への手がかりを掴むこと (2) 講義後に必ず実践の復習を行うこと (3) 毎日継続して実習すること (4) 授業においても、予習復習においても、AIを積極的に活用すること。 (※各回の講義に対し予習90分、復習90分を目安に取り組むこと。) (1) Focus on the practical training in the lectures, understand the content within the lecture time, and grasp clues for further practical application. (2) Be sure to review the practical training after the lecture. (3) Continue practicing every day. (4) Actively utilize AI in classes and for preparation and review.			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
通訳の技術	小松達也	研究社	978-4327451912	
参考書	よくわかる翻訳通訳学（鳥飼玖美子編著）ミネルヴァ書房 よくわかる逐次通訳（ベルジュロ伊藤宏美他）東京外国語大学出版 実践英語スピーチ通訳（ピンカートン暉子ほか）大修館書店 Easy-to-Understand Translation and Interpretation Studies (Kumiko Torikai, ed.), Minerva Shobo Easy-to-Understand Consecutive Interpreting (Hiromi Ito, Bergero, et al.), Tokyo University of Foreign Studies Press Practical English Speech Interpretation (Teruko Pinkerton, et al.), Taishukan Shoten			
備考	阿部川が実際のビジネスで用いたPowerPointを用いて、英語での読み、英日逐次訳、日英逐次訳などもトレーニングします。 Using PowerPoint presentations used in actual business situations made by Abekawa, we will also train in English reading, English-Japanese consecutive translation, and Japanese-English consecutive translation.			
昨年度からの振り返り	1. 内容確認→ペアで練習→発表 のサイクルを、なるべく短くし（10分程度）むしろ数多く実施することに重きを置く 2. （ペア）実習先の企業紹介＋それを通訳 のパートの事前練習の時間を儲ける 3. （全クラス）想定される質問を議論させ、それを英語にし、それを発話させる 1. Keep the cycle of content review → pair practice → presentation as short as possible (about 10 minutes) and emphasize doing it frequently. 2. (Pairs) Allow time for pre-practice for the internship company introduction + interpretation portion. 3. (All classes) Have students discuss anticipated questions, translate them into English, and speak them aloud.			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	展開科目
授業科目名	国際情勢論					授業形態	講義
授業コード	INS1430001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	南里 隆宏、李 天寵						
授業概要	グローバルな生産システムの複雑さが増し、新興技術が急速な発展を遂げる中で、国際関係学と政治学に科学技術・イノベーションの観点を取り入れる重要性が近年さらに高まっている。本科目では、世界で起こっている出来事とそれに伴う各国の変化や動きなどを、政治・経済・国際関係の観点を統合するかたちで捉え、読み解く視点を養う。具体的には、授業回ごとに当該するトピックに関するこれまでの議論をまとめ、国際情勢における代表的な変化や時事問題を事例として取り上げ分析し、解説をする。本講義を通じ、国際情勢を分析する視点を養い、グローバル化が進む現代でビジネスや事業を展開する上で必要な判断力や応用力を養う。						
授業の目的・到達目標	変化を続ける国際情勢において、政治・経済・国際関係の異なる観点を組み合わせ、個々の事象について自分なりに整理をし、多角的（学際的）な視点から議論をすることができるようになる。						
授業計画							
第1回	ガイダンス						
第2回	政治・経済・国際関係						
第3回	科学技術・イノベーションと政治①：創造的破壊、破壊的イノベーション						
第4回	科学技術・イノベーションと政治②：トランスサイエンス、政策						
第5回	科学技術・イノベーションと国際関係①：脅威と科学技術						
第6回	科学技術・イノベーションと国際関係②：イノベーションと国際関係、新興技術						
第7回	グローバル政治経済システムの成り立ちと市場経済の限界						
第8回	グローバル・バリューチェーン（GVC）と国際分業						
第9回	グローバル・バリューチェーン（GVC）と地政学①：経済相互依存、ネオリベラル制度論						
第10回	グローバル・バリューチェーン（GVC）と地政学②：経済安全保障、リアリズム						
第11回	大国間競争下のグローバル化						
第12回	科学技術・イノベーション（STI）政策の安全保障化						
第13回	エネルギーと地政学①：エネルギー安全保障						
第14回	エネルギーと地政学②：気候変動、脱炭素化						
第15回	授業のまとめ						
成績評価の方法	・リアクションペーパー（500字程）と発表：30％ ・講義や講義内で示された課題に対して取り組む姿勢、議論等への貢献度（事前調査、分担した役割の遂行、積極的な発言、チームワーク等）：40％ ・期末ペーパー（2,000字以内）：30％						
準備学修（予習・復習、課題等）	予習：授業の前に教科書の該当する章、及び講師が事前にアサインする記事や論文を読んでから授業に参加すること。また、個人発表がある場合は、発表資料を準備してから参加すること。日頃から様々な媒体で国際情勢に触れてみること（各回90分） 復習：講義の後、興味を持った箇所についてさらに調べること（各回90分） 課題：リアクションペーパー（500字程）と期末ペーパー（2,000字以内）						
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	備考
国際政治経済学		田所昌幸・相良祥之		名古屋大学出版		978-4-8158-1157-0	
参考書	1.『国際紛争―理論と歴史』原書第10版、ジョセフ・S・ナイ・ジュニア、デイヴィッド・A・ウェルチ（著）、田中明彦、村田晃嗣（訳）、有斐閣、ISBN：978-4641149175 2.『グローバル・チェーンの地政学』猪俣哲史（著）、日本経済新聞出版、ISBN：978-4-2961-1439-9						
備考	・教科書と参考書以外にも、適宜講師が講義内容にあった資料をリーディング課題として出すことがある。 ・講義中は指示がある場合を除いてPC、タブレット、スマートフォンの操作は慎むこと。						

昨年度からの
振り返り

昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	展開科目
授業科目名	グローバルビジネスにおけるディスカッション・ディベート					授業形態	演習
授業コード	EDB1420001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	浦嶋 直						
授業概要	グローバルにおける会議や交渉の場では、参加者が意見を伝え、対話することを通じて、より良い答えを導くプロセスを全員で形成していく必要がある。本科目ではそうした場面での対話手法として、ディスカッションやディベートのスキルを身に付けることを目的とする。ディスカッションでは提示されるテーマを基に、資料、調査、Q&Aなどの材料をもとに準備を行い、英文を作成する。あわせて自身の意見や討議を短いエッセーにまとめる。ディベートについては、擬似的にテーマに対する賛否について、その理由や背景、強みと弱みなどをまとめ、次の学びに繋げる。一連の流れの中で、グローバルビジネスという環境において、文化的背景の異なる人々との協業や、実践の場で応用できるディスカッション力、ディベート力を養う。なお、教科書は英文で書かれているが、深い思考、批判的に思考する力を養うため、授業で使用する言語は主として日本語とする。また、授業では国内の事例だけでなく、海外での会議を想定した実践やオンラインの英文記事なども活用する。						
授業の目的・到達目標	ビジネスの現場において、自分の論点を相手に正しく理解してもらうこと、建設的な議論を進めることで有益な結論を導き出すことは、大きな価値をもたらすことに繋がる。 実践的な学びを通じて、 ・ディスカッションやディベートに共通する論理の作法や英文構成について理解し説明できる ・英語を用いて身近な問題から世界的な社会問題に至るまで、様々なテーマで議論できる ・議論の技術のみならずその基盤となる教養を深め、英語で日本や自分の主張を発信できることを到達目標とする。						
授業計画							
第1回	オリエンテーション（自己紹介や授業の目標や進め方、教科書の紹介や評価方法について）						
第2回	Unit6 English ①: Before you read, Reading, Understanding the main ideas						
第3回	Unit6 English ②: Listening, Pros & Cons, Discussion tactics, Taking it further						
第4回	Unit9 Cars ①: (同上)						
第5回	Unit9 Cars ②: (同上)						
第6回	Unit4 Marriage ①: (同上)						
第7回	Unit4 Marriage ②: (同上)						
第8回	Unit5 Smoking and drinking ①: (同上)						
第9回	Unit5 Smoking and drinking ②: (同上)						
第10回	Unit10 Working parents ①: (同上)						
第11回	Unit10 Working parents ②: (同上)						
第12回	Unit1 Cell phones ①: (同上)						
第13回	Unit1 Cell phones ②: (同上)						
第14回	Unit14 Gender gap ①: (同上)						
第15回	Unit14 Gender gap ②: (同上)						
成績評価の方法	(1) 毎授業の演習における関与度（積極的な参加、発言、回答）：30％ (2) 指示する課題の達成度：30％ (3) 最終レポートの内容：40％						
準備学修（予習・復習、課題等）	各Unit①に関しては、「Reading」にある2つのコラムを予習の上、臨むこと。授業内で英文解釈の説明は最小限に留めるので、各自で読解してくる。こと。取り上げるテーマについて、自分の視点や考えを整理してくる。こと。各Unit②に関しては、クラスにて議論する際の自分の論点を整理し用意してくる。こと。具体的な内容については、授業の進捗状況に応じて指示していく。（各回予習90分・復習90分程度）						
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	備考
Which side are you on?		Gillian Flaherty		成美堂		9784791960286	2,100円（税別）
参考書	『異文化理解力』エリン・メイヤー（著）、英治出版、ISBN：9784862762085						

備考	授業は主として日本語で行います。日本語で深い思考が出来て初めて、英語での議論やディベートが効果的に行えるからです。進捗状況によって、英語に切り替える可能性があります。単なる勝ち負けでなく、より良い結論を導く思考訓練としての議論の作法を学んでいきましょう。英文解釈の詳細は授業内で扱わないので、DeepLなどの機械翻訳を活用しながら、必ず予習してから臨んでください。皆さんと大いに議論をする機会を楽しみにしています。
昨年度からの振り返り	

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	展開科目
授業科目名	国際メディア論					授業形態	講義
授業コード	IMB1430001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	堂満 一成、廣瀬 正雄						
授業概要	劇的な変化と膨張を遂げている21世紀のメディア。新聞、テレビ、映画といった旧来のマスメディアに加え、インターネットやスマートフォンの普及によりソーシャルメディアが発達し、大都市からジャングルの奥地まで一瞬で同じ情報を共有し、世界が一斉に反応を始める新たなメディア時代に入っている。一方、エコーチェンバー、フィルターバブルといった情報の閉鎖空間に陥る問題も生じてきている。本科目では、メディアの起源や歴史と発展の流れを押さえ、グローバル化とデジタル化の進展により、新たなメディア・コミュニケーションが基盤となる社会の課題や可能性について学習する。						
授業の目的・到達目標	①メディアの起源、発展プロセスを押さえ、ITのインフラやソーシャルメディアも加わった新たなグローバルなメディアの体制を比較しながら理解する。 ②激しい環境変化の渦中にあるグローバル・メディアの問題点や課題、可能性について議論し、理解を深める。 ③世界の情報メディアの役割と特性を理解し、コミュニケーションやブランディングへ賢く活用できることを目指す。						
授業計画							
第1回	イントロダクション ～身の回りを見るメディアとコンテンツ、そしてネット～						
第2回	世界のメディアのいま ～コンテンツとプラットフォームのせめぎ合い～						
第3回	メディア史#1 グーテンベルク、コーヒーハウス、新聞とビジネス						
第4回	権威主義国家のメディア統制の現状と歴史						
第5回	メディア史#2 音声・映像の時代へ ～蓄音機、映画、そしてエジソン～						
第6回	西洋のメディア見取り図 イギリス、アメリカ、フランス、ドイツ、イスラム世界など						
第7回	メディア史#3 日本のメディアの源流 遊行僧、かわら版、蔦屋重三郎						
第8回	日本のメディア見取り図 新聞・テレビ・映画・ネット						
第9回	メディア史#4 戦争、社会への問題提起、ジャーナリズムと広告の微妙な関係						
第10回	アジアのメディア見取り図 中国、韓国、インドなど						
第11回	自分を守るための情報キュレーション ～フェイク対策、ファクトチェック～						
第12回	未来のメディア、そしてコミュニケーションのゆくえ						
第13回	地域活性化、セルフブランディングのためのメディア活用術① ーブランディングの理論と成功事例分析ー						
第14回	地域活性化、セルフブランディングのためのメディア活用術② ータグ分析とストーリーテリングを使ったブランディング演習ー						
第15回	まとめ、確認テスト						
成績評価の方法	定期試験は実施しない。 講義中のミニテストやアクティブラーニングへの取り組みと参加姿勢（40％）、講義時に指示した課題の提出・内容（30％）、最終確認テスト（30％）で評価する。						
準備学修（予習・復習、課題等）	予習として、「世界のメディアーグローバル時代における多様性」（小寺敦之編：春風社）や「図説 日本のメディア[新版]」（藤竹暁、竹下俊郎編著：NHKブックス）などを読み、BBCやCNN等海外メディアに触れる。（90分） 復習として、講義で関心を抱いたことについてWebや書籍で情報を読み、徹底的に調べてみること。（90分）						
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	備考
指定なし							
参考書	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料は授業中に指示する。						
備考	学生間・教員と学生の建設的で積極的なコミュニケーションを評価する。明るく楽しく元気よく、好奇心の熱量を授業にぶつけてほしい。自ら情報を収集し、最先端で起こっている事象、その背景や未来を考えてほしい。講義中は私語を慎むこと。						

昨年度からの 振り返り	
----------------	--

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	展開科目
授業科目名	製造業における国際化					授業形態	演習
授業コード	GMI1440001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	小宮 昌人						
授業概要	情報通信・デジタル技術関連（AI・生成AI、ロボティクス、デジタルツイン・メタバース、IoT、データスペースなど）はもちろんのこと、広く製造業全般（自動車・産業機械、半導体などエレクトロニクス、その他プロセス製造業など）のテーマを扱い、製造業におけるグローバル化やイノベーション・デジタル化の事例を通じ、ビジネスの特性や専門性の理解を図る。具体的には、製造業の現場で用いられている技術文書に加え、製造業系のグローバルメディアや各企業・産学官機関のホワイトペーパーなどを利用し、技術や戦略・構造変化への理解を深める。日本語だけでなく英語でも事例を検討し、業界内の専門的なビジネスについて理解するとともに、経営やデジタル技術の専門知識をもとに製造業における新たなビジネス展開やイノベーションに活用できる応用力を身に付ける。ディスカッションや、事業案等の創出に重きを置き、最終講義では仮想的にグループや自らの製造業領域での起業プラン・事業案を提案・具体化する。						
授業の目的・到達目標	・製造業の産業構造やグローバル化の動向を理解し関心を持つ ・生成AI・ロボティクス・デジタルツイン等による製造業の今後の変化について理解する ・グループワークを通じてアイデアを作り上げ課題解決を行う力を身に着ける ・製造業を題材に事業構想や起業を行う視点・アプローチを身に着ける						
授業計画							
第1回	オリエンテーション・ガイダンス（Miroボード・生成AIの使い方、デザイン思考について）						
第2回	製造業の歴史・日本の強みと、グローバル化する製造業の中での位置付け						
第3回	製造業のエンジニアリングチェーンとグローバルサプライチェーン						
第4回	製造業のデジタル化：欧州発インダストリー4.0とIoTプラットフォーム						
第5回	デジタル化による水平分業とEMS・ラインビルダーと、中国・新興国製造業の台頭						
第6回	デジタルツインと、産業メタバースによる変革						
第7回	インダストリー5.0とデータスペースによるイノベーション						
第8回	【業界洞察】自動車業界の変化：CASE革命と、Catena-X						
第9回	【業界洞察】FA（ファクトリーオートメーション）業界とロボティクス						
第10回	【業界洞察】日本家電・半導体業界の台頭・後退とこれから						
第11回	【業界洞察】ディスクリートとプロセス産業の違いと、素材産業のグローバル展開						
第12回	産業政策による製造業への影響、米国大統領選挙とサプライチェーン						
第13回	製造業における起業とグローバルスタートアップ、スタートアップ連携・CVC						
第14回	生成AIによる製造業の構造変化						
第15回	製造業での起業・事業案ワークショップ						
成績評価の方法	・評価方法：出席コメントカードの提出と事後レポート・最終レポートで算出。 ・出席コメントカード提出35%＋事後レポート40%＋最終レポート25%の点で算出。						
準備学修（予習・復習、課題等）	・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。 ・授業ではグループワークを行い、その結果に基づいて事後レポートを作成します。 ・最終講義においてはグループで製造業での起業案を作り、最終レポートを作成します。						
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	備考
指定なし							
参考書	参考書籍（関心ある学生のみ、購入は必須ではない） ・『日本型プラットフォームビジネス』（日本経済新聞出版社） ・『製造業プラットフォーム戦略』（日経BP） ・『メタ産業革命～メタバース×デジタルツインでビジネスが変わる～』（日経BP） ・『事例から見る生成AIビジネスモデル～新時代の産業戦略で利益を生成する～』（ソフトバンククリエイティブ） ※適時授業で参考書籍を紹介します。						

備考	<div><div>・議論や事業案構想など、自ら考えていくことに主軸を置く。アクティブ・ラーニング（グループディスカッション・グループワーク等）をしながら進める。</div><div>・私語など他の学生の迷惑となる行為には厳正に対処する（理由：クラスメイトの講義受講の妨げとなる為）</div></div>
昨年度からの振り返り	

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	4年	学期	前期	科目分類	展開科目
授業科目名	グローバルビジネスにおけるプレゼンテーション					授業形態	演習
授業コード	EPB1420001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Joe Hug						
授業概要	<p>This course empowers students to become high-impact business communicators who can navigate the rapidly evolving human-machine workplace. By blending the SUCCEsS framework for memorable messaging with the MELDS principles (Mindset, Experimentation, Leadership, Digital Core, and Skills), students will learn to articulate complex business ideas while effectively utilizing AI as a collaborative partner. Participants will transition from basic speaking to professional storytelling, gaining the "fusion skills" necessary to lead, interrogate, and communicate alongside artificial intelligence.</p> <p>このコースは、急速に進化する人間と機械が融合した職場環境を生き抜く、影響力の高いビジネスコミュニケーターを育成することを目的としています。記憶に残るメッセージングのためのSUCCEsSフレームワークとMELDS原則（マインドセット、実験、リーダーシップ、デジタルコア、スキル）を融合させることで、学生は複雑なビジネスアイデアを明確に表現し、AIを協働パートナーとして効果的に活用する方法を学びます。参加者は、基本的な話し方からプロフェッショナルなストーリーテリングへと移行し、人工知能と共にリーダーシップを発揮し、議論を深め、コミュニケーションを図るために必要な「融合スキル」を習得します。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>1. Master Sticky Messaging: Students will apply the SUCCEsS framework (Simplicity, Unexpectedness, Concreteness, Credibility, Emotion, Stories) to create clear and specific ideas.</p> <p>2. Develop AI Interaction Literacy: Students will learn "Intelligent Interrogation" and "Prompt Engineering," to generate professional communication content.</p> <p>3. Apply Visual Data Storytelling: Participants will use visual thinking techniques to move beyond creating data visualizations.</p> <p>4. Students will learn how to train, explain, and sustain AI systems while using them to amplify their own human creativity.</p> <p>・記憶に残るメッセージングをマスターする：受講生はSUCCEsSフレームワーク（シンプルさ、意外性、具体性、信頼性、感情、ストーリー）を応用し、明確で具体的なアイデアを生み出します。</p> <p>・AIインタラクションリテラシーを育成する：受講生は「インテリジェントな質問」と「プロンプトエンジニアリング」を学び、プロフェッショナルなコミュニケーションコンテンツを作成します。</p> <p>・ビジュアルデータストーリーテリングを応用する：参加者はビジュアルシンキングのテクニックを用いて、データビジュアライゼーションの作成にとどまらず、より高度な表現方法を学びます。</p> <p>・受講生は、AIシステムのトレーニング、説明、維持管理の方法を学び、AIを活用して自身の創造性を増幅させます。</p>						
授業計画							
第1回	<p>Phase 1: Communication & AI Foundations</p> <p>1. The Bridge Between Ideas and Results. Introduction to communication as the essential managerial skill. Introduction to the Age of AI and why every worker must now be "AI-savvy".</p> <p>2. Communication Fundamentals: Effective Visuals, Body Language, and Time Management</p>						
第2回	<p>1. The Audience as the Hero. Identifying audience needs and answering the "What's In It For Me?" (WIIFM) question.</p> <p>2. Speeches: Prepared Vs. Impromptu (Ad Lib), Feedback, and Eye Contact.</p>						
第3回	<p>Phase 2: Individual Presentations</p> <p>1. Beating the "Curse of Knowledge." Learning the power of Simplicity. Learn to create business ideas with clear essence to avoid confusing an audience.</p> <p>2. Ice Breaker Speech: Prepare and deliver a 3-minute self-introduction speech with visuals.</p>						
第4回	<p>1. Creating concreteness and Universal Language. Using sensory language to overcome language proficiency gaps.</p> <p>2. Body Language Speech: Prepare and deliver a 4-minute speech without visuals.</p>						
第5回	<p>1. Introduction to Prediction Machines. Learning that AI is essentially "cheap prediction" that helps businesses make decisions under uncertainty.</p> <p>2. Visuals: Prepare and deliver a 5-minute speech with visuals.</p>						
第6回	<p>1. The AI Mindset (M.E.L.D.S.). Moving from a mechanistic (replacing humans) to an organic (augmenting humans) view of technology in communication settings.</p> <p>2. Inspirational Speech: Prepare and deliver a 6-minute speech without visuals.</p>						
第7回	<p>1. Storytelling as a Business Tool. Master the three-act structure and the "Call to an Adventure".</p> <p>2. Storytelling: Prepare and deliver a 7-minute speech with visuals.</p>						
第8回	<p>Mid-Term Presentation (The Human-AI Pitch)</p> <p>1. Deliver an 8-to-10-minute persuasive Demo Pitch for a product or service. The speech must utilize SUCCEsS principles and include one AI-generated insight or prediction.</p>						

	Phase 3: Team Presentations				
第9回	1. Beyond "Blah-Blah-Blah." Visual thinking mastery. Learn to "draw" ideas. 2. The Press Conference: Prepare and deliver a 9-minute Team conference without visuals.				
第10回	1. Using Data Effectively. Learn to turn data into “Good Charts” that move an audience. 2. The Talk Show: Prepare and deliver a 10-minute Team conference without visuals.				
第11回	1. Fusion Skill: Intelligent Interrogation. Practice Prompt Engineering. Learning how to converse with LLMs to refine business communication. 2. The Podcast: Prepare and deliver a 10-minute Team conference without visuals.				
第12回	Phase 4: Advanced Public Speaking Skills 1. Fusion Skill: Bot-Based Empowerment. Using AI digital assistants to "punch above your weight" by automating routine tasks to free up time for human interactions 2. The Pecha Kucha Speech: Prepare and deliver a 10-minute speech with visuals.				
第13回	1. Ethical Communication & Responsible AI. Learning to communicate transparency and fairness. 2. Startup Pitch: Prepare a 10-minute speech and apply the 10-slide Pitch Deck format.				
第14回	Final Presentation Rehearsal and Peer Feedback. 1. Peer review sessions focusing on authentic delivery, poise, and effective use of visuals.				
第15回	Final Presentation 1. Startup Pitch: Deliver a 10-minute speech with visuals.				
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none">• Class participation and engagement (5%)• Completion of weekly speeches and presentations (15%)• Midterm Presentation (30)• Final Presentation (50%) <ul style="list-style-type: none">• 授業への参加度（5%）• 毎週のスピーチとプレゼンテーションの完了（15%）• 中間プレゼンテーション（30%）• 期末プレゼンテーション（50%）				
準備学修（予習・復習、課題等）	<div>1. Practice delivering speeches without relying on notes or slides to improve spontaneity and confidence.</div> <div>2. Focus on using effective body language, maintaining good posture, and making consistent eye contact with the audience.</div> <div>3. Rehearse presentations multiple times, refining content and delivery to ensure clarity and impact.</div> <div>1. メモやスライドに頼らずにスピーチを練習して、自発性と自信を高めます。</div> <div>2. 効果的なボディランゲージの使用、良い姿勢の維持、聴衆との一貫したアイコンタクトに重点を置きます。</div> <div>3. プレゼンテーションを何度もリハーサルして、内容と伝え方を洗練させ、明瞭性とインパクトを確保します。</div> <div>• 授業で使用するスライドは Google Classroom で配布されるので、事前にスライドを読んでおくこと。</div> <div>• The slides used in class will be distributed via Google Classroom, so be sure to read them in advance.</div> <div>（あわせて180分程度）</div>				
教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
指定なし					
参考書	コース内容はオリジナル教材に基づいています。				
備考	<ul style="list-style-type: none">• You need to prepare to use AI tools during class.• 授業中にAIツールを使用する準備をする必要がある。				
昨年度からの振り返り	<ul style="list-style-type: none">• The difficulty of the lectures will vary depending on the way of basic explanations and the use of terms and expressions. Opportunities will be given to improve speaking and listening skills.• Classes will be structured efficiently and intensively to minimize lecture time and allow students to focus on group discussions and presentations.• Students are expected to actively participate in activities and reflect autonomous leadership and teamwork. <ul style="list-style-type: none">• 講義の難易度は、基本的な説明のしかた、用語や表現の使い方によって変わります。スピーキングとリスニングのスキルを向上させる機会が与えられます。• 授業は、講義時間を最小限に抑えながら、グループディスカッションとプレゼンテーションに集中できるように、効率的かつ集中的に構成				

されます。

- 履修者は、活動に積極的に参加し、自律的なリーダーシップとチームワークを反映させることが望まれます。

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	4年	学期	前期	科目分類	展開科目
授業科目名	国際開発論					授業形態	講義
授業コード	IND1430001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	田中 周						
授業概要	<p>本科目は、国際開発（international development）および開発援助（development assistance）をめぐる第二次世界大戦以降の歴史的背景、基本概念、制度、アクターを論じる。各回の授業は、第一にキーワードを中心とする講義、第二に『国際開発ジャーナル』等の資料に基づいたクラスディスカッション（CD）の二つのパートから構成される。講義では、履修学生がキーワードに関する知識を身に付け、CDではこれらのキーワードを用いた事例研究を行う。CDの資料はGoogle Classroomを通じて毎回履修学生に配付する。講義とCDを通じて国際開発および開発援助に関する理解を深めると同時に、国際開発におけるビジネスの役割と責任を考察する思考力を養う。</p>						
授業の目的・到達目標	<p>①国際開発をめぐる主要な用語、理論、制度、アクターに関する基礎知識を修得している。 ②アフリカ、アジア、ラテンアメリカの事例を基に日本のODAを評価することができる。 ③国際開発におけるビジネスの役割と責任を認識することができる。 ④ビジネスの発展やイノベーションに果たすPPP（官民連携）の役割を理解し説明できる。 ⑤グローバルイノベーション、デジタル化、都市化、移民、気候変動が現代の国際開発にどのような影響を与えているかを議論することができる。</p>						
授業計画							
第1回	<p>イントロダクション 講義「開発・開発援助とは何か」 キーワード：開発、開発援助、先進国、開発途上国、南北問題 CDなし</p>						
第2回	<p>講義「1945年以降の国際開発の軌跡」 キーワード：冷戦、西側陣営、社会主義国、援助戦略、開発パラダイム CD「戦後80年から平和と開発を考える」</p>						
第3回	<p>講義「多国間開発援助とは何か」 キーワード：国連開発計画（UNDP）、ミレニアム開発目標（MDGs）、持続可能な開発目標（SDGs）、国際金融開発機関（MDBs）、世界銀行（WB）、アジア開発銀行（ADB）、アジアインフラ投資銀行（AIIB） CD「ADBの中央アジア地域経済協力プログラム（CAREC）」</p>						
第4回	<p>講義「二国間開発援助（ODA）とは何か」 キーワード：ODA、OECD・DACの加盟国（伝統的ドナー）、非伝統的ドナー CD「ODAの70年の歩み」</p>						
第5回	<p>講義「日本のODA（1）：歴史的展開」 キーワード：日本の政府開発援助、国際協力機構（JICA）、国際協力銀行（JBIC） CD「日本の対中国ODAを振り返る」</p>						
第6回	<p>講義「日本のODA（2）：日本ODAを評価する」 キーワード：プロジェクト計画、プロジェクト成果、年次・中間報告、資金調達、制度設計 CD「JICA支援による世界の主な鉄道事業」</p>						
第7回	<p>講義「日本のODA（3）：国際科学技術協力」 キーワード：科学技術協力、科学技術振興機構（JST）、SATREPSプログラム、産学官連携 CD「iTAG-SATREPSを事例とする日本の国際科学技術協力」</p>						
第8回	<p>講義「国際開発とSDGs（1）：SDGsの入門」 キーワード：国連環境計画（UNEP）、地球サミット1992、リオ+20、生物多様性、気候変動、持続可能な開発 CDなし</p>						
第9回	<p>講義「国際開発とSDGs（2）：気候変動対策」 キーワード：パリ協定、気候変動への適応、気候変動に対するレジリエンス、島国 CD「海面上昇で消える太平洋の島国」</p>						
第10回	<p>講義「国際開発とSDGs（3）：水の安全保障」 キーワード：水の安全保障、WASH問題、世界水パートナーシップ（GWP）、世界水会議（WWC） CD「水と衛生の危機」</p>						
第11回	<p>講義「国際開発とSDGs（4）：食料安全保障」 キーワード：食料安全保障、農業開発協力、飢饉の諸原因 CD「アフリカにみるイノベーションが生む食料システム」</p>						

第12回	講義「国際開発と企業（1）：ESG投資」 キーワード：ESG投資、多国籍企業、企業の社会的責任、社会還元、ビジネスと人権 CD「世界的なESGの潮流と日本の状況」			
第13回	講義「国際開発とSDGs（2）：循環型経済と3Rの原則」 キーワード：直線型経済、循環型経済、3Rの原則、リデュース、リユース、リサイクル CD「循環型のビジネス・モデル」			
第14回	講義「開発援助におけるNGOの役割」 キーワード：非政府組織、市民社会、現地化、社会サービス、アドボカシー、市民啓発 CD「新時代に挑むNGO」			
第15回	講義「開発援助の将来展望」 キーワード：デジタルトランスフォーメーション、スマートシティ、ソーシャルイノベーション、レジリエンス構築 CD「中国のデジタルシルクロード構想」			
成績評価の方法	・クラスディスカッションへの貢献（事前準備、積極的な発言等）：50％ ・最終レポート：50％			
準備学修（予習・復習、課題等）	予習として、CDのため配付した資料を読んで各人の意見を準備する。（90分程度） 復習として、講義で得た知識が来年度以降の社会人としての活動にどのように役立つかを整理する。（90分程度）			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	『新しい国際協力論 [第3版]』山田満・堀江政伸（編著）、明石書店、2023年 『SDGs（持続可能な開発目標）』蟹江憲史（著）、中公新書、2020年			
備考				
昨年度からの振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。			

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	4年	学期	前期	科目分類	展開科目
授業科目名	ファイナンス業における国際化					授業形態	演習
授業コード	GFI1440001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	平山 裕康						
授業概要	本授業では、金融やファイナンスに関する身近な事例やニュースを取り上げながら、金融の基本的な仕組みから最新の動向までを学びます。株式、金利、外国為替などマーケットに関する実践的な知識にくわえて、グローバルビジネスを行う上で必要となる海外送金・決済、資金調達や金融リスク管理などについても理解を深めます。 さらに、今後の発展が期待されるフィンテックやブロックチェーンなど新しい金融技術についても取り上げ、金融業界が将来どのように変化していくのかを考えます。 将来社会人として生活していく上で必要となるファイナンスやお金に関する知識を習得するだけでなく、金融マーケットや金融技術について知ることで、経済や金融の動向に対する感覚を磨き、新規ビジネスやイノベーションを創出する応用力を養うことを目指します。						
授業の目的・到達目標	本授業の目的は、グローバルな社会の中でお金が果たす役割と金融の仕組みについて理解することです。外国為替や株式、金利マーケットの動向に関するニュースが意味することとその影響を理解すること、さらに今後の社会においてファイナンス・金融が果たす役割がどのように変化していくのかを考えることを到達目標とします。						
授業計画							
第1回	イントロダクション：ファイナンスとは？						
第2回	ファイナンスの基礎：お金の価値と金利						
第3回	ファイナンスの基礎：株式発行と銀行からの借入れによる資金調達						
第4回	銀行・証券・ベンチャーキャピタルの役割、金融ビジネスの歴史						
第5回	リスクとリターンの関係、証券投資理論						
第6回	金融マーケットの基礎：金利・外国為替・コモディティ						
第7回	金融マーケットの基礎：デリバティブ・資産運用						
第8回	金融マーケットの基礎：証券化、保険、リース						
第9回	国際貿易と外国為替						
第10回	海外送金と資金決済、マネーロンダリング、金融犯罪						
第11回	ブロックチェーン技術と金融ビジネスへの活用、フィンテック、暗号資産						
第12回	異業種のファイナンス業進出とデジタル経済圏						
第13回	グループワーク課題についての説明						
第14回	グループディスカッション：グループワークの準備						
第15回	グループワーク：新しい金融ビジネスアイデアの研究						
成績評価の方法	・授業への取組状況（事前学習、授業での発言・質問、アンケート回答等）：40％ ・グループディスカッション・グループワーク：20％ ・期末レポート：40％						
準備学修（予習・復習、課題等）	各回のテーマについて、関連する用語や基礎知識を予習の上、授業に参加してください。次回の授業についての予習項目を指定する場合もあります。（90分程度） 各授業終了後、配布資料を読み返す、興味のある関連トピックスについて調べてみるなど、復習を通して理解を深めてください。（90分程度）						
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	備考
指定なし							
参考書							
備考		教科書は指定しません。授業は講義用資料（Google Classroomで配布予定）をベースに進めます。授業では身近なトピックスも多く盛り込むため、興味のある分野を中心に経済に関連するニュースなどに接するようにしておくことより理解が促進されます。また期末レポートでは興味のあるテーマを各自が選択した上で、知識の整理を行います。					

昨年度からの 振り返り	大きな変更点なし。
----------------	-----------

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	4年	学期	前期	科目分類	展開科目
授業科目名	サービス業における国際化					授業形態	演習
授業コード	GSI1440001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	神田 達哉						
授業概要	産業構造のシフトによって、医療や福祉、教育、接客業などサービス業の需要や経済に与える影響が世界中で高まっている。他方、高まるニーズに対し、人材不足や専門性に対するスキル不足などの課題は多く存在している。 この授業では、まず前半5回でサービス業の構成や特性、サービスモデルなどを理解する。その後の7回の授業では、グローバル化やイノベーションがどのように推進されているか、主に国内企業の具体的な事例に基づいて検討する。そして最後の3回の授業では、サービス業の国際展開に至る成功の鍵の探求へと繋がる理論や知識を習得する。						
授業の目的・到達目標	授業の目的は、「グローバルビジネスにおけるサービス業のあり方を理解するとともに、その特性に応じた課題解決やイノベーションの実行を可能とする理論や知識を説明することができるようになること」である。 到達目標は、「本授業が対象とする領域について、現状の課題や自分自身の意見を文章で説明することができること」とする。						
授業計画							
第1回	ガイダンス 本授業の構成 産業構造におけるサービス業の分類						
第2回	サービス経済化進展の背景 サービス経済化の国際比較 サービス業の労働生産性						
第3回	サービス業のとらえ方 サービス業の戦略的業態分類						
第4回	サービスの特色と品質特性 サービス提供の基本的課題 価値共創の新たな方向性						
第5回	サービス業のマーケティング戦略						
第6回	小売サービスの国際展開 事例：良品計画						
第7回	飲食サービスの国際展開 事例：大戸屋						
第8回	警備サービスの国際展開 事例：セコム						
第9回	【グループワーク】宿泊サービスの国際展開 事例：星野リゾート						
第10回	教育サービスの国際展開 事例：公文教育研究会、キッザニア						
第11回	コンテンツサービスの国際展開 事例：ウォルト・ディズニー						
第12回	コンサルティング・サービスの国際展開 事例：日立コンサルティング						
第13回	顧客満足の向上 サービス生産性の向上						
第14回	「理念の伝道師」主導の現地経営 相互作用が生まれる「場」の輸出						
第15回	授業のまとめ 期末レポート						
成績評価の方法	以下の観点ごとに評価し、100点満点になるように換算する。 なお、60点以上の評点に対して単位を付与する。 1. 期末レポート（60％） 2. 授業ごとにその場でGoogle Classroomへ提出を求めるコメントの内容（30％） ※コメントとは「自分自身の意見とそう考える理由や根拠」のこと 3. 授業中の発言や課題発表などによるクラスへの貢献、受講態度および参加意欲（10％）						
準備学修（予習・復習、課題等）	予習 授業ごとに紹介する書籍や論文を読む（90分程度） 復習 授業ごとに紹介する書籍や論文を読むとともに、Google Classroomにアップロードされた講義資料をもとに授業内容を振り返る（90分程度）						
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	備考
指定なし							
参考書	1. 江夏健一・大東和武司・藤沢武史編著（2008）『サービス産業の国際展開』中央経済社、ISBN 978-4502664601 2. 南方建明・宮城博文・酒井理（2015）『サービス業のマーケティング戦略』中央経済社、ISBN 4502135011 3. 伊丹敬之・高橋克徳・西野和美・藤原雅俊・岸本太一編著（2017）『サービスイノベーションの海外展開－日本企業の成功事例とその要因分析－』東洋経済新報社、ISBN 978-4492502945 ※授業の進捗状況に応じて、上記以外についても随時紹介する。						

備考	<p>1. Google Classroomに提出されたコメントは、原則として次回授業の冒頭でその全部もしくは一部についてフィードバックする。その他必要なフィードバックについては、適宜Google Classroomやメール等で対応する。</p> <p>2. 授業冒頭において、開講日直近にリリースされたサービス業の国際展開に関するトピックを題材として、教員・受講生間あるいは受講生同士で、その課題や可能性に関わる議論の場を設定することがある。学修効果を高めるためにも、日々それらの情報を可能な限り吸収しておいて欲しい。</p> <p>3. 問題意識を持ちそれに基づく課題をアウトプットする能力を醸成する観点から、授業中に受講生の発言を求める機会が圧倒的に多い。提供された話題に対して、自身の経験や他者との議論を通じて適切な解釈を施した上で、自分の意見を適宜発表してもらう授業形態となる。そのことを予め認識した上で受講選択することが望ましい。</p>
昨年度からの振り返り	<p>他の受講生との「協動的な学び」や「互いの学習への貢献」を求める履修生からの意見を踏まえ、受講生同士の議論やグループによる討論の機会を引き続き設定する。</p>

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	4年	学期	後期	科目分類	展開科目
授業科目名	グローバルビジネスにおけるネゴシエーション					授業形態	演習
授業コード	ENB1420001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Yu Li Shein						
授業概要	ビジネス交渉は世界中のあらゆる場面で生まれ、最も重要視されるべきものの1つである。本科目では、相手がどのようなタイプの交渉を行うネゴシエーターかを把握し、文化的背景の異なる人々に対して場面に合わせた様々な交渉手順や戦略を取り入れながら最善の交渉術を見出すことを目標とする。文化が交渉に与える影響力や感情の働き、人種・性差別、緊急を要する困難な状況における交渉場面を取り扱う。学生はグローバルビジネスの現場で活躍できるよう英語でも交渉理論・戦略方法を学び、幅広いテーマによるロールプレー形式で実践演習を行う。						
授業の目的・到達目標	・テーマに沿った内容を英語で理解し、表現できる。 ・グローバルビジネスの場の英語での実践的な交渉力を身に付けている。						
授業計画							
第1回	Introduction to course and expectations Introductions and Icebreakers ・ Assess English abilities						
第2回	Polish and improve your basic communication skills before the negotiation Workshop/Role Play 1						
第3回	Know and polish yourself, know YOUR cards Workshop/Role Play 2						
第4回	Guess/read THEIR cards Workshop/Role Play 3						
第5回	Try to find common ground and Handle objections Workshop/Role Play 4						
第6回	Decide to Negotiate & Plan your negotiation Quiz						
第7回	Calculating your opening offer & Leveraging different negotiation tactics Quiz						
第8回	How to Trade & Closing Quiz						
第9回	Negotiation in Business: CUSTOMER DEVELOPMENT Workshop/Role Play 5						
第10回	Negotiation in Business: Marketing Workshop/Role Play 6						
第11回	Negotiation in Business: Co-Founder & Employee Workshop/Role Play 7						
第12回	Negotiation in Business: Sales Workshop/Role Play 8						
第13回	Negotiation in Business: Strategic Partnership Workshop/Role Play 9						
第14回	Negotiation in Business: Investor Workshop/Role Play 10						
第15回	Wrap-up and Progress Measuring Workshop						
成績評価の方法	Attitude, Contribution, Willingness, Participation: 35% Workshop/Role Play: 35% Assignment & Quiz & Progress: 30%						
準備学修（予習・復習、課題等）	Prior to each class, students will be expected to pre-read the weekly readings, be aware of homework, quizzes, and other assignments that are due, and ensure that all work is completed on time.						

	Please come with an open mind and a willingness to speak and participate, even if you are not yet completely comfortable speaking English fluently. 90 minutes of preparation and 90 minutes of review are recommended for each class.			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書				
備考				
昨年度からの 振り返り				

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	4年	学期	後期	科目分類	展開科目
授業科目名	国際経営と商習慣					授業形態	講義
授業コード	IBP1430001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	宮島 亮						
授業概要	企業が海外市場で事業を展開するとはどのようなことなのか。また、海外進出を行わない企業であっても、なぜグローバル競争の影響を受けるのか。本科目では、文化の違いや制度の差異がビジネスに与える影響を理解するとともに、国際経営の基本的な理論や枠組みを学ぶ。近年、デジタル技術の発展やプラットフォーム企業の台頭、地政学的リスクの変化などにより、グローバルなビジネス環境は大きく変化している。本科目では、こうした環境変化を踏まえ、企業の国際展開やグローバル戦略を具体的な企業事例を通して考察する。また、メディア・エンターテインメント産業など文化的要素を含むビジネスの事例も取り上げながら、文化とビジネスの関係について多角的に検討する。これらを通じて、グローバルなビジネス環境を理解し、実務に活かすための思考力を養う。						
授業の目的・到達目標	グローバル化が進展するビジネス環境の中で、文化や制度の違いを理解しながら国際的にビジネスを展開するために必要な思考力を養うことを目的とする。 具体的には、以下の能力を身に付けることを到達目標とする。 ・文化の相違がビジネスに与える影響を理解し、価値観の異なる他者と協働するための視点を身につける。 ・国際経営における基本的な理論や枠組みを理解し、グローバルなビジネス環境の変化を分析できる。 ・企業の国際展開やグローバル戦略について、具体的な事例をもとに考察することができる。 ・デジタル化やプラットフォーム企業の台頭など、現代のグローバルビジネスの特徴について理解し、自らの考えを整理して議論できる。						
授業計画							
第1回	イントロダクション：授業の目的と進め方、問題意識の共有						
第2回	文化の違い①：言語・習慣など表層文化とビジネス						
第3回	文化の違い②：価値観や思考様式と国際ビジネス						
第4回	グローバル企業：多国籍企業とデジタル企業の特徴						
第5回	日本企業の国際展開：海外進出の特徴と課題						
第6回	デジタル化と市場：プラットフォームと市場変化						
第7回	文化産業のビジネス：メディア・エンタメ産業の事例						
第8回	国際ビジネスの仕組み：組織・人材・供給体制						
第9回	国際ビジネスのリスク：政治・制度・地政学						
第10回	グローバル戦略：標準化とローカライズ						
第11回	グローバルコミュニケーション：協働と交渉						
第12回	事例研究①：企業の国際展開の成功事例						
第13回	事例研究②：企業の国際展開の失敗事例						
第14回	総合事例分析：理論と事例を踏まえた検討						
第15回	まとめ：授業内容の整理と振り返り						
成績評価の方法	・授業への参加と貢献（積極的な発言・発表とその内容等）：20％ ・ミニレポート（複数回実施）：40％ ・期末レポート：40％						
準備学修（予習・復習、課題等）	予習：各回の授業で扱うテーマについて、関連するニュースや企業事例などを事前に調べ、自分なりの疑問点や関心を整理しておくこと。（各回90分） 復習：授業資料をもとに内容を振り返り、関連する事例や企業について調べながら理解を深めること。また、ミニレポートが課される場合は期限までに提出すること。（各回90分）						
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	備考
指定なし							
参考書							

備考	UNIPAの出席コードで不正登録が発覚した場合は単位を認めない。
昨年度からの 振り返り	昨年度から科目責任者が変更のため該当なし。

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	4年	学期	後期	科目分類	展開科目
授業科目名	農業・林業・漁業における国際化					授業形態	演習
授業コード	GAF1440001	単位数	2単位	必修・選択の別	選択	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	小林 久美子						
授業概要	産業の最も基本である第一次産業（農業、林業、漁業）におけるグローバル化やイノベーション事例を学ぶ。具体的には、農業を取り巻く環境や資源、政策などをビジネスの観点から基本的な理解を深める。同様に林業や漁業について環境とあわせて、基本的な理解を図る。また、情報通信技術を駆使したマネジメント手法や新たなビジネスモデルを活用した事例や農林漁業の6次産業化など、日本に限らず世界の事例をもとに検討し、産業の発展と課題解決について理解を深める。これらを通じ、一次産業での持続可能なサービスや経営・情報通信技術を活用した新たなビジネスモデルを構築する応用力を身に付ける。						
授業の目的・到達目標	既存産業においてテクノロジーを駆使した経営管理や情報通信技術の活用事例について、産業の最も基本である第一次産業から学び、自身のビジネスプランや他分野への展開方法について検討できる。						
授業計画							
第1回	ガイダンス						
第2回	ライフサイクルアセスメント（LCA）						
第3回	バイオテクノロジー、遺伝子組み換え・ゲノム編集						
第4回	農業① 農法・農業政策						
第5回	農業② 農業におけるビジネスモデル・イノベーション事例						
第6回	農業③ 農業とDX（スマート農業）						
第7回	林業① 環境と政策						
第8回	林業② ビジネスモデルとイノベーション事例						
第9回	漁業① 環境と政策						
第10回	漁業② ビジネスモデルとイノベーション事例						
第11回	農林漁業の6次産業化① 基礎情報						
第12回	農林漁業の6次産業化② ビジネスモデル事例						
第13回	農林漁業の6次産業化③ DX・イノベーション事例						
第14回	国際基準（ISO、HACCP）						
第15回	農業・林業・漁業のまとめ、課題発表						
成績評価の方法	授業内課題：50％ 最終課題：50％						
準備学修（予習・復習、課題等）	予習：テーマに関する文献リサーチ（90分） 復習：授業課題への取り組み（90分）						
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	備考
指定なし							
参考書	参考書・資料等は授業の中で適宜紹介する。						
備考							
昨年度からの振り返り	海外の先端技術やビジネス事例を多く紹介する。						

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	3年	学期	後期	科目分類	総合科目
授業科目名	総合理論演習					授業形態	演習（卒業研究）
授業コード	SM1151	単位数	2単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Kim Jieun、中田 豊久、Kamya Yekeh Yazdandoost、梶田 尚亨、韓 旭、阿部川 久広、石村 源生、江端 浩人、片桐 雅二、志村 一隆、中嶋 隆一、桐谷 恵介、奥村 耕一、斎藤 祐士、仁木 隆大、小林 久美子、松村 太郎、山内 正人、Joe Hug、佐々木 竜介、堀野 裕子						
授業概要	本科目及び4年次配当の「総合実践演習」の履修を通じて、プロジェクトを構想・企画・実践し、最終的に4年間の学びの集大成として卒業課題を作成する。 本科目では、学生の興味・関心のある分野について、担当教員の指導の下、先行・関連研究の情報収集・論文読解、先行事例の調査・資料収集・実態把握、既存のビジネスモデル、サービス・製品等の分析、フィールドワーク、ケーススタディ等を行い、卒業課題の作成を見据えたプロジェクトを構想・企画する上での課題を抽出する。あわせて、仮説の検証方法や論理的な記述展開の方法、データのまとめ方や図表の示し方など、自らの主張を明確かつ論理的に表現し他者に伝える技法を学ぶ。その上で、新たなビジネスモデルやサービス・製品・技術等の創出、産業界・企業を取り巻く課題や経営環境の分析、先端的な情報通信技術の分析や新たな活用方法の提案など、卒業課題の作成にあたり、学生自身が取り組むプロジェクトのテーマ及び実践計画を個人又はグループで設定・策定する。						
授業の目的・到達目標	【授業目的】 卒業課題の作成を見据えたプロジェクトのテーマ及び実践計画を個人又はグループで設定・策定する。 【到達目標】 ●興味・関心のある分野について、知見を深める。 ●自らの主張を明確かつ論理的に表現し他者に伝える基本的な技法を身に付けている。 ●先行研究・事例、既存のビジネスモデル・サービス・製品等を批判的に捉え、課題を発見できる。 ●発見した課題を解決するための方法を考案できる。						
授業計画							
第1回	総合理論演習の進め方 PBL形式での進め方について						
第2回	研究方法の学習 フィールドワークについて						
第3回	先行研究・ケース等の発表：課題抽出						
第4回	先行研究・ケース等の発表：課題抽出						
第5回	文献研究						
第6回	グループ発表・ディスカッション						
第7回	ケーススタディ1						
第8回	グループ発表・ディスカッション						
第9回	ケーススタディ2						
第10回	グループ発表・ディスカッション						
第11回	卒業課題テーマ探求の為のフィールドワーク学習						
第12回	グループ発表・ディスカッション						
第13回	振り返り・卒業課題テーマ設定に向けた文献研究						
第14回	振り返り・卒業課題テーマ設定に向けた文献研究						
第15回	卒業課題の仮テーマ設定と計画書作成						
成績評価の方法	●グループ発表・ディスカッションの取組内容：60％ ●卒業課題作成にあたってのプロジェクトのテーマ・実践計画の内容：40％						
準備学修（予習・復習、課題等）	毎回の授業で出す小課題については、次回授業までに必ず取り組むこと。 指摘された事項を踏まえ、各自必ず振り返りを行うこと。 発表に当たっては、自ら文献を探すなど念入りに準備をし、発表技術の向上に努めること。 （あわせて各回180分）						
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	備考

指定なし				
参考書	配布資料による。			
備考				
昨年度からの 振り返り				

情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

授業年度	2026年度	配当学年	4年	学期	前期・後期	科目分類	総合科目
授業科目名	総合実践演習					授業形態	演習（卒業研究）
授業コード	SM2151	単位数	4単位	必修・選択の別	必修	アクティブ・ラーニング	実施する
担当教員	Kim Jieun、中田 豊久、Kamya Yekeh Yazdandoost、梶田 尚亨、韓 旭、阿部川 久広、石村 源生、江端 浩人、片桐 雅二、志村 一隆、中嶋 隆一、桐谷 恵介、奥村 耕一、斎藤 祐士、仁木 隆大、小林 久美子、松村 太郎、山内 正人、Joe Hug、佐々木 竜介、堀野 裕子、石戸 奈々子、いとう まい子、康 翰娜、山中 哲男、岡田 直己、平山 敏弘						
授業概要	担当教員の指導の下、3年次後期配当の「総合理論演習」において設定したテーマ及び策定した実践計画に基づき、プロジェクトを実践する。プロジェクトの成果を4年間の学びの集大成として卒業課題にまとめ、公の場でプレゼンテーションを行う。						
授業の目的・到達目標	<p>【授業目的】</p> <p>学生の興味・関心に応じたプロジェクトの実践を通じて卒業課題を作成し発表する。</p> <p>なお、卒業課題は個人又はグループにより作成することとし、要件及び作成形式は以下のとおりとする。</p> <p>＜卒業課題の要件＞</p> <p>以下の1及び2を満たすテーマを扱い、その内容が明確かつ論理的に説明されていること。</p> <p>1. 新規性があり、産業界からのニーズに適した理論と実務を架橋するテーマであること。</p> <p>2. 「イノベーション人材」になるためのステップとして相応しいテーマであること。</p> <p>＜卒業課題の提出形式＞</p> <p>以下の1から3までのいずれかの形式により作成すること。</p> <p>1. ビジネスプラン 新規性があり、産業界からのニーズに適したビジネスプラン …「市場分析」「コンテンツ（製品・サービス等）の特徴」「事業戦略」「事業計画」が明記されたもの</p> <p>2. 論文 産業界における新規性、先見性の認められる仮説を立て、それを検証した論文 …研究課題・目的、仮説、検証方法、検証結果、検証結果に基づく考察などから構成されたもの</p> <p>3. 作品・プロダクト 新規性があり、かつ、コンテンツ産業及び関連産業から特に優れたものと評価された作品 …ICT技術を用いて制作した作品及び作品説明（企画書等）</p> <p>【到達目標】</p> <p>●先行研究・事例、既存のビジネスモデル・サービス・製品等を批判的に捉え、発見した課題を解決するための方法を考案し実践できる。</p> <p>●自らの主張を明確かつ論理的に表現し他者に伝えることができる。</p> <p>●教育課程の学修を通じて修得した知識・スキルを統合し、新たなサービス・ビジネスを生み出すための実践的かつ応用的な能力を身に付けている。</p>						
授業計画							
第1回	授業の進め方と卒業課題の概要、テーマ、スケジュール説明 PBL形式での進め方について						
第2回	卒業課題の設定に向けた準備：文献研究、調査、情報収集等 フィールドワークについて						
第3回	卒業課題の設定に向けた準備：文献研究、調査、情報収集等						
第4回	グループ発表・ディスカッション						
第5回	グループ発表・ディスカッションの振り返り						
第6回	卒業課題テーマの決定・発表						
第7回	卒業課題計画の決定・発表						
第8回	課題内容の構想と準備						
第9回	課題進捗状況の報告・ディスカッション						
第10回	課題進捗状況の報告・ディスカッション						
第11回	課題進捗状況の報告・ディスカッション						
第12回	課題進捗状況の報告・ディスカッション						
第13回	課題進捗状況の報告・ディスカッション						
第14回	中間まとめ（発表）						

第15回	中間まとめ（振り返り）			
第16回	課題進捗状況の報告・ディスカッション			
第17回	課題進捗状況の報告・ディスカッション			
第18回	課題進捗状況の報告・ディスカッション			
第19回	課題進捗状況の報告・ディスカッション			
第20回	課題進捗状況の報告・ディスカッション			
第21回	課題進捗状況の報告・ディスカッション			
第22回	課題進捗状況の報告・ディスカッション			
第23回	課題進捗状況の報告・ディスカッション			
第24回	卒業課題の提出			
第25回	卒業課題発表準備			
第26回	卒業課題発表準備			
第27回	卒業課題発表準備			
第28回	卒業課題発表内容の決定			
第29回	卒業課題発表会			
第30回	卒業課題発表会			
成績評価の方法	<div>●プロジェクトへの取組状況と卒業課題の内容：90%</div> <div>●卒業課題の発表：10%</div> <div><卒業課題の評価基準></div> <div>●ビジネスプラン</div> <div>・テーマ設定要件への適合性</div> <div>・テーマに対する事業アプローチの設定根拠（市場環境、先行・関連事例の調査・分析・評価の妥当性等）</div> <div>・ビジネスプランとしての競争優位性</div> <div>・財務計画の適切性</div> <div>●論文</div> <div>・テーマ設定要件への適合性</div> <div>・テーマに対するアプローチの設定根拠（先行・関連研究の調査・分析・評価の妥当性等）</div> <div>・論文としての新規性</div> <div>・仮説検証の適切性</div> <div>・研究を通じた学術等への貢献度・発展性</div> <div>●作品・プロダクト</div> <div>・テーマ設定要件への適合性</div> <div>・テーマに対する作品アプローチの設定根拠（市場環境、先行・関連事例の調査・分析・評価の妥当性等）</div> <div>・作品・プロダクトとしての競争優位性</div> <div>・学会、展示会、学術誌、新聞等において高い評価を得ることができるものであるか否か</div>			
準備学修（予習・復習、課題等）	<div>・各自のテーマに沿って、自ら学習の計画を立て、その計画に沿って進めること。</div> <div>・指摘された事項を踏まえ、各自必ず振り返りを行うこと。</div> <div>・発表に当たっては、自ら文献を探すなど念入りに準備をし、発表技術の向上に努めること。（あわせて各回180分）</div>			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし				
参考書	配布資料による。			
備考				
昨年度からの振り返り	PBL形式であるのでWBSは当初に設定する。			